きんきは ひとつ

近畿60年史

近畿バドミントン協会

題字　　藤田　庸右　会長

近 畿 協 会 旗



平成22年11月20日　近畿協会創立60周年を記念して制定する

歴代会長



初代　石渡　俊一
（昭和25年12月1日～平成5年3月31日）



二代目　藤田　庸右
（平成5年4月1日～現在に至る）



現在の近畿各府県協会　会長



現在の近畿協会　会長・副会長・顧問・常任理事（各府県理事長）

近畿バドミントン協会　役員総会



平成11年度



平成14年度



平成15年度



平成16年度



平成17年度



平成19年度

きんきは ひとつ

近畿60年史

目次

3　口　絵　近畿バドミントン協会旗
4　現在の近畿バドミントン協会役員写真 他
8　歴代会長・代表理事及び理事
10　近畿各府県バドミントン協会歴代会長

11　ご挨拶　近畿バドミントン協会　会長　藤田　庸右
12　祝　辞　財団法人日本バドミントン協会　会長　綿貫　民輔
13　京都府バドミントン協会　会長　田中田鶴子
14　大坂府バドミントン協会　会長　三宅　祐司
15　滋賀県バドミントン協会　会長　澤　長壽
16　和歌山県バドミントン協会　会長　石田　真敏
17　兵庫県バドミントン協会　会長　瀬川　欽也
18　創立60周年を迎えて　設立発起人（初代理事）　大圃　秀生

第１章　近畿バドミントン協会史
20　第１節　近畿バドミントン協会の黎明期
21　第２節　近畿バドミントン協会の創設
23　第３節　近畿バドミントン協会創設期
25　第４節　創設当時に活躍した選手
25　第５節　近畿バドミントン協会の組織づくり
26　第６節　近畿バドミントン界のあゆみ

第２章　近畿各府県協会史
40　第１節　大阪府バドミントン協会の生い立ちとあゆみ
51　第２節　京都府バドミントン協会の生い立ちとあゆみ
63　第３節　和歌山県バドミントン協会の生い立ちとあゆみ
69　第４節　滋賀県バドミントン協会の生い立ちとあゆみ
80　第５節　兵庫県バドミントン協会の生い立ちとあゆみ
92　第６節　奈良県バドミントン協会の生い立ちとあゆみ

第３章　近畿各連盟の生い立ちとあゆみ
100　加盟連盟　歴代会長・歴代理事長・委員長　一覧表

CONTENTS

102 第１節　関西学生バドミントン連盟
114 第２節　近畿中学校体育連盟バドミントン競技部
117 第３節　近畿実業団バドミントン連盟
126 第４節　近畿高等学校体育連盟バドミントン専門部
133 第５節　近畿教職員バドミントン連盟
143 第６節　近畿社会人クラブバドミントン連盟
146 第７節　近畿レディースバドミントン連盟
147 第８節　近畿小学生バドミントン連盟

第４章　現在の近畿バドミントン協会
154 第１節　近畿バドミントン協会　歴代役員
155 第２節　現在の近畿バドミントン協会の役員
156 第３節　近畿バドミントン協会　規約

第５章　近畿バドミントン協会主催大会
162 第１節　近畿総合バドミントン選手権大会
175 第２節　近畿総合バドミントン選手権大会(シニアの部)
182 第３節　国民体育大会近畿ブロック大会バドミントン競技

第６章　近畿各府県から出た国際選手の活躍
188 第１節　オリンピックでの活躍
188 第２節　国際大会での活躍

第７章　寄稿文(思い出)
191 創立者に感謝を込めて　　大圃　秀生
193 協会史発刊に寄せて　　野村　嘉明

194 第８章　近畿バドミントン協会創立60周年記念事業

197 編集後記

近畿バドミントン協会
歴代会長・代表理事及び理事

年号	西暦	会長	事務局代表理事	理事（各府県理事長及び学連委員長のみ記載）						
				大阪府	京都府	兵庫県	滋賀県	奈良県	和歌山県	関西学連委員長
24	1949				1 坂田善也		1 榎本彦次		1 泉惣一郎	
25	1950	石渡俊一		1 川口　清	坂田善也	1 高倉正治	榎本彦次	1 上山当雄	1 泉惣一郎	1 仙波　斬
26	1951	石渡俊一		川口　清	2 上原正士	高倉正治	榎本彦次	2 岩井由治	泉惣一郎	2 大圃秀生
27	1952	石渡俊一		川口　清	上原正士	高倉正治	榎本彦次	岩井由治	泉惣一郎	大圃秀生
28	1953	石渡俊一		川口　清	3 泉本勇五郎	高倉正治	2 田中多喜造	岩井由治	泉惣一郎	大圃→高谷
29	1954	石渡俊一		川口　清	泉本勇五郎	高倉正治	田中多喜造	岩井由治	泉惣一郎	高谷芳明
30	1955	石渡俊一		川口　清	4 上原正士	高倉正治	田中多喜造	岩井由治	泉惣一郎	4 武田一徳
31	1956	石渡俊一		川口　清	上原正士	高倉正治	3 榎本彦次	岩井由治	泉惣一郎	5 福田正男
32	1957	石渡俊一		川口　清	上原正士	高倉正治	榎本彦次	岩井由治	泉惣一郎	6 堀本忠勝
33	1958	石渡俊一		2 宮脇正晴	上原正士	高倉正治	榎本彦次	岩井由治	泉惣一郎	7 清水勇一郎
34	1959	石渡俊一		宮脇正晴	上原正士	2 河合　満	榎本彦次	岩井由治	泉惣一郎	8 田中康夫
35	1960	石渡俊一		宮脇正晴	上原正士	河合　満	榎本彦次	岩井由治	泉惣一郎	9 佐野武司
36	1961	石渡俊一		宮脇正晴	上原正士	河合　満	榎本彦次	岩井由治	泉惣一郎	10 佐藤新太郎
37	1962	石渡俊一		宮脇正晴	上原正士	河合　満	榎本彦次	岩井由治	泉惣一郎	11 生越票蔵
38	1963	石渡俊一		宮脇正晴	上原正士	河合　満	榎本彦次	岩井由治	2 宮崎　熊	12 黒田寿一
39	1964	石渡俊一		宮脇正晴	上原正士	河合　満	榎本彦次	岩井由治	宮崎　熊	13 破入雅彦
40	1965	石渡俊一		宮脇正晴	上原正士	河合　満	榎本彦次	岩井由治	宮崎　熊	14 湊谷隆夫
41	1966	石渡俊一		3 青木昭二	上原正士	河合　満	4 寺田　壽	岩井由治	宮崎　熊	15 東原暉奏
42	1967	石渡俊一		青木昭二	上原正士	河合　満	寺田　壽	岩井由治	宮崎　熊	16 富平信行
43	1968	石渡俊一	青木昭二	青木昭二	上原正士	河合　満	寺田　壽	岩井由治	3 吉田健次郎	17 八木昌晴
44	1969	石渡俊一	青木昭二	青木昭二	上原正士	3 吉持節夫	寺田　壽	岩井由治	吉田健次郎	18 足立英雄
45	1970	石渡俊一	青木昭二	青木昭二	5 市村　修	吉持節夫	寺田　壽	3 松尾良行	吉田健次郎	19 秋山正文
46	1971	石渡俊一	青木昭二	青木昭二	市村　修	吉持節夫	寺田　壽	松尾良行	吉田健次郎	20 山崎修二
47	1972	石渡俊一	青木昭二	青木昭二	6 野村嘉明	吉持節夫	寺田　壽	松尾良行	吉田健次郎	21 川越雄二郎
48	1973	石渡俊一	青木昭二	青木昭二	野村嘉明	4 北　義一	寺田　壽	松尾良行	吉田健次郎	22 古武義治
49	1974	石渡俊一	松尾良行	青木昭二	野村嘉明	北　義一	寺田　壽	松尾良行	吉田健次郎	23 高橋徳美
50	1975	石渡俊一	松尾良行	青木昭二	野村嘉明	北　義一	5 久保　宏	松尾良行	吉田健次郎	24 安田伸一
51	1976	石渡俊一	野村嘉明	青木昭二	野村嘉明	北　義一	久保　宏	4 木村　寛	吉田健次郎	25 小島　聡
52	1977	石渡俊一	野村嘉明	4 宝来敏夫	野村嘉明	北　義一	6 澤　長壽	木村　寛	吉田健次郎	26 西村憲雄
53	1978	石渡俊一	野村嘉明	宝来敏夫	野村嘉明	北　義一	澤　長壽	木村　寛	吉田健次郎	27 百々　聡
54	1979	石渡俊一	野村嘉明	宝来敏夫	野村嘉明	北　義一	澤　長壽	木村　寛	吉田健次郎	百々　聡
55	1980	石渡俊一	野村嘉明	宝来敏夫	野村嘉明	北　義一	澤　長壽	木村　寛	吉田健次郎	28 永松宣克
56	1981	石渡俊一	野村嘉明	宝来敏夫	野村嘉明	北　義一	澤　長壽	木村　寛	吉田健次郎	29 南　尊文
57	1982	石渡俊一	野村嘉明	宝来敏夫	野村嘉明	北　義一	澤　長壽	木村　寛	吉田健次郎	30 湯浅庸介
58	1983	石渡俊一	野村嘉明	5 池田芳麻	野村嘉明	北　義一	澤　長壽	木村　寛	吉田健次郎	31 西田祥三

年号	西暦	会長	事務局代表理事	理事（各府県理事長及び学連委員長のみ記載）						
				大阪府	京都府	兵庫県	滋賀県	奈良県	和歌山県	関西学連委員長
59	1984	石渡俊一	野村嘉明	池田芳麻	野村嘉明	北　義一	澤　長壽	木村　寛	吉田健次郎	32 西田勝彦
60	1985	石渡俊一	野村嘉明	6 石橋三彦	7 山本　博	北　義一	澤　長壽	5 服部　明	吉田健次郎	33 村田早苗
61	1986	石渡俊一	北　義一	石橋三彦	山本　博	北　義一	澤　長壽	服部　明	吉田健次郎	34 山本志朗
62	1987	石渡俊一	北　義一	石橋三彦	8 佐藤武人	北　義一	澤　長壽	6 野村安忠	吉田健次郎	35 清水義文
63	1988	石渡俊一	北　義一	石橋三彦	佐藤武人	北　義一	澤　長壽	野村安忠	4 津田充啓	清水義文
1	1989	石渡俊一	北　義一	7 四方光市	佐藤武人	北　義一	澤　長壽	野村安忠	津田充啓	36 大塚尚哉
2	1990	石渡俊一	北　義一	四方光市	佐藤武人	北　義一	澤　長壽	野村安忠	津田充啓	37 芝野恒平
3	1991	石渡俊一	北　義一	四方光市	佐藤武人	北　義一	澤　長壽	野村安忠	津田充啓	芝野恒平
4	1992	石渡俊一	北　義一	四方光市	佐藤武人	北　義一	澤　長壽	野村安忠	5 木津　乾	38 平田靖彦
5	1993	2 藤田庸右	北　義一	四方光市	佐藤武人	北　義一	澤　長壽	野村安忠	木津　乾	平田靖彦
6	1994	藤田庸右	北　義一	四方光市	佐藤武人	北　義一	澤　長壽	野村安忠	木津　乾	39 横畑昌彦
7	1995	藤田庸右	北　義一	四方光市	佐藤武人	北　義一	澤　長壽	野村安忠	木津　乾	40 立岩大輔
8	1996	藤田庸右	北　義一	四方光市	佐藤武人	北　義一	澤　長壽	野村安忠	木津　乾	41 平野貴久
9	1997	藤田庸右	四方光市	四方光市	佐藤武人	北　義一	澤　長壽	野村安忠	木津　乾	42 御前和也
10	1998	藤田庸右	四方光市	四方光市	佐藤武人	北　義一	澤　長壽	野村安忠	木津　乾	43 仲江太佳博
11	1999	藤田庸右	佐藤武人	8 山本次生	9 小島博幸	5 瀬川欽也	澤　長壽	野村安忠	6 岩西壯行	（近畿協会理事は以上迄）
12	2000	藤田庸右	佐藤武人	山本次生	小島博幸	瀬川欽也	澤　長壽	野村安忠	岩西壯行	
13	2001	藤田庸右	野村安忠	山本次生	小島博幸	瀬川欽也	7 谷　英明	野村安忠	岩西壯行	
14	2002	藤田庸右	野村安忠	山本次生	小島博幸	瀬川欽也	谷　英明	野村安忠	岩西壯行	
15	2003	藤田庸右	野村安忠	9 銭谷欽治	小島博幸	瀬川欽也	谷　英明	野村安忠	岩西壯行	
16	2004	藤田庸右	野村安忠	銭谷欽治	小島博幸	瀬川欽也	谷　英明	野村安忠	岩西壯行	
17	2005	藤田庸右	野村安忠	銭谷欽治	小島博幸	瀬川欽也	谷　英明	野村安忠	岩西壯行	
18	2006	藤田庸右	野村安忠	銭谷欽治	小島博幸	瀬川欽也	谷　英明	野村安忠	岩西壯行	
19	2007	藤田庸右	野村安忠	銭谷欽治	小島博幸	瀬川欽也	谷　英明	野村安忠	岩西壯行	
20	2008	藤田庸右	野村安忠	銭谷欽治	10 吉田清隆	瀬川欽也	谷　英明	野村安忠	岩西壯行	
21	2009	藤田庸右	野村安忠	銭谷欽治	11 高木謙一	6 境　良治	谷　英明	野村安忠	岩西壯行	
22	2010	藤田庸右	野村安忠	銭谷欽治	高木謙一	境　良治	谷　英明	野村安忠	岩西壯行	

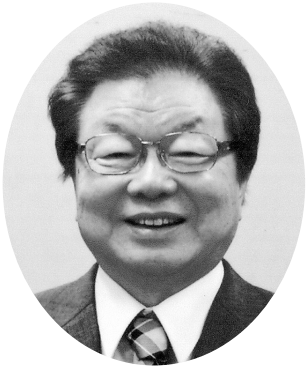
備考　昭和41年（1966年）に、発足時より続いてきた 各府県の理事長（及び学連委員長）による合議制の協会運営に変え、高体連・実連・教職連・中体連の代表者を各府県の理事長に加えた協会役員の再編成を行った。学連は平成10年度まで委員長（学生）も役員であった。

昭和57年度には、家庭婦人連盟（平成12年にレディース連名と改称）、平成５年度には社会人連盟（平成16年に社会人クラブ連盟と改称）、平成12年度には、小学生連盟が其々設立され、代表者が役員として加わった。

近畿各府県バドミントン協会 歴代会長

年号	西暦	大阪府	京都府	兵庫県	滋賀県	奈良県	和歌山県
24	1949		1 佐藤勝郎		1 藤谷宗順		
25	1950	1 石渡俊一	佐藤勝郎	1 岡崎　忠	藤谷宗順	1 岡田清作	
26	1951	石渡俊一	佐藤勝郎	岡崎　忠	藤谷宗順	岡田清作	
27	1952	石渡俊一	佐藤勝郎	岡崎　忠	藤谷宗順	2 近池義隆	
28	1953	石渡俊一	佐藤勝郎	岡崎　忠	2 大畑文七	近池義隆	
29	1954	石渡俊一	佐藤勝郎	岡崎　忠	大畑文七	近池義隆	
30	1955	石渡俊一	佐藤勝郎	岡崎　忠	大畑文七	近池義隆	1 高垣善一
31	1956	石渡俊一	佐藤勝郎	岡崎　忠	大畑文七	近池義隆	高垣善一
32	1957	石渡俊一	2 井上清一	岡崎　忠	大畑文七	近池義隆	高垣善一
33	1958	石渡俊一	井上清一	岡崎　忠	大畑文七	近池義隆	高垣善一
34	1959	石渡俊一	井上清一	岡崎　忠	大畑文七	近池義隆	高垣善一
35	1960	石渡俊一	井上清一	岡崎　忠	大畑文七	近池義隆	高垣善一
36	1961	石渡俊一	井上清一	岡崎　忠	大畑文七	3 木下義忠	2 岡本善右衛門
37	1962	石渡俊一	井上清一	岡崎　忠	大畑文七	木下義忠	岡本善右衛門
38	1963	石渡俊一	井上清一	岡崎　忠	3 茂木一二	木下義忠	岡本善右衛門
39	1964	石渡俊一	井上清一	岡崎　忠	茂木一二	木下義忠	岡本善右衛門
40	1965	石渡俊一	井上清一	岡崎　忠	茂木一二	4 川端与兵衛	岡本善右衛門
41	1966	石渡俊一	3 永末英一	岡崎　忠	茂木一二	川端与兵衛	岡本善右衛門
42	1967	石渡俊一	永末英一	岡崎　忠	4 田原又蔵	5 藤田庸右	岡本善右衛門
43	1968	石渡俊一	永末英一	岡崎　忠	田原又蔵	藤田庸右	3 野島一翁
44	1969	石渡俊一	永末英一	2 今井鎮雄	田原又蔵	藤田庸右	野島一翁
45	1970	石渡俊一	永末英一	今井鎮雄	5 正岡吉三郎	藤田庸右	野島一翁
46	1971	石渡俊一	永末英一	今井鎮雄	正岡吉三郎	藤田庸右	4 寺西　清
47	1972	石渡俊一	永末英一	今井鎮雄	正岡吉三郎	藤田庸右	寺西　清
48	1973	石渡俊一	永末英一	今井鎮雄	正岡吉三郎	藤田庸右	寺西　清
49	1974	石渡俊一	永末英一	今井鎮雄	正岡吉三郎	藤田庸右	寺西　清
50	1975	石渡俊一	永末英一	今井鎮雄	6 栗本藤四郎	藤田庸右	寺西　清
51	1976	石渡俊一	永末英一	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	寺西　清
52	1977	石渡俊一	永末英一	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	寺西　清
53	1978	石渡俊一	永末英一	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	寺西　清
54	1979	石渡俊一	永末英一	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	5 坂口常博
55	1980	石渡俊一	永末英一	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	坂口常博
56	1981	石渡俊一	永末英一	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	坂口常博
57	1982	石渡俊一	永末英一	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	坂口常博
58	1983	石渡俊一	永末英一	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	坂口常博
59	1984	2 瑠東　治	永末英一	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	坂口常博
60	1985	瑠東　治	永末英一	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	坂口常博
61	1986	3 岸　久雄	永末英一	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	坂口常博
62	1987	岸　久雄	永末英一	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	坂口常博
63	1988	岸　久雄	永末英一	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	坂口常博
1	1989	岸　久雄	永末英一	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	6 石田真敏
2	1990	岸　久雄	永末英一	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	石田真敏
3	1991	岸　久雄	永末英一	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	石田真敏
4	1992	4 三宅裕司	永末英一	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	石田真敏
5	1993	三宅裕司	4 西村清次	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	石田真敏
6	1994	三宅裕司	西村清次	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	石田真敏
7	1995	三宅裕司	5 田中田鶴子	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	石田真敏
8	1996	三宅裕司	田中田鶴子	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	石田真敏
9	1997	三宅裕司	田中田鶴子	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	石田真敏
10	1998	三宅裕司	田中田鶴子	今井鎮雄	栗本藤四郎	藤田庸右	石田真敏
11	1999	三宅裕司	田中田鶴子	3 北　義一	栗本藤四郎	藤田庸右	石田真敏
12	2000	三宅裕司	田中田鶴子	北　義一	代行 澤　長壽	藤田庸右	石田真敏
13	2001	三宅裕司	田中田鶴子	北　義一	7 澤　長壽	藤田庸右	石田真敏
14	2002	三宅裕司	田中田鶴子	北　義一	澤　長壽	藤田庸右	石田真敏
15	2003	三宅裕司	田中田鶴子	北　義一	澤　長壽	藤田庸右	石田真敏
16	2004	三宅裕司	田中田鶴子	北　義一	澤　長壽	藤田庸右	石田真敏
17	2005	三宅裕司	田中田鶴子	北　義一	澤　長壽	藤田庸右	石田真敏
18	2006	三宅裕司	田中田鶴子	北　義一	澤　長壽	藤田庸右	石田真敏
19	2007	三宅裕司	田中田鶴子	4 平林弘嗣	澤　長壽	藤田庸右	石田真敏
20	2008	三宅裕司	田中田鶴子	代行 瀬川欽也	澤　長壽	藤田庸右	石田真敏
21	2009	三宅裕司	田中田鶴子	5 瀬川欽也	澤　長壽	藤田庸右	石田真敏
22	2010	三宅裕司	田中田鶴子	瀬川欽也	澤　長壽	藤田庸右	石田真敏

ご 挨 拶



近畿バドミントン協会　会長
奈良県バドミントン協会 会長
藤田　庸右

協会創立60周年という喜ばしい年を迎え、記念誌を上梓するに当たり一言ご挨拶申し上げます。ご存知の通り近畿バドミントン協会は、昭和25年にバドミントンを愛好する数名の発起人により設立されました。その礎を築いて頂いた先達の多くは鬼籍に入られた中、一人大圃秀生氏が今なお健在であられ、当時の状況をつぶさに語り伝えて頂けたことは誠に嬉しく幸運なことでありました。氏の所有する古い記録･資料と生の記憶によるお話は、誠に鮮明に私共に当時の状景を思い浮かばせてくれます。

戦後の混沌とした時代の中で、復興明けやらぬ街にラケットを抱えて集う先人の熱い志に思いを馳せる時､60年と言う年月の重さを感じます。人間でいえば還暦を迎えるこの時に､60年前の原点に今一度立ち戻り、地域バドミントンの発展を期して組織を作り未来を夢見て活動された先輩諸氏の意思を、感謝の念を持って思い起こすものであります。

「近畿は一つ」これを合言葉とし、近畿２府４県足並みを揃え進んで参りました。その協力体制と結束が地域の実力となり、当協会は全国的にも有数の充実したブロック協会として、バドミントンの技術向上、普及発展、選手の育成、大会の運営等々、日本バドミントン界にも少なからず貢献してまいる事が出来ました。各府県、各団体を通じ、世界に活躍する選手を幾多輩出し、また大会の開催も積極的に取り組んでおります。しかしながら、この間における財団法人日本バドミントン協会のご指導、各府県の教育委員会をはじめとして各体育協会、応援を頂く各企業各メーカーの方々、ご協力を賜りました各方面の皆々様なくして今日はありません。誇りある歴史と、関係各位のご支援の上にこそ、現在の近畿バドミントン協会は存在していることを忘れるものではありません。

マイナーと言われたバドミントンスポーツも、近年オリンピックの正式種目として認められ、マスコミに取り上げられる機会も多くなりました。メディアを通じた伝播は、バドミントン人口の増大に繋がるであろうと期待されます。その中で、私共の果たすべき役割と責務は計り知れないものがありましょう｡確実な組織の上に立ち､地球規模の視点を持って、この近畿から日本バドミントンの発展を期し行動を発信させていくことこそ、先人の培われた夢を紡いでいくこととなるに違いありません。

どうか関係各位のご協力のもと、近畿が一つになって次に目指す未来を見据えて行きたいと思います。この栄えある節目の年に､会長としてご挨拶させて頂くことの光栄と共に､記念事業を推進して頂きました実行委員会の各位に感謝しつつ､60周年にあたってのご挨拶とさせて頂きます。

祝　辞



財団法人日本バドミントン協会 会長

綿貫　民輔

近畿バドミントン協会創立60周年おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

創立時、昭和25年代は各都道府県バドミントン協会における創立時期に当たり、この時代に地区協会として、各地区に先がけ近畿バドミントン協会を創立されましたことに敬意を表すとともに諸先輩方をはじめ、数多くの関係者の方々の熱意と幾多のご努力とご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

この60年間、石渡修一会長、藤田庸右会長のリーダーシップの下に役員各位の献身的なご尽力により財政的基盤も確立し、定例会議開催等によりバドミントンの普及に努め、登録会員増の推進や競技力の向上､各種全国大会および国際大会の開催にご尽力いただく等、近畿６府県におかれましては｢近畿は一つ｣を合言葉に本会の方針に対しましてご協力、ご支援を頂いておりますことに改めて感謝申し上げます。

現在、本会は競技力の向上と登録会員増による普及に努めているところであり、最大の目標はオリンピックでのメダル獲得です。この目的達成のため、各都道府県に対し小･中･高一貫指導委託事業制度を確立し、各都道府県にジュニアの強化をお願いし、これら優秀な選手をジュニアナショナルチーム選手として発掘、競技力の向上に努めております。
各地区協会におかれましては各都道府県協会と本会との間にジュニア強化を実施して頂ければより多くの選手がその対象者となり優秀な選手の見過しもなく、より効果的な強化が実施されます。これは一例ですが、本会は公益財団法人化に向け努力しておりますが、今後益々各都道府県と本会との間にあります各地区協会が重要な立場となると思われます。

終わりに、近畿バドミントン協会のより一層のご発展をご期待致しまして祝辞と致します。

祝　辞



近畿バドミントン協会 副会長
京都府バドミントン協会 会長
田中　田鶴子

この度、近畿バドミントン協会が創立され､60周年という大きな節目を迎えられましたことは、誠に意義深いことであり、心よりお祝い申し上げます。また、今日までの数々の実績と協会運営に携わってこられた諸先輩のご苦労とご努力、また日頃の弛まざる活動に対して深甚なる敬意を表します。

顧みますと、昭和22年に大阪府で協会が発足して、直後に近畿１府４県が相次いで協会を立ち上げられ、その中で各府県の長の方々が近畿を一つにまとめ、更なるバドミントンの普及を図ろうとされるご努力により、この近畿バドミントン協会が発足したものとお聞きいたしております。

そして、その結果、全国でも数少ないエリアの協会として、地域のバドミントン普及といった面から､登録会員の増強や交流試合を通じての切磋琢磨による選手強化等実践され、近畿の名前を全国に広めてこられました。

今後とも､｢近畿は一つ｣の合い言葉のもと、更なる交流を深め、協力をしてバドミントンの普及に繋げていければ幸いに存じます。

私ども京都府バドミントン協会も60周年を迎え、今まで以上に、府下のバドミントン普及の拡大や競技力の向上、ジュニア層の強化といったことに努力して参りたいと思っております。そういった面で､大所･高所からのご指導､ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

終わりに、近畿バドミントン協会の更なるご発展を祈念すると共に、私どもの協会への変わらぬお力添えを賜りますようお願いを申しあげまして、お祝いのごあいさつとさせて頂きます。

祝　辞



近畿バドミントン協会 副会長
大阪府バドミントン協会 会長

三宅　祐司

この度、近畿バドミントン協会におかれましては、創立60周年を迎えられ今日までの偉業に対しまして、心よりお慶び申し上げます。

顧みますと、バドミントンが我国の国民体育大会に於いて、正式競技となった昭和25年と同じ時期に、近畿を包括したバドミントン協会が呱々の声をあげました事は、誠に意義深いものだと思います。

以来、今日まで半世紀を越えて「 近畿は一つ 」の合言葉の下に、バドミントン競技の発展に力を注いで参りました。

近畿地区は、古くから海外との交流も盛んに行われ、栄えある伝統に育まれた良き土壌、良き先輩、良き指導者にも恵まれており、今後もジュニアからシニアまで、バドミントンが裾野の広い国民的生涯スポーツとしての普及発展に、大いに寄与出来るものと信じています。

現在、近畿地区では現役選手の世代交代が続く中にあって、財団法人日本バドミントン協会への登録人数も３万名近くに達し、今日までオリンピックをはじめ、毎年、国際的な競技会にも多くの優秀な選手を輩出して参りました。

この度の協会創立60周年記念は、近畿バドミントン協会にとっては一つの「ターニングポイント」に過ぎません。今後は協会にとって新しい歴史の一頁を飾るに相応しい強い選手の育成強化が焦眉の急ではないかと考えます。

今日まで、幾多の変遷のある中で、多くの先輩達のたゆまぬ努力の結晶が輝かしい歴史の数々を生み出し、今日の礎を築いてこられたものと感謝の気持ちで一杯です。

先輩達が残した足跡の尊さを再認識し、次の世代を担う若者達に尊い指針になる様な、記憶に残る活動を近畿二府四県が「一期一会」を大切にしながら、力を合わせて続ける事が肝要であると思います。

その為にも、多くの関係者の皆様の旧に倍した変わらぬご支援ご協力を切にお願いする次第でございます。

終わりに、近畿バドミントン協会の今後益々のご発展を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせて頂きます。

祝　辞



近畿バドミントン協会 副会長
滋賀県バドミントン協会 会長
澤　長壽

近畿バドミントン協会が創設されてから､60周年を迎える今日、その歴史を振り返る時、いろいろなことが走馬燈のごとく思い出されて感慨深く思い､心からお祝い申し上げます。また、今日まで協会運営に関わってこられた先輩諸氏のご苦労とご努力に敬意を表しますとともに、近畿バドミントン協会を支えてきた各府県協会や各連盟の活動や協力に対して深甚なる敬意を表します。

顧みますと、昭和22年10月に大阪の協会が発足した後、昭和24年４月に滋賀県、５月に京都府､12月に和歌山県、昭和25年７月に兵庫県､10月に奈良県が協会を立ち上げられ、その中で各府県の長の方々が｢近畿は一つ｣を合い言葉にまとまり、バドミントンの普及発展を各府県単独にとどまらず、地域ではかっていこうという思いから、ここに近畿バドミントン協会が発足したものと聞いています。その結果､全国でも数少ない地域の協会として、地域のバドミントン普及発展と交流、登録会員の増加や選手育成に貢献してきました。

これにより、２府４県や近畿各連盟が｢近畿は一つ｣を合い言葉に選手強化の切磋琢磨や交流､競技運営の協力が生まれてきました。選手育成では｢近畿を征する者は､全国を征す｣といえるまでになってきて、各近畿大会は全国大会以上の熱の入れようだし、競技運営では審判等の交流で技術を磨いています。

このように発展してきた近畿バドミントン協会が、更なる発展を続けるためには、近畿２府４県や近畿各連盟の理解と協力が必要であります。一方、近畿バドミントン協会の立場から各府県や各連盟を指導したり交流したりすることによって、より結束した近畿バドミントン協会が出来るものと確信しています｡｢近畿は一つ｣を合い言葉に更なる結束をかため、交流を深め、協力して近畿バドミントン協会の発展に寄与して参りたいものです。

ところで、滋賀県バドミントン協会も60周年を迎え、今まで以上に普及拡大に力を入れて、県下各地で大会を開くようにし、その地域の競技力を高めていこうと努めています。さらに選手強化では全国に通用する選手の育成に努力しています。どうか近畿バドミントン協会の大所高所からのご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

終わりになりましたが、近畿バドミントン協会の益々の発展を祈念するとともに、滋賀県協会への変わらぬ力添えを賜りますようお願い申し上げまして、お祝いのご挨拶といたします。

祝　辞



近畿バドミントン協会 副会長
和歌山県バドミントン協会 会長
石田　真敏

創立60周年を迎える記念の年に、輝かしい足跡を残す記念誌を発刊されますことを心よりお祝い申し上げます。

近畿協会は、戦後の混乱期のなかで設立され、日本の復興と成長とともに、幾多の苦難の道を乗り越え、バドミントン競技の普及、振興に多大の貢献をされて参りました。そして、永年にわたりご尽力いただいた諸先輩及び現役員の皆さんに、心より敬意を表し感謝申し上げます。

21世紀の我が国は、高齢化と少子化の時代を迎えておりますが、スポーツの大切さはますます高まっていると言えます。スポーツは、年配の方に体力増進と日々の楽しみや交流の場を、そしてこどもたちには心身の健やかな成長をもたらします。

また、日々の生活でスポーツを楽しむことは、心のゆとりをもたらします。「見るスポーツ」も「体を動かすスポーツ」も、せわしない現代社会において、私たちの生活の欠くことのできないものとなっております。

一方、厳しい社会情勢のもとで、バドミントン競技に限らずスポーツ全般にわたり非常に厳しい状況になりつつありますが、停滞は許されません。近畿のバドミントン界も、さらに大きく飛躍されることを期待してやみません。

和歌山県では平成27年、第70回国民体育大会が、岩出市で開催されることになっています。多くの課題を克服し、大成功させるため準備してまいりますので、近畿協会の限りないご支援ご協力の程、何卒よろしくお願いします。

むすびに、近畿協会の益々のご発展と関係の皆さんのご健勝を心から祈願いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝　辞



近畿バドミントン協会 副会長
兵庫県バドミントン協会 会長
瀬川　欽也

昭和25年12月に設立された、近畿バドミントン協会の60年の輝かしい歴史を振り返り、記念誌を発刊するにあたり、ここに黎明期において協会設立にご尽力賜った諸先輩並びに関係各位のご理解とご支援に対し、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

大阪・神戸では昭和初期から戦中を経て早くも敗戦間もない昭和21年頃から細々と再活動が始まり近畿各府県でもプレーされ始め、とりわけ大阪府では、昭和22年には早くも協会が設立されていました。昭和25年３月には大阪の川口　清氏、神戸の高倉 正治氏等のご尽力によって、大阪･兵庫の府県対抗戦が始められ、これが後の近畿協会設立の元になったことは余り知られていない事実と存じます。昭和25年10月には近畿６府県協会が揃い、12月に近畿協会が産声をあげたわけで、爾来60年の歴史を振り返ったとき、協会の礎を築いて頂いた先人達に改めて感謝の念で一杯であります。

「 近畿は一つ 」の合言葉のもと、地区６府県が近畿バドミントン協会を中心に纏まり、事業を推進し活動を続けていることは、全国９ブロックある中で、関東ブロックとともに特筆すべきことと思われます。全国大会の多くが､その開催地をブロック毎に回しており、益々強まる傾向にあるとき、一協会としてもブロックへの支援はもとより、ブロック協会の担う役割は益々重要であると言わざるを得ません。近畿２府４県が協力体制をますます強め、結束していくことにより多くの課題が克服され、そのことが近畿地区の実力向上に繋がることを強く認識して対処していきたいと考えます。

近年特に、オリンピックで活躍できる選手作りが叫ばれておりますが、強い選手の育成強化も大きな課題の一つであります。協会60周年の節目を迎えた今、先人達の築かれた素晴らしい歴史の数々に感謝し、この大きな課題に取り組んでいくことこそが正に次の新しい歴史を刻んでいくことに繋がると思います。

「 切磋琢磨 」、近畿２府４県が鎬を削りあい、技術力を高め、協会運営においても実効のある充実発展を図り、全国に近畿の名を高めていくことを切望し、祈念申し上げたいと存じます。

(財)日本バドミントン協会を始め、各メーカー、関係各位の今日まで頂いたご支援に対し深甚なる御礼を申し上げ、今後とも変わらぬご支援・ご協力を切にお願いする次第でございます。

終わりに、近畿バドミントン協会の今後益々の発展を祈念申し上げ、併せて近畿２府４県の益々のご発展を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせて頂きます。

創立60周年を迎えて



初代理事
兵庫県バドミントン協会 顧問

大圃　秀生

近畿バドミントン協会の還暦、誠におめでとうございます。

60年の昔、未だバドミントンの名前すら知らない人が多かった近畿地区に協会を設立しようと奔走された先輩諸氏に心から感謝の念を捧げる次第です。

私は近畿協会草創期の約５年間、若年をも顧みず、皆様の仲間に入れて頂き種々教えを頂いたことに深く感謝しております。

さて、今では近畿地区は他の地方に比べ京阪神、京滋と纏まりやすく奈良、和歌山も交通の便も良く地区協会としては関東地区に勝るとも劣らぬ機構となったのは当然であったかも知れません。しかし60年前はというと今では想像もし難いような社会環境下にありました。戦後僅か５年目、先輩はみんな手弁当で、今で言うならボランテイア精神で一丸となって協会をもり立て、それに応えるように各府県の若者達も打倒関東を目標に技術の錬磨向上に励んできました。

その成果の一つが昭和31年のトマス杯日本代表選手に２名の選手を送り込むことができたのです。当時の関西学院大学生 武田一徳氏と同志社大学生 上田益弘氏であります。

その後この二人に続けとばかり急速に技術レベルが向上し日本バドミントン選手権大会や国体バドミントン競技会或いは国際大会で活躍した選手は瞬く間に10指を越えました。また大学の活躍や連覇記録或いは近畿地区にある実業団チームや高校の活躍など数え上げればきりがありません。

これらの輝かしい記録や選手諸君の活躍は、正に『近畿は一つ』の合い言葉通りに近畿協会が運営され、選手の指導に努力された賜物であります。

誰が申されたかこの言葉は近畿の全てのことに当てはまることでありまして、名言、至言であると思います。今後ともこの栄光を守り、さらに積み重ねるためには多くの運営経験豊かな協会役員の下で各府県協会が知恵を絞り新たな目標に向かって『近畿は一つ』になって邁進されることであると存じ、そして『全ては近畿から』と言われ、言えるようになることを心から祈念申し上げる次第です。

第1章

近畿バドミントン協会史



第１節　近畿バドミントン協会の黎明期

序にかえて

私がこのようなことを書くのは甚だ僭越とは思うが60年を経た今日、設立発起人（当時こんな洒落た名前もなかったが･･･）として当初参画したメンバーの諸先輩は皆様鬼籍に入られてしまい、健在者は私一人になり、やむを得ず私の記録帳を辿りながら書くことにした。したがって95％以上は真実であるがやや記憶に怪しいところもあるのでこれをお読み頂き誤りがあれば訂正して頂くことを前提に書き進める事とする。

近畿バドミントン協会
初代理事　大圃　秀生

近畿協会設立前の近畿地区

戦前の状況からふれるならば明確な期日は不明であるが、昭和７年頃、大阪ＹＭＣＡでは松葉徳三郎氏、少々遅れて神戸ＹＭＣＡでは石渡俊一氏が導入、普及発展に多大の尽力をされたのが最初であることはほぼ確実のようである。しかし第２次世界大戦の影響でその後は戦後昭和21年頃までは殆どプレーの実績が見当たらない。

そして第２次大戦の敗戦間もない昭和21年頃から再び細々と活動が始まり近畿各府県でプレーされ初めた。近畿地区では奈良県と兵庫県を除き京都府（昭和24年５月１日設立、坂田善也理事長）、滋賀県（昭和24年４月１日設立、榎本彦次理事長）、和歌山県（昭和24年12月21日設立、泉惣一郎理事長）には府、県バドミントン協会が設立され、なかんずく、大阪府（昭和22年10月１日設立、石渡俊一理事長）では大阪ＹＭＣＡ体育主事川口清氏がリーダーとなって可成り手広くバドミントンの普及を手がけていて大阪ＹＭＣＡ体育館では大勢の人がプレーしていた。

昭和24年頃大阪府でプレーしていて私の記憶に残っている人々は、学校関係では三島野高校（現茨木高校）、青木昭二先生を部長に高谷芳明（元同志社大主将・第４代関西学連委員長）氏、多田康明（元関西大学主将）氏ら数名、樟蔭東高校（秋岡－旧姓前田澄子先生）、生野高校（船原静江先生）、高津高校、及び関西大学、実業団では日産自動車、社会人グループとして大阪ＹＭＣＡでもプレーヤーがいた。

京都府では立命館大学の坂田善也氏や京都大学の渋谷良次氏、弘利氏兄弟、同志社大学の北川浩氏、大谷大学の藤裔常正氏、㈱川島織物の上原正士氏など中心に活動していた。

滋賀県では榎本彦次先生が滋賀大学を中心に熱心な指導者として活躍されていた。

和歌山県でも泉惣一郎先生を中心にプレーヤーの輪が拡がり始め、桐蔭高校にバドミントン部が誕生していた。その後那賀高校、和歌山工高等々が名乗りを上げている。

一方兵庫県では県協会の組織もないまま、園田学園（海辺実先生）や親和学園（河合満先生）の女子高校生や星陵高校、実業団グループでは神戸市役所（沼田常一氏が中心）、扶桑金属（後の住友金属では伊藤豊氏が中心）が活動をはじめ奈良県では岩井由治先生を中心として何人かが活動していたと記憶する。

第２節　近畿バドミントン協会の創設

設立のきっかけ

偶々、昭和24年は第４回国民体育大会東京大会でバドミントン競技が公開競技として個人競技会が開催され全国46(沖縄県が日本国に未復帰)都道府県のうち26都道府県が参加し近畿地区から大阪府(９名)と県協会もない兵庫県(３名)から参加している。

この国体開催時を機会に東西の都道府県協会理事長級の人々が数人集まり日本協会の主催で東西対抗を1950(昭和25)年１月24日に大阪で開催しようという事になったようで、その西軍ジュニア近畿地区代表決定戦が昭和25年１月14日に大阪ＹＭＣＡで行われた。恐らく近畿地区の名称を冠して行われた初のバドミントン公式戦であったろうと思われる。

この日代表決定戦終了後、川口氏から大圃(兵庫県)に神戸と大阪との対抗戦を隔月くらいで開こうではないかと話を持ちかけられた。当時兵庫県は余り練習相手が豊富でないところから即決で第１回対抗戦を昭和25年３月19日新装なったばかりの神戸ＹＭＣＡ体育館で行うことになった。開催当日は未発表ではあったが既に神戸ＹＭＣＡ新体育主事に高倉正治氏が着任しており、川口・高倉間の話し合いで大阪は大阪府、神戸は兵庫県に名称変更して今後は府県対抗戦にしようという事になった。

設立へ向けて

この対抗戦を２、３回行った頃、京都府の坂田善也氏や上原正士氏(戦時中バドミントンを南方で覚えた)がこの対抗戦の話を聞き京都府も入りたいと申し出があり、２府１県で対抗戦を行うよりは近畿地区の他県にも呼びかけようということになった。当時近畿地区協会の早期設立を望まれていた方々は関西で初めて戦前にバドミントンを紹介されたといわれる大阪朝日新聞社の松葉徳三郎氏、同社の石渡俊一氏や慶応大学ＯＢで関西在住の山本孝二氏、関西FENCING育ての親といわれた川崎策実氏、園田学園の海辺実氏、関西学連委員長(昭和25年７月６日設立)仙波漸氏等々がおられた。

ところが未だ戦後も５年、交通や食料事情はおろか電話連絡さえも悪く、集まるにしても現在のように簡単には行かない。
幾度となく書簡や電話で川口氏が手を尽くされ滋賀県からは榎本彦次氏、奈良県から岩井由治氏、和歌山県から泉惣一郎氏に連絡がとれ合意が得られ、ようやく第１回の集まりを昭和25(1950)年の秋に(９月であったと思うが月日は不明)交通費、食事は自弁で会議に参加した。この時川口氏は三重県にも勧誘をされたが三重県は愛知県(名古屋)に近いので東海地区大会に出るということで近畿地区へは不参加の旨の回答があったと聞いている。

近畿バドミントン協会の設立

この近畿地区バドミントン協会の設立準備委員会とでもいうような会議への出席者は私の記録帳に因れば場所は大阪ＹＭＣＡ(土佐堀)で下記府県協会理事長クラスの方々の名前が見える。

会議は１．協会名称の決定、２．設立日の決定、３．近畿選手権の開催、４．役員の選出という事で進められ下記のメンバーから＊印の付いた方々が初代理事に選任された。
設立２年後に常任理事制度が導入されこのメンバーは常任理事となり他に若干名の理事が選任された。

大阪府　＊石渡俊一　川崎策実　＊川口清
京都府　＊上原正士
兵庫県　＊高倉正治　加賀幹雄　山本孝二
奈良県　＊岩井由治
滋賀県　＊榎本彦次
和歌山県＊泉惣一郎
関西学連　仙波漸　＊大圃秀生

川崎策実氏はFencing出身で、加賀幹雄氏山本孝二氏は各府県１名という事で、また仙波漸氏は翌年３月卒業という事で理事を辞退された。

名称を近畿ブロック･バドミントン協会（以後「近畿協会」と略称し、後年近畿バドミントン協会に名称変更されている。）と決定し、石渡氏を初代会長に、理事長は置かず会議は理事の合議制とし、事務局を川口氏が行うこととして昭和25（1950）年12月17日神戸ＹＭＣＡ体育館で第１回近畿バドミントン選手権と銘打って競技会を開催することなどを決め、また設立日については、川口氏の事前の下打ち合わせが良かったこともあり、度々会合を持つことも多難なので1950（昭和25）年12月１日を設立日と定め散会した。

閑話休題

当時の近畿地区のバドミントン大会の多くが兵庫県で開かれているが、その理由は神戸ＹＭＣＡ体育館が３面ではあったが新築されたばかりで天井も高くフロアリングが一番良かった事や阪急西宮駅近くに足場の良い体育館があったことに因る。各府県にも学校の体育館がありコートはとれても天井が低く過ぎたりして大会には今一つだったからである。

第３節　近畿バドミントン協会創設期

第１回近畿選手権大会

第１回大会は少年、青年、成年、壮年、少女、婦人の各単複であった。予定通り昭和25(1950)年12月17日神戸ＹＭＣＡ体育館で行われたがコートは３面しかととれず、当日進行係を担当した私は、試合のタイムテーブル作成と進行が非常に難しかったことが記憶に残っている。

各種目の優勝者の入賞者は誰であったか定かではないが、記憶に残っているものでは青年単では京都の渋谷弘利氏、複は同じく京都の渋谷兄弟組、婦人単は京都の小島信さんで大阪の船原静江さんと決勝戦を戦ったと思う。少年は大阪の高谷芳明君、少女単は兵庫の竹田絹代さん、少女複は兵庫の竹田・安岡組であった。いずれにせよ１日で全試合を終えたのであるが可成り遅くなったように覚えている。また、役員は全員が選手と兼務であり、役員の費用は勿論自弁であった。競技審判にしても技術は未熟であり、多くの誤審があったが和気藹々の大会であった。

また当時は未だバドミントンの名前すら普及しておらず、この第１回大会後も川口、高倉両氏はＹＭＣＡ主事同士の親しさから、ことある毎に普及活動に腐心していた。

オープン大会（米国現役軍人の参加）の開催

その一つの動きとして、近畿協会は昭和26年４月14日、阪急西宮体育館(床は木ではあったが歩くとギシギシ軋んだことを覚えている)で近畿オープンバドミントン大会を開催した。当時未だこの「オープン」と言う意味を理解する人々は少なく、殆どのプレーヤーはゲームが出来るから参加しようくらいの気持ちで参加した人が多かったが、蓋を開けてビックリ今まで会ったこともない人や米国軍人まで参加しているではないか。

実は川口氏は苦心の末、協会登録者のみが参加できる通常の大会では集まる顔ぶれが決まってしまうので、バドミントンを普及させるためには協会未登録者でもかまわない、住所、所属も問わないという大会を企画したわけである。オープンという意味はそういうことであった。

昭和26(1951)年は未だ米国占領下である。米国軍人Philips陸軍大尉が現役将校の軍服を着て会場に現れたときは本当に驚いた。日本のバドミントン競技会にオープンにせよ米国軍人、しかも現役の大尉が参加したという記録は恐らくこれが最初でありまた最後であろうと思われる。

このオープン大会は２回目も開こうとしたがスケジュールが確定しないまま立ち消えとなったのは残念であった。大会当日は人数の記録はないが年齢別、単複別に朝から夕方暗くなるまで試合が続いたのでかなりの参加者があったと思われる。

閑話休題

またまた話は横道にそれるが、1950(昭和25)年当時バドミントンをプレーするのにどのくらいの費用を必要としたかを神戸市湊川付近にあった杉岡運動具店の広告を参考までに写しておく。

ラケット	グリップ革巻き	600円
	普　通	400円
シャトルコック	水　鳥	65円
	陸　鳥	50円
ガット	牛　筋	100円
	シルク	90円
ネット	綿上等品	750円
ネット支柱	付属品つき	800円

ラケットプレス	木　製	200円
バドミントンセット	箱入り ラケット　４本 シャトル　６個 ネット　１張 支柱　１組 ルールブック　１冊	3,500円
また他の物価との比較のため		
当時 神戸YMCA食堂	きつねうどん	25円
	ライスカレー	35円位?

如何にシャトルコックが高価であったか判る。また当時の大会参加料は大凡、１種目100円前後(50円の時もあった)であったと記憶する。

その後の近畿協会

そして第２回近畿選手権大会は昭和26(1951)年11月23日､24日の2日間、翌年の全日本選手権の予行演習を兼ねて天理大学体育館で開催した。第２回にして早くも２日間かけて大会を行うなど競技人員増加は急増であった。

そして、先のオープン大会には未だ余談がある。其れは近畿大会の開催回数が間違ったまま久しく続いたことである。即ち、この大会はあくまでもオープン競技会であり、近畿協会が主催したとは言え公式の近畿選手権大会ではなかった。ところがこれが第２回に勘定されていたのである。もっとも、間違いやすい条件も重なっていた。近畿協会が活躍を始めたことを知った日本協会は1952(昭和27)年の全日本選手権を関西で開くことを決めたのである。

当時近畿の一協会が全国大会を主催するには荷が重すぎるので、近畿協会傘下の各府県協会が協力して近畿協会主催で開催しようという事に成った。ところが時期的に近畿大会と全日本大会との日程が近すぎるため近畿大会第３回大会の開催を翌年(1953年)春に延ばし、西日本で初の全日本選手権大会を成功させる事に的を絞ったのである。

ところが後年の近畿大会関係者が開催期日をよく調べれば良かったのだがこのオープン大会を公式近畿大会としてしまったらしく最近になって気が付きよくよく調べたところ前述のことが判明し訂正された。

当時活躍した若手の主な選手は男子では、渋谷兄弟(京都)、上田、藤井、高谷、多田(大阪)、坂崎、米田、武田、内田、大圃(兵庫)、女子では竹田、安岡、早瀬、白石(兵庫)、船原、中村、番浦(大阪)小島、布留宮(京都)で、とくに青年男子は京都、高校男子は大阪、高校女子兵庫、青年女子は京都が強かった。当時青木昭二氏は大阪茨木高校教諭でバドミントン部長、秋岡澄子氏は大阪樟蔭東高校教諭でバドミントン部長で熱心に生徒を指導されていた。そして川口、高倉、青木氏はプレーヤーとしても参加されていた。

かくて昭和27(1952)年は近畿大会の開催は無く、第３回大会は昭和28(1953)年、第４回大会は昭和29年、第５回大会は昭和30年に行われた。

むすびに

以上で私の近畿協会設立当時の回想的記録を終えるが、近畿協会設立の話しが出始めた頃、当時私は未だ高校３年生、そして直ぐ大学１年生、多くの諸先輩の中で勿論最年少で生意気盛り、諸先輩が良くこの青二才を引き立てて下さったと感謝の念で一杯である。それ故に今日60周年を迎えることが出来たが、誠に残念ながら高校関係と実業団関係には審判員として以外は全く関与しなかったので2、3枚のプログラム以外所持記録がない。この方面の関係者の方で事情に詳しい方は是非当時の状況を執筆して頂きたい。

第４節　創設当時に活躍した選手

草創期から昭和31年頃までの間、活躍した選手を述べてみたい。

（顧問、野村嘉明氏寄稿文より）

当時活躍した選手は殆どが学生であった。昭和26年から28年にかけて渋谷弘利（京大）・小島　信（ＹＭＣＡ）組が全日本選手権大会混合複で３連覇。昭和27年、第５回全日本選手権壮年複で、降井欽一・嶋　久雄組が優勝。28年には、京女大が全日本学生で優勝。

29年には、全日本選手権青年単で上田益弘（同志社大）が優勝して事実上の個人日本一となった。

また、高谷芳明（同志社大）は、上田益弘とダブルスを組み、西日本選手権複に優勝、全日本でも活躍し、昭和30年トマス杯大会の日本代表選手として優秀な活躍をしている。

昭和31年、東京で開催された第３回アジア大会では、日本の男子チームが優勝したが、このとき関大の松王清志、小松康博が、日本代表選手として活躍し、日本バドミントン界で初の、金メダルを手にしている。昭和31年の全日本のランキングを見ると、関西では次の選手が上位にランクされている。

男子単４位　上田益弘、
　　６位　河内利雄（同志社大）
　　９位　渡辺　孝（関大）
男子複３位　村野伸吾、河内利雄（同志社大）
　　５位　佐々木忠勝、松王清志（関大）
　　７位　小松康博、渡辺　孝（関大）
　　９位　岡田（現、川本）末夫、
　　福見　陽（立命）

らの名前がある。

これらのメンバーで、昭和31年の第４回全日本学生東西対抗戦で、12対３で西軍が勝ちを収めているがその後、54年まで23年間、西軍が東軍に勝つことが出来なかっただけに特筆される勝利となり、今では語り草となっている。

第５節　近畿協会の組織づくり

昭和25年発足時、御就任された初代会長石渡俊一氏は、平成５年第２代会長藤田庸右氏に引き継がれるまでの実に43年間の長きに亘り、近畿協会会長として協会の礎を築くため御尽力頂いた。

近畿協会は当初、理事長によって組織され、近畿選手権大会の実行及び普及の為の代表者会議的なものであったがその後、実業団大会（昭和27年）、高校大会（昭和29年）と競技会が発足し、これらの主催もしてきた。関西学生連盟は、近畿協会より半年前の６月に既に設立していたが、その後高体連バドミントン専門部（昭和26年４月）の設立、実業団連盟（昭和38年）の設立と続き、これらの大会も其々の連盟が主催することになり、競技会は発展していった。近畿協会の基盤つくりは、石渡会長のもと、川口　清氏（大阪）、高倉正治氏（兵庫）、榎本彦次氏（滋賀）、泉惣一郎氏（和歌山）、上原正士氏（京都）、岩井由治氏（奈良）の、各氏によりなされ、第二期のメンバーに引き継がれて行ったと言っても過言ではなかろう。発足時より続いてきた各府県の理事長による、合議制の協会運営の脱皮を図るべく昭和41年には、高体連、学連、実連、教職連、中体連の代表者を各府県の理事長に加えた協会役員の再編成を行った。これにより、各府県理事長と各連盟の代表（理事長）で構成する、今日の組織が出来上がった。

幸いにも近畿は、交通の便が良いところから他ブロックに比し、纏まりやすい面があり、組織作りおよび活動が早くからスムーズに行われてきたといえよう。近畿を代表し、日本協会で活躍された役員は、石渡会長が草創期理事としてその後、副会長を歴任された。

平成11年度からは、三宅祐司氏（大阪）が副会長として現在も活躍中である。歴代の近畿代表理事は、河合満氏（兵庫）、岩井由治氏（奈良）、青木昭二氏（大阪）、野村嘉明氏（京都）、北　義一氏（兵庫）、四方光市氏（大阪）、佐藤武人氏（京都）、そして平成13年度からは野村安忠氏（奈良）が現在も活躍中である。

また、平成19年度からは、銭谷欽治氏（大阪）が日本協会の推薦を受け、強化本部長として活躍中である。

第６節　近畿バドミントン界のあゆみ

（注１）日本・府県協会名及び大会名の「バドミントン」は略して示す。　（注２）敬称略

年　代	近　畿・日　本	大　　阪	兵　　庫	京　　都	滋　　賀	奈　　良	和歌山
昭和3年(1928)	・横浜YMCAで練習始まる						
昭和8年(1933)		・大阪YMCAバドミントンクラブ発足					
昭和10(1935)	・横浜YMCAで バドミントン流行		・昭11年、石渡俊一氏 神戸YMCAに赴任				
昭和14年(1939)	・横浜YMCA対 神戸YMCA対抗戦を行う	・大阪YMCAで 講習会開かれる	・昭12年10月神戸 YMCAで会員バドミントンオープン大会				
昭和15年(1940)	・神奈川県協会創立		・横濱選抜が神戸を訪れ YMCA東西対抗戦を 開催				
昭和17年(1942)	・慶大にバドミントン クラブ誕生						
昭和21年(1946)	・第１回国民体育大会開催 ・日本協会創立(11月)			・バドミントン講習会 開催			
昭和22年(1947)	・東京都・福井県・福島県 協会創立	・**大阪協会創立** **初代理事長 石渡俊一** (10月)					・バドミントン指導者 間集会を開催 （和歌山大学にて）
昭和23年(1948)	・第１回全日本選手権大会 開催(1月) ・第１回トマス杯大会開催 (英国)	・高校にバドミントン クラブが出来始めた	・高体連 バドミントン部発足				
昭和24年(1949)	・日本協会が日本体育協会 へ正式加盟（11月） ・第４回国体の公開競技と なる(東京都10月) ・初の全国総会を開催(横浜)	・第４回国体に 一般男女単複に 高校生のみ７名参加	・２月横浜で開催の、 第２回全日本選手権 ジュニアの部出場の 大圃 神戸へ移住 ・高体連バドミントン 部発足 ・第４回国体に3選手が 出場	・**京都府協会創立** **会　長　佐藤勝郎** **理事長　坂田善也** （５月）	・**滋賀県協会創立** **会　長　藤谷 宗順** **理事長　榎本 彦次** （4月）	・11月、県内の高校・ 中学の指導者を集め、 初のバドミントン 講習会開催	・**和歌山県協会創立** **理事長　泉惣一郎** （12月）
昭和25年(1950)	・**関西学生連盟設立（６月）** ・関西学生選手権大会始まる ・全日本学生連盟設立 （11月） ・全日本学生大会始まる ・全国高校体育連盟 バドミントン専門部設立 ・全国高校大会始まる。	・初代会長　石渡 俊一 理事長川口清　就任 （４月）	・第５回県総体にバドミントン競技が公式大会として開催 ・**兵庫県協会創立** **会　長　岡崎　忠** **理事長　高倉正治** （７月）	・国体初参加 ・京都府個人選手権 大会始まる		・第１回県民体育大会 公開競技に参加 ・**奈良県協会創立** **会　長　岡田清作** **理事長　上山当雄** （10月）	

年　代	近　畿・日　本	大　　阪	兵　　庫	京　　都	滋　　賀	奈　　良	和歌山
昭和25年(1950)	・第1回近畿高校大会(個人戦のみ)開催(10月) ・第５回国体 (愛知県・名古屋市) バドミントン正式種目となる(10月) **・近畿バドミントン協会創立(12月１日)** **・初代会長 石渡 俊一　就任** **・第１回近畿選手権大会開催(神戸市12月17日)**		・第１回近畿高校 選手権女子複で優勝 ・第5回愛知国体に出場 ・第１回近畿選手権で８種目に優勝し総合優勝		・彦根に於いて初の講習会を開催	・第５回国体に初参加	・桐蔭高校にバドミントン部が誕生
昭和26年(1951)	・全日本実業団大会始まる ・全日本大学大会始まる ・関西学生リーグ戦始まる ・第６回国民体育大会 (広島県広島市) **・第２回近畿選手権大会開催(天理市11月23･24日)**	・大阪高体連 バドミントン部設立 ・第１回大阪選手権大会開催(西宮市)	・第1回学生東西対抗戦開催(5月) ・第1回近畿高校選手権を神戸市港高校で開催 男・女共団体優勝 ・第６回国体で３回戦進出 ・第１回県事業団 選手権開催	・京都府高体連バドミントン部設立 ・第2回全国高校大会に平安高　初参加 **・理事長(２代目) 上原正士　就任**	・県総体にオープン競技として参加	・第１回奈良県選手権大会開催 (5月天理大) **・理事長(２代目) 岩井由治　就任**	・那賀、熊野、向陽、星林和歌山工業、新宮高校にバドミントン部誕生 ・県高体連バド部発足 ・第６回広島国体に高校男女が参加 ・全国高校総体に参加 ・26年近畿高校大会 男子単優勝(三毛兄)
昭和27年(1952)	・日本協会ＩＢＦに加盟 ・７回国体(宮城県･仙台市) この大会より高校女子の種目加わる ・近畿実業団大会始まる	・第5回日本選手権大会 壮年の部優勝 (嶋・降井組) ・第３回全日本高校選手権男子・女子の部に初参加	・第5回全日本選手権大会 少女単で西尾貞子3位 ・宮城国体で高校女子優勝 **・高体連バドミントン部設立** ・第３回全日本学生大会開催(11月) 女子単・複優勝			**・会長(２代目) 近池義隆　就任** ・第５回全日本選手権大会開催 (5月天理大) ・近畿高校総体で女子育英高校が初優勝	・和歌山大学バド部誕生 ・近畿高校選手権大会 女子単２位(小川)
昭和28年(1953)	・８回国体(香川県･善通寺) **・第3回近畿選手権大会開催(大阪市4月6･7日)**		・第３回西日本選手権大会(京都府) ５種目に優勝 ・第３回近畿選手権大会で６種目優勝、４種目準優勝 ・神戸市協会設立(4月) ・第６回全日本選手権大会少女単で 西尾貞子優勝	**・理事長(３代目) 泉本勇五郎　就任** ・第3回全日本学生大会で京都女子大優勝 ・京都府学生連盟設立	・第8回香川国体初参加 ・高体連バドミントン部設立 ・全国高校総体に初参加 ・会長(２代目) 大畑文七　就任 ・理事長(２代目) 田中多喜造　就任	・第４回全国高校総体 男子奈良商工がベスト８入賞	・耐久高校バド部誕生 ・近畿高校総体男子 和工高校３位 ・西日本選手権大会 一般男子単３位 (寺口) 高校男子単４位
昭和29年(1954)	・第３回トマス杯大会に初参加 **・第4回近畿選手権大会開催(神戸市4月17･18日)** ・９回国体(北海道･札幌市) ・近畿高校大会始まる	・川口理事長がトマス杯に監督として参加	・第4回西日本選手権で少年複優勝、 青年複２位 ・武田一徳(関学) トマス杯日本代表に選抜される ・12月兵庫県学生連盟設立		・第３回近畿実業団開催	・第１回近畿高校 選手権大会を開催 男子単優勝(芝田)	・大成高校バド部誕生 ・県高体連誌 第一号発刊

年　代	近　畿・日　本	大　　阪	兵　　庫	京　　都	滋　　賀	奈　　良	和歌山
昭和30年(1955)	・第5回近畿選手権大会開催（天理市4月16・17日） ・第10回国体(横浜市)		・第５回西日本選手権で青年複優勝 ・第６回全日本高校選手権開催（６月神戸市）	・第８回全日本選手権大会青年単で上田益弘(同大)優勝 ・京都府実業団連盟設立 ・理事長(４代目)上原正士　再選		・第10回国体で高校男子がベスト８ ・近畿高校総体男子奈良商工優勝	・和歌山県協会初代会長高橋善一　就任 ・和歌山県実業団連盟が設立(４月) ・近畿高校総体男子・和工高校３位 女子・星林高校３位
昭和31年(1956)	・第11回国体（兵庫・神戸市）	・対マライ親善試合開催(大阪市) ・第11回国体一般男子で準優勝	・第11回兵庫国体開催(10月神戸市) 一般女子惜しくも3位 一般男子ベスト８	・京都府中体連バドミントン専門部設立 ・第６回全日本学生大会で京都女子大優勝	・理事長(３代目)榎本彦次　再選 ・第３回近畿高校大会開催	・第11回兵庫国体で高校女子ベスト８	・新宮・那賀･向陽の各高校OBクラブ誕生 ・近畿高校新人大会男子単２位、３位
昭和32年(1957)	・日本協会会長(３代目)本田 弘敏　就任 ・第12回国体(静岡・富士市)			・第7回全日本学生大会で京都女子大２連覇 ・第６回全日本学生東西対抗戦開催(東山高) ・会長(２代目)井上清一　就任		・近畿高校選手権大会男子複優勝(森･榎木)	・近畿実業団男子団体東亜燃料２位 ・近畿高校総体男女3位 ・近畿高校新人大会男子複優勝（新谷・根本）女子複2位,女子単2位
昭和33年(1958)	・全日本社会人大会始まる ・五大市大会にバドミントンが正式種目となる ・第13回国体(富山・高岡市)	・理事長(３代目)明見(現宮脇)正晴就任 ・第３回アジア大会に大阪より松王・小松出場				・第13回国体で高校男子３位入賞 ・全国高校総体男子単３位 ・近畿総体奈良商工優勝	・近畿実業団男子団体東亜燃料２位 ・近畿高校総体女子団体優勝(耐久高校)
昭和34年(1959)	・第14回国体(東京都)この大会より教員男子の種目加わる	・国体教員男子で準優勝	・理事長(２代目)河合　満　就任 ・第10回全国高校選手権男子複４位	・マライ・タイ親善試合開催(立命大) ・第14回全日本総合大会開催(京学芸大)		・近畿高校選手権男子複優勝	・吉備高校、御坊商工高校バド部誕生
昭和35年(1960)	・第15回国体(熊本・菊池市)	・大阪中体連バドミントン専門部設立	・創立10周年記念大会開催 ・第11回全国高校選手権男子団体３位、男子単３位			・熊本国体高校男子ベスト８ ・全日本総合大会複優勝 ・近畿高校総体奈良商工優勝	・泉惣一郎理事長が日本協会より功労賞 ・近畿実業団丸善優勝
昭和36年(1961)	・第16回国体(秋田・象潟町)			・第11回全日本学生大会京都女子大優勝（４度目）	・第８回近畿高校大会開催	・全日本総合大会複優勝 ・近畿高校選手権男子複優勝	・会長(２代目)岡本善右衛門 就任
昭和37年(1962)	・小宮好雄(トヨタ自)が日本人初の全英大会に出場(ベスト８) ・全国教職員大会始まる ・第17回国体(岡山・倉敷市)	・大阪教職員バドミントン連盟設立(４月)		・全印度 対 西日本女子親善試合開催（橘女子学園） ・舞鶴市協会設立	・第13回全国高校総体女子彦根西ベスト８	・岡山国体高校男子ベスト８ ・全日本総合大会複優勝(森　晃一) ・近畿高校総体奈良商工優勝 ・近畿高校選手権男子複優勝	・団体近畿予選教員２位
昭和38年(1963)	・近畿実業団連盟設立 ・第18回国体(山口・下関市)				・会長(３代目)茂木一二　就任 ・第14回全国高校総体女子長浜商工ベスト8	・会長(３代目)木下義忠　就任 ・近畿高校選手権男子複優勝	・理事長(３代目)宮崎　熊　就任

年　代	近　畿・日　本	大　　阪	兵　　庫	京　　都	滋　　賀	奈　　良	和歌山
昭和39年(1964)	・東京オリンピック開催 ・第６回トマス杯アメリカンゾーンで日本代表権獲得 ・第19回国体 （新潟・三条市）		・兵庫県中体連バドミントン専門部設立	・対米国親善試合 京都大会開催 （平安女子）	・第３回全日本教職員大会に初参加	・新潟国体高校男子準優勝（森・橋本・真壁） ・第15回全国高校総体男子奈良商工３位、男子単優勝 ・近畿高校総体正強高優勝 **・近畿高校選手権男子複優勝**	
昭和40年(1965)	・第20回国体 （岐阜・岐阜市）	・岐阜国体 高校女子優勝	・兵庫県実業団連盟設立 ・第15回全日本実業団大会30歳男子単優勝 （粟　守）			**・第４代会長 川端与兵衛　就任** **・岐阜国体高校男子3位** ・近畿高校総体正強高優勝 **・近畿高校選手権男子複優勝**	・和歌山県職体連大会 ・近畿高校総体 男子単優勝（山口勇）
昭和41年(1966)	・第４回ユ杯大会で日本初参加優勝 ・全英大会男子単で秋山真男準優勝 **・近畿選手権大会が近畿総合選手権大会になる** ・第21回国体 （大分・日田市）	**・理事長（４代目） 青木昭二　就任** ・第16回全日本実業団選手権大会開催 （６月大阪中央）		**・会長（３代目） 永末英一　就任**	・茂木一二会長急逝 ・理事長（４代目） 寺田　寿　就任 ・滋賀県実業団連盟設立 ・第13回近畿高校大会開催	・近畿高校総体 奈良商工優勝 **・近畿高校選手権 男子複優勝**	・第１回社会人大会開催 ・国体近畿予選 高校男子優勝
昭和42年(1967)	**・第１回近畿教職員大会 個人戦2月、団体戦6月開催** ・第22回国体 （埼玉・越谷市）		・兵庫県教職員連盟 設立（６月）		・会長（四代目） 田原又蔵　就任	・県実業団連盟設立（3月） **・会長（５代目） 藤田庸右　就任** ・国体高校男子準優勝 **・全国高校総体 一条高２位** ・近畿高校総体 一条高校優勝 **・近畿高校選手権男子複優勝**	
昭和43年(1968)	・第23回国体 （福井・勝山市）	・全日本教職員大会開催（８月大阪中央） ・第19回全国高校総体女子東大阪高校優勝 ・国体高校女子優勝	・第4回国際学生選手権女子単3位（池田栄子）		・第17回近畿実業団大会開催	・福井国体 高校男子４位	**・会長（３代目） 野島一翁　就任** **・理事長（４代目） 吉田健次郎　就任** ・全日本社会人大会開催
昭和44年(1969)	・全英大会で湯木博恵選手が日本人初の優勝 ・ユ杯大会日本防衛なる ・第24回国体（長崎・諫早）	・全国高校大会団体 女子東大阪高２連覇 ・国体高校女子優勝	**・会長（２代目） 今井鎮雄　就任** **・理事長（３代目） 吉持節夫　就任**			・一般の部より奈良県社会人連盟と改称 ・長崎国体高校男子3位	・第1回会長杯争奪大会 ・県協会規約制定 ・和歌山県教職員連盟設立（４月）
昭和45年(1970)	**・第18回近畿総合選手権大会開催（和歌山県１月）** ・第25回国体 （岩手・釜石市）	・第21回全日本大学選手権大会開催（大阪） 東大阪短大　初優勝	・第９回全国教職員選手権 30歳女子単優勝 （鳥井治子）	**・理事長（５代目） 市村　修　就任** ・京都社会人連盟設立 ・全日本実業団大会女子団体で三菱自工準優勝 ・トマ杯アジアゾーン予選準決勝インドネシア対日本戦開催 （日本敗れる）	・会長（５代目） 吉岡吉三郎　就任 ・中体連バドミントン専門部設立 ・全日本実業団選手権女子単優勝（大橋） ・第1回全国中学校大会男子初参加	・理事長（３代目） 松尾良行　就任 ・第25回岩手国体で高校男子初優勝 （竹内・巽・西川） ・第21回全国高校総体正強高校３位	・黒潮国体に向けて教員男子、一般男子 一般女子、高校男子 高校女子の全種別で強化対策が始まる ・県協会旗制定 ・第９回全日本教職員男子単３位（森　隆） ・近畿総合男子単３位 ・国体近畿予選 高校男子２位

年　代	近　畿・日　本	大　　阪	兵　　庫	京　　都	滋　　賀	奈　　良	和歌山
昭和46年(1971)	・**第19回近畿総合選手権大会開催(奈良県１月10日)** ・全国中学校大会発足 ・**第26回国体(和歌山・湯浅町)**	・全国高校総体女子で四条畷学園優勝 ・第1回全国中学生大会女子大阪府チーム優勝 ・国体高校女子優勝	・第20回全日本実業団大会女子複優勝(池田・篠山) ・第10回全国教職員選手権　30歳女子単連覇(鳥井治子)	・京都個人選手権大会を京都総合個人選手権大会に改名 ・京都府社会人連盟設立	・第1回全国中学校大会団体男子で優勝 ・第18回近畿高校大会開催 ・第26回和歌山国体教員男子優勝	・第26回和歌山国体高校男子３位 ・全国高校大会団体男子で正強高校優勝　女子一条高校３位 ・第１回全国中学大会男子団体３位	・**会長(４代目)寺西　清　就任** ・国体開催(湯浅町) 教員男子準優勝 高校男子準優勝 一般女子・高校女子5位 ・全日本教職員女子複2位
昭和47年(1972)	・第１回国際大会(日本対デンマーク戦)開催(大阪１月) ・**第20回近畿総合選手権大会開催(京都府)** ・第27回国体(鹿児島・鹿児島市)	・全国高校総体女子で四条畷学園連続優勝 ・国体高校女子優勝	・第6回世界女子選手権に柴山きよ子が日本チーム一員として出場・日本優勝 ・第20回全日本実業団大会　女子団体優勝(三菱電機)	・**理事長(６代目)野村嘉明　就任**	・第2回全国中学校大会女子３位 ・全日本学生選手権大会女子複優勝 女子単３位(谷) ・第27回国体教員男子準優勝	・第27回鹿児島国体高校男子優勝 ・第23回全国高校選手権男子正強高連続優勝 ・第2回全国中学生大会男子団体優勝 女子団体準優勝	・近畿教職員男女団体優勝、男子単優勝 ・近畿総合男子単２位 ・県協会誌発刊(創立22年) ・鹿児島国体教員男子優勝　天皇杯５位 ・全日本教職員男子単２位、女子単優勝
昭和48年(1973)	・日中国交回復　第１回日中大会開催 ・**第21回近畿総合選手権大会開催(大阪府３月25日)** ・第28回国体(千葉・茂原市)	・大阪社会人連盟設立 ・日中競技大阪大会開催 ・全国高校大会団体女子四条畷学園３連勝 ・広報１号発行 ・国体高校女子優勝	・**理事長(４代目)北　義一就任** ・第24回全国高校選手権女子単３位(桜井誠子) ・全国中学校選抜選手権男子団体３位(住吉中学・三田学園中学)	・全国教育系大学大会開催 ・家庭婦人大会始める	・第12回全日本教職員大会　大津で開催 男子複優勝(藤原・藤上) ・第28回千葉国体教員男子優勝 ・第3回全国中学校大会団体男・女の部優勝	・奈良県家庭婦人連盟設立(３月) ・第28回千葉国体高校男子３位入賞 ・第１回全国高校選抜男子複優勝 ・第3回全国中学生大会男子団体３位	・近畿総合女子単２位 ・近畿教職員男子団体２位、女子団体優勝 男子単・複　優勝 ・全日本教職員大会男子団体２位 男・女単３位
昭和49年(1974)	・**第22回近畿総合選手権大会開催(兵庫県３月17日)** ・第29回国体(茨城・石岡)	・大阪府家庭婦人連盟設立(10月)	・第３回国際競技神戸大会　日本選抜対ヨーロッパ選抜開催 ・全日本社会人選手権女子単3位(高崎弘子)	・京都オープン家庭婦人大会始める ・社会人連盟内に家庭婦人専門部設置	・第4回全国中学校大会団体男子連続優勝 ・第23回近畿実業団開催 ・全日本教職団体複優勝 ・全日本学生女子複3位	・茨城国体高校男子2位 ・第25回全国高校総体男子正強高校優勝 ・全国高校選抜男子複優勝	・近畿教職員男子団体優勝 ・全日本教職員男子単優勝 ・国体教員男子優勝 一般女子５位、天皇杯５位
昭和50年(1975)	・**第23回近畿総合選手権大会開催(大阪府３月16日)** ・ユ杯大会決勝日本敗れる日本２－４インドネシア(６月ジャカルタ) ・第30回国体(三重・松阪市)	・全国高校大会団体女子四条畷学園　優勝 ・国体少年女子優勝	・県協会創立25周年記念式典・競技会を開催 ・第26回全国高校選手権女子複2位(佐藤・雑賀) ・第４回日中神戸大会を開催(11月)	・日中競技京都大会開催	・会長(６代目)栗本藤四郎　就任 ・理事長(５代目)久保　宏　就任 ・全日本総合団田教員３位 ・第５回全国中学男子優勝	・全日本学生選手権開催 ・三重国体少年男子優勝 ・第26回全国高校総体男子正強高校２位、複優勝 ・全国高校選抜男子単優勝 男子正強高校優勝 ・**全国中学・男子団体３位**	・近畿教職員 女子団体優勝 男子団体２位 ・全日本教職員男子単優勝(門間)
昭和51年(1976)	・**第24回近畿総合選手権大会開催(和歌山県３月13･14日)** ・第31回国体(佐賀・牛津町)	・全日本実業団選手権団体女子でサントリー初優勝 ・全国高校大会団体女子四条畷学園連続優勝 ・国体少年女子優勝	・兵庫県家庭婦人連盟設立(４月) ・第15回全日本教職員大会 50歳男子複優勝・単３位(吉持節夫)		・全国中学校大会団体女子・男子単で優勝 ・全国教職員大会団体男子で優勝･女子３位 ・全日本総合団体教員３位 ・第31回佐賀国体少年男子準優勝	・**理事長(４代目)木村　寛　就任** ・第27回全国高校総体男子一条高校３位 ・全国中学・男子団体３位	・近畿総合男子単優勝 ・近畿教職員男女団体優勝、男・女単優勝 ・佐賀国体教員男子3位 ・全日本教職員男子団体２位、男子単優勝３位

年　代	近　畿・日　本	大　　阪	兵　　庫	京　　都	滋　　賀	奈　　良	和歌山
昭和52年(1977)	・第67回全英選手権大会 女子単で湯木博恵優勝 女子複で栂野尾悦子・ 植野恵美子優勝 ・第１回世界選手権大会 女子複で栂野尾悦子・ 植野恵美子組優勝 **・第25回近畿総合選手権大会開催(滋賀県３月12･13日)** ・第32回国体 (青森・浪岡町)	・第６回国際大阪大会 (全日本選抜　対 ヨーロッパ選抜)開催 **・理事長(５代目)** **宝来 敏夫　就任** ・全国高校大会団体女子 四条畷学園　三連勝 ・第27回全日本実業団 大会(団体戦)開催 女子団体で サントリー２連覇 ・府協会創立30周年 記念式典開催(12月)	・第16回全日本教職員 大会 50歳男子単3位 (吉持節夫)	・京都府家庭婦人連盟 設立 ・第27回全日本実業団 大会(個人戦)開催	・理事長(６代目) 澤　長壽　就任 ・滋賀県社会人連盟設立 ・全国高校総体で団体 男子 比叡山高優勝 男子単・複優勝 ・近畿総合選手権開催 ・日韓大会に 比叡山高校出場 ・第16回全日本教職員 男子団体３位 ・全国高校選抜大会 男子団体準優勝 ・全国中学女子団体3位 ・第32回青森国体 少年男子優勝	・第28回全国高校総体 女子一条高校３位	・近畿教職員男子団体 優勝、男子単優勝 ・近畿総合一般男子単 優勝、男子複優勝 ・第16回全日本教職員 男子団体優勝 男子複優勝、単３位 ・青森国体教員男子3位 ・第24回近畿高校選手 権大会開催
昭和53年(1978)	・第68回全英選手権女子複 で徳田敦子・高田幹子組 優勝 ・ユ杯大会で日本優勝 (日本５－２インドネシア) **・第26回近畿総合選手権大会開催(奈良県3月11･12日)** ・第33回国体 (長野・塩尻市)	・全国高校大会団体女子 四条畷学園　４連覇 ・全日本実業団大会 団体女子で サントリー３連覇 ・国体成年女子優勝	・第17回全日本教職員 大会 50歳男子単３位 (吉持節夫)		・全日本社会人大会 開催(大津) ・第25回近畿大会開催 ・第17回全日本教職員 女子団体３位 ・全日本学生選手権大会 男子複２位(西山) ・第６回全国高校選抜 男子団体優勝 ・第33回長野国体 少年男子３位	・第６回全国高校選抜 大会開催 男子団体２位 ・全日本総合選手権大会 混合複優勝(中井基夫)	・近畿教職員男子団体 優勝 男子単・複優勝 ・近畿総合男子単２位 一般男子複２位 ・第17回全日本教職員 男子団体優勝 男子単優勝、２位 男子複優勝 ・第27回近畿実業団 女子団体優勝
昭和54年(1979)	**・第27回近畿総合選手権大会開催(大阪府3月9･10日)** ・第１回近畿家庭婦人大会 開催 ・日本リーグ発足 ・第34回国体 (宮崎・西都市)	・全国高校大会団体女子 四条畷学園５連覇 ・大阪家庭婦人連盟設立 (初代会長　嶋久雄) ・全日本実業団大会 団体女子で サントリー4連覇 ・カナダオープン女子 単優勝(東海林 文子) ・日本リーグ大阪大会 開催 ・国体少年女子優勝、 成年女子準優勝	・第1回ワールドカップ '79神戸大会を開催 ・第30回全国高校選手権 女子団体3位(園田学園) 女子単2位(原田純子) 女子複3位(原田・河原) ・第９回全国中学生 大会を開催(８月)	・協会創立30周年記念 式典・祝賀会開催 ・全日本学生大会開催	・全国高校総体開催 (８月大津市) 男子比叡山高２位 女子比叡山３位 ・第18回全日本教職員 団体男・女とも３位 ・全日本学生選手権大会 女子複２位(川嶋) ・第33回宮崎国体 教員男子３位	・奈良県小学生連盟 設立	**・会長(５代目)** **坂口常博　就任** ・近畿教職員男子複優勝 ・第18回全日本教職員 男子団体３位 男子複３位 30歳男子単優勝
昭和55年(1980)	**・第28回近畿総合選手権大会開催(京都府3月8･9日)** ・35回国体(栃木・真岡市)	・全日本実業団大会 団体女子で サントリー5連覇 ・国体少年女子準優勝 ・日本リーグ大阪大会 開催	・協会創立30周年記念 行事開催 県協会旗制定する ・ジュニア選手海外 遠征を(台湾・香港) 実施	・第2回ワールドカップ '80開催	・滋賀県家庭婦人連盟 設立 ・第29回近畿実業団開催 ・全国高校総体比叡山 優勝 ・全日本社会人混合複 優勝 ・全日本学生男子複優勝 ・栃木国体少年男子優勝 成年女子２位、 総合２位	・第35回栃木国体 少年男子４位 ・第31回全国高校総体 男子正強高校３位 ・県協会創立30周年 記念式典 (奈良ホテル)	・県協会広報(羽根球 わかやま)創刊号発刊 ・近畿教職員大会 男・女団体２位 ・第19回全日本教職員 男子団体３位 男子単３位

年　代	近　畿・日　本	大　　阪	兵　　庫	京　　都	滋　　賀	奈　　良	和歌山
昭和56年(1981)	・ユ杯大会日本防衛成る ・第29回近畿総合選手権大会開催(兵庫県3月14・15日) ・第36回国体(滋賀・大津市) ・４代目会長に桜内義雄就任	・全国中学校大会 団体女子四条畷中 優勝 ・大阪協会旗制定(12月) ・日本リーグ大阪大会開催	・１月、第３回全日本家庭婦人大会開催(神戸市)	・ユ杯京都大会開催 ・第３回日本リーグ京都大会開催	・第36回滋賀国体開催少年男子優勝、成年女子２位、成年男子４位少年女子５位、総合優勝 ・全日本総合男子複優勝	・第11回全国中学校選手権大会を開催 ・第32回全国高校総体男子一条高校３位	・近畿教職員男子複優勝 ・第20回全日本教職員男子複３位、女子単３位 ・近畿総合選手権開催
昭和57年(1982)	・第30回近畿総合選手権大会開催(和歌山県３月13・14日) ・第37回国体(島根・大東町)	・日英対抗親善競技会開催 ・全日本実業団大会女子でサントリー優勝 ・国体少年女子優勝、成年女子準優勝、皇后杯獲得 ・上海・大阪親善交流会訪中	・１月第1回ヨネックスジャパンオープン'82開催 ・兵庫県社会人連盟設立(４月) ・第33回全国高校選手権市立尼崎高 第３位 ・第1回オールジャパンジュニア男女単３位、男子複３位		・第4回日本リーグ開催 ・ヨーロッパジュニアに出場 ・全国高校総体比叡山優勝 ・全国高校選抜比叡山高優勝、男子複優勝 ・全日本学生男子複優勝 ・第37回島根国体総合優勝、少年男子優勝	・第33回全国高校総体男子一条高校２位男子複優勝(中谷・見市) ・全日本総合選手権大会混合複優勝(辻敏弘)	・和歌山県婦人連盟発足(４月) ・第１回和歌山婦人大会開催(８月)
昭和58年(1983)	・第31回近畿総合選手権大会開催(滋賀県3月12・13日) ・第38回国体(群馬・桐生市)	・理事長(６代目)池田 芳麻　就任 ・全日本実業団大会団体女子でサントリー7回目の優勝 ・国体少年女子２連勝、皇后杯も2年連続獲得 ・日本リーグ大阪大会開催	・遠征中のヨーロッパジュニア単複でベスト８(小泉陽子) ・ジュニア海外遠征・大韓民国 ・第34回全国高校選手権男子単３位、女子単２位 ・第1回全日本家庭婦人大会 県チーム第３位 ・第38回群馬国体少年男子準優勝(佐藤・松本・村山) ・学生海外遠征(インドネシア)	・第５回日本リーグ京都大会開催	・近畿家庭婦人大会開催 ・近畿総合選手権開催 ・近畿中学大会開催 ・日中・日韓・マレーシアOP インドネシアOP・アジア大会・に出場(西山・松浦) ・全日本総合男子単2位優勝、男子複優勝 ・全国高校選抜比叡山優勝 ・全国高校総体比叡山優勝 ・全日本ジュニア男子単優勝	・第38回栃木国体少年男子３位少年女子ベスト８ ・第34回全国高校総体男子一条高校初優勝 ・第11回全国高校選抜大会男子一条高校２位 ・第26回全日本社会人選手権大会を開催 ・第７回全日本高専大会開催	・第５回近畿家庭婦人大会開催 ・近畿総合選手権大会30歳男子単優勝、２位
昭和59年(1984)	・第32回近畿総合選手権大会開催(大阪府３月10・11日) ・39回国体(奈良・田原本町)	・第14回全国中学校選抜開催　団体女子四条畷中優勝 ・全日本実業団大会団体女子でサントリー8回目の優勝 ・国体少年女子優勝、成年女子優勝総合優勝天皇杯獲得	・第２回全日本家庭婦人大会県チーム第３位(２年連続) ・９月第10回日中競技尼崎大会開催	・京都市バドミントン協会設立 ・第10回日中京都大会開催	・第４代理事長寺田壽氏　急逝 ・第31回近畿高校大会開催 ・全日本総合選手権大会男子単２位、３位他 ・全日本社会人男子単優勝 ・第６回日本リーグ開催 ・全日本教員男子団体・単優勝 ・全日本学生男子複優勝 ・全国高校総体比叡山優勝 ・奈良国体少年男子優勝 ・全国高校選抜比叡山優勝	・第39回奈良国体を開催(田原本町)成年男子３位成年女子４位 ・第14回全国中学校大会男子単優勝(中橋)	・第23回全日本教職員男子単３位 ・近畿総合選手権大会30歳男子複優勝

年　代	近　畿・日　本	大　　阪	兵　　庫	京　　都	滋　　賀	奈　　良	和歌山
昭和60年(1985)	・第33回近畿総合選手権大会開催(京都府3月16･17日) ・第40回国体 (鳥取・北栄町)	・会長(２代目) 瑠東　治　就任 ・理事長(７代目) 石橋三彦　就任 ・全日本実業団 女子団体 三洋電機初優勝	・ジュニア海外遠征 実施(3月､8月台湾) ・第34回近畿中学総体 男子複・女子複優勝 ・全国中学選抜女子複 ３位 ・第36回全日本学生大会 開催(県立総合体育館) ・12月学生海外遠征・ 台湾	・理事長(７代目) 山本　博　就任 ・第１回若葉カップ 全国小学生大会開催 (京都市武道センター)	・第34回近畿実業団開催 ・第4回世界選手権に派遣 ・全日本総合男子単優勝 複優勝、単２位　他 ・全日本社会人男子単優勝 ・全日本学生男子単複優勝 ・全国高校総体男女 比叡山優勝、 女子単優勝	・理事長(５代目) 服部　明　就任 ・全日本総合選手権大会 混合複優勝 (富田章夫)	・近畿教職員男子団体 ２位 ・第24回全日本教職員 30歳男子単２位 ・近畿実業団選手権 男子団体２位
昭和61年(1986)	・第41回国体 (山梨・勝沼町)	・２代目会長 瑠東　治氏　ご逝去 ・会長(３代目) 岸　久雄　就任 ・大阪・上海親善 交流会開催 ・全日本実業団大会 団体女子 三洋電機連覇 ・国体成年男子準優勝	・２月スイ・ユー選手 他を招き技術講習会 を開催 ・中国福建省青少年団 との親善試合を開催 ・８月スイ・ユー選手 を招いてバドミント ンクリニック開催 ・第16回全国中学校選抜 女子単３位(小泉友紀) ・第37回全国高校選手権 女子複2位(大村・長井)	・第36回全日本実業団 大会開催 ・第２回若葉カップ 全国小学生大会開催 (長岡京市・京都市)	・男子世界選手権 (西山･松浦) ・女子世界選手権(平山) ・アジア大会、マレーシア、全英インドネシア、日韓、日中派遣 ・全日本総合男子単複 優勝、男子単３位 ・全日本社会人男子複優勝 ・全日本学生女子複３位 ・全国高校総体 男子比叡山優勝	・第25回全日本教職員 選手権大会を開催	・近畿総合選手権大会 男子複２位
昭和62年(1987)	・第42回国体 (沖縄・糸満市)	・ヨネックスジャパン オープン1987開催 ・大阪・上海親善 交流会訪中 ・全国高校大会団体女子 四条畷学園９回目の 優勝 ・全日本学生大会 団体女子で四条畷短 大優勝 ・全日本実業団大会 団体女子で三洋電機 ３連勝 ・国体少年女子準優勝	・３月、ジュニア海外 遠征を実施(台湾) ・第12回日中競技会 神戸大会開催 ・第5回全日本家庭婦人 大会で県チーム第3位 ・台湾チーム来日、 親善試合を開催	・理事長(８代目) 佐藤武人　就任 ・第12回日中競技会 京都大会開催 ・第５回全国家庭婦人 大会開催 ・第30回全日本社会人 大会開催 ・第３回若葉カップ 全国小学生大会開催 (長岡京市･大山崎町)	・世界選手権、アジア、タイ、マレーシア、インドネシア派遣 ・全英選手権男子複3位 ・全日本総合選手権 男子単複優勝、複3位 複優勝、単３位、 混合複２位、３位 ・全日本教職員男子団体 ３位、男子複優勝 ・全日本社会人男子複優勝 ・全日本学生男子単優勝 複優勝、女子複優勝 ・全国高校選抜比叡山 優勝、男子単優勝 ・全国高校総体比叡山優勝 ・沖縄国体少年男子優勝	・理事長(６代目) 野村安忠 就任 ・第9回日本リーグ開催 (大和郡山市)	・和歌山ジュニア連盟 設立(５月) ・近畿総合選手権大会 開催
昭和63年(1988)	・ソウル五輪エキビジョン マッチ女子単 北田スミ子3位入賞 ・第43回国体 (京都・長岡京市)	・大阪・上海親善交流 会開催 ・全日本実業団大会 団体女子三洋電機優勝 ・全国高校大会団体 女子四条畷学園 ２年連続10回目優勝 ・国体少年女子優勝 成年女子準優勝 天皇杯・皇后杯獲得 ・全日本総合大会開催、 女子単で北田スミ子が ５連覇(12月守口市)	・第16回全国高校選抜 大会開催(３月宝塚) 女子複３位 (吉田・小泉) ・第39回高校選手権開催 (８月宝塚) 女子単３位(小泉) 女子複３位(吉田･小泉) ・第43回京都国体で 少年女子５位入賞 ・全日本ジュニア選手権 女子複３位 (小泉・安原)	・第3回日中ジュニア 交流大会開催 ・第4回若葉カップ全国 全国小学生大会開催 (長岡京市) ・第43回国体開催 (長岡京市)	・第15回世界選手権・全英選手権・仏OPに派遣 ・ジャパンオープン 男子複３位 ・ソウルオリンピック 出場(松浦進二) ・第42回全日本総合 男子単･複優勝、単3位、 複3位、混合複3位 ・全日本教職員選手権 男子複・女子複優勝 ・全日本社会人選手権 男子単・複優勝 ・全日本学生男子単複優勝 女子複優勝、単３位	・第６回全 日本レディース大会 で団体３位入賞	・理事長(６代目) 津田充啓　就任 ・近畿家庭婦人大会 開催(和歌山県立)

年　代	近　畿・日　本	大　　阪	兵　　庫	京　　都	滋　　賀	奈　　良	和歌山
平成元年(1989)	・第44回国体 （北海道・登別市）	・会長(３代目) 岸　久雄　就任 ・理事長(８代目) 四方光市　就任 ・第7回全国家庭婦人開催 ・全日本実業団大会 団体女子でサントリー 5年ぶり９度目の優勝 ・全国高校大会団体女子 四条畷学園　３連勝 10度目の優勝 ・全日本学生大会団体 女子で四条畷短大優勝 ２年ぶり５度目の優勝 ・日本リーグ、サントリー 4年ぶり7度目の優勝	・第17回全国高校選抜 で女子単３位 （小泉友紀） ・６月中国福建省との 友好親善大会開催 ・７月台湾選手団来日 友好親善大会開催 ・第28回全日本教職員 大会混合複で優勝 （鵜木秀夫・千加子） ・'89フェスピック 神戸大会開催 （９ヶ国参加） ・第44回北海道国体 成年女子第５位	・第8回全日本ジュニア 大会開催 ・第５回若葉カップ 全国小学生大会開催 （長岡京市） ・京都府ジュニア連盟 設立	・全日本社会人選手権 男子単優勝 男子複優勝 ・第28回全日本教職員 男子単優勝 男子複優勝 ・第43回全日本総合 男子単優勝、複２位 男子単３位、複３位		・会長(６代目) 石田真敏　就任
平成２年(1990)	・第45回国体 （福岡・筑紫野市）	・全日本実業団大会 団体女子でサント リー(10回目の優勝) ・全国中学校大会団体 女子　四条畷中優勝 ・国体少年男子優勝 少年女子準優勝 成年男子準優勝 成年女子３位 天皇杯・皇后杯獲得 ・第12回日本リーグ 高槻大会開催	・第40回全日本実業団 大会開催(6月神戸市) 209チーム、1890名参加 ・第29回全日本教職員 大会、女子単３位 （鵜木千加子） 混合複２位 （鵜木秀夫・鵜木千加子） ・第45回福岡国体 成年女子４位 （鵜木・清水・荻生） ・11月協会創立40周年 記念式典・祝賀会開催 40年史発刊	・第7回全国シニア大会 開催(長岡京市) ・第６回若葉カップ 全国小学生大会開催 （長岡京市）	・第44回全日本総合 男子単・複優勝 男子複２位、３位 男子単３位 混合複優勝 ・全日本社会人選手権 男子単優勝 男子複優勝	・第12回日本リーグ 開催(大和郡山市) ・全日本総合選手権 大会女子単優勝 （水井妃佐子）	・第３回全国スポーツ レクリエーション祭 開催　（岩出市） ・近畿総合選手権大会 男子複２位 ・近畿実業団選手権大会 男子団体２位
平成３年(1991)	・第46回国体 （石川・美川町）	・大阪・上海親善交流 会開催 ・大阪府小学生連盟設立 （初代会長 島津八郎） ・全国中学校大会団体 女子、四条畷中2連覇 ・国体成年男子準優勝 ・第13回日本リーグ 堺大会開催	・第26回全国私立短大 大会開催(７月宝塚) ・第15回全日本高専大会 開催(８月神戸) ・第30回全日本教職員 女子単2位、混合複2位 ・第46回石川国体 成年女子５位 ・第13回日本リーグ 尼崎大会開催	・第13回日本リーグ ２部大会開催 ・第７回若葉カップ 全国小学生大会開催 （長岡京市）	・ワールドカップ４位 （松浦進二、松野） ・第45回全日本総合 男子単２位、複優勝 男子単３位、複３位 女子単３位、混合優勝 ・全日本社会人男子単優 勝、複優勝、混合複優勝 ・全日本教職員選手権 男子複優勝	・第46回石川国体 成年男子ベスト8入賞 ・第９回全日本 レディース大会で 団体３位入賞	・和歌山県社会人バド ミントン連盟設立 ・和歌山県中学校バド ミントン連盟設立
平成４年(1992)	・日本ジュニア連盟設立 ・第47回国体 （山形・新庄市）	・大阪・上海親善交流 会訪中 ・バルセロナオリンピッ クに水井妃佐子が出場 ・会長(４代目) 三宅裕司　就任 ・全国高校大会団体 女子で四条畷学園 3年ぶり12回目の優勝 ・国体成年男子・少年 女子優勝、総合２位	・ジュニア選手海外遠征 （３月台湾） ・第31回全日本教職員 一般女子単優勝(鵜木) 一般男子複３位 （佐藤・鵜木） ・第47回山形国体 成年女子５位	・第14回日本リーグ 長岡京大会開催 ・第８回若葉カップ 全国小学生大会開催 （長岡京市）	・バルセロナオリン ピック 松浦進二出場 ・第１回日中ジュニア 交流会に出場(埼玉) ・第１回世界ジュニア 選手権に出場 ・全日本総合選手権 男子複優勝、単複3位 ・全日本学生女子２位 ・全日本社会人男子複優勝	・全日本総合選手権大会 混合複優勝 （古賀勝志） ・バルセロナ・オリン ピック 水井妃佐子 出場 ・第14回日本リーグ開催 （桜井市）	・理事長(７代目) 木津　乾　就任 ・第１回県社会人 団体リーグ戦開催

年　代	近　畿・日　本	大　　阪	兵　　庫	京　　都	滋　　賀	奈　　良	和歌山
平成５年(1993)	・第２代会長 藤田庸右　就任 ・近畿社会人連盟設立 ・第48回国体 （香川・坂出市）	・大阪・上海親善 交流会開催 ・全日本実業団大会 団体女子でサントリー優勝(12回目) ・全国高校大会団体 女子四条畷学園2連覇 ・国体成年女子優勝 少年女子優勝、 成年男子準優勝 天皇杯・皇后杯獲得	・５月今井鎮雄会長が 神戸新聞平和賞を授与 ・第11回全日本家庭 婦人大会クラブ対抗 で３位 ・第15回日本リーグ 宝塚大会開催	・会長(４代目) 西村清次　就任 ・第９回若葉カップ 全国小学生大会開催 (長岡京市)	・第47回全日本総合 男子優勝 ・第23回全国中学生 大会開催(大津市)	・全日本総合選手権大会 女子単優勝 (水井妃佐子) ・第27回全国ろうあ者 大会 ・第１回バドミントン 競技開催	・第42回近畿総合選手権 大会開催 30歳男子複２位 ・第６回近畿小学生 大会開催
平成６年(1994)	・石渡 俊一氏 日本協会より 最高栄誉賞「本田賞」受賞 ・第49回国体 （愛知・大府市）	・大阪・上海親善交流 会訪中 ・全日本実業団大会 団体女子、サントリー ２連勝(13回目) ・全国中学校大会団体 女子で四条畷中優勝 ・愛知国体 少年女子優勝、 成年男子準優勝	・第12回全日本家庭 婦人大会 都道府県対抗 ３位 ・第33回全日本教職員 一般女子単優勝(鵠木) ・第49回愛知国体で 成年女子 ５位 ・第16回日本リーグ 尼崎大会開催	・第10回若葉カップ 全国小学生大会開催 (長岡京市)	・ヨーロッパ遠征に派遣 ・日中韓ジュニア交流 (韓国) ・第48回全日本総合 男子複優勝 ・第49回愛知国体 少年男子優勝 ・全国高校選抜大会 男子団体２位 男子単・複優勝 ・第１回全国有力高校 強化練習会を開催	・第49回愛知国体 成年男子ベスト８入賞 ・第12回全日本 レディース大会で 団体３位入賞 ・全日本総合選手権大会 女子単優勝 (水井妃佐子)	・近畿総合選手権大会 30歳男子複２位 40歳男子複優勝
平成７年(1995)	阪神・淡路大地震発生 (M7.2　１月17日) ・第50回国体 （福島・白河市）	・全日本シニア大会開催 ・大阪・上海親善交流会 開催 ・全日本実業団大会 団体女子、サントリー ３連勝 ・全日本家庭婦人大会 都道府県対抗戦で初優勝 ・全国中学校大会団体 女子で瓜破西中準優勝	・１月17日 (阪神・淡路大地震発生) ・チャリティ講習会や バドミントン大会を 開催(収益金・見舞金 を合わせ会員被災者 に救済事業を実施)	・会長(５代目) 田中田鶴子　就任 ・全国高専大会開催(舞鶴市) ・全日本学生大会開催 (京都・宇治・常陽各市) ・第11回若葉カップ 全国小学生大会開催 (長岡京市) ・第17回日本リーグ 長岡京大会開催	・第50回福島国体 少年男子連覇 ・全国高校選抜大会 男子団体２位 男子単優勝 ・全国小学生選手権 ５年生男子複優勝	・第9回全国スポーツレ クリエーション祭開催 ・第50回福島国体 成年男子ベスト８入賞 少年男子ベスト８入賞 ・全国高校大会団体男子 奈良一条高準優勝 ・全日本総合選手権大会 女子単優勝(水井妃佐子)	・近畿教職員大会開催 ・近畿総合選手権大会 40歳男子複２位
平成８年(1996)	・第51回国体 （広島・三原市）	・アトランタオリン ピックに宮村愛子・ 亜貴子が出場 ・全日本家庭婦人大会 で大阪府２連勝 ・第39回全日本社会人 大会開催(大東市) ・全日本実業団大会団体 女子で三洋電機優勝 ・広島国体少年女子３位	・第35回全日本教職員 大会 30歳女子単２位(澄川) ・第13回全日本シニア 大会 40歳女子単優勝(澄川)	・第12回若葉カップ 全国小学生大会開催 (長岡京市)	・日中韓ジュニア交流 競技会へ派遣(長崎) ・全日本ジュニア選手権 新人の部 女子単優勝	・アトランタ・オリン ピックに水井妃佐子・ 泰子姉妹出場	・近畿教職員大会 男子単優勝 40歳男子単優勝 ・近畿総合選手権大会 30歳男子単２位 30歳男子複２位 ・近畿高校選抜大会開催
平成９年(1997)	・第52回国体 (大阪・大東市)	・第11回大阪・上海親善 交流会開催 ・全日本家庭婦人大会 で大阪府３連勝 ・全日本実業団大会団体 女子三洋電機２連覇 ・国体開催(大東市) 成年女子優勝、少年 男子優勝、成年男子 ２位、少年女子３位 天皇杯・皇后杯獲得	・７月20日、兵庫県 小学生連盟設立 ・第36回全日本教職員 大会 30歳女子単 ２位 ・第14回全日本シニア 大会 40歳女子単２位(澄川)	・事務局を京都府 スポーツボーツ センター内に設置 ・第25回全国高校選 抜大会開催(3月長岡 京・向日・大山崎) ・第48回全国高校大会 開催(8月長岡京・向日) ・第13回若葉カップ 全国小学生大会開催 (長岡京市)	・アジアジュニア選手権 (マニラ) 女子団体３位 ・全国小学生選手権 男子５年生単優勝	・藤田庸右　会長就任 30周年記念祝賀会開催 ・第52回大阪国体 成年女子準優勝 (水井・水井泰・市橋) ・第6回全国小学生大会 ５年女子単優勝 (今別府香里)	・近畿中学校大会開催 ・第36回全日本教職員 大会開催(新宮市) ・第44回近畿高校選手 権大会開催 ・近畿社会人選手権 団体戦開催

年　代	近　畿・日　本	大　　阪	兵　　庫	京　　都	滋　　賀	奈　　良	和歌山
平成10年(1998)	・第53回国体 （神奈川・大和市）	・大阪家庭婦人連盟 創立25周年を迎える ・全日本実業団大会団体 女子三洋電機３連覇 ・第53回神奈川国体 ２年連続天皇杯 成年男子3位、成年女子4位、少年男・女4位	・兵庫国体に向け選手発掘と地域普及を兼ねジュニアスポーツ教室(但馬、丹有、北播、西播、東播、阪神、神戸、淡路) ・第15回全日本シニア大会60歳男子複３位	・理事長(９代目) 小島博幸　就任 ・第14回若葉カップ全国小学生大会開催 （長岡京市）	・アジアジュニア選手権派遣(マレーシア) ・全日本学生選手権 男子単３位、男子複２位、３位 ・全日本ジュニア(新人) 男子単優勝 ・全国中学生大会 女子複優勝	・第52回大阪国体 成年女子初優勝 （水井・松田・市橋）	・近畿総合選手権大会 30歳男子複優勝
平成11年(1999)	・第54回国体 （熊本・八代）	・理事長(９代目) 山本次生　就任 ・全日本実業団大会団体 女子三洋電機４連覇 ・大阪小学生連盟10周年 ・熊本国体成年女子優勝	・第３代会長 北　義一　就任 第５代理事長 瀬川欽也　就任 ・近畿ろうわ者大会開催 ・８月高倉正治氏ご逝去 ・第29階全日本中学生女子単3位(廣瀬栄理子) ・全日本シニア 40歳女子単３位	・第49回全日本実業団大会開催(京都・宇治・長岡京) ・第15回若葉カップ全国小学生大会開催 （長岡京市）	・ヨーロッパ遠征に派遣 ・全日本学生複2位.単3位 ・全国高校選抜男子複優勝 ・全日本ジュニア男子単優勝 ・全国中学生大会 男子単・複優勝 ・第6代会長 栗本藤四郎　急逝	・全日本総合選手権大会 女子単優勝(水井泰子) ・第38回全日本教職員男子30歳以上複優勝 （嘉生寛・疋田博之）	・理事長(７代目) 岩西壯行　就任 ・近畿教職員男子団体優勝 ・和歌山県協会創立 50周年記念式典開催 記念誌発刊 ・近畿総合選手権開催
平成12年(2000)	・日本・近畿・都道府県 「家庭婦人連盟が レディース連盟」に改称 ・近畿小学生バドミントン 連盟設立(６月３日) ・第55回国体 （富山・高岡市）	・全日本実業団大会団体 女子三洋電機５連覇 ・全日本レディース大会 都道府県対抗戦　優勝 ・シドニーオリンピックに井田貴子が出場 ・国体成年女子準優勝	・家庭婦人連盟がレディース連盟に名称変更 ・兵庫県総合選手権大会創設50周年記念式典祝賀会開催(５月) ・第17回全日本シニア大会 60歳男子単３位	・協会創立50周年記念式典・祝賀会開催(３月) ・第16回若葉カップ全国小学生大会開催 （長岡京市）	・ヨーロッパ遠征に派遣 ・全国高校総体女子団体優勝 ・全国高校選抜、男子単優勝、女子団体２位 ・全国小学生大会 ４年生男子複・単優勝 ・中学生大会男子 日吉中優勝 ・澤　長壽理事長が会長代行	・第51回全日本学生選手権大会を開催 ・第18回全日本レディース選手権大会３位入賞 ・シドニー・オリンピックで水井泰子5位入賞 ・県協会創立50周年記念式典(奈良ホテル)	・第22回近畿社会人選手権大会(個人) 開催
平成13年(2001)	・第56国体 （宮城・塩竈市）	・全日本実業団大会団体 女子三洋電機６連覇 ・全日本総合森単優勝 ・全日本レディース大会 都道府県対抗戦優勝 ・石渡俊一氏 ご逝去100歳	・第２回全国ABC大会女子Cで優勝 （遠藤麻奈美）	・第17回若葉カップ全国小学生大会開催 （長岡京市）	・会長(７代目) 澤　長壽 ・理事長(７代目) 谷　英明　就任 ・全日本学生女子単優勝 ・全国高校総体 滋賀女子２位	・わかばカップ 橿原ジュニア２位 ・日本リーグ2001開催 (奈良市) ・全国小学生ABC大会 Cグループ３位 ・全日本教職員 30歳単３位	・第10回全国小学生大会 近畿予選会 ４年生以下女子単優勝 ５年生以下女子単４位 ６年生以下男子単３位
平成14年(2002)	・第57国体 （高知・南国市）	・全日本実業団大会団体 女子三洋電機準優勝 ・全日本総合小椋単優勝 ・高知国体成年男子３位	・第10回全国小学生大会 ５年生単３位 （柚木杏奈） ・第19回全日本シニア選手権大会開催 (12月神戸)	・第18回若葉カップ全国小学生大会開催 （長岡京市）	・世界学生選手権大会女子複３位(ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ) ・全日本学生女子単２位 ・全国高校総体比叡山２位	・全日本レディース大会開催 ・わかばカップ 橿原ジュニア優勝 ・全国小学生5年女子単優勝 ・全国小ABC大会Aで優勝	・第11回全国小学生大会 近畿予選５年生以下 女子単優勝
平成15年(2003)	・第58回国体 （静岡・富士見市）	・理事長(10代目) 銭谷欽治　就任 ・レディース連盟 名誉会長 嶋久雄氏ご逝去 ・全国高校総体 柏原高３位 男子単３位(庄)	・第22回全日本ジュニア大会開催(9月神戸市) ・第20回全日本シニア大会 65歳男子単優勝(中西) 55才混合複２位 (石黒・苫井) 50歳女子複３位、 55歳女子単３位、 65歳男子複３位	・第19回若葉カップ全国小学生大会開催 （長岡京市）	・第58回静岡国体 少年男子優勝 ・第22回ヨーロッパ遠征 オランダジュニア 混合複優勝 ドイツジュニア 混合複優勝	・日本リーグ2003開催 ・わかばカップ 橿原ジュニア２位 ・全国小ABC大会Bで3位 ・第11回全国小学女子優勝６年・４年女子単優勝、２位 ・12回全小・5年女子単3位 ・全日本シニア 40・45女子複優勝	・第12回全国小学生大会 近畿予選 ６年生以下女子単２位 ・日本スポーツ マスターズ2003開催 （９月那智勝沼町）

年　代	近　畿・日　本	大　　阪	兵　　庫	京　　都	滋　　賀	奈　　良	和歌山
平成16年(2004)	・全日本社会人クラブ連盟設立 ・近畿社会人バドミントン連盟が「近畿社会人クラブバドミントン連盟」に改名 ・第59回国体（埼玉・久喜市）	・全日本実業団大会団体女子　三洋電機優勝 ・デンマークオープンで女子複(小椋・潮田)優勝 ・全日本総合大会開催（11月守口市）	・第28回全日本高専大会明石高専３位、男子単２位 ・第21回全日本シニア大会65歳男子単連覇(中西)65歳女子複２位、40歳女子単３位、65歳男子複３位 ・社会人連盟が社会人クラブ連盟に改名	・第20回若葉カップ全国小学生大会開催（長岡京市） ・京都府社会人バドミントン連盟が「京都府社会人クラブバドミントン連盟」に改名	・日本ジュニアグランプリ団体女子優勝、団体男子準優勝 ・全国小学生選手権男子６年生複優勝	・わかばカップ橿原ジュニア３位 ・全国小ABC大会Aで優勝、Cグループ３位 ・第43回全日本教職員30歳以上単複で３位 ・全日本シニア大会45歳女子複優勝、単２位	・第21回全日本シニア大会50歳以上男子複優勝（田村・中村） ・第２回近畿総合シニアの部50歳以上男子複優勝（田村・中村）
平成17年(2005)	・第60回国体（岡山・岡山市）	・第55回全日本実業団大会開催(6月大阪市)女子三洋電機２連覇 ・全日本レディース大会都道府県対抗戦優勝 ・全日本総合女子複で小椋・潮田２連覇 ・国体成年女子３位 ・大阪府協会に改名（10月） ・全日本実業団大会団体女子、三洋電機３連覇 ・わかばカップ女子団体優勝 ・全日本レディース大会都道府県対抗戦２連覇 ・第１回全日本レディース（個人戦）大会開催（８月東大阪市）	・第60回国体近畿大会開催 ・第22回全日本シニア大会65歳男子複２位、60歳女子複３位、65歳男子複３位 ・全日本総合選手権大会開催(11月宝塚市) ・協会創立55周年記念式典・祝賀会開催（12月）	・第21回若葉カップ全国小学生大会開催（長岡京市）	・日本ジュニアグランプリ団体男子優勝 ・第60回岡山国体少年男子３位（総合５位入賞）	・第13回全国小学生大会５年生男子複優勝　６年生女子単３位 ・全国小ABC大会Cで３位 ・近畿中学総体若草中優勝 ・近畿高校女子複優勝 ・第14回全国小学生大会開催(12月大和郡山市)	・第14回全国小学生近畿４年生以下男子複２位　４年生以下男・女単３位 ・第22回全日本シニア大会50歳以上男子複優勝（田村・中村） ・第14回全国小学生大会４年生以下男子単３位
平成18年(2006)	・2006ト杯・ユ杯大会開催（仙台市・東京都）日本男女共４強ならず ・**第61回国体（兵庫・宝塚市）**	・10月 ラリーポイント制導入 ・第61回兵庫国体開催（宝塚市）少年女子４位、成年女子５位と活躍し天皇杯８位、皇后杯３位を獲得 ・第1回兵庫レディースすみれオープン創設（宝塚市）	・第22回若葉カップ全国小学生大会開催（長岡京市） ・全国高専大会開催（８月舞鶴市） ・第45回全日本教職員大会開催(8月長岡京市) ・第57回全日本学生大会開催（10月京都市）	・日本ジュニアグランプリ団体男子優勝、 ・第55回近畿総合選手権大会開催(彦根市)	・18年全国高校総体第57回全国高校大会開催 ・全国小ABC大会Cで３位 ・全日本教職員選手権大会男子30歳以上複３位 ・全日本シニア大会45歳女子複優勝（山本）	・第３回近畿総合シニアの部30歳以上女子複３位50歳以上男子複優勝（田村・中村） ・第61回国体近畿予選少年男子３位 ・第23回全日本シニア大会50歳以上男子複優勝（田村・中村）
平成19年(2007)	・第62回国体（秋田・美郷町）	・大阪インターナショナル2007開催（４月守口市） ・全日本実業団大会団体女子、三洋電機４連覇 ・全日本レディース大会都道府県対抗戦3連覇 ・第16回全国小学生大会開催（12月大阪市） ・全国中学生大会男子個人戦で優勝	・北　義一　会長退任第４代会長に平林弘嗣　就任国体後の新体制を発足 ・第46回全日本教職員大会男子単で細川泰大４位 ・第62回秋田国体で少年女子昨年に続き4位 ・全日本シニア70歳男子単優勝（佐々木）他活躍 ・12月第４代平林会長ご逝去	・第23回若葉カップ全国小学生大会開催（長岡京市）	・日本スポーツマスターズ2007開催（７月野洲市） ・第11回日韓スポーツ交流事業・成人交歓交流選手団18名ソウル訪韓 ・第62回秋田国体成年男子３位	・藤田庸右　会長就任40周年記念祝賀会開催 ・第46回全日本教職員男子30歳以上複２位男子40歳以上単３位 ・全日本シニア大会45歳混合複優勝(山本)60歳女子複優勝(土庵)	・第４回近畿総合シニアの部50歳以上男子複優勝（田村・中村） ・第25回全日本レディース近畿予選ミントクラブ３位 ・第24回全日本シニア50歳以上男子複２位（田村・中村） ・第36回全国高校選抜近畿女子団体２位（耐久高校）

年　代	近　畿・日　本	大　　阪	兵　　庫	京　　都	滋　　賀	奈　　良	和歌山
平成20年(2008)	・北京五輪女子複で 末綱・前田組 銅メダル獲得 ・第63回国体 （大分・日田市）	・大阪インター ナショナル2008開催 （４月守口市） 女子複(小椋・潮田) 優勝 ・府協会創立60周年 ・全日本実業団大会団体 女子、三洋電機準優勝 ・全日本シニア選手権 40･45女子複優勝	・第36回全国高校選抜大会 女子単3位(山本しずか) ・瀬川欽也理事長が 会長代行 ・全日本教職員で 細川３位 ・全日本シニアで優勝が相次ぐ ・第３回全日本 レディース個人戦 優勝(畑末・真栄田) ２位(河田・橋本)	・理事長(10代目) 吉田清隆　就任 ・第24回若葉カップ 全国小学生大会開催 （長岡京市） ・第３回全日本 レディース(個人戦) 大会開催 （12月向日市）	・日本ジュニアグランプリ団体男子準優勝 ・全国スポーツ レクリエーション祭 開催(10月東近江市)	・全国小ABC大会Bで ３位 ・第47回全日本教職員 男子30歳以上単３位 ・全日本シニア大会 45歳混合複２位(山本) ・全日本レディース大会 合計100歳女子複優勝	・第５回近畿総合 シニアの部 50歳以上男子複２位 60歳以上男子複２位 ・第12回日韓青少年交流 大韓民国へ小・中派遣 ・第17回全国小学生近畿 ５年生以下女子複２位
平成21年(2009)	・第64回国体 （新潟・五泉市）	・大阪インター ナショナル2009開催 （４月守口市） ・第60回全国高校大会 開催(8月大阪市) 全ての種目で３位入賞 ・全国実業団大会団体 女子、三洋電機優勝 ・副会長 宝来敏夫氏 ご逝去 ・第４回世界シニア 選手権 女子50歳複で優勝 ・YONEX杯国際親善 レディース2009開催 （10月大阪市） ・新潟国体で成年女子 ３位	・第５代会長 瀬川欽也　就任 ・第６代理事長 境　良治　就任 ・５月北　義一　氏 ご逝去 ・第２回全日本社会人 クラブ連盟(個人) 大会開催(6月神戸市) 優勝相次ぐ ・第48回全日本教職員 大会開催(８月神戸市) 男子単で優勝(細川) 等大活躍で総合優勝 ・第27回全日本 レデイースクラブ 対抗戦優勝 都道府県対抗戦３位 ・新潟国体で成年女子 ５位	・理事長(11代目) 高木謙一　就任 ・第25回若葉カップ 全国小学生大会開催 （長岡京市） ・2009日本リーグ 長岡京大会開催 （11月長岡京市）	・第1回全国トリプルス 選手権大会を開催 （大津市） ・第60回全日本学生 大会開催 （10月大津市・草津市） ・日本ジュニア グランプリ 団体男子３位	・ヨネックス国際 レディース女子複 (合計266歳) 優勝(沙羅クラブ) ２位(水鳥クラブ) ・ワールドマスターズ 50歳複優勝・単２位 (山本邦子) ・第48回全日本教職員 男子40歳以上複優勝 男子40歳以上単３位 ・第6回近畿総合シニア 35才男子複優勝 50歳混合複優勝 ・全国小学５年生女子 複優勝	・第６回近畿総合 シニアの部 30歳女子単優勝(南村) 30歳女子複３位 50歳以上男子複優勝 60歳以上男子複３位 35才以上混合複２位 35才以上混合複３位 40才以上混合複３位 ・第13回日韓青少年交流 和歌山開催 (小･中12名) ・第26回全日本シニア 大会 55歳以上男子複優勝 (田村・中村)
平成22年(2010)	・第65回国体 （千葉・野田市） ・綿貫民輔　会長 桐花大授章受賞（４月） ・近畿協会創立60周年記念式典・祝賀会開催 (11月20日奈良ホテル) ・近畿協会旗制定 ・記念誌発刊	・大阪インター ナショナル2010開催 （４月守口市） ・全国実業団大会団体 女子、三洋電機３位 ・第65回千葉国体で 少年男子３位、 成・少年女子５位 ・YONEX 杯国際親善 レディース2010開催 （10月大阪市）	・第４回全日本 レディース(個人戦) 大会3位 ・第60回全日本実業団 選手権大会開催 （６月神戸市） ・第49回全日本教職員 大会　準優勝 (細川泰大) ・第65回千葉国体で 成年女子が54年ぶりの第３位、皇后杯 ５位を獲得	・第10回全国中学生 大会開催 （３月宇治市･城陽市） ・第26回若葉カップ 全国小学生大会開催 （長岡京市）	・第65回千葉国体 少年男子５位入賞	・第49回全日本教職員 男子40歳以上複優勝 男子40歳以上単３位 ・全国小ABC大会Bで ２位 ・第7回近畿総合シニア 40才男子複優勝 ・全日本レディース大会 女子複(100歳)２位	・第７回近畿総合 シニアの部 30歳女子複３位 55歳以上男子複優勝 (田村･中村) ・オリンピアン交流事業 小学生150名参加 ・第65回国体近畿予選 少年女子４位本国体へ ・トークショー講師・ 小椋久美子

第2章

近畿各府県協会史



第１節　大阪府バドミントン協会の生い立ちとあゆみ

年	月	主　要　事　項
昭和21年(1946)	11月	日本バドミントン協会(NBA)創立　初代会長　白山源三郎
昭和22年(1947)	10月	大阪バドミントン協会設立(会長空席　初代理事長　石渡俊一)
昭和23年(1948)	5月	日本バドミントン協会　二代目会長　山田文雄就任
昭和24年(1949)	10月	第４回国体(東京)にてバドミントンをオープン競技として開催 一般男女単複に高校生のみ７名参加
昭和25年(1950)	1月	大阪YMCA体育館にて、NBA主催・本協会主管で第１回東西対抗開催
	4月	初代会長　石渡俊一、二代目理事長　川口　清（事務局を大阪YMCA内に置く）
	10月	第５回国体(愛知)バドミントン競技正式種目となる。一般男子・一般女子・ 高校男子の３種目で試合形式は現在と同じ、１複２単の府県対抗(35府県参加)
昭和26年(1951)	1月	第１回関西選手権(第２回より西日本選手権に改称)に参加(高松)
	3月	第１回大阪選手権(会場難のため西宮市にて)開催
	4月	第１回近畿選手権(本協会主管・会場難のため西宮市にて)開催
昭和27年(1952)	2月	第１回全日本実業団選手権(東京)に 男子の部　日産自動車大阪工場・朝日新聞社、女子の部　朝日新聞社が参加
	5月	第５回日本選手権(NBA主催・本協会主管であったが会場難のため天理市)開催 壮年(40才以上)の部複で嶋・降井組優勝　本大会には第４回より参加している
	8月	第３回全日本高校選手権(善通寺)に男子の部　三島野(現茨木)・西野田 女子の部　樟蔭東・扇町が参加(大阪府は第１回・第２回は参加せず)
昭和29年(1954)	11月	第３回世界選手権(トマス杯)予選(香港)に日本初参加　川口理事長監督として参加
昭和31年(1956)	4月	馬来(マラヤ)対全関西親善大会を大阪府立体育館にて開催
	5月	マニラバドミントンクラブ対全大阪親善大会を大阪YMCA体育館にて開催
	10月	第11回国体(兵庫)一般男子の部で準優勝(上田・増木・武村)
		日本バドミントン協会　三代目会長　本田弘敏就任
昭和33年(1958)	4月	会長　石渡俊一、三代目理事長　宮脇正晴(事務局を大阪市立大正東中学校内に置く)
	5月	第３回アジア競技大会(東京)バドミントン(オープン)優勝、 大阪より松王清志・小松康博出場
	7月	五大都市体育大会にバドミントン競技設置・大阪市初参加 (大阪市の行事であるが、本会が担当)
昭和34年(1959)	2月	協会規約第３章第５条(本会は本会の趣旨に賛同するアマチュアバドミントン団体 及び個人を以て会員とする)：団体を連盟とすると改正 当時の連盟は、大阪高体連バドミントン部･大阪中体連バドミントン部･大阪学生連盟･ 大阪府実業団連盟の４連盟であった
	10月	本協会が日本協会より支部表彰を受賞
昭和35年(1960)	10月	第11回全日本学生選手権を大阪市中央体育館にて開催 (以後昭和38年・昭和42年・昭和45年・平成２年にも開催)
昭和37年(1962)	4月	大阪教職員バドミントン連盟誕生(初代会長　乾英三郎)
昭和40年(1965)	10月	第20回国体(岐阜)高校女子(現少年女子)の部で優勝(近藤・才脇・池田)、 以後大阪府チームは同種目17回の優勝

年	月	主　要　事　項
昭和41年(1966)	5月	第４回世界女子選手権(ユーバー杯)に日本初参加で優勝
	6月	第16回全日本実業団選手権を大阪市中央体育館にて開催 (以後昭和52年・昭和59年にも開催)
	9月	会長　石渡俊一、四代目理事長　青木昭二(事務局を大阪府立茨木工高校内に置く)
昭和42年(1967)	4月	会長　石渡俊一、副会長　瑠東　治、理事長　青木昭二(事務局は同上)
昭和43年(1968)	8月	第７回全日本教職員選手権を大阪市中央体育館にて開催 第19回全国高校総体(広島)　東大阪高校女子　団体の部初優勝 以後東大阪高１回、四條畷学園高13回、四天王寺高１回各優勝
昭和45年(1970)	10月	第21回全日本大学選手権(大阪)東大阪短大、女子団体初優勝、以後東大阪短大１回、四條畷学園女短大５回優勝
昭和46年(1971)	8月	第１回全国中学生バドミントン大会(現在の選抜)東京都にて開催 女子の部で大阪府チーム優勝
昭和47年(1972)	1月	第１回国際大会(日本－デンマーク)大阪市中央体育館にて開催 (現在のジャパンオープンの前身)
昭和48年(1973)	4月	大阪社会人バドミントン連盟誕生(初代会長　嶋　久雄)
	9月	第１回日中大会　大阪市中央体育館にて開催
昭和50年(1975)	4月	青木昭二理事長が日本協会の常務理事に就任(昭和56年3月まで審判委員長等歴任) 第７回世界女子選手権(ユーバー杯)日本代表選手壮行試合を大阪市中央体育館にて開催
昭和51年(1976)	6月	第26回全日本実業団選手権(藤沢市)の女子団体の部でサントリー初優勝 (以後13回優勝。しかし平成９年６月の第47回大会を最後に解散。同種目は第35回大会より三洋電機が６回優勝。)
	9月	第５回日中大会(中国各地)秋本八代美(サントリー)・植野恵美子(四條畷女短大)参加
昭和52年(1977)	3月	第67回全英選手権複に植野恵美子(四條畷女短大)・栂野尾悦子(ヨネックス)組優勝
	4月	会長　石渡俊一、副会長　瑠東　治・青木昭二、五代目理事長　宝来敏夫 (事務局は教育大附属平野小学校内に置く)
	5月	第１回世界選手権(スウェーデン)複に植野恵美子(四條畷短大)・栂野尾悦子 (ヨネックス)優勝　両選手を迎えて世界チャンピオン祝賀会(天王寺都ホテル)を開催
	10月	嶋　久雄顧問(社会人連盟会長)藍綬褒章受賞される
	11月	第１回小学生教室(中央体育館)を開催
	12月	協会創立30周年記念祝賀会(大阪郵便貯金会館・130名参加)を挙行 (特別表彰者　秋岡澄子・乾英三郎・井上博・尾崎弘・岸研一・降井欽一)
昭和53年(1978)	3月	第68回全英選手権複に徳田敦子・高田幹子(サントリー)優勝
	6月	第６回日中大会大阪市中央体育館にて開催予定が突然、IBF・ABC問題で中止
昭和54年(1979)	4月	大阪府家庭婦人バドミントン連盟加盟(初代会長　嶋　久雄)
	10月	第23回カナダオープン単に東海林文子(サントリー)優勝
	11月	第１回日本リーグ(女子の部)大阪市中央体育館にて開催　サントリー優勝(以後10回優勝)　また、このリーグでは三洋電機が４回優勝している
昭和55年(1980)	3月	片岡輝明(常務理事・四條畷学園高・短監督)関西スポーツ賞を受賞

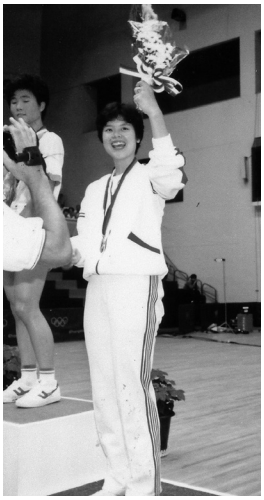
年	月	主　要　事　項
昭和56年(1981)	2月	東京運動記者クラブ賞を受賞
	6月	第９回世界女子選手権(ユーバー杯)に日本が防衛に成功、徳田・高田・東海林・高峰(サントリー)北田(四條畷女短大)の大阪勢が活躍
	8月	第11回全国中学校選抜バドミントン大会(奈良)女子団体に四條畷学園中学校初優勝、以後４回優勝
	11月	日本バドミントン協会　四代目会長　櫻内義雄就任
	12月	大阪協会の旗ができる
昭和57年(1982)	1月	日英対抗親善競技会(大阪市立東淀川体育館)開催
昭和58年(1983)	4月	会長　石渡俊一、副会長　瑠東　治・青木昭二、六代目理事長　池田芳麻 (事務局は河内長野市上原町1106-11-2-7 池田芳麻方に置く)
昭和59年(1984)	1月	瑠東　治副会長　大阪スポーツ賞(知事表彰)受賞祝賀会を挙行
	8月	第14回全国中学校選抜バドミントン大会(大阪市中央体育館)開催
	10月	第39回国体(奈良)初の総合(天皇杯)優勝(以後43･45･48･49回と５回優勝)
昭和60年(1985)	4月	名誉会長　石渡俊一、二代目会長　瑠東　治、副会長　青木昭二･植田義明･岸　久雄･野村明雄、七代目理事長　石橋三彦(事務局は大阪府立高槻北高校内に置く)
昭和61年(1986)	7月	瑠東　治副会長死去、岸　久雄副会長　会長代行に就任
	8月	第１回上海対大阪親善交流大会 大阪市立東淀川体育館にて開催(平成9年で11回目)
	9月	名誉会長　石渡俊一、三代目会長　岸　久雄、副会長　青木昭二･野村明雄･尾崎　弘･宝来敏夫、理事長　石橋三彦(事務局は同上)
昭和62年(1987)	1月	ジャパンオープン '97守口市にて開催
昭和63年(1988)	7月	第24回夏季オリンピック(ソウル市)に北田スミ子(三洋電機)出場、銅メダル獲得
	12月	昭和63年度全日本総合選手権(オールジャパン)守口市にて開催 (平成４年・６年・８年開催)単で北田スミ子５連勝(通算８回)達成
平成元年(1989)	4月	名誉会長　石渡俊一、会長　岸　久雄 副会長　青木昭二・野村明雄・尾崎　弘・宝来敏夫、8代目理事長　四方光市 (事務局は高槻市塚原6－21－2　岡上充仁気付けに置く)
	8月	第７回全日本家庭婦人大会(大阪府立体育会館)にて開催
平成３年(1991)	4月	大阪府小学生バドミントン連盟誕生(初代会長　島津八郎)
平成４年(1992)	7月	第25回夏季オリンピック(バルセロナ市)に水井妃佐子(四條畷女単大職員)出場
	9月	名誉会長　石渡俊一、四代目会長　三宅祐司、副会長　青木昭二･野村明雄･尾崎　弘･宝来敏夫、理事長　四方光市 (事務局は同上)
平成６年(1994)	12月	石渡俊一名誉会長が日本バドミントン協会最高栄誉賞の本田賞受賞
平成７年(1995)	8月	第13回全日本家庭婦人大会(長崎)初優勝(以後14回 ･15回と３連勝中)
	10月	平成７年度全日本シニア選手権大会を大阪府立体育会館にて開催
平成８年(1996)	3月	青木昭二副会長が大阪スポーツ賞(知事表彰)受賞、総会にて記念品贈呈
	7月	第26回夏季オリンピック(アトランタ市)に宮村愛子・宮村亜貴子(サントリー)が出場
	9月	平成８年度全日本社会人選手権大会を大東市民総合体育館にて開催
平成９年(1997)	4月	四方光市理事長が近畿地区より推薦を受け、(財)日本バドミントン協会理事に就任
	10月	第52回国民体育大会バドミントン競技会を大東市民総合体育館にて開催し、天皇杯を獲得した(通算６回目)　成年女子優勝、少年男子優勝、成年男子３位、少年女子３位
	12月	創立50周年記念式典挙行・記念誌発刊

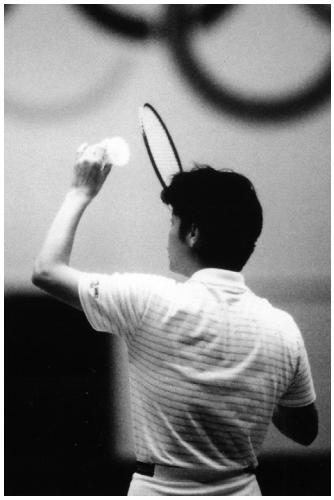
年	月	主　要　事　項
平成10年(1998)	4月	大阪家庭婦人バドミントン連盟創立25周年を迎える
	6月	第48回全日本実業団大会の女子団体で三洋電機は３年連続７回目の優勝を達成
	10月	第53回国民体育大会バドミントン競技会　かながわ ゆめ国体で２年連続７回目の天皇杯を獲得(成年男子３位、成年女子・少年男子・少年女子３種目とも４位)
平成11年(1999)	4月	大阪バドミントン協会の新理事長に山本次生氏が就任
		大阪府小学生バドミントン連盟創立10周年を迎える
平成12年(2000)	4月	大阪バドミントン協会の石渡俊一名誉会長は白寿(99歳)のお祝い会実施
	7月	第18回全日本レディースバドミントン大会都道府県対抗で優勝
	9月	シドニーオリンピックに井田貴子が出場
平成13年(2001)	4月	大阪バドミントン協会の事務局を三洋電機大東スポーツセンターへ移設
	5月	石渡俊一名誉会長は享年100歳でご逝去された
	6月	全日本実業団選手権大会で三洋電機は史上初の６連覇達成(10回目)
	8月	第31回全国中学校バドミントン大会で四條畷学園中学が団体戦で優勝 第19回全日本レディースバドミントン大会都道府県対抗で優勝(２連覇達成)
	11月	平成13年度全日本総合選手権大会を守口市民会館で開催。 女子単で森かおり(三洋電機)が優勝
平成14年(2002)	1月	第45回関西スポーツ賞(関西運動記者クラブ)に森かおり(三洋電機)が授賞
	5月	第14回国際大学バドミントン競技大会(エストニア)で中村寿史･近畿大学が優勝
	11月	全日本総合選手権大会の女子単で小椋久美子(三洋電機)が初優勝 (19歳での優勝は史上２番目)
	12月	㈶大阪体育協会55周年記念式典で、三宅会長は大阪府知事感謝状を宝来副会長は㈶日本体育協会会長表彰を授賞
平成15年(2003)	4月	大阪バドミントン協会の新理事長に銭谷欽治氏が就任された
		大阪バドミントン協会のホームページを有田圭一さんの協力で立ち上げた
	6月	大阪府レディースバドミントン連盟名誉会長　嶋久雄氏がご逝去されました
	8月	第54回全国高校バドミントン大会(長崎市) 団体戦で柏原高校が３位、個人選男子単で庄　旭明(柏原高校)が３位に入賞
平成16年(2004)	10月	デンマークオープン女子ダブルスで小椋久美子・潮田玲子が初優勝を遂げた
平成17年(2005)	6月	第55回全日本実業団大会が大阪市中央体育館他で開催 女子団体で三洋電機は２年連続12回目の優勝を地元で達成
	12月	全日本総合選手権大会(宝塚市)の女子ダブルスで小椋久美子･潮田玲子 (三洋電機)が２連覇達成
平成18年(2006)	1月	第49回　関西スポーツ賞(関西運動記者クラブ)、日本スポーツ賞(東京記者クラブ)に小椋久美子、潮田玲子がダブル受賞した
	6月	第56回全日本実業団大会(東京)の女子団体で三洋電機は３年連続13回目の優勝を達成
	8月	第22回若葉カップ全国小学生大会(長岡京市)女子団体で吹田ジュニアコンドルが初優勝を達成
	9月	第25回全日本ジュニア大会(愛知県)の新人男子の部で、竹内宏気(八尾大正中学)が優勝を達成
	10月	協会名が「大阪バドミントン協会」から「大阪府バドミントン協会」に変更された

年	月	主　要　事　項
平成19年(2007)	1月	第15回全国小学生大会(別府市)　５年生男子の部単で松本康平が優勝した 大阪バドミントン協会参与の高谷芳明氏がご逝去された(享年75歳)
	3月	第１回レディース競技会・個人戦が地元東大阪市で開催された ・１部　　常井理佐(桜ヶ丘クラブ)・岡田順子(清水クラブ)が優勝 ・２部Ｃ　井上みどり・長谷松代(フレンドリークラブ)が優勝 ・２部Ｅ　林　美津代(門真クラブ)・北原美恵子(桜ヶ丘クラブ)が優勝
	4月	第１回大阪インターナショナルチャレンジ2007を守口市民体育館で開催 (賞金総額15,000US$)　女子単で廣瀬栄理子が優勝した
	7月	第57回全日本実業団大会(北海道)の女子団体で三洋電機は４年連続14回目の優勝を達成
	8月	第37回全国中学生大会(福島県)　個人戦男子の部で竹内宏気(八尾大正中)が優勝
		第８回全国ABC大会(八代市)男子5･6年生男子の部で松本康平(瓜破西SSC)が優勝した
	12月	第16回全国小学生大会(大阪市･舞洲アリーナ)　都道府県対抗　団体戦で大阪府が 優勝、個人戦６年生以下男子の部単で松本康平が優勝した
平成20年(2008)	2月	昭和33年に設立された大阪府実業団バドミントン連盟は創立50周年を迎えた
	4月	大阪府バドミントン協会創立60周年を迎えた
		第２回大阪インターナショナルチャレンジ2008を守口市民体育館で開催 女子ダブルスで、小椋久美子・潮田玲子が初優勝した
	11月	全日本シニア選手権大会(愛知県)　40歳女子複　竹田由美子・成平　薫が優勝 45歳女子複　植野恵美子・(今津裕美　埼玉県)が優勝
平成21年(2009)	4月	第３回大阪インターナショナルチャレンジ2009を守口市民体育館で開催
	6月	第59回全日本実業団大会(広島市)の女子団体で三洋電機は２年振り15回目の優勝を達成
平成21年(2009)	8月	病気療養中であった副会長・宝来敏夫がご逝去された(享年73歳)
		第60回全国高等学校選手権大会を大阪市内で開催(下記種目全て３位入賞) ・学校対抗戦男子　東大阪大学柏原高校、女子　樟蔭東高校 ・個人戦　男子複　小高拓也・相和勇輝(東大阪大学柏原高校) ・個人戦　女子複　福万尚子・阪口智郁(樟蔭東高校) ・個人戦　男子単　大滝直人(東大阪大学柏原高校) ・個人戦　女子単　福万尚子(樟蔭東高校)
	9月	第４回世界シニア選手権大会、女子50歳ダブルスで土屋記巳子・森田須賀子 (社会人クラブ)が優勝し金メダルを獲得した
	10月	ヨネックス杯国際親善レディースバドミントン大会2009(大阪府立体育会館)が 今年度より、主催　㈶日本バドミントン協会、主管　大阪府バドミントン協会及び 大阪府レディースバドミントン連盟の新しい組織で実施された
	11月	全日本シニア選手権大会(福島県)　40歳女子複　竹田由美子・成平薫が優勝＜2連覇達成＞
	12月	第18回全国小学生バドミントン大会　男子単５年生以下優勝　山澤直樹(瓜破西SSC)
平成22年(2010)	4月	第４回大阪インターナショナルチャレンジ2010(守口市民体育館)で開催 大会期間中に㈶日本バドミントン協会主催で小椋久美子引退セレモニーが実施され、 「オグシオ感動をありがとう」とファンが振る感謝のフラッグの中、ダブルスのペアーで あった潮田玲子が駆けつけ花束を贈呈し、涙と感動の中セレモニーが最大に盛り上がった
	8月	全国小学生ABC大会(八代市)　Ａグループ男子(５，６年生)優勝　山澤直樹 (瓜破西SSC)　Ｂグループ女子(３，４年生)優勝　明知七海(シャトルクラブ)
	9月	第29回全日本ジュニア大会(愛知県)　女子ダブルス優勝　樋口帆渚実・宮原　唯 (樟蔭東高校)、ジュニア新人男子シングルス　優勝　下農　走(大東中学)
	10月	ヨネックス杯国際親善レディースバドミントン大会2010(大阪府立体育会館)

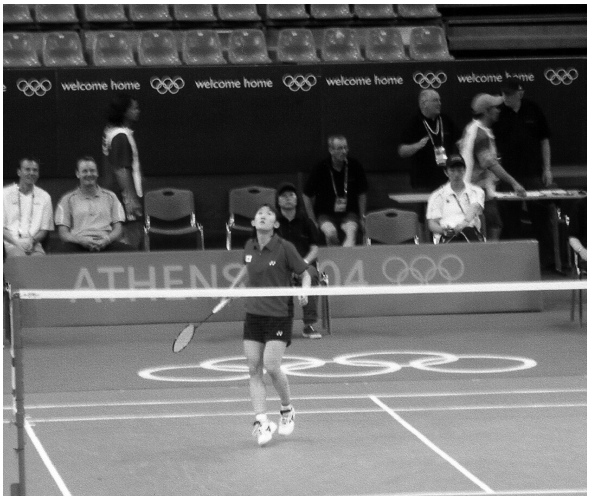
オリンピック出場選手

年　号	開催国	出場種目	出場選手	所　属	成　績	
1988	ソウル（エキシビジョン）	女子シングルス	北田スミ子	三洋電機	第３位	銅メダル
1992	バルセロナ	女子シングルス	水井妃佐子	四條畷女短大職員		
1996	アトランタ	女子ダブルス	宮村　愛子	サントリー		
1996	アトランタ	女子ダブルス	宮村亜貴子	サントリー		
2000	シドニー	女子シングルス	井田　貴子	三洋電機		
2004	アテネ	女子シングルス	森　かおり	三洋電機	ベスト16	
2004	アテネ	女子シングルス	田中　美保	三洋電機		
2004	アテネ	女子ダブルス	中山千香子	三洋電機		
2004	アテネ	女子ダブルス	山田　青子	三洋電機		
2008	北京	女子シングルス	廣瀬栄理子	三洋電機	ベスト16	
2008	北京	女子ダブルス	小椋久美子	三洋電機	５位入賞	
2008	北京	女子ダブルス	潮田　玲子	三洋電機	５位入賞	





1988年ソウルオリンピック（エキシビジョン）
〈北田スミ子、女子シングルス３位、銅メダル受章〉



2004年アテネオリンピック
〈森 かおり、女子シングルスベスト16位〉



2008年北京オリンピック
〈廣瀬栄理子（写真中央）女子シングルスベスト16位、小椋久美子（写真左）・潮田玲子（写真右）女子ダブルス５位入賞〉

全日本総合バドミントン選手権大会
歴代優勝者(大阪府協会関係)

年		男子シングルス	男子ダブルス	女子シングルス	女子ダブルス	混合複
1970	昭和45年					
1971	昭和46年					
1972	昭和47年					
1973	昭和48年					
1974	昭和49年	銭谷　欽治				
1975	昭和50年				植野恵美子･(竹中悦子)	
1976	昭和51年	銭谷　欽治			植野恵美子･(栂野尾悦子)	
1977	昭和52年	銭谷　欽治				
1978	昭和53年	銭谷　欽治				
1979	昭和54年	銭谷　欽治				
1980	昭和55年			北田スミ子		
1981	昭和56年	銭谷　欽治	銭谷欽治･(西山博司)	北田スミ子		
1982	昭和57年			北田スミ子		
1983	昭和58年			東海林文子		
1984	昭和59年	銭谷　欽治		北田スミ子		
1985	昭和60年			北田スミ子	高峰和子・星　和枝	冨田章夫・冨田美千代
1986	昭和61年			北田スミ子		谷田尚嗣・高峰和子
1987	昭和62年			北田スミ子		
1988	昭和63年			北田スミ子		谷田尚嗣・廣田時子
1989	平成１年			宮村　愛子		谷田尚嗣・廣田時子
1990	平成２年			水井妃佐子		早戸敬雄・田代美智世
1991	平成３年					辻田秦昌･松田治子
1992	平成４年			宮村　愛子	廣田時子・小池由扶子	
1993	平成５年			水井妃佐子	廣田時子・小池由扶子	
1994	平成６年			水井妃佐子		
1995	平成７年			水井妃佐子		
1996	平成８年			井田　貴子		
1997	平成９年			井田　貴子	中山千香子･増茂孝枝	
1998	平成10年			田中　美保		
1999	平成11年				中山千香子･増茂孝枝	
2000	平成12年				山本静香・山田青子	(今井紀夫)･中山千香子
2001	平成13年			森　かおり		(今井紀夫)･中山千香子
2002	平成14年			小椋久美子	中山千香子･(吉冨桂子)	(大束忠司)･山本静香
2003	平成15年			森　かおり	山本静香・山田青子	(大束忠司)･山本静香
2004	平成16年			廣瀬栄理子	小椋久美子・潮田玲子	(大束忠司)･山本静香
2005	平成17年				小椋久美子・潮田玲子	
2006	平成18年			廣瀬栄理子	小椋久美子・潮田玲子	
2007	平成19年			今別府香里	小椋久美子・潮田玲子	
2008	平成20年			廣瀬栄理子	小椋久美子・潮田玲子	
2009	平成21年			廣瀬栄理子	松尾静香・内藤真実	



昭和55年～63年　全日本総合シングルスで8回の優勝を達成
〈北田スミ子選手〉



平成21年度全日本総合優勝者
〈女子シングルス廣瀬栄理子選手(写真左)〉
〈女子ダブルス松尾静香(写真中央)・内藤真実(写真右)選手〉

バドミントン日本リーグ　大阪チーム戦歴

回　数	年　号		女　子		男　子	
			サントリー	三洋電機	NTT関西	トリッキーパンダース
第1回	1979	昭和54年	優勝1			
第2回	1980	昭和55年	2　位	4　位		
第3回	1981	昭和56年	優勝2	3　位		
第4回	1982	昭和57年	優勝3	2　位		
第5回	1983	昭和58年	優勝4	3　位	6　位	
第6回	1984	昭和59年	優勝5	2　位	5　位	
第7回	1985	昭和60年	優勝6	2　位	5　位	
第8回	1986	昭和61年	4　位	優勝1	5　位	
第9回	1987	昭和62年	4　位	2　位	4　位	
第10回	1988	昭和63年	3　位	2　位	3　位	
第11回	1989	平成1年	優勝7	2　位	2　位	
第12回	1990	平成2年	2　位	優勝2	3　位	
第13回	1991	平成3年	優勝8	5　位	3　位	
第14回	1992	平成4年	優勝9	6　位	2　位	
第15回	1993	平成5年	優勝10	2　位	3　位	
第16回	1994	平成6年	優勝11	3　位	2　位	
第17回	1995	平成7年	3　位	優勝3	8　位	
第18回	1996	平成8年	4　位	優勝4	6　位	
第19回	1997	平成9年		優勝5	4　位	
第20回	1998	平成10年		2　位	4　位	
第21回	1999	平成11年		優勝6	4　位	
第22回	2000	平成12年		優勝7	4　位	
第23回	2001	平成13年		2　位	7　位	
第24回	2002	平成14年		優勝8	6　位	
第25回	2003	平成15年		優勝9	6　位	
第26回	2004	平成16年		優勝10		6　位
第27回	2005	平成17年		優勝11		6　位
第28回	2006	平成18年		優勝12		4　位
第29回	2007	平成19年		優勝13		8　位
第30回	2008	平成20年		優勝14		
第31回	2009	平成21年		優勝15		
第32回	2010	平成22年				

第31回大会で8連覇･通算15回の優勝を達成した三洋電機チーム





全日本レディースバドミントン選手権大会 戦歴

平成７年	第13回全日本家庭婦人バドミントン競技大会都道府県対抗　初優勝
平成８年	第14回全日本家庭婦人バドミントン競技大会都道府県対抗　連覇
平成９年	第15回全日本家庭婦人バドミントン競技大会都道府県対抗　三連覇
平成11年	第17回全日本レディースバドミントン選手権大会クラブ対抗　優勝（清水クラブ）
平成12年	第18回全日本レディースバドミントン選手権大会都道府県対抗　優勝（４回目）
平成13年	第19回全日本レディースバドミントン選手権大会都道府県対抗　連覇（２年連続５回目）
平成15年	第21回全日本レディースバドミントン選手権大会都道府県対抗　優勝（６回目）
平成17年	第23回全日本レディースバドミントン選手権大会都道府県対抗　優勝（７回目）
平成18年	第24回全日本レディースバドミントン選手権大会都道府県対抗　連覇（２年連続８回目）
平成19年	第25回全日本レディースバドミントン選手権大会都道府県対抗　三連覇（３年連続９回目）
平成22年	第29回全日本レディースバドミントン選手権大会都道府県対抗　優勝　（通算10回）



大阪府レディースバドミントン連盟

国際親善レディースバドミントン大会

大阪府レディースバドミントン連盟は、平成７年(1995年)に、バドミントン技術の向上と長寿社会を見据えた生涯スポーツの実践をその目標とし、国際化時代にふさわしい女性のためのバドミントン大会を開催したいという熱意の元に、大阪府立体育会館を会場とし、国際親善レディースバドミントン大会を企画し立ち上げました。平成15年に株式会社ゴーセンの協力を得、ゴーセン杯国際親善レディースバドミントン大会2003とし、国内外からの参加も年々増加の一途をたどりました。平成20年(2008年)には､U.S.A オレンジカウンティーにおいて、国際親善レディースバドミントン大会 in U.S.A 2008を開催、翌年財団法人日本バドミントン協会並びに日本レディースバドミントン連盟に主催を移管し、大阪府バドミントン協会、大阪府レディースバドミントン連盟主管としました｡YONEX Cup International Friendship Ladies Badminton Tournamentとして現在に至っています。


選手宣誓　Jung So Yong (KOREA) '04


'09 開会式 231チーム　1741名　参加

国民体育大会　大阪府チーム　戦績

年		開催地	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子	天皇杯	皇后杯
1970	昭和45年	岩　手	5　位			1　位	4　位	1　位
1971	昭和46年	和歌山	5　位			1　位	4　位	1　位
1972	昭和47年	鹿児島				1　位	5　位	1　位
1973	昭和48年	千　葉				1　位	5　位	1　位
1974	昭和49年	茨　城				3　位	5　位	2　位
1975	昭和50年	三　重				1　位	5　位	1　位
1976	昭和51年	佐　賀		3　位		1　位	3　位	1　位
1977	昭和52年	青　森		2　位		1　位	2　位	1　位
1978	昭和53年	長　野	5　位	1　位		3　位	2　位	1　位
1979	昭和54年	宮　崎	5　位	2　位		1　位	2　位	1　位
1980	昭和55年	栃　木	5　位	5　位		2　位	3　位	1　位
1981	昭和56年	滋　賀	5　位	3　位		5　位	2　位	2　位
1982	昭和57年	島　根		2　位		1　位	2　位	1　位
1983	昭和58年	群　馬		5　位		1　位	2　位	1　位
1984	昭和59年	奈　良	5　位	1　位		1　位	1　位	1　位
1985	昭和60年	鳥　取	5　位	2　位		5　位	3　位	2　位
1986	昭和61年	山　梨	2　位	5　位		5　位	5　位	4　位
1987	昭和62年	沖　縄	5　位			2　位	5　位	3　位
1988	昭和63年	京　都		2　位		1　位	1　位	1　位
1989	平成１年	北海道		2　位		2　位	3　位	2　位
1990	平成２年	福　岡	2　位	3　位	1　位	2　位	1　位	1　位
1991	平成３年	石　川	2　位	4　位	5　位	5　位	2　位	4　位
1992	平成４年	山　形	1　位	5　位		1　位	2　位	2　位
1993	平成５年	香　川	2　位	1　位		1　位	1　位	1　位
1994	平成６年	愛　知	2　位	5　位		1　位	1　位	1　位
1995	平成７年	福　島	3　位	2　位			4　位	5　位
1996	平成８年	広　島			5　位	3　位	5　位	5　位
1997	平成９年	大　阪	2　位	1　位	1　位	3　位	1　位	1　位
1998	平成10年	神奈川	3　位	4　位	4　位	4　位	1　位	1　位
1999	平成11年	熊　本	5　位	1　位	5　位	5　位	3　位	2　位
2000	平成12年	富　山		2　位	5　位		4　位	4　位
2001	平成13年	宮　城	5　位		5　位	5　位	8　位	5　位
2002	平成14年	高　知	3　位	4　位	5　位		2　位	5　位
2003	平成15年	静　岡	5　位		5　位		11　位	9　位
2004	平成16年	埼　玉		4　位	5　位		9　位	6　位
2005	平成17年	岡　山	4　位	3　位	4　位		3　位	5　位
2006	平成18年	兵　庫			5　位		13　位	14　位
2007	平成19年	秋　田		5　位		5　位	27　位	6　位
2008	平成20年	大　分				3　位	12　位	5　位
2009	平成21年	新　潟		3　位		5　位	5　位	2　位
2010	平成22年	千　葉		5　位	3　位	5　位	4　位	7　位

＜天皇杯　通算７回、皇后杯　通算19回達成＞

＜優勝回数　成年男子１回、成年女子５回、少年男子２回、少年女子15回＞

大阪 VS 上海親善競技会のあゆみ

回　数	年月日	内　容
第1回	1986.08.19	東淀川体育館　大阪2－9上海(男1－4・女1－4・混0－1) 〈男子〉谷田、森下、江藤、杉本、近藤、奥野 〈女子〉北田、平山、西村、原田、岡田、小泉、高峯、新木た
第2回	1987.08.04	黄浦体育館　大阪0－11 上海(男0－5・女0－5・混0－1) 〈男子〉谷田、早水、奥野、早戸、浜松、村山 〈女子〉山本、秋元、廣田、星野、田代、新木た
第3回	1988.04.03	東淀川体育館　大阪4－6上海(男1－4・女3－2) 〈男子〉谷田、辻田、江藤、早戸、伊藤、白浜 〈女子〉水井ひ、北本、岩田、谷池、廣田、小泉、新木た
第4回	1990.04.04	黄浦体育館　大阪0－10 上海(男0－5・女0－5) 〈男子〉三村、吉森、岸田あ、片岡、斎藤、有田 〈女子〉松田よ、信田、水井や、礒山、橋本、杉田
第5回	1991.04.03	東淀川体育館　大阪5－5上海(男2－3・女3－2) 〈男子〉辻田、村山、上滝、早戸、片岡、大山、岸田あ 〈女子〉水井ひ、北浦、金井、廣田、小池、田代、三ツ川
第6回	1992.04.03	静安体育館　大阪0－10 上海(男0－5・女0－5) 〈男子〉織田、上滝、岸田あ、岸田け、斎藤、有田 〈女子〉磯崎、松田は、信田、水井や、川口、市橋み
第7回	1993.04.05	阿倍野体育館　大阪4－7上海(男1－4・女3－2・混0－1) 〈男子〉辻田、今井、上滝、大山、岸田あ、植村、鈴木 〈女子〉水井や、北浦、金井、廣田、小池、宮村、松田は、田中さ
第8回	1994.04.04	青浦体育館　大阪1－9上海(男0－5・女1－4) 〈男子〉奥井、今西、浅田、土屋、永谷、仲尾 〈女子〉鬼池、葛野、鬼頭、市橋り、福島、薦田
第9回	1995.04.08	東淀川体育館　大阪4－7上海(男2－3・女2－3・混0－1) 〈男子〉片岡、渡辺、大山、岸田あ、植村、本田、池尻、早戸 〈女子〉中山、山田、市橋り、薦田、芳村、村上、貴田、磯崎
第10回	1996.04.06	同済大学体育館　大阪2－8上海(男1－4・女1－4) 〈男子〉宇治、甲林、永谷、仲尾、福川、松下 〈女子〉吉岡、尾後、山田、谷嶋、安城、速水
第11回	1997.04.19	大東市民体育館　大阪3－8上海(男0－5・女3－2・混0－1) 〈男子〉常山、川口、渡辺、岸田あ、植村、平井、橋本、早戸 〈女子〉中山、増茂、山田、村上、田中、山本、井田
第12回	1998.04.05	松江体育館　大阪2－9上海(男0－5・女2－3・混0－1) 〈男子〉川口、渡辺、岸田あ、平井、松井 〈女子〉貴田、鬼池、田中、安城、上田、坂口、恵良
第13回	1999.04.24	大東市民体育館　大阪4－7上海(男1－4・女3－2・混0－1) 〈男子〉川口、渡辺、岸田あ、永谷、平井、福井、松井み、石川 〈女子〉中山、増茂、田中、井田、鬼池、森、安城
第14回	2000.04.16	松江体育館　大阪3－8上海(男1－4・女2－3・混0－1) 〈男子〉川口、松井、松下、新開、川前、諸田 〈女子〉鬼池、関本、森、下野、吉岡
第15回	2001.04.15	近畿大学記念会館　大阪4－7上海(男0－5・女4－1・混0－1) 〈男子〉川口、渡辺、平井、橋本、松井、一宮、松下、永谷 〈女子〉中山、山田、森、関本、田上、西、下野
第16回	2002.07.13	松江体育館　大阪0－11 上海(男0－5・女0－5・混0－1) 〈男子〉中村、麻生、銭谷、橋本、喜多、守屋 〈女子〉安城、吉岡、下野、松尾、林、尾崎
第17回	2004.07.03	なみはやドーム　大阪3－8上海(男1－4・女2－3・混0－1) 〈男子〉山口、大滝、喜多、浦窪、銭谷(公)、古川、佐海、桜井 〈女子〉小椋、潮田、松尾、恵良、田中、廣瀬、関本、脇坂
第18回	2007.09.03	華東師範大学　大阪2－8上海(男1－4・女1－4) 〈男子〉銭谷(翔)、巽、井谷、川上、和田、柳沢 〈女子〉池原、藤村、小口、津村、東野、丹下
第19回	2008.07.06	浪速スポーツセンター　大阪5－5上海(男子0－5・女子5－0) <男子>　巽、喜多、櫻井、川口、古川、浅利、大滝 <女子>　村松、作山、久後、脇坂、松尾、福万、西
第20回	2010.09.03	上海　行体育館　大阪1－9上海(男子1－4・女子0－5) <男子>　相和、小高、佐野、河合、平津、常山 <女子>　下田、阪口、山崎、樋口、宮原、翠簾屋

第２節　京都府バドミントン協会の生い立ちとあゆみ

京都府バドミントン協会の誕生

京都府バドミントン協会の誕生は、昭和24年である。京都では終戦後の混乱期に働く人々に少しでも明るい環境を与えたいという考え方から、昭和21年京都職域体育連盟なる組織ができた。この仕事に携わっておられた京都府保健体育課の主事中本健三氏が、その頃佐藤勝郎氏（当時川島織物勤務）が南方で戦時中習ってきたバドミントンを職場で普及していることを知り、軽スポーツ普及の一環としてフリーテニス、ゲートボールなどの種目とともにバドミントンを紹介して欲しいと申し出され、市内各所で普及指導講習会を開いたのがその始まりである。

その後京都ＹＭＣＡ、大谷大学で同好者が増え、クラブの結成ができ、昭和24年川島織物・大谷大学・京都ＹＭＣＡの三団体、登録会員約60名で正式に京都府バドミントン協会が創立され、佐藤勝郎氏が会長に推され就任された。副会長には高屋邦一氏（京都ＹＭＣＡ）、藤裔氏（大谷大学）、理事長には坂田善也氏（京都ＹＭＣＡ・当時立命館大学生）が就任され、最初の組織ができあがった。

当時京都ＹＭＣＡは、京都にあっては唯一の指導を受ける場所として社会人・学生・高校生等の同好者が集まっていた。京都ＹＭＣＡの高屋主事は大阪ＹＭＣＡの川口清主事の指導を受け、京都へのバドミントンの導入に尽くされた。

京都府バドミントン界の草創期

昭和24年協会発足後、川島織物・ＹＭＣＡ・大谷大学のメンバーを中心に、各地へ普及活動が展開され、特に大学、高校の同好者の急増は目覚しかった。

当時文部省では、頂点の高いスポーツを発達させるためには広い基盤を作ることを必要とするという趣旨から、スポーツの民衆化を目指し、スポーツバッジテストを全国的に展開し、その種目の中にテニス、バレーボールなどの球技とともにバドミントンが加えられたので、その判定員講習会が京都市内とともに府下一円にわたり開催され、バドミントンでは各種目から選ばれた講師とともに、佐藤会長が各所で実技指導された。この講習会に、その頃新しく加盟した島津製作所の大脇一能、玉村欣也の両氏と川島織物の中沢誠次氏が会長の協力者として普及活動に務められた。これが昭和28年から昭和30年代の初期の頃のことである。

わが国では、スポーツの発展は学生・生徒が早道と考えられ、東京では戦前に慶応大学にクラブができ、戦後いち早く復活し、慶大、明大、立大等が中心となったように、京都においてはすべて戦後であるが、高校では平安、鴨沂、洛北、日吉ヶ丘、朱雀、紫野、平安女、同志社女等が、大学では大谷大についで京大、同志社、立命館、京女大がクラブを作り高体連、学連の基礎固めを行った。このようにして昭和26年には高体連、昭和28年には学連、昭和30年には実業団、昭和31年に中体連と次々と各組織が誕生した。これらの組織の発足とともに京都府バドミントン協会の組織も少しずつ固まり、昭和25年の第５回国民体育大会（愛知）には、一般男、女、高校男子の三種目にエントリーして参加することができた。

第５回国民体育大会を契機として、近畿バドミントン協会、西日本バドミントン連盟が結成され毎年選手権大会を開催して、とかく関東あるいは東日本に比し遅れがちな関西、西日本の技術の向上を図るべく大阪の石渡俊一氏、川口清氏、兵庫の高倉正治氏と京都の佐藤勝郎氏が中心となって大いにこのために努力された。協会発足５年ほどの間に昭和25年学生、昭和26年高体連専門部、昭和30年実業団連盟が設立され協会の母体が確立した。

歴代の会長

初代会長佐藤勝郎氏は８年間務められ昭和31年諸般の事情で会長の役を退任され平成19年(94歳)で亡くなられました。同氏は同志社大学神学部を卒業後伝道師としてフィリピンで過ごされそこでバドミントンとの出会いがあり、帰国後バドミントンの普及に寄与されました。

昭和32年二代目会長として井上清一氏(当時参議院議員・故人)を迎えた。同氏は昭和41年京都市長に当選されたため当時副会長の永末英一氏(当時府会議員その後衆議院議員・故人)が三代目会長に就任され平成３年までの27年間の永きに亘り京都バドミントン界発展に尽くされました。平成３年永末会長は公務多忙が原因で病に倒れられ、四代目会長に西村清次氏(当時京都中央信用金庫会長・京都実連会長)が推挙された。西村会長は中信を退職される事で二年の短期であったが協会発展に尽くされ、五代目会長に田中田鶴子氏(当時大和学園理事長・京都家庭婦人連盟会長)にバトンタッチされ現在に至っている。田中会長は全国初の女性会長就任でその活躍が注目されている。

歴代理事長

協会運営の推進役である理事長は次の通りで現在11代目である。(敬称略)

一代目	故坂田　善也	(当時ＹＭＣＡ[立命大ＯＢ])	昭和24､25年	２年間
二代目	故上原　正士	(当時京都クラブ)	昭和26･27年	２年間
三代目	故泉本勇五郎	(当時川島織物勤務)	昭和28･29年	２年間
四代目	故上原　正士	(当時京都クラブ)	昭和30～44年	15年間
五代目	市村　　修	(当時立命大ＯＢクラブ)	昭和45･46年	２年間
六代目	野村　嘉明	(当時島津製作所勤務・京都実連理事長)	昭和47～59年	13年間
七代目	山本　　博	(当時朱雀高校教員・京都高体連部長)	昭和60･61年	２年間
八代目	佐藤　武人	(当時オムロン勤務・京都実連理事長)	昭和62～平成10年	12年間
九代目	小島　博幸	(当時桂高校教員・京都高体連部長)	平成11～19年	９年間
十代目	吉田　清隆	(当時宇治市協会理事)	平成20年	１年間
十一代目	髙木　謙一	(当時パナソニック勤務・京都社会人連理事長)	平成21年～現在	

府協会を支える各連盟・協会

【 京都学生バドミントン連盟 】

一歩先にクラブを結成した大谷大に続いて、立命大は坂田善也氏（初代理事長）と西田滋両氏で、京大は渋谷弘利・渋谷亮治兄弟を中心に、同志社は中井光一氏と須田展夫両氏を中心にクラブが次々と誕生し、昭和25年京都学生バドミントン連盟が発足した。

学生連盟は各校の代表委員で委員会を構成し、委員長が統括して運営にあたることになり、就学上のことより委員長は３回生で任期は１年、副委員長は２回生ということで、次期委員長は副委員長が受け継ぐという路線がひかれた。

関東学連よりやや遅れてのスタートではあったが、昭和25、26、27年の全日本選手権大会の混合複で渋谷弘利（京大）、小島信（ＹＭＣＡ）組が三連勝、昭和28年第３回全日本学生大会女子団体で京都女子大が初優勝（この年から女子団体種目が設けられたので女子の事実上の初優勝）、昭和29年第８回全日本選手権青年単で上田益弘（同大）が優勝するなど僅かの期間に全国の最高レベルに到達するという目覚しい活躍をした。

学連会長は下記の方々が務められ現在に至っている。

初　代	昭和30～32年	故上原正士氏	
二代目	昭和33～46年（14）	故永末英一氏	（当時府会議員・Ｓ34衆議院議員）
三代目	昭和47～59年（13）	床尾　芬氏	（当時府会議員）
	（昭和60年空席）		
四代目	昭和61～平成14年（17）	水原　亮氏	（当時京都産業大教授）
五代目	平成15年から現在に至る	林　俊光氏	（仏教大学教授）

【 高体連バドミントン部 】

当協会発足後各校への指導・普及がなされ各校とも同好会組織でバドミントンをやるようになった。その後高体連におけるバドミントンの発展を図るべく佐藤会長、平安高の久野龍英先生のご尽力で高体連組織の中にバドミントン専門部が認められることになった。

高体連組織に入らないことには、学校及び生徒会としても正式なクラブとして認めないので、バドミントンの普及発展のためには種々の支障があるということで、この努力が払われたわけである。そして初代専門部委員長に久野龍英氏（平安高）が就任され、昭和26, 27年の創設期のお世話をされた。昭和26年第２回全国大会（札幌市）に京都から平安高が初参加した。

昭和28年には山本博氏（当時朱雀高）が専門部委員長に就任され以来昭和60年までの32年間高体連バドミントン部の発展に尽くされた。昭和28年当時の加盟校は、男子７校、女子６校であった。その年第４回全国大会（山形市）には平安高が出場、河内、岡田、相生、白子各選手の活躍でベスト８入りの好成績をあげた。更に同年第８回国体（善通寺）高校男子の部でこのメンバーで４位入賞、近畿総体でも優勝の栄冠に輝き、高体連バドミントン専門部発足僅かにして平安高校は華々しいスタートをきった。

昭和60年には加盟校は64校（男子44校、女子54校）に増えた。山本氏は近畿高体連の発展にも寄

与され「近畿を制する者は日本を制す」の掛け声で近畿の競技力発展にも鋭意努力された。昭和61年～平成８年は三代目の委員長として成田光生氏（華頂高）が引き継がれ近畿の委員長、全国の副委員長として高校バドミントン競技発展のため尽力された。平成９年から平成15年の間高橋清治氏（桂高）が、平成16年から現在まで寺田裕昭氏（西山高）が委員長を引き継いだ。少子化の影響もあまりなく、平成21年度の登録校は男子56校、女子66校、登録会員数2,049人（男子873人、女子1,176人）と協会内で最も大きな組織となっている。

【 実業団バドミントン連盟 】

昭和30年７月の創設である。同年６月佐藤会長、中沢誠次氏（以上川島織物）、大脇一能氏（島津製作所）、広瀬桂三氏（貯金局）、高垣文利氏（東レ山科）、塚本珪一氏（平安クラブ）、上田平雄氏（西京クラブ（教員））の以上６団体代表が参加し西京高校で連盟結成会議を行い発足した。同年７月１日連盟結成記念大会が紫野高校で開催された。これが事実上の京都府実業団バドミントン連盟の始まりである。（会長職）顧問に佐藤勝郎氏、理事長には上田平雄氏が選ばれた。

以後実業団連盟は、増尾忠雄氏（宝酒造）、中沢誠次氏（川島織物）、北中勇氏（貯金局）、矢田直宏氏（松下電子）、野村嘉明氏（島津製作所）、佐藤武人氏（オムロン）、新井貴雄氏（京都市役所）が歴代の理事長を務め今日の隆盛を遂げた。特に野村理事長は19年間務め、その間日本実連副理事長、近畿実連理事、京都協会理事長としても活躍し京都・近畿・全日本実業団連盟の組織固め運営面で活躍。日本協会では、国体の教員種目を廃し現在の少年・成年の形態の提案、日本リーグの提案、背面ネーム定着の提案などで尽力され、現在の発展に寄与した。

歴代実連の会長は次の通りである。（敬称略）

初　代	昭和30･31年（代行）	佐藤　勝郎（川島織物）
二代目	昭和32･33年	山川　常七（市会議員）
三代目	昭和34～37年	佐藤　勝郎（川島織物）
四代目	昭和44～50年（昭和38～43年空席）	榊田喜四夫（京都信用金庫）
五代目	昭和51･52年（協会会長兼務で代行）	永末　英一（衆議院議員）
六代目	昭和53～平成６年	西村　清次（京都中央信用金庫）
七代目	平成７・８年（代行）、９・10年	野村　嘉明（島津製作所）
八代目	平成11～16年	岡本　宏也（三菱自動車工業）
九代目	平成17～現在	永井　　博（堀場製作所）

【 中体連バドミントン部 】

京都市中学校体育連盟は、新制中学校発足直後の昭和22年に結成され、バドミントン専門部の創設は遅れること10年、昭和31年である。嶋　啓晴氏、幸堀俊雄氏を中心としてなされたことに始まる。京都市中学校体育連盟は発展的に昭和29年京都府中学校体育連盟が発足し、その組織の中に入る事になった。この年近畿中学校体育連盟にも加盟した。

バドミントン専門部は京都市中体連の春季総合体育大会に参加、夏季選手権大会、秋季新人大会を開催した。昭和30年代後半から40年代前半にかけてバドミントン部設置校が徐々に増加し、

男子は10～12校、女子は20数校が参加するようになり、京都府総合体育大会に参加出来るようになった。しかし当初は会場不足、指導者不足、シャトルコックの費用負担の大きい事などの苦労は絶えなかった。

昭和48年度より各種大会の試合形式の整理を順次行い、自由参加であった府下の学校も山城・口丹波・丹後のブロック毎の出場枠における参加となった。

この経緯の中、上桂(後の桂中)中学校は昭和30年から府協会にクラブ登録して活動していた。その顧問である幸堀俊雄氏は協会の常務理事としても活動され、同氏はバドミントンの競技経験が全くないにも拘わらず、バドミントンへの情熱で、見て覚えた指導、生徒の統率力、先輩の助力をうまく利用するなどして、数々の優秀な選手を育てあげた。幸堀氏の育てた選手を成安女子高の東条信由氏が引き継ぎ育てるという事で、リレー指導六年間の成果が実り成安女子高は近畿・全国大会で目覚しい活躍を遂げる全盛時代を築いた。またこれ等の選手が社会人になっても京都を代表する選手として活躍した。そんな事で幸堀氏は異色の指導者であった。

その後男子は洛星、同志社、蜂ヶ岡、西陵、女子は梅津が全国中学校大会団体戦に出場、個人戦では昭和58年(1983)13回大会(新庄市)男子単で三角典生(洛星中)選手が優勝している。

ここ数年、生徒数減少の中、なんとか加盟数は維持しているが、競技力の伸びは今一つの状況が続いている。歴代の京都府中体連バドミントン専門部の委員長は次の通りである。

初　代	昭和32～33年	嶋	啓晴	六代目	昭和61～63年	中平	繁則
二代目	昭和34～37年	幸堀	俊雄	七代目	平成元～５年	山本	仁士
三代目	昭和38～47年	竹原	保男	八代目	平成６～９年	大野	泰永
四代目	昭和48～49年	板崎	康雄	九代目	平成10～15年	水野	洋一
五代目	昭和50～60年	飴田	純一	十代目	平成16～22年	橋本	厚司

【社会人クラブバドミントン連盟（社会人バドミントン連盟）】

協会発足後、実業団に属さない社会人は京都府バドミントン協会員として協会が掌握していたが、バドミントンの急速な普及とともに社会人のクラブが増え、他の連盟と対等の立場を確立することから、昭和45年登録受付等の準備期間を経て昭和46年12クラブ､90名余の登録をもって正式に連盟を結成。発足時は会長は空席で、理事長は入江吉信氏でスタートした。

その後二代目理事長小島伸治氏(ＹＭＣＡ)が就任、当初の三年は手探りの運営であったが、登録会員も増え昭和49年には上原正士(当時協会副会長、故人)を会長に迎え、三代目理事長市村修氏(立命大ＯＢ・現会長)による新体制でスタートを切った。家庭婦人の登録も増え家庭婦人専門部を設け、部長に小澤公子(同女大ＯＢ)が就任し、家庭婦人のクラブ対抗戦を春・秋に開催し家庭婦人連盟発足の地固めを行い、その後専門部は昭和52年に独立し家庭婦人連盟となった。同様に教職員のクラブも独立し昭和49年教職員連盟の設立にと発展した。

その後平成５年からは市村修氏が会長を務め現在に至っていっる。理事長は四代目(平成３年～)河村広次氏(青年の家)、五代目(平成11年～)小国俊之氏(乙訓ク)、六代目(平成13年から現在)髙木謙一氏(宇治ク)が務め会員の増員・主催大会の充実発展を図かり、協会の中枢機関として活動している。当連盟は近畿の府県に呼びかけ近畿社会人連盟の発足にも努め平成５年「近畿社会人連盟」が設立、更に全国的に都道府県の社会人連盟の設立が遅れていることから、近畿社会人

連盟とともに全国社会人クラブ連盟結成に向けて、都道府県社会人連盟の設立を呼びかけながら全国社会人クラブ大会を平成10年から開催し、現在11回目を迎えます。全国社会人クラブ大会は現在まだ全国都道府県の半数の参加ではあるが徐々に大会への参加も増えつゝある。この努力の甲斐あって平成16年12月には「全国社会人クラブバドミントン連盟」が設立された。これに併せて近畿社会人連盟は「近畿社会人クラブ連盟」に改名（平成15年６月）、本連盟も平成16年４月18日の総会で連盟の名称を「京都社会人クラブバドミントン連盟」に改名し再スタートした。

【 レディースバドミントン連盟（家庭婦人バドミントン連盟）】

昭和52年京都社会人連盟家庭婦人専門部が独立して京都家庭婦人バドミントン連盟が設立した。昭和49年に家庭婦人専門部が発足してから４年後のことで、当時ママさんバレーが盛んで、これに惹かれたように、ママさんバドミントンも盛んになり、又社会人連盟の若い方との運営・活動も中々同調出来ず独立に至った。初代理事長には岡崎ヒサミ氏が推された。協会からは、相談役として当時普及委員長の川本末夫氏と紀田文男氏（舞鶴市協会）が派遣された。

当初は家庭婦人をバドミントンに勧誘することでジュニアの普及が可能となるのではとの狙いもあり、協会は京都オープン家庭婦人大会を開催、普及のための教室、講習会を開催するなどして家庭婦人のバドミントンの普及に協力した。京都オープンは近県の家庭婦人に参加を呼びかけた所、京都という知名度もあり近県の家庭婦人には人気のある大会となり毎回100余のクラブが参加、夏の暑い中にも拘わらず二日間で消化出来ない程の大盛況であった。

発足当時のクラブ数は18で、登録人数は200人余であったが、家庭婦人が余暇を活用し健康な体づくりを推進するようになり、家庭婦人のバドミントン熱が急騰し、登録数・クラブ数が全国的に急増し、各府県とも組織が充実して行った。平成21年のクラブ数は53、登録人数926人と協会内でも中枢の機関になった。

連盟発足時の初代会長は永末協会会長の兼務であったが、二代目会長には井上愛子氏（元井上京都市長の奥様）を迎え、三代目は濱崎正規氏（当時立命大教授）、四代目田中田鶴子氏をと引き続き務めて頂いている。連盟の運営の推進役の理事長は二代目森比佐氏、三代目清水康子氏、四代目小国久美氏と引き継がれ運営されている。

平成12年より全国的に「家庭婦人」が改名され、「京都府レディースバドミントン連盟」となった。

【 教職員バドミントン連盟 】

プレーの出来る教員が少なかった事もあって、連盟の誕生は他府県よりかなり遅れたが、昭和47年京都教育大ＯＢを主体として誕生した。教育大ＯＢは当初一クラブとして社会人連盟にクラブ登録して活動していたが、京都におけるバドミントンの普及を考える時、教職員のバドミントンへの参加が特に強く要望される所から、飴田純一氏（当時中体連専門部委員長・同志社中教員）を中心とする７名の京都教育大OBによって教職員連盟の発足となった。

しかし、その組織化が遅々として進まず、山本博氏（当時高体連専門部委員長・朱雀高教員）、板橋康雄氏（当時中体連専門部委員長・伏見中教員）の発起で、プレー出来ない先生、クラブはないけれどもバドミントンの研究を希望される先生（中体連及び高体連）へも呼びかけ、昭和49年組

織を確立し再スタートがきられた。その結果、初代理事長飴田純一氏に代わって山本博氏が理事長に就任した。その後昭和60年に山本博氏が会長、理事長に上野孝雄氏（当時家政学園高）がなり、平成９年には理事長に松原孝範氏（当時西乙訓高教員）がなり、現在に至っている。

【 市町村バドミントン協会 】

京都府下における市町村バドミントン協会の設立は福知山市と舞鶴市が最も古い。

京都府下のスポーツは東京五輪を契機とするスポーツへの参加、社会体育の振興は目覚しく、そして昭和53年京都国体（昭和63年開催）の開催誘致が発表される等があり、昭和40年代・昭和50年代はバドミントンも急速な普及・発展を遂げ、次々と市町村バドミントン協会が創設され、京都府協会へ加盟し夫々で活発な活動をするようになった。

平成22年度現在京都府協会に加盟している市町村協会とその創立年・加盟年を示します。

協会名	創設年	（府協会加盟年）
福知山市バドミントン協会	昭和32年	（昭和51年）
舞鶴市バドミントン協会	昭和37年	（昭和48年）
宇治市バドミントン協会	昭和46年	（昭和62年）
亀岡市バドミントン協会	昭和48年	（昭和49年）
長岡京市バドミントン協会	昭和55年	（昭和55年）
城陽市バドミントン協会	昭和55年	（平成５年）
京都市バドミントン協会	昭和59年	（昭和59年）
向日市バドミントン協会	昭和60年	（平成元年）
久御山町バドミントン協会	平成７年	（平成18年）
京田辺市バドミントン協会	昭和52年	（平成19年）

現在以上10市町バドミントン協会が加盟している。京都市バドミントン協会の加盟は京都市の競技会を府協会の主管に任せていたため市協会の創設と加盟が遅れた。

平成元年から京都府総合体育大会が国体形式で市町村対抗で実施されるようになり、各市町村協会との交流もより深まってきた。

【 小学生バドミントン連盟 】

昭和53年京都府体育協会では「京都国体」誘致の発議がなされ昭和63年開催へ向けて、各競技団体は選手強化の体制つくりに動き出し、その一環としてジュニアの育成・指導員の養成・普及指導・講習会・教室等の開催が盛んとなり、本会も昭和56年京都国体へ向けて国体選手を育成しようと川本末夫氏、小国俊之氏、大前茂氏を中心に、体力、気力があり、そして家庭の理解がある選手を募りジュニアの育成がはじまった。一方昭和56年本会主催で第１回京都府小学生大会を開催し府下の小学生の参加を広く求めジュニア育成に努めることになった。昭和60年には長岡京市教育委員会、長岡京市体育協会のご尽力で全国の小学生バドミントン選手権大会のさきがけともなる、「若葉カップ小学生バドミントン大会」を本会と共催することになった。このような経緯に

より府下市町村の小学生のバドミントンの普及も目覚しいものとなり、今後の小学生のバドミントンの普及発展を図るには、ジュニア連盟の組織化が必要となり、平成元年11月３日設立の運びとなった。(当初連盟の名称は「京都ジュニア」であったが平成12年５月14日に「京都小学生」に改名された。)初代会長には濱崎正規氏(当時立命大教授)が、理事長には大前茂氏(京都市役所職員)が就任し現在に至っている。この努力の甲斐あって京都国体少年の部で活躍する選手も育てることができた。設立当初は７クラブ､150名余であったが、平成21年度現在登録クラブ18、登録者425名(男子112名、女子312名)の組織となった。「若葉カップ小学生大会」を通じて全国都道府県に小学生連盟の組織つくりを呼びかけ、それがまとまり平成11年度より㈶日本バドミントン協会に全国小学生連盟の加入が承認されるに至った。

平成13年には近畿協会においても小学生連盟が発足した。このジュニアの若葉が次代の京都を背負って立ってくれることを期待している。

活躍した選手たち(敬称略)

◆**渋谷弘利**(京大)・**小島信**(YMCA):全国大会で最初に入賞した京都の選手は、昭和25年の第４回全日本選手権大会(東京都)混合複で優勝した渋谷弘利・小島信組である。その後この混合複は昭和26･27年と同大会で三連勝している。

◆**渋谷弘利**(京大):昭和27年西日本大会(松江市)の青年男子単で優勝。

◆**渋谷弘利・渋谷亮治**(兄弟選手):昭和27年西日本大会(松江市)の青年男子複優勝。

◆**小島信**(YMCA):昭和27年西日本大会(松江市)の青年女子単優勝。

◆**小島信・布留宮玲子組**(YMCA):昭和27年西日本大会(松江市)の青年女子複優勝。

◆**平安高校チーム**:河内利雄、岡田末夫、相生正治、白子隆之助選手のメンバーで昭和27年国体(宮城)高校男子でベスト８、昭和28年国体(善通寺)高校男子でベスト４入りの成績を収めた。

◆**京都女子大チーム**:昭和28年第４回全日本大学生大会女子団体で京都女子大が優勝。そのメンバーは松山昌子、北村明子、松本充代、柳谷静江、中塚雅子。
その後昭和41年までの13年間に同大会で優勝３回、準優勝３回、３位６回と堂々たる成績を収めている。昭和31年(第７回)大会では**京都女子大優勝、同志社女子大準優勝**と上位を独占したことは京都学生の特筆すべき記録で残っている。

◆**同志社大チーム**:昭和29年全日本大学選手権大会(京都市)男子団体で３位。

◆**上田益弘**(同志社大):昭和29年の全日本選手権大会の青年単で優勝し、その翌年の昭和30年トマス杯世界選手権大会に日本が初めて参加する香港とのアジヤゾーン予選メンバーに、日本代表として出場した。昭和31年の西日本大会でも青年男子単・複(高谷芳明と組み)に優勝。

◆**同志社大の上田益弘・河内利雄・高谷芳明、立命大の岡田末夫・相生正治・福見陽選手**(紫野高出身):この選手は関西の大学でも目覚まし活躍をし、昭和31年の第４回全日本学生東西対抗戦で12対３で西軍に勝利をもたらした主力メンバーであった。その後西軍は勝つ事がないので、特筆すべきこととなった。

◆**河内利雄**:昭和30年全日本ランキングで男子単６位。昭和32年の全日本学生選手権大会男子単で３位。

◆**河内利雄・村野信吾組**(同志社大):昭和30年全日本ランキング男子複３位。

◆**岡田末夫・福見陽組**(立命大):昭和30年全日本ランキング男子複９位。昭和30年の西日本大会青年複で準優勝。

◆**京都女子大の選手**:全日本学生選手権個人戦で京都女子大の選手は第３回大会(S27)から第17回(S41)の間女子単優勝１回、準優勝３回、３位５回、女子複では優勝１回、準優勝７回、３位５回と華々しい成績を残している。その選手の成績を以下に示す。

<単> **松山昌子**:S27　３位、S28　準優勝　　**岩井育子**:S30　３位、
松本享子:S31　優勝、　　**塚村恭子**:S31　準優勝、S32　３位
良倉邦子:S32　準優勝　　**二塚和子**:S33　３位、S36　３位

<複> **渡辺敏好・小中洋子**:S27　準優勝、
松山昌子・北村明子:S27　３位、S28　優勝
松本享子・松本充代(姉妹):S29　準優勝、S31　準優勝
塚本恭子・石原絢子:S31　３位
塚本恭子・良倉邦子:S32　準優勝
二塚和子・浅野光世:S34　準優勝、S35　３位、S36　準優勝
北尾典子・石和和子:S37　準優勝
中屋悦子・米山栄美:S38　３位
米山栄美・竹内光子:S41　３位

<補足>関西の学生が関東の学生と対等に競いあったのは男子は昭和30年代前半までの僅かな期間であった。その後は関東勢が圧倒した。女子は京都女子大が昭和30年代活躍しその後は東大阪短大、四条畷学園短大が活躍し、日本を代表する選手を多数輩出した。

◆**永井かおり・松尾志津組**(三菱自工):昭和42年全日本社会人選手権大会一般女子複で４位。

◆**昭和44年国体(長崎)の一般女子京都チーム**:永井かおり、岡崎繁子、山下三枝子の選手が３位に入賞した。

◆**永井かおり**(三菱自工):昭和44年全日本実業団大会(釜石市)一般女子単で準優勝。同年全日本社会人大会(鹿児島市)一般女子単でも準優勝。

◆**永井かおり・山下三枝子組**(三菱自工):昭和44年全日本実業団大会(釜石市)及び昭和45年同大会(高松市)一般女子複で３位入賞(二年連続)。昭和45年全日本社会人大会(千葉市)一般女子複３位入賞。

◆**三菱自工京都**:昭和45年度全日本実業団選手権大会(高松市)女子団体で準優勝。メンバーは永井かおり、岡崎繁子、山下三枝子、永井むつみ、小林フサ子。

◆**成安女子高**:昭和40年全国高校選手権大会(熊本市)・昭和44年同大会(桐生市)・昭和45年同大会(名古屋市)・昭和46年同大会(善通寺市)女子団体で準優勝。(　)、昭和44年昭和45年のメンバーは陣内裕子、岡崎幸子、尼崎初子、田村春美、谷美津子。昭和48年同大会(四日市市)女子団体で３位。昭和48年のメンバーは辻かおり、北村秀子、貝瀬かほり、谷口和代、山中淳子、藤田伊都子。昭和50年同大会(水戸市)女子団体で３位。

◆**陣内裕子**(成安女子高):昭和44年全国高校選手権大会(桐生市)女子単３位、昭和45年同大会(名古屋市)女子単で優勝。

◆**陣内裕子・岡崎幸子組**：昭和44年全国高校選手権大会（桐生市）女子複で３位、昭和45年同大会（名古屋）女子複で優勝。
<補足>昭和45年の全国高校総体の成安女子高の活躍に対し京都新聞ジュニアスポーツ賞を受賞した。
◆**岡崎繁子・永井むつみ組**（三菱自工）：昭和45年全日本社会人選手権大会（千葉市）で一般女子複３位入賞。
◆**岡崎繁子**（三菱自工）：昭和46年全日本実業団選手権大会（鹿児島市）一般女子単で３位入賞。
◆**長谷川進**（立命大）：大聖寺高から立命大へ進学し昭和42～45年の間京都選手権で単・複を制覇し、昭和48年日本教職員大会で複２位、昭和53年全日本社会人大会（大津市）一般男子単で優勝。
◆**井上昌子**（成安女子高）：昭和48年全国高校選手権大会（四日市市）女子単準優勝。
◆**朝日昌子**（成安女子高）：昭和48年全国高校選手権大会（四日市市）女子単３位。
◆**井上昌子・朝日昌子組**（成安女子高）：昭和48年全国高校選手権大会（四日市市）女子複準優勝。
◆**辻かおり・貝瀬かほり組**（成安女子高）：昭和49年全国高校選手権大会（嬉野市）女子複準優勝。
◆**青山寿美**（成安女子高）：昭和54年全国高校選手権大会（大津市）女子単3位入賞。
◆**三角典生**（洛星中・洛星高）：昭和58年全国中学校選抜選手権大会（新庄市）男子単で優勝。昭和60年全日本ジュニア大会男子単で３位。
◆**山本裕幸**（田辺高教員）・**村尾勉**（同女大職）**組**：昭和62･63･ 平成元・３年（四年間）全日本教職員選手権大会一般男子複優勝、同年全日本社会人選手権大会（長岡京市）一般男子複３位、平成２年全日本教職員選手権大会（岩手県）一般男子複準優勝。
◆**白川由理**（長岡四中教員）・**北川恵美子**（安祥寺中教員）：昭和63年全日本教職員選手権大会（奈良市）一般女子複優勝、平成元年同大会（香川県）一般女子複準優勝、平成２年同大会（岩手県）一般女子複３位、平成３・４年同大会同複準優勝。
◆**京都成年男子**：昭和63年第43回国民体育大会（京都長岡京市）成年男子の部で準優勝。
◆**嶋田有希子**（精華南中教員）：平成８年全日本教職員選手権大会（千葉市）一般女子単３位。
◆**古川裕輔**（洛水高）：平成９年全国高校選手権大会（長岡京市）男子単３位。
◆**春名悟・鎌田志門**（西乙訓高）：平成９年全国高校選手権大会（長岡京市）男子複３位。

<補足>紙面の都合で全国大会のみとし、個人戦の部は男女又は一般男女単・複の３位までの入賞のみの掲載としました。

主催・主管大会の記録

【 国際大会 】

■昭和34年４月24日　マラヤ・タイ・日本国際親善試合　立命館大学体育館
■昭和37年10月10日　日本・印度親善女子京都大会　京都橘女子学園体育館
■昭和39年８月22日　対米国際親善試合京都大会　平安女学院体育館
■昭和45年２月25､26日　第８回世界選手権トマス杯アジアゾーン代表決定戦
京都市体育館（西京極）

■昭和50年11月16日　第４回日中競技会京都大会　京都市体育館
■昭和53年１月16日　第７回国際競技会京都大会　京都府立体育館
■昭和55年１月18～20日　第２回ワールドカップ80　京都府立体育館
■昭和56年３月18日　日中友好ジュニア代表団交歓会　家政学園高校体育館
■昭和56年５月23､24日　第９回世界女子選手権(ユーバー杯)大会　京都府立体育館
■昭和59年10月１日　第10回日中競技会京都大会　京都府立体育館
■昭和62年６月21日　第12回日中競技会京都大会　京都府立体育館
■昭和63年５月10日　第３回日中ジュニア交流競技会　長岡京市西山公園体育館

[全国大会]

■昭和29年10月30日～11月3日　第４回全日本大学選手権大会
同志社大・柏野小・鴨沂高体育館
■昭和32年12月22日　第９回全日本学生東西対抗戦京都大会　東山高校体育館
■昭和37年３月27～30日　第14回日本総合選手権大会　京都学芸大体育館
■昭和39年８月５～10日　第15回全国高校選手権大会　京都市体育館・朱雀高・平安高
■昭和52年６月17～22日　第27回全日本実業団選手権大会
団体戦　大阪中央体育館・東淀川体育館・松下電器枚方体育館
個人戦　京都府立体育館・京都市体育館
■昭和54年12月15日　第１回日本リーグ京都大会　京都府立体育館
■昭和55年12月21日　第２回日本リーグ京都大会　京都府立体育館
■昭和56年11月22日　第３回日本リーグ京都大会　京都市体育館
■昭和58年11月27日　第５回日本リーグ京都大会　京都府立体育館
■昭和61年６月13～17日　第36回全日本実業団選手権大会　京都府立体育館・京都市体育館
■昭和62年７月23､24日　第５回全国家庭婦人大会　西山公園体育館・向日市民体育館
■昭和62年９月20～23日　第30回全日本社会人選手権大会　西山公園体育館・
長岡京市第四中・西乙訓高・三菱電機・三菱製紙体育館
■昭和63年３月27､28日　京都国体開催記念全国高校選抜選手権大会・優秀校招待試合
西山公園体育館
■昭和63年10月15～19日　第43回国民体育大会バドミントン競技会　西山公園体育館
■平成元年11月10～12日　第８回全日本ジュニア選手権大会　西山公園体育館
■平成２年11月１～４日　第７回全日本シニア選手権大会
西山公園体育館・京都府立体育館
■平成３年３月11月８，９日　第13回日本リーグ２部大会　西山公園体育館
■平成４年11月23日　第14回日本リーグ長岡京大会　西山公園体育館
■平成７年８月６，７日　第30回全国高専選手権大会　舞鶴市文化公園体育館
■平成７年10月26～11月１日　第46回全日本学生選手権大会　京都市体育館･京都府立体育館･
山城運動公園体育館・城陽市体育館
■平成７年11月23日　第17回日本リーグ長岡京大会　西山公園体育館

■平成９年３月25～28日　第25回全国高校選抜選手権大会
西山公園体育館・向日市民体育館・大山崎町体育館
■平成９年８月１～６日　第48回全国高校選手権大会　西山公園体育館
■平成11年６月10～14日　第49回全日本実業団選手権大会
西山公園体育館・京都市体育館・山城運動公園体育館
■平成18年８月５，６日　第30回全国高専選手権大会　舞鶴市文化公園体育館
■平成18年８月８～12日　第45回全日本教職員選手権大会　西山公園体育館他
■平成21年11月３日　日本リーグ2009長岡京市大会　西山公園体育館
■平成22年３月26～28日　第10回全日本中学生選手権大会
山城運動公園体育館・城陽市民体育館・宇治市黄檗公園体育館
■若葉カップ全国小学生バドミントン大会
第１回大会が昭和60年に開催され第12回まで京都協会、長岡京市、長岡京市教育委員会、㈶長岡京市体育協会によって構成される大会実行委員会主催として毎年８月初旬に開催。平成11年度から㈶日本バドミントン協会の後援となり第１種大会となる。

［補足１］昭和50年から昭和63年の間、国際大会・全国大会を次々開催したが大会経験の結果、思いがけない人材の発掘、役員の意識力、組織力の強化が図られる経験をした。これが最後に「京都国体」の運営の成功に繋がったと思います。

［補足２］記事中のお名前は当時のお名前で記してありますが、筆者が掌握する範囲で「:」で結び現在のお名前を示しておきます。
大脇一能：松野一能、西田　滋：今堀　滋、岡田末夫：川本末夫、松山昌子：平方昌子、
山下三枝子：田中三枝子、小林フサ子：福井フサ子、陣内裕子：飯野裕子、
岡崎幸子：矢野幸子、井上昌子：宇山昌子

（文責　野村嘉明　H22.８.８作成）

第３節　和歌山県バドミントン協会の生い立ちとあゆみ

和歌山バドミントン協会の設立

戦後の混乱期に、喰べるものもままならぬ時世にアマチュア競技団体が日本体育協会に加盟され、また、国民体育大会が始まる諸般のなか和歌山県でも昭和22年当時協会初代理事長の泉惣一郎氏は関係者を駆けずり廻って愛好者を集め、また、横浜ＹＭＣＡでの講習会を受けては、和歌山大学体育館でルールブックを見ながらの指導者(愛好者)研修会を開くなどしながら、ついに昭和24年和歌山県バドミントン協会を設立、同12月21日 日本バドミントン協会に加盟した。

協会設立後黒潮国体まで

昭和25年には、桐蔭高校にバドミントン部ができ他の数校の高校では同好会の形で活動していた。昭和26年４月、桐蔭、熊野、向陽、和歌山工業、那賀、新宮高校ではクラブとして認められ県バドミントン協会に加盟するにおよんで、いよいよ本格的に活動しはじめた。

同26年第６回広島国体にはじめて高校男子、女子チームが参加し、同年、北海道で開催された第２回全国高校総体にも参加した。当時､各高校ともクラブ費は､せいぜい４～５千円程度でシャトルコック一個が50円という状況であった。木製のラケットはフレームショットをしたときや、空振りをした時でもはずみでよく折れたものである。

また、ネットの支柱を固定するためにはいろいろと工夫が必要であった。ラインはその都度チョークで書いた。ラインの幅をつくるためチョークを半分におって横に使い、消えにくくするため水で濡らすなど、コートづくりにもひと苦労があった。新しい競技のため、当時の部長の先生方も生徒とともに練習にはげみ、神戸や仙台での大会へも参加している。

一般では、和歌山電気軌道と紀陽銀行が中心となっていたが、やはり高校を主体とした協会であった。昭和30年４月、高校での経験者が中心となり、大日日本電線、東亜燃料、駿河屋クラブが誕生し、同時に和歌山県実業団バドミントン連盟が発足した。同様に社会人や大学のクラブも続いて誕生し、次第に広範囲で実施されるようになった。

昭和34年６月１日、県バドミントン協会設立とその後協会の充実発展に尽力した協会の役員に対し、当時の県バドミントン協会長高垣善一氏より感謝状がおくられた。

翌35年泉惣一郎理事長が日本バドミントン協会から功労者として表彰を受けた。その後、さらに高校、実業団のクラブが誕生し、昭和40年に和歌山県職体連バドミントン大会が開催され、昭和41年には、第１回社会人バドミントン大会が開催された。

昭和43年､昭和46年の国民体育大会が和歌山県で開催することが決定した。その成功をめざし、競技力向上のための取り組み、競技運営のための体制づくりがされていた。

同年11月協会設立後初めての全国大会、第11回全日本社会人バドミントン選手権大会を国体リハーサル大会として有田郡湯浅町で開催、県、湯浅町の支援をうけ大成功のうちに終了することができた。翌44年３月第１回会長杯争奪バドミントン大会を開催、同年４月県教職員連盟発足、また、協会規約を制定するなど国体開催をひかえますます充実された。

黒潮国体編（元吉田理事長記）

昭和45年から本格的な選手強化対策が行われた。教員男子、一般男子、一般女子、高校男子、高校女子の全種別を対象に県内での合宿練習、中央から講師を呼んでの合同練習、県外遠征試合などを重ね、実力アップのため懸命にとり組んだ。それらの練習成果が徐々に実り、着実に実力をつけ選手たちの自信にもつながった。

一方、運営面では、競技審判員、競技補助員の養成、確保、研修等をはじめ会場設営、各県の歓迎準備など目のまわる様な忙しさのなかで、着々と仕事をこなした結果、諸準備も整い昭和46年10月第26回国民体育大会のバドミントン競技が、有田郡湯浅町で開催された。遠来の役員、選手団の歓迎、競技のスムーズな運営のために湯浅町民、協会役員が一丸となってそれに当った。

和歌山県選手団は地元の声援を背に受け、今までの血のにじむような練習成果を生かそうと、あらん限りの力を尽くし頑張った。その結果、高校女子及び一般女子はそれぞれ５位入賞を果たした。さらに教員男子、高校男子チームは、強豪を次々打ち破り両チームとも和歌山初の決勝まで駒を進めた。両チームとも死力を尽くし優勝するため頑張ったが、惜しくも準優勝にとどまった。しかし、この両チームをはじめ、県勢チームの健闘により、バドミントン競技として総合３位という輝かしい成果を収め、黒潮国体の天皇杯（男女総合優勝）獲得に貢献した。

同年、その貢献が認められ、教員男子、高校男子、教員女子（全日本教職員バドミントン大会の成績を認められた）が昭和46年度和歌山県スポーツ賞を受けた。

黒潮国体をおえて

黒潮国体後、それが契機となり県民のバドミントン熱も高まった。そして、選手たちはその後の県外大会においても輝かしい成績をおさめた。

特に、和歌山県教員チームは黒潮国体での準優勝をはじめ、その後２回の優勝と３位が２回という立派な成績を収めた。更に、全日本教職員大会では、団体優勝２回、個人戦においても数多くの優勝、上位入賞を果たした。中でも昭和53年の第17回全国教員大会で男子団体、単、複を制し、三冠王を達成したことは大会史上永遠に残る快挙であり誠にすばらしいことである。

また、社会人・実業団大会で、レベルの高い近畿大会等においても好成績を収め、高校では多くの優秀選手を社会や大学に送り出した。県では、ポスト国体の取組として競技力の向上をはじめ数々の県民スポーツ振興策を打ち出され、わがバドミントン協会もその方針にそって積極的に協力し、バドミントンの普及・発展に努めた。

まず、地域スポーツ振興の要となる指導者の確保のため、スポーツ指導員養成事業等にとりくみ、県下各地域に数多くの新たなバドミントン指導者を得ることができた。そしてその指導者を中心にクラブやグループが育っていった。さらに、スポーツの活性化をめざして県下各地で開設されたスポーツ教室では、誰でも手軽に実施できるバドミントンが数多く採用され、愛好者も増加した。

和歌山県婦人スポーツ連盟が昭和50年に発足したが、スポーツ教室参加者やグループで活動しているバドミントン愛好者に呼びかけ、他の種目とともに当初から連盟の構成団体として活動することとした。そして、昭和57年には和歌山県婦人バドミントン連盟設立、第１回県大会を開催するに至った。

昭和60年代～平成

時には県教職員連盟、実業団連盟は全国レベルの選手を配した時代は去り、また、バブルが弾け長引く経済不況で各企業のリストラが続き、活躍した選手は実業団を去り低迷した時代が永年続くことになる。

他府県と大きく水を開けられ、近畿のおまけと言われ続けてきた本県のバドミントン界が、何とか「追いつけ追い越せ」の合い言葉で昭和62年小学生連盟、平成元年中学生連盟が設立されたが、小子化の進行により小中高生のスポーツ人口が減少するなど、厳しい社会情勢のもとで、実業団チームが再開もできず、暗い道程が長く続くが、夢を失わず前向きに取り組んできた。

平成２年10月第３回全国スポーツレクリェーション祭“スポレク和歌山90”が開催され、年齢別バドミントン競技を、那賀郡岩出町で全国から48チーム432人の参加をえた。翌平成３年からポストスポレクとして年齢別、男女別を男女ミックスの競技方式で県民総合体育大会として平成12年まで続いたが地方自治体の厳しい財政状況のもとで継続は困難として廃止になった。

平成20年８月日韓青少年夏季スポーツ交流事業として、小学生12名、中学生12名、指導者５名が韓国光州広域市へ派遣し、翌平成21年８月　韓国から29名が和歌山市へ来日され、再び小・中学生の交流大会を開催し、国際大会の貴重な体験することができた。将来に繋がる交流の輪を更に広がることを期待したい。

近年まだまだ近畿、日本レベルで活躍まで達していない現状ですが、試合内容から着実に力がついてきている。今日までご尽力頂いた関係諸氏に感謝の念を忘れることなく、目標に向かって懸命に努力して行かねばならない。

全国規模の大会は、平成６年８月８日～11日に、第36回全日本教職員大会（新宮市）平成15年９月20日～22日　日本スポーツマスターズ2003（那智勝浦町）を開催した。

平成23年３月25日～28日第19回全国高等学校選抜大会を和歌山ビッグホエールで開催する。

平成27年９月第70回国民体育大会が和歌山県岩出市で開かれる事が決定し、そのリハーサル大会として、平成26年11月に日本リーグ（２部）の開催を予定している。

地方自治体・企業団体等が厳しい財政にある中、選手育成強化、指導者の配属、公認審判員の増員、大会競技運営等の県、市、協会のそれぞれの分野で検討課題を克服するためしっかり汗を流し大成功させたい。

幸い運営面は教職員連盟の充実したスタッフを中心に、協会岩西理事長の熱い情熱に慕る人材のもとに協会が一致団結し成功に向けて取り組む決意である。

近畿バドミントン協会の今後とも限りないご指導ご支援の程宜しくお願いします。

歴代役員一覧表

年　度	会　長	副会長	理事長	高体連専門委員長	協会事務局長
昭和 24					
25					
26					
27				島田　　実	
28				水崎　　広	
29				吉田　正雄	
30					
31					
32	（初代）		（初代）	上田　忠男	泉　惣一郎
33	高垣　善一		泉　惣一郎		
34				角谷　重雄	
35					
36					
37					
38	（２代）			木坂　　登	宮崎　　熊
39			（２代）		
40	岡本善右衛門		宮崎　　熊		永弘　利之
41					西尾　元祐
42					加山　邦夫
43	（３代）				
44		久保田尚三Ｓ42～Ｓ48			
45	野島　一翁				
46					
47					
48		宮崎　　熊Ｓ42～Ｓ48		佐藤　　博	
49	（４代）				
50					
51	寺西　　清				
52					
53		（兼）	（３代）		
54		吉田健次郎Ｓ53～Ｈ２	吉田健次郎		
55					
56					
57					
58	（５代）			宮本　　稔	吉田健次郎
59					
60	坂口　常博				
61		（兼）			
62		津田　充啓Ｓ62～			
63		宮本　　稔Ｓ62～Ｈ17		山西　節子	
平成 元		松居　茂雄Ｓ62～Ｈ10			
2		（兼）			
3		木津　　乾Ｈ元～Ｈ16	（４代）	森　　隆	宇治田文彦
4			津田　充啓		
5				武藤　隆志	
6					
7			（５代）		
8			木津　　乾		
9					
10					
11	（６代）	荒尾　　寔Ｈ11～		井角　忠彦	武藤　隆志
12	石田　真敏				
13					
14		北畑　達哉Ｈ14～			
15		丹下　皓平Ｈ14～Ｈ21			
16		藪添　泰弘Ｈ14～Ｈ17	（６代）		
17			岩西　壯行		
18					
19		宇治田文彦Ｈ18～		武藤　隆志	武野　宗睦
20		岩橋　憲司Ｈ18			
21					
22					

和歌山県バドミントン協会沿革

※「近畿バドミントン界のあゆみ」に記載した大会成績等は省略した。

年	主　要　事　項
昭和24年	12月21日　和歌山県バドミントン協会発足、日本バドミントン協会に加盟
昭和26年	県高体連バドミントン部発足
昭和30年	和歌山県実業団連盟設立（４月）
昭和36年	会長　岡本善右衛門　就任
昭和38年	理事長（３代目）　宮崎　熊　就任
昭和43年	５月　吉田健次郎理事長就任 ７月　野島一翁会長就任 10月　第17回近畿実業団大会開催（住友金属体育館）　男子団体　住友金属　第３位 11月　第11回全日本社会人選手権大会開催　30歳男子単　松居茂雄（新宮）第３位
昭和44年	２月　県教職連盟発足 ３月　第１回会長杯争奪バドミントン大会開催 ４月　和歌山県バドミントン協会規約制定 第１回近畿総合選手権大会開催　男子単　厚地（住金）第４位
昭和45年	和歌山県バドミントン協会旗製作（図案吉田理事長）
昭和46年	１月　寺西清　会長就任 第26回国民体育大会が湯浅町で開催　天皇杯得点総合第３位　得点６位 教員第２位（森　隆・中西詳味・佐藤光伸）
昭和47年	３月　和歌山県バドミントン協会誌発刊（創立22年のあゆみ） 10月　鹿児島国体教員男子　初優勝　天皇杯得点総合第５位（森・中西・門間）
昭和49年	10月　茨城国体　天皇杯得点総合第５位　得点3.5点 教員男子　優勝（２回目）（門間・武藤・森） 一般女子　第５位（門間・武藤）
昭和51年	佐賀国体教員男子第３位（門間・武藤・山本）
昭和52年	10月　青森国体教員男子　第３位（門間・山本・米山）
昭和54年	４月　坂口常博　会長就任
昭和57年	４月　和歌山県婦人バドミントン連盟発足
昭和62年	５月　和歌山県ジュニアバドミントン連盟発足 近畿総合選手権大会開催
昭和63年	４月　津田充啓　理事長就任
平成元年	４月　石田真敏　会長就任
平成４年	４月　木津　乾　理事長就任
平成11年	４月　岩西壯行　理事長就任 ９月17日　和歌山県バドミントン協会創立50周年記念式典挙行及び記念誌発刊 ９月18～19日　第48回近畿総合選手権大会開催
平成12年	２月　第22回近畿社会人（個人）選手権大会（和歌山県立体育館）開催
平成13年	９月　第10回全国小学生選手権大会 近畿ブロック予選会（兵庫県グリーンアリーナ神戸） ４年生以下女子単　優　勝　中野由美（由良ジュニア） ５年生以下女子単　第４位　宮下渚紗（由良ジュニア） ６年生以下男子単　第３位　北原惇史（高松ジュニア）
平成14年	９月　第11回全国小学生選手権大会 近畿ブロック予選会　（滋賀県野洲町立総合体育館） ５年生以下女子単　優　勝　中野由美（由良ジュニア）

年	主　要　事　項
平成15年	9月　第12回全国小学生選手権大会近畿ブロック予選会開催(会場：和歌山県橋本体育館) 6年生以下女子単　準優勝　中野由美(由良ジュニア)
平成16年	2月　第42回和歌山県スポーツ賞に3年連続輝く スポーツ激励賞　中野由美(由良ジュニア) 4月　県協会長　石田真敏より表彰された 顕彰状　中野由美　功績賞　由良ジュニア指導者
平成17年	2月　第43回和歌山県スポーツ賞に輝く スポーツ激励賞　田村昭男(和歌山colors)･中村一弘(東燃ゼネラル) 4月　県協会長　石田真敏より表彰された 顕彰状　田村昭男(和歌山colors)･中村一弘(東燃ゼネラル) 12月　第14回全国小学生選手権大会(奈良市大和郡山市) 4年以下男子単　第3位　山角太佑(高松ジュニア)
平成18年	3月　第44回和歌山県スポーツ賞に2年連続輝く スポーツ激励賞　田村昭男 (wakayama colors)･中村一弘 (東燃ゼネラル) 4月　県協会長　石田真敏より表彰された 顕彰状　山角太佑 (高松ジュニア)、顕彰状　戎雄大・中村聖太 (由良ジュニア) 功績賞　北原茂 (高松ジュニア監督) 8月　第61回国民体育大会近畿ブロック予選会開催　(会場：岩出市立市民総合体育館) 少年男子　第3位
平成19年	12月　第36回全国高等学校選抜選手権大会近畿大会　(奈良市中央体育館) 女子団体　準優勝　耐久高等学校
平成20年	8月　第12回日韓青少年夏季スポーツ交流事業(派遣)　大韓民国・光州広域市 小学生男女12名・中学生男女12名・指導者5名参加 12月　第3回全日本レディース競技大会　(京都府向日市) 2部B　第3位　早香代･木村恵里(キララ) 第13回日韓青少年夏季スポーツ交流事業　(会場：和歌山市・県立体育館) 小学生男女12名・中学生男女12名・指導者5名参加
平成22年	2月　オリンピアンふれあい交流事業　小学生150名参加 (過去オリンピックに参加者選手が指導) 岩城ハルミ･水井妃佐子･古川静香･森かおり 8月　第65回国民体育大会近畿ブロック予選会(長岡京市西山公園体育館) 少年女子　第4位　近畿ブロック大会から本国体出場は初 9月　トークショー(岩出市立市民総合体育館　小ホール) 講師　小椋久美子
平成23年	3月　第39回全国高等学校選抜大会開催　(会場：和歌山市・ビッグホエール)

第４節　滋賀県バドミントン協会の生い立ちとあゆみ

まえがき

文部省の調査によると、日本のバドミントン競技人口は約100万人、家庭婦人を含めた愛好者は実に800万人、今や第１級の国民的人気スポーツとなってきている。本県も競技人口が爆発的に増加しているのも当然のことである。さて本県協会のあゆみを記すため、その源を遡っていくと、数多くの人々の努力と苦労がひしひしと感じられ、現在の発展の要因が過去に数多く積み重ねられていることが分かる。これらを全て記すことは不可能だが、戦後急速に普及発展した本県協会のあゆみを記してみたい。

萌芽期から成長期へ

昭和24年はじめ頃から協会設立の気運が高まり、各方面に呼びかけ始める。先ず協会の世話役の選考からであるが、わずか５人位では何ともならず、大学生を中心に考えた。会長に藤谷宗順先生、理事長に榎本彦次先生、常任理事に滋賀大学職員の田中多喜造(筆者)とバドミントン部主将。理事にはバドミントン部員と彦根青年学級関係で１名、大津地区では浅野スポーツ店主と粟津中学中島先生等が選ばれた。

また、協会は設立したもののゲームに精通している者が少なく、東京まで自費で講習会に参加した。榎本理事長と田中はラケット１丁が精一杯なのに他府県勢は２～３丁も用意している。ガットを張るにも僅か５から６分位で張り替えるのに比べ、我々は１時間位もかかっている有様で、幼稚そのものであった。翌25年名古屋の国体に初出場したが天井の高いのとコートが６面もあるのに驚かされた。試合中ハイクリアーで返されると感覚が狂い、空振り、当たればフレームショットで、出るものは冷や汗ばかりであった。試合中ガットが切れたとき、相手が愛用のラケットを貸してくれて、恐縮しながらやっとの思いで１点と０点でゲームを終わりほっとした。このような草創期の苦しい思い出が数多く残っている。

こんな事が発奮のもとになって寸暇を惜しんで練習するようになり、25年には彦根において学校の工作室の机などを取り払いバドミントンの講習会を開いた。翌26年には愛好者が増えだしてきた。この年、榎本先生と田中は県体育協会より普及委員に選ばれ、高校・中学は榎本先生が担当、田中は職場及び一般の指導・普及に当たった。お陰でバドミントン競技も、この年から県体のオープン競技として認められるようになった。また、第６回広島国体に一般男子が初めて参加した。27年全国高校総体に彦根工業高・長浜中央高の男子が初参加、28年第８回国体(香川)へは一般男子(大学生を含めてもよい)、一般女子、高校男女と総勢15名が出場した。滋賀勢の力が分からず、第１シード県に１回戦で当てられたが、１－２の成績を出し、滋賀県勢も見直されたことであった。この時の選手には滋賀大職員の川瀬選手・彦根警察署勤務の井上選手、滋賀大生の藤本選手等がいた。この機会にと私は滋賀大クラブ員を連れて伊香高校女子と長浜商工男子を対象に１週間続けて指導を行なったが見る見る成果を上げ、県体には両校とも優勝した事が印象に残ってい

る。昭和28年４月、榎本理事長が一身上の都合により辞任、田中が理事長に選ばれた。会長には大畑文七校長を迎えた。38年には、会長に元彦根東中の校長、彦根体育協会会長の茂木一二先生を迎えた。以下、筆者(田中)の思い出などを上げると、

＊当時滋賀大体育館が市民体育館と併用して建てられ、近畿地区大学体育大会を当番することになった。優勝戦の対甲南大学のとき、最後の１ポイントを痙攣を起こしながら獲得してくれたのが、結城実映選手だったことは忘れられないひと齣である。

＊県総合選手権大会で現在協会役員として活躍中の長浜北高校の田中英明先生と、田中兄弟としてペアを組み優勝したこと。

＊昭和31年兵庫国体(神戸)において、バドミントン競技から旗手が選ばれ、私がそれを努めたことの感激－今もなおラケットを握ることの喜びを味わっているのは、学生時代剣道とバレーボールをやっていたお陰だと思っている。

＊愛媛国体から北海道、静岡、神奈川、東京、新潟、岐阜、兵庫、愛知、福井と10年連続国体参加の栄誉を得たこと。また、この間各府県の施設が年々格段の充実を見せていること。

＊記憶に残る選手としては、川瀬正喜(滋賀大職員、故人)、藤本利光・岡田良雄(学生、中部東海地区学生選手権優勝)、結城実映、井上(故人)、高校男子では村岡・西川・児玉・酒井・中野、同女子では辻・田中・大前等。また、愛知トヨタ自動機械の武田・杉政(長浜商工出身、全日本実業団大会で活躍)等である。

充実期から発展期へ

湖国バドミントン界の黎明期から萌芽期へのあゆみの中で、高体連にバドミントン専門部が27年に加盟、28年の全国大会に男子彦根工、長浜中央高が初出場第８回香川国体に中野智枝(現田中)氏率いる彦根東を中心とした滋賀選抜チームが少年女子で出場した。同年滋賀大学芸学部に、当時学生の田中義勝氏の努力でクラブが設立され、26年頃から同好会として大津市立中央小学校講堂で練習をして、大学開学際に経済学部(彦根)と学芸学部(大津)の定期戦に青春のエネルギーを燃やしたものである。29年６月に市対抗戦が始まり、第１回は彦根市が優勝した。当時活躍した選手では、川瀬氏、中島氏、白子氏、片桐氏、片渕氏、田中多喜造氏等がある。昭和31年初代理事長榎本彦次氏が３代目理事長に再就任され、田中氏はプレーヤーとして活躍を続けられ、国体10回連続出場で日本協会から表彰された。

いよいよバドミントン愛好者も彦根・大津を中心に増加して、近畿実業団大会では31年、32年に連続優勝する皇子山中学校職員チームがあった。県実連未組織のまま県外大会で活躍した愛好者の熱心さが窺がえる。

協会の中心は彦根で、学連と湖北を軸とした高体連であり、近畿高校大会やインターハイで活躍するようになり、37年高岡市の全国大会で花房房子監督の彦根西高女子がベスト８、翌38年鶴岡では男子複で長浜商工の杉政・高木組がベスト８に入り、近畿でも優勝できる技量が備わってきた。また、協会役員も全国的視野で普及拡充に力を入れるようになった。

30年代後半になると、学生時代に優勝経験を持つ者が地元の教職員となって、中・高校の現場で後輩の指導に頑張り出し、県内各地の中・高校でのクラブが相次いで誕生していった。このように全県的な拡がりを見せつつも、バドミントン競技への理解度が低く、学校現場でのクラブ誕生には難産したところも多々あった。

中･高校現場では、辻広之、奥村治八郎、寺田寿、岡林恒夫、北村浤一、花房房子、国領迪則、堀江泉、三宅明、安澤武雄、長尾寿、中川朋子、根来旭、木村孝英、澤長寿等々の諸氏が活躍していた。まさに普及拡大期といえる。昭和39年の第３回全日本教職員大会に本県より寺田、澤が初参加して以来､40年に県教職員連盟が寺田寿氏を責任者として発足した。

41年に茂木会長が急逝され、彦根市体育協会の田原又蔵氏に会長をお願いし、榎本彦次理事長が日本協会常任理事に、４代目理事長に寺田寿氏が就任、氏の呼びかけで久保宏氏、佐藤賢氏を中心に県実業団連盟が41年に結成され、大津市役所、サンヨー、日電高月、ＮＥＣ、東レ滋賀等が加盟し、翌42年に男子は大津市役所、女子は日電高月が初めて第17回全日本実業団大会に出場している。特に大津市役所男子は､62年まで20年間連続出場している。それまでは各事業所のクラブとして独自活動していたのが、協会に加盟するようになってきたのである。

45年に第１回全国中学生大会が開かれるにあたり、長尾寿氏の努力で中体連も協会に加盟してきた。かくして個々に普及拡大してきた各団体も本県協会組織の中に曲がりなりにも加盟し、学連、高体連、教職員、実業団、中体連と５連盟の代表で協会運営が動き出したのである。特に、中体連と教職員連盟の活躍が目立ちだした。

45年第１回全国中学生大会初参加で男子優勝、女子２位､その後男子は47年､48年に連続優勝､女子も51年､53年に優勝と常に全国ベスト８以上の実績を続けている。また、教職員連盟も、和歌山、千葉国体で教員男子が藤上良英、久保田(旧姓藤上)良昌、藤原健二、藤上良信で優勝し、沖縄国体で２位､49年､52年には全日本教職員大会団体、個人戦も優勝と、藤原・藤上兄弟の活躍時代に入る。県スポーツ界もバドミントン競技の活躍に目を見張り、賞賛されるようになった。競技力は一人前になりつつあったが、まだまだ組織運営は弱体であった。



全日本教職員選手権大会　第15回東京大会 優勝

48年に第12回全日本教職員大会を本県で開催し、運営能力も全国に認められるようになり、寺田理事長が51年佐賀国体で日本協会より表彰された｡50年代に入り組織は拡大され選手層が大津市・湖南地区に多くなり、国体開催地に大津市が決まった。協会組織も湖南地域が中心になり、大津市内の中・高校の一貫した選手強化策が組まれるようになった。

45年に協会長が正岡吉三郎氏になり､50年に会長が栗本藤四郎氏に引き継がれ、久保宏氏が５代目理事長に就任、岡林恒夫氏を事務局長にして、事務局を大津高校に置くことになった。久保理事長の努力と土田県立体育館長の好意でチビッ子や家庭婦人のバドミントン教室を開設してもらい、全県的に各年齢層にバドミントン競技が根付き始めた。

52年、一身上の都合で久保理事長が辞任され、６代目理事長に澤(筆者)が就任し高体連専門委員長との兼務が３年間続いた｡54年、全国高校総体の県内開催に向け高体連の強化策も組まれ選



全国高校総体　比叡山高校　初優勝

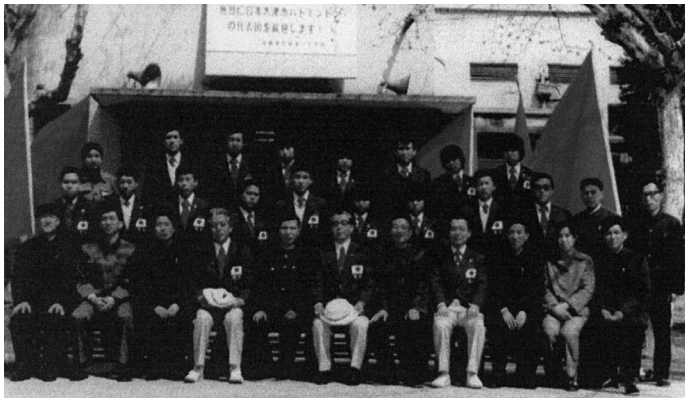


全日本総合選手権大会団体戦　３位入賞

手・監督も燃えてきた時期である。52年藤上良信監督率いる比叡山高校が全国高校総体で初優勝で完全優勝（団体・個人単・複）し、西山博司（日本ナショナルメンバー・60・62年全日本総合大会個人単チャンピオン）が高校の三冠王に輝いた。

以後62年の今日まで比叡山高校のバドミントン競技力は常に全国上位に君臨し、全国優勝６回を数え、全国ベスト４を下ることがない。また全国高校選抜大会では優勝６回、準優勝２回等、国体少年男子では優勝６回等の目覚しい活躍が全国に知られている。（別表参照）全国から有望選手が入学してくるし、藤上監督の息の掛かった選手達が日本の代表選手として世界的に活躍している。藤上監督も55年から日本協会の強化委員に選ばれ、種々の国際大会の日本の監督・コーチとしても活躍している。これらの競技力の飛躍的な進歩は協会員の地道な努力とたゆまぬ研究心の結実であり、「滋賀のバドミントン強し」の印象を全国に与え、湖国の「お家芸」とまで言われるようになってきた。

しかし、実業団に強力チームがないため、滋賀銀行や大津市役所に選手補強をお願いしてきた。県社会人連盟が伊佐恒範氏・横田好弘氏・脇坂重之氏を中心に結成され、県内大会が開かれるようになった。53年８月26日から４日間大津市の県立体育館と大津商業高校体育館とで第21回全日本社会人大会が54全国高校総体・36回国体リハーサル大会として開催され競技役員・運営役員・補助員等1,000余名の動員と選手・監督800余名の参加で盛大に実施され高校総体・国体の運営に向けての自信を得た。同年９月３日に国体近畿予選会を県立体育館で実施し、続いて11月17日から19日まで第25回近畿高校選手権大会を県立体育館で開催し、同時に県内の諸大会を開催して、まさに大会、大会の連続で準備運営に日々多忙を極め、数人の役員は筆者の下宿に泊り込みを続けた。家庭を顧みずとはまさにこのことで、家族には大変な負担をかけた時期だったが、これもまだ序の口で、国体が近づくにつれ益々負担が増していった。



大津市バドミントン選手団中国訪問　中国合肥市第１中校庭

選手強化では過去の実績から見て、一般にバドミントンは全国で勝てる競技と考えられたし、その期待に沿うための努力は一層厳しいものがあった。まさに、全国で勝ち続けるためにどれだけ協会の仲間が一丸となって選手を育てるのに汗したか計り知れない。

血眼の選手強化に応えて、大津市の肝入りで、中華全国体育総会の招きにより、中国各都市を訪問して、少年少



熱烈歓迎　中国選手団大津市親善交流



日本団結団式前

女の友好試合を行い、大津市と中国の友好関係の一段の飛躍を期す計画が具体化して、54年４月４日から18日まで日本大津市バドミントン選手団が中国に派遣された。

団長・大津市教育長中島二郎、秘書長・市教委体育課長伊藤順一(通訳)、総監督・澤長寿、男子監督・藤上良信、女子監督・飯田照男、コーチ・濱久美雄・久保明雄、選手・藤野清・近藤雅明・松井峰生・山本裕幸・馬杉武司・西山祥一・谷百合・藤支芳美・赤井恵美子・幸光知恵・中川都・倉見陽子以上20名、北京、合肥、南京、上海の各都市で大歓迎を受けつつ、大観衆の中で試合をして友好を深めた。世界№１の実力を持つ選手の養成課程や練習方法を学び、中国人のコーチと夜中まで技術について話し合ったことが、今日も本県協会の選手強化に息づいている。

なお、昭和55年に中国からナショナルチームの羽毛球(バドミントン)選手団(15名)を大津に迎え、５月１日親善交流試合を開催できたことは感銘深い思い出である。

54国体・びわこ国体とその後

第30回全国高校総体が54年８月１日から６日まで大津市皇子が丘公園体育館を主会場にして、大津商業高校、皇子山中学校、唐崎中学校、唐崎小学校、各体育館の５会場(26コート)を設営した。６年前から準備に取り掛かり53年からは理事長自ら大津市へ出向して会場準備と役員養成へと努力を重ねた。会場問題ではバスケット競技と競合して何度も調整を繰り返し、大津市が皇子が丘公園体育館を総体に間に合わせるように竣工させて、市中央部、北部でバドミントンの競技会場、宿泊所(雄山荘、ホテルニューびわこ、雄琴グランドホテル、魚国、芳月楼、えり清、みのや、又平、勇楽荘)及び練習会場を配置、団体戦の試合形式が２複３単から２複１単になり新しい歴史が始まった。

開会の前日、前夜祭と30周年記念式典と祝賀会をホテル紅葉で開き、男女団体戦優勝校が持ち回る大優勝旗が日本協会から贈呈された。また、全国高体連バドミントン部の功労者表彰があり、寺田寿、澤長寿が表彰され、学校表彰では15回以上出場校として彦根西高校が表彰された。連日の猛暑の中、参加選手・監督・役員1,400余名、地元役員・補助員等1,000余名の協力を得た大会も関係者の一致協力が開花し、大成功に終わった。地元選手も大活躍し、学校対抗で男子は草津と比叡山が出場し比叡山が準優勝、女子も大津と比叡山が出場し比叡山が３位、個人戦単で西村美千代(比叡山)が３位、磯野恵理子(比叡山)が５位、複で山本裕幸・馬杉武司組(比叡山)、倉見

安世・辻由美子組(大津)、岩見洋子・磯野恵理子組(比叡山)が共に５位に入賞するという偉業を達成した。

10月に宮崎県西都市での34回国体、成年男子が一般の部と教員の部に分かれて実施される最後の年であり、教員の部で藤上良英監督、藤原健二、藤上良信、脇坂重之で３位に入賞した。この宮崎国体は雨にたたられ、開会式も雨、西都原古墳での歓迎前夜祭も雨、台風の影響で飛行機、鉄道、フェリーも欠航して、帰路は陸路を宮崎から昼夜マイカーを走らせた思い出もある。

54年度はとにかく多忙な年だった。筆者は高体連バドミントン部の専門委員長と協会理事長とを兼務していて何事も一手に引き受けることになってしまっていた。54年総体の総括後、皆さんの理解で３年間の兼務生活から解放されて、協会理事長として、びわこ国体の選手強化と準備運営に当たることになり、高体連は新専門委員長に川戸健一氏が選出された。

55年１月に「協会要覧」を発行し、広報活動として「滋賀のバドミントン」を創刊し、協会機関紙として会員相互の交流に役立てるようにした。８月の県体開会式で林一正氏(75歳)がバドミントンの普及と指導者の養成に多大の功績を残されたことで県体協より社会体育功労賞を受賞された。 10月､35回栃木国体では男女総合(天皇杯)で準優勝に、～この時成年女子(複)では準決勝戦で千葉と大接戦中、谷美津代のパートナーの若村弥生があと２ポイントのところで右アキレス腱を断裂してコートにしゃがみ込み、応援団の必死の声援に応えて、ネット前に立ち、パートナーの谷に助けられ勝利を納めた劇的なシーン～、そして決勝戦で東京に敗れはしたが堂々の準優勝、少年男子は決勝で地元栃木と対戦して地元側の大応援団の声援にも動じず、松浦進二、山本裕幸、竹端英夫の活躍で優勝、次年度のびわこ国体に大きな期待を膨らませた。



栃木国体視察団兼応援団一行

11月に第29回近畿実業団大会が大津市皇子が丘公園体育館で開催され大津市役所が始めて準優勝した。

11月24日第１回びわこレディース大会(家庭婦人大会)を大津市皇子が丘体育館で開催した。「いつでも、どこでも、みんなでバドミントン」を合言葉に愛好者の増加を図ると共に､55年に制定された琵琶湖富栄養化防止条例の施行を機会に家庭婦人が琵琶湖を愛し水質を守り続ける心を養う機会にと、大会名と種目名にビューティフル・クリーン・ブルーを配し、湖の碧に白鳥の飛翔はバドミントンのシャトルがコートを飛ぶのにも似て、ママさんの華麗で清く、楽しい大会になるよう配慮した。また知事杯の恵贈と読売新聞社の共催を得て、今日では春は個人戦、秋は団体戦と大きく発展して来た。

56年１月11日県立体育館で第２回日本リーグ開催、入場券の販売と観客動員を意図した興行を企画した最初であった。男子はカワサキ対全日本学生､女子はサントリー対三洋電機のカードで､観客は約1,500人で成功であった。その後日本リーグ開催は57年に県立体育館で､59年に草津市民総合体育館と定期的に開催して愛好者の期待に応えている。また地元出身の選手が活躍しているチームを呼ぶことによって後輩の励みになってきた。主な活躍選手を上げると、サントリーでは谷美津代・西村美千代・磯野恵理子・岩見洋子、ヤマハでは川島直子、ＮＴＴ東京では西山博司、ＮＴＴ関西では保科正博・辻田泰昌、三洋電機では平山美恵子、ヨネックスでは松浦進二等々で全国のトップレベルにいかに多くの県出身者が活躍しているかがわかる。

さて､56年びわこ国体(第36回国体)に向け協会一丸となって、競技運営に、選手化に頑張ってきた成果が見事に開花した。男女総合(天皇杯)優勝、女子総合(皇后杯)優勝、成年男子は４位を獲得、藤原健二監督・西村龍夫・西村金治・北橋進で群馬との３位決定戦で延々３時間余の大接戦を演じ、三笠宮殿下のご観戦中に会場が大きな拍手に揺れたこと、成年女子は準優勝を藤上良英監督・谷美津代・西村美千代・磯野恵理子で昨年同様東京と優勝戦を争い湯木博恵・高岸・月岡と熱戦を展開した。少年男子は藤上良信監督・松浦進二・片岡泰・辻田泰昌で完勝した。決勝戦は山梨とで、ＢＢＣ放送でＴＶ中継され筆者も栂野尾夫妻と解説席で勝利を確信して解説していた。少年女子は濱久美雄監督・平山美恵子・萬宮由美・藤支芳美で健闘して５位を確保した。一方競技運営も審判講習会･補助員養成講習会等を経て余裕を持って運営が出来た。会場設営での大津市の協力も見逃せない。ところで、特筆すべきは皇子山陸上競技場での総合開会式でバドミントンの谷美津代が数日前に父を亡くした悲しみにもめげず、全国の国体参加選手の代表として、堂々と選手宣誓をしたこと、国体記念切手のデザインがバドミントンであること、中国体育総会代表団の観戦等。

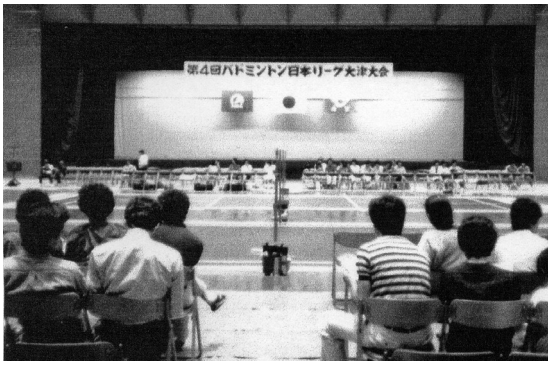


記念切手の発行

しかし、この大成功だったびわこ国体にいたるまでには多くの苦労話もあるし、選手選考の軋轢もあった。筆者が６月中旬に県総合の試合中にアキレス腱を断裂して７月中旬まで大津日赤病院に入院し、妻も56年１月から長期にわたり過労のため入院して、夫婦別々、子どもは親戚に預ける始末で、お互いに看護もできなく、家庭破壊に瀕した。７月始めに、今度は藤上良信監督が大津日赤に疲労困憊で入院、お互いに｢何としてもやらねば｣との意気込みと、多くの人達の理解と支援、仲間の絆と協力に助けられた毎日だった。毎晩遅くまでの選手強化と運営準備に協会常任理事達がよくもこれだけ頑張れたものだと、当時を回顧している。国体で盛り上がった協会委員の熱気は選手強化にも競技運営にも､57年以降も連綿と続いている。

57年長浜の中川文雄・近江八幡の峠勝也・草津の中川安雄・大津の宮崎美恵各氏の努力で第１回の小学生大会が長浜市民体育館で開かれた。

９月には第４回日本リーグを県立体育館で開催し、男子はヨネックス対全日体大、女子は日本電装対全日体大が対戦、西村金治・北橋進・谷美津代がオール日体大の選手として出場して地元観衆を沸かせた。



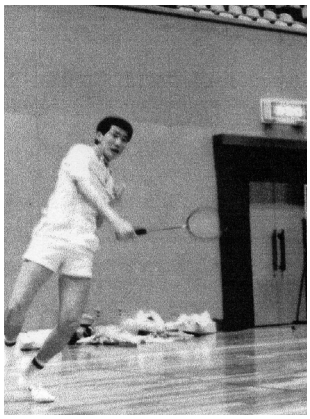
日本リーグ大津大会の開催

57年島根国体も男女総合(天皇杯)優勝、２年連続の快挙である。成年男子は西村金治監督・西村龍夫・増田伊知郎・北橋進で５位入賞。宿舎についてから民宿の歓迎を受けて体調を崩し、選手が点滴を受けながらの健闘だった。少年男子は藤上良信監督・西川勉・辻田泰昌・杉本吉男で苦戦の末優勝、少年女子は濱久美雄監督・磯野佐智子・藤支芳美・赤井恵美子で４位に入る大殊勲、成年女子は西堀武監督・青山寿美・岩見洋子・西村美千代で出場したが、１人の選手資格問

題でクレームがつき、滋賀県の解釈と日本バドミントン協会の解釈が異なり県バド協会としては県体協、県保体課と共々折衝に努めたが結局平行線のままに終わり、やむなく成年女子は競技時刻直前に棄権を通告した。上部団体の圧力に屈した形になったが、選手の将来の選手生命を考慮して一歩譲歩した。しかし、県バド協会の仲間は収まらず、その分多種目の選手監督を奮い立たせ、会場での県役員の応援もひときわ目立った。そして、成年男女、少年男女４種目別の内３種目の大健闘により、男女総合(天皇杯)優勝をなし「してやったり」と会場正面で県役員・監督の胴上げをした感激は記憶に残る。また、民宿の自治会主催の総合優勝祝勝会まで開いてもらい、地元の歓待に感涙したのである。

58年９月には県巡回スポーツ指導で筑波大の阿部一佳氏を招いて競技指導を受けた。11月澤理事長が大津市スポーツ功労賞を受賞した。近畿協会の審判委員会副委員長に花房房子氏が選出され、以後奈良国体等近畿地区で開催される国際大会や全日本大会には河嶋四郎氏と共に滋賀県を代表して審判員として活躍している。

59年３月には第６回の近畿家庭婦人大会が大津市皇子が丘公園体育館で開催され、県家庭婦人連盟が独自で大会を運営できるまでに成長した。４月には社会人や大学生を中心にして滋賀リーグが開催され金海スポーツや羽野健二氏を中心にクラブ対抗のリーグ戦が年間を通して組めるようになった。８月の県体開会式には澤長寿理事長が県体育協会より体育奨励賞を受賞した。９月より県スポーツ会館が開館して強化合宿が組みやすくなった。11月に県協会の副会長で４代目理事長だった寺田寿氏が癌のため45歳の若さで永眠され協会重鎮の一人を失った。12月に近畿協会の指導委員会委員に藤原健二氏・藤上良信氏が選出された。60年４月には澤長寿が近畿協会競技委員の委員長に、藤上良英氏が委員に選出されて、近畿協会主催の各種大会に競技委員として活躍している。61年11月に近畿実業団大会で東レ滋賀チームが初優勝を成し遂げ、地元の実業団チームも徐々に力をつけてきた。


松浦進二選手

50年頃から着々と強化指導法を組み立て組織化して10年、ここに本県協会の優秀な選手育成指導陣によって中・高校時代育てられた地元出身の若い芽がついに全日本のトップに君臨するまでに育ってきた。西山博司(逢坂小－打出中－比叡山高－中央大－ＮＴＴ東京)が56年に複・60年・62年にシングルスチャンピオンに、松浦進二(南郷中－草津高－法政大－フジチュウ)が58年・60年・62年に複・61年に単・複のチャンピオンになり、今では日本代表選手として世界選手権や全英選手権、アジア選手権、カナダオープン、トマス杯、ヨーロッパオープン、日中、日韓等々の各種国際大会に出場して活躍している。

バドミントン競技は1988年(63年)のソウルオリンピックではエキシビジョン競技だが、1992年(Ｈ４年)スペインのバルセロナのオリンピックでは正式競技に入る。62年度の日本ナショナルチームの中に西山博司・松浦進二・辻田泰昌・江藤裕樹・西村美千代の５名も入り、日本代表として国際大会に出場しているが、韓国・中国が強敵である。

昭和59年(1984年)寺田寿元理事長急逝、日本リーグを草津市で開催、第1回滋賀リーグ戦開催、全日本社会人で西山博司男子単優勝、全日本教職員男子団体優勝、西村龍夫男子単優勝、全日本学生複松浦進二優勝、全英選手権に松浦、西山、日中学生交流に辻田泰昌派遣される。全国高校総体で比叡山優勝、奈良国体で少年男子優勝、高校選抜で比叡山優勝(４連勝)男子単江藤裕樹優勝。

昭和60年（1985年）大津市で第34回近畿実業団大会開催。全日本総合で西山男子単優勝、全日本社会人大会も西山男子単優勝、全日本学生で松浦進二が単複優勝、第4回世界選手権に西山、松浦、西村美千代が派遣、全国高校総体で女子単で北浦道代が優勝など日本のトップ大会や世界の大会で本県選手が活躍している。

昭和61年（1986年）全日本総合で松浦進二が男子単複優勝、トマス杯に西山博司、松浦進二派遣、ユーバー杯に平山美恵子派遣、アジア大会、日韓大会に日本代表で西山、江藤、辻田の３選手が出場。香港中国オープンに日本代表の西山、松浦組ベスト８、７月マレーシア、インドオープンに西山、松浦組派遣。８月第37回インターハイ比叡山高校優勝、個人単、山口哲浩（比叡山）３位。

昭和62年（1987年）世界選手権に西山、松浦、江藤が派遣される。１月台北オープンに松浦、江藤が日本代表で参加、日韓ジュニア交流大会に藤上良信監督、鈴木草麻生が派遣、第２回近畿ジュニア大会滋賀県開催、２月７日近畿バドミントン協会規約改定実施。日本ナショナルチームに男子は西山、松浦、江藤辻田、女子は西村、平山が選出された。３月全英大会日本代表に西山、松浦、江藤が選出される。全日本総合男子単複西山優勝、全日本学生で男子単複で辻田泰昌が優勝、全日本社会人複松浦優勝、全国高校選抜比叡山優勝、男子単鈴木草麻生優勝、全国高校総体比叡山優勝（２連勝６回目）沖縄国体で少年男子優勝。

昭和63年（1988年）世界選手権、全英選手権等に西山博司・松浦進二・江藤裕樹が出場。全日本総合で松浦は単、複で優勝。日本のトップとしてソウルオリンピックで５位入賞本県選手が世界で活躍している。全日本社会人で西山が男子単複で優勝、全日本学生では辻田が男子単複で優勝、北浦が複で優勝、全国高校総体で中橋一晃・飛来肇組が優勝。日本中国青年友好試合に鈴木草麻生が派遣される。

昭和64年・平成元年（1989年）全日本総合で松浦が男子単優勝、複準優勝、全日本社会人で西山が男子単優勝、複準優勝、全日本教職員で杉本吉男男子単で優勝。

平成２年（1990年）全日本総合で松浦は単複で優勝、混合で早戸敏雄優勝、全日本社会人で男子単で江藤裕樹優勝、複で松浦進二優勝。

平成３年（1991年）第２回全日本都市職員大会が大津市で開催された。この年石川国体で西村龍夫が国体10回出場で表彰された。ワールドカップ松浦・松野４位、全日本総合で松浦単準優勝、松浦・松野複で優勝、混合で辻田優勝。

平成４年（1992年）バルセロナオリンピックに松浦進二出場、第１回日中ジュニア交流で日本代表藤上良信監督、多久島誠、杉岡拓弥（比叡山高）出場、第１回世界ジュニアで監督藤上良信、多久島誠ほかがジャカルタへ派遣。

平成５年（1993年）全日本総合で松浦複優勝。

平成６年（1994年）第49回愛知国体が大府市で開催、少年男子優勝、バドミントン顧問ドクターに藤田義嗣氏、前野幹幸氏依頼。ヨーロッパ遠征に松本徹（比叡山高）、日中韓ジュニア交流で韓国へ、日本監督として藤上良信が派遣、全日本総合で男子複江藤裕樹優勝、全国高校選抜で男子単酒井将之、複酒井・中島篤（近江兄弟社高）優勝。

平成７年（1995年）第50回福島国体が白河市で開催、少年男子優勝。全国高校選抜で男子単で松本徹が優勝、全国小学生大会５年男子複で山口・早川（坂本スポ少）が優勝。

平成８年（1996年）全日本ジュニア大会で澤憂妃(日吉中)が女子単で優勝、日中韓ジュニア大会に勝嶋梨絵（比叡山高）が派遣された。

平成９年(1997年)日本ジュニア代表に稲垣翔悟(比叡山高)が選出される。アジアジュニア選手権に勝嶋梨絵(比叡山高)上田絵美(滋賀女子高)をマニラに派遣。全国小学生大会男子５年単早川賢一(坂本スポ少)が優勝。藤上良信(比叡山高教員)が日バ選手強化委員に就任。10月大東市で第52回大阪国体開催。なみはや国体に帯同ドクターに前野幹幸氏依頼。少年男女が５位。

平成10年(1998年)５月10日水口町民体育館で第１回県スポーツレクリエーション大会(年齢別バド大会)開催。10月４日から６日岐阜県各務原市で第11回全国スポレク年齢別バド大会に滋賀県選抜が参加。アジアジュニア選手権に松本紘二・稲垣翔悟(比叡山高)をマレーシアに派遣。全日本ジュニア大会で山口公洋(日吉中)優勝、全国中学生大会で女子復多谷郁恵・早川由希子(日吉中)優勝。

平成11年(1999年)第18回ヨーロッパ遠征日本代表監督藤上良信、選手稲垣翔悟(比叡山高)派遣、アジアジュニアに稲垣をミャンマーに派遣、日中韓ジュニア交流に稲垣・谷口斉(比叡山高)派遣、全国高校選抜で男子複稲垣翔悟・谷口斉(比叡山高)優勝、全日本ジュニアで男子単優勝稲垣翔悟(比叡山高)、全国中学生大会男子団体日吉中優勝、男子単山口公洋(日吉中)優勝、男子複辻田嘉明・早川賢一(日吉中)優勝、12月栗本会長急逝。



全国スポレク年齢別大会　東近江市

平成12年(2000年)澤長寿理事長が会長代行を務める。第19回ヨーロッパ遠征日本代表監督藤上良信、選手稲垣翔悟(比叡山高)出場。アジアジュニアに日本代表で監督藤上、選手榎本良永・山口公洋(比叡山高)、早川早希子・多谷郁恵(滋賀女子高)派遣される。全国高校総体女子団体滋賀女子高優勝、全国高校選抜で男子単榎本良永(比叡山高)優勝、団体準優勝、滋賀女子高準優勝、全国中学生大会男子団体日吉中優勝、男子単数野健太(日吉中)優勝、全国小学生大会４年男子複矢部拓也・村上毅、男子単宇野賢人(坂本スポ少)優勝。

平成13年(2001年)３月３日理事会で澤長寿会長、谷英明理事長選出決定。３月27日から29日千葉市ポートアリーナで第１回全日本中学生選手権大会が開催され滋賀県が優勝。

平成14年(2002年)10月南国市で第57回高知国体時に日バから澤会長功労表彰受ける。第21回ヨーロッパ遠征に監督藤上良信、選手山口公洋(比叡山高)、多谷郁恵(滋賀女子高)派遣される。第２回ミロジュニアインドネシアオープンに数野健太(比叡山高)、垣岩真未(滋賀女子高)派遣される。アジアジュニアにマレーシアへ監督藤上良信、選手山口公洋(比叡山高)派遣される。第７回世界学生バドミントン選手権がポーランドで開催、女子複で上田絵美・松尾美穂子が３位、全日本学生女子単準優勝多谷郁恵、全国小学生５年複優勝矢部拓也・村上毅(坂本スポ少)。

平成15年(2003年)８月23日から29日韓中日ジュニア交流競技会に日本代表で数野健太(比叡山高)出場。8月17日から30日シンガポール、マレーシアオープン大会に松本、川口が日本代表で参加、10月25日から29日日韓高校交流競技会に日本代表で垣岩真未(滋賀女子校)出場。10月26日から29日、静岡県富士宮市で第58回国体開催、少年男子優勝(数野健太、早崎修平、早川賢一)、男女総合(天皇杯)第７位入賞。11月坂出市の第16回全国スポレク香川大会に出場。日本ナショナルチームに数野健太(比叡山高)、多谷郁恵(滋賀女子高)選出される。11月30日、日本ＩＢＭ健保体育館で第１回県シニア選手権大会を開催。

平成16年(2004年)１月24､25日滋賀県立体育館で第1回近畿シニア選手権大会(近畿総合シニア部を分離)開催。U19に早川賢一(比叡山高)、U16に垣岩令佳(日吉中)選出、日韓大会に出場。第59回埼玉国体で少年男子３位、男女総合６位入賞。

平成17年(2005年)２月14日から３月１日ヨーロッパジュニア交流競技会(オランダ・ドイツ)に早川賢一(比叡山高)出場、３月13日第１回びわこシニアオープン年齢別バドミントン交流大会が長浜市民体育館で開催。４月23日近畿バドミントン協会規約一部改正。９月22日県立体育館で第１回マザーレークフェスティバル大会実施｡10月第60回岡山国体で少年男子３位、成年男子・少年女子５位、男女総合５位入賞｡11月県教育長あて｢バドミントン競技の普及発展に係る要望書｣を提出。

平成18年(2006年)10月１日からバドミントン競技規則新ルールが開始された｡10月14日､15日、彦根市民体育センターで第55回近畿総合バドミントン選手権を開催。

平成19年(2007年)５月31日から７日間第11回日韓スポーツ交流事業成人交歓交流で日本選手団は青森県、滋賀県(陸上、テニス、バドミントン)175名でバドミントンは、澤会長、谷理事長他全18名が韓国蔚山広城市､ソウル特別市を訪問韓国チームと交流試合をした。９月14日から18日、野洲市総合体育館で日本スポーツマスターズ2007びわこ大会を開催｡……(日韓)

平成20年(2008年)８月23日､24日第63回国体近畿ブロック大会が滋賀県立体育館で開催、成年男子・少年男子が１位、成年女子は４位､10月18日から21日、東近江市布引体育館にて第21回全国スポーツレクリエーション祭バドミントン競技が開催された。

平成21年(2009年)１月10日､11日大津市皇子が丘公園体育館で第１回全国バドミントントリプルス選手権大会が日本バドミントン専門部主管で開催､10月16日から22日、大津市、草津市で第60回全日本学生選手権大会開催。

世界で活躍できる次代の選手達も次々本県で育ち、世界に羽ばたき、金メダルに輝くことを夢見つつ、協会組織の益々の充実と発展を祈念しながら、協会史としてはまだまだ充分な記述ができなかったことを陳謝して筆をおく。

(澤　長寿)

第５節　兵庫県バドミントン協会の生い立ちとあゆみ

第１章 兵庫県協会創設期

【 第１節　第４回国民体育大会参加 】

昭和24年は兵庫羽球史にとってはまさに胎動の時期で各地にクラブ活動が活発化し、前述の尼崎地区に加え、神戸地区では親和学園や星陵高校が活動を始めており、また西部地区では加古川で動きがあったと伝えられているが詳細は定かでないのが残念である。

大圃秀生が在校する星陵高校では陸上競技部員であった同人が時間と場所を見つけては校内で同期の坂崎洋太郎や陸上競技部員であった米田喜一郎らに手ほどきを始めていた。そのうち国体に出場しようではないかと云うことになり何の組織もないまま、兵庫県庁教育委員会体育課にお百度を踏みバドミントン競技の歴史や競技の醍醐味などを説明した。特に水谷一は大変興味を示し、レクリエーションスポーツとしても十分普及が計れると判断し、大圃の話をよく聞いた。
その甲斐あって他に同好者はいないか、国体参加希望者はいないか調査の上、誰もいなければ大圃、坂崎、米田を国体に参加させてもよいと云うことになった。

そこに、この当時からバドミントン用具について、或いは同好者の発見に非常な力を尽くされたのが、新開地三角公園前にあった杉岡運動具店の杉岡社長であり、店員の諸氏であった。杉岡社長からは沼田常一(神教委)、菅沼洋逵(神戸掖済会病院医師)、海邊實(園田学園教員)を紹介され、さらに山本孝二(自営業)に連絡が付き、川口清(大阪YMCA体育主事)への繋がりとなった。これらの人々が後の兵庫県協会設立に大きく寄与することとなった。

国体への参加については結局、星陵高校生、大圃秀生、坂崎洋太郎、米田喜一郎の３名のみが参加し兵庫県バドミントン代表選手の第１号となった。しかし結果は惨たるもので、以後国体初勝利まで丸２年を要する事となった。

この第４回国体は東京で開催され、バドミントン競技は公開競技として初めて国体に登場し、男子単・複、女子単・複の個人戦４種目のみであったが、日本のバドミントン界において大きな意義があったと思う。すなわち、１つはバドミントン競技を世に広く紹介出来たこと(前年は一部プレーヤーによるデモンストレーションゲームのみであった)、２つにはこの大会を機に各県のバドミントン協会が急速に多く誕生したこと、３つには都道府県間の交流試合が始まり技術の向上が目覚ましくなったことなどである。

【 第２節　協会設立の動き 】

国体から帰神した３選手は、その後新築の神戸ＹＭＣＡ体育館で体育館オープン前の２月くらいから練習するようになった。また杉岡スポーツ社長には安いシャトルコックや手に入りにくいシープガットなどを八方手を尽くして入手して頂いた。当時シャトルコックは陸鳥(主として鶏)ガットは牛筋、鯨筋やシルクでよく切断した。体育館ではＹＭＣＡ体育部員数人と親和学園高校の生徒が来始めていた。

昭和25年にはいると直ぐ、星陵高校は神戸市役所の挑戦を受け、１月12日に兵庫小学校講堂でダブルスのみ11点先取１ゲームのみの交歓試合を行った。結果は星陵が７－１で圧勝したが市役所軍もなかなかの善戦であった。おそらくこれは神戸市内戦後初の試合であったろうと思う。

１月14日には全日本東西対抗の予選と云うことで大圃・坂崎組が大阪ＹＭＣＡに出向いて戦ったが、決勝で大阪府の高谷・多田組に敗れ東西大会出場は出来なかった。しかし考えてみると当時の選手選抜もおおらかなもので、選手登録もなく、協会もない兵庫の選手に声をかけてくれるなど現在では想像もつかない出来事であった。しかし、この東西対抗予選会が縁で大阪対神戸の対抗戦を行うことになり、この対抗戦がそのまま全大阪対全兵庫対抗戦に発展していき、やがては近畿大会へと大きく飛躍することになろうとはこのとき誰も考えていなかった。そして又、大阪協会の川口清から早く兵庫県協会を設立せよと云う大命題にもなった。

大阪（大阪Ｙ主力軍）対神戸（神戸Ｙ、神戸市役所、親和学園主体）の第１戦は３月19日に神戸Ｙで行ったが実力の差はどうしようもなく８－１で敗れた。

【 第３節　兵庫県協会設立準備委員会の発足 】

３月には神戸ＹＭＣＡバドミントン部はまだ正式には発足していなかったが、体育館には色々な企業や学校の個人が集まって練習するようになっていた。３月も末に近いある日、後の兵庫県バドミントン協会にとって最も重要な役割を果たす人物が登場した。高倉正治、まだ30才前の新進気鋭の偉丈夫である。高倉は３月末に神戸ＹＭＣＡ体育主事に着任するやバドミントンに大変な興味を持ち、常にバドミントンの練習時間には顔を出し一緒にプレーした。また、ＹＭＣＡの繋がりで大阪Ｙの川口清とも親しく、ＹＭＣＡという公的民間団体の指導者という公平な立場からも、兵庫県バドミントン界育成のためリーダーとして最適な人物を得たと云っても過言ではあるまい。

４月初め県教委体育主事水谷一は全但馬地区へのバドミントン普及を計画し、関西学院大学に入学したばかりの大圃秀生を同道し、豊岡を皮切りに、城之崎、浜坂、湯村、和田山各地区を一週間かけて講習して回った。いずれの会場も学校の先生や青年会のリーダーを中心に非常な熱の入れようで、一生懸命コーチした清々しい青春の一こまとして大圃は未だに忘れ得ないと云っている。水谷は学校、職域、家庭を通じて最も良いレクリエーションとして最初からバドミントンに注目し、その第一歩がこの全但地区普及会となった。また、４月に正式にオープンした神戸ＹＭＣＡ体育館には市内の社会人達が大勢集まり毎日フォークダンス、バスケットボール、卓球、撓い剣道、バドミントン等に心地よい汗を流していた。

前述した大阪ＹＭＣＡとの対抗戦も回を重ねるごとに参加者も増え、ＹＭＣＡ会員ばかりでなく広く兵庫県対大阪府の対抗戦の様を呈してきた。

そして大阪協会川口からは矢のような兵庫県協会設立の催促がなされていた。この時期、高校男子は星陵高校、高校女子は親和学園高校が圧倒的に人数も多く、また強かった。一般は神戸地区では神戸ＹＭＣＡ体育部員を中心に兵庫県庁、神戸市役所、ビオフェルミン製薬、神戸工業などのプレーヤーが練習していた。

これを見ていた高倉は、ＹＭＣＡ体育部が中心になって講習会を開く計画を立て、同時に、協会設立の準備が始められれば幸いと、昭和25年６月19日に「バドミントン普及会」と銘打って講習会を開催した。60人からの人たちが集まり熱心に講習を受けた。簡単なバドミントンの歴史とルールの紹介と基礎打ちが主体であったが、最後に希望者でゲームを楽しんだ。終了に際し、高倉が兵庫県バドミントン協会設立の準備を進めたいと希望を述べたところ大半の参加者が残ってＹＭＣＡの教室で準備委員会発足の手続きを取った。最終的に高倉正治を準備委員長に県庁から水谷一、市役所から沼田常一、阿部吉治、園田学園の海邊實、社会人から山本孝二、加賀幹雄、菅沼洋達、学生から大圃秀生の９名で準備を進めることになった。

【第４節　兵庫県バドミントン協会設立】

準備委員会は発足したが何から手をつけ、どのようにしていけば良いのか皆目検討がつかない。

高倉と大圃は毎日のようにＹＭＣＡで顔を突き合わせては会則の内容の検討や運営の方法、役員の人選まで、お互いに始めての事であり知恵をしぼったがなかなか良い紋ができない、ただなんと言っても二人とも若かったので体力で勝負していた。結果的には、会則は県バスケットボール協会会則を土台に作成し、運営方法については大阪協会の川口清理事長に助言を多々仰いだ。

最後まで決まらなかったのは会長人事であった。神戸Ｙ総主事の本城敬三に依頼したところ当時の神戸銀行頭取　岡崎忠が会長を受けるなら自分は副会長を受けると言われ、本城総主事は岡崎頭取との折衝に入ったが、岡崎は当時幾つかのスポーツ団体の役職を受けていてなかなか「ＹＥＳ」の返事がない。その中に日はどんどん経ち、県からは７月末には第５回県体育総合大会を開催するのでその中にバドミントンも組入れるからとの連絡があり、急遽その準備にも追われることになった。準備委員会は数度開いたがいつも出席できるのは高倉と大圃の二人、あとのメンバーは出席できたり出来なかったりで、だいたい４人～５人くらいで準備した。何しろ県協会の無い競技種目を開催しようと云うのであるから種々無理がある。一番困ったのは競技主管団体の会長、理事長未定と云うことだった。やむを得ず臨時に発起人の中心である高倉を理事長、競技経験の深い加賀を常務理事でプログラムを作成した。そして昭和25年７月30日県総合体育大会バドミントン競技会が開催された。出来る限り多くの人に優勝を味わってもう事にし、一人一種目出場を条件とした。

大会は主催者側の不手際が多々あったにもかかわらず全員が楽しくゲームを楽しんでくれた。

当時神戸ＹＭＣＡの体育館では三面しかコートがとれなかったので夕方遅くまで競技が行われた。参加団体14、参加人数89人という盛会であった。そして大会終了後、神戸ＹＭＣＡ教室で準備委員をはじめ各学校職域の代表１～２名が参加して兵庫県バドミントン協会発会式並びに第１回総会を開催した。席上、高倉から設立の趣旨、会則案の説明、会長副会長を除く役員（理事長、理事、評議員）案が説明されいずれも満場一致で可決され、ここに兵庫県バドミントン協会が正式に発足した。昭和25（1950）年７月30日であった。

当日決議された事項と初代の役員名を記しておく。

議事１．協会役員任命の件

満場一致で可決。

会　　長　岡崎　　忠　（神戸銀行　頭取）…就任依頼中

副会長　本城　敬三　（神戸ＹＭＣＡ　総主事）…就任依頼中
理事長　高倉　正治　（神戸ＹＭＣＡ）
理　事　加賀　幹雄　（一般・三菱倉庫）　阿部　吉治　（実業団・神戸市役所）
山本　孝二　（一般・自営業）　沼田　常一　（実業団・神戸市役所）
菅沼　洋逵　（一般・医師）　海邊　　實　（学校・園田学園教員）
山本　正之　（実業団・兵庫県庁）　塩見　重雄　（学校・加古川西高教員）
山本　義男　（実業団・兵庫県庁）　大圃　秀生　（大学・関西学院大学）
黒田　敏郎　（実業団・兵庫県庁）　＊伊藤　　豊　（実業団・扶桑金属）
水谷　　一　（実業団・兵庫県庁）
＊伊藤豊氏を実業団理事として推薦追認する動議が提出され直ちに承認。

議事２．協会規約作成・発効の件
理事に一任し、昭和25年７月30日発効を満場一致で可決
議事３．バドミントンの普及・振興の件
具体案作成を理事会に一任することを可決。
議事４．日本バドミントン協会への加盟の件
即日加盟を満場一致可決。
議事５．第５回国体の件
国体参加は満場一致で可決。
代表選手選抜予選会については理事会に一任。

初総会で以上の議事を無事、和やかな内に可決、”さあ、やるぞ”という意気込みをもって閉会となった。この数日後、本城総主事の熱心な薦めで、本城が副会長をつとめると云うことで岡崎頭取もついに会長就任を承諾され、８月初旬には無事に会長に岡崎忠、副会長に本城敬三が就任して完全に協会体制は整った。

【第５節　兵庫県協会初年度（昭和25年度）】

総会で議決されていた普及推進プログラムの第１は、当時黄金期にあった慶應義塾大学バドミントン部の選手を招いて最高レベルのバドミントン競技にふれ、また、プレーや審判の指導を受けることであった。　幸い加賀幹雄、山本孝二とも同大学バドミントン部ＯＢであったことに加え、丁度夏期休暇時期であったので直ちに話しが纏まった。宿泊費・滞在費は兵庫県協会、旅費は慶大バドミントン部負担と云うことで決定した。

９月22日、森友徳兵衛監督以下六角勉、三橋両先輩小宮淳宏、藤井光男、前田鑑二、戸田、中沢の各現役選手が来神した。とくに小宮、藤井の両選手は全日本のトッププレーヤーで素晴らしいプレーを見せてくれた。当時、兵庫県は勿論近畿地区の選手達はごく僅かの選手を除き、全日本級のプレーを実際に見るのは初めての人達ばかりであった。この全慶応軍に在神の山本、加賀の両ＯＢが加わり、阪神連合、全兵庫、全神戸と親睦･指導を兼ねた対抗戦を行ったが全敗であった。僅かに関西のトップレベルの数人が慶応ＯＢ選手に個人戦で勝ったのみであった。

全慶応軍の残してくれたものは単に競技技術的なことばかりでなく、競技規則の説明や審判技術なども指導してくれて大変有意義であった。また彼らの滞在中に第５回国体の県予選会を開催

し実地に審判技術を学んだのは大きな収穫であった。

この第５回名古屋国体からバドミントンは天皇杯得点に加算される正式競技種目となり、一般男子、一般女子、少年男子の３種目が、各種目１複２単で行われた。

10月７日には第１回近畿高校個人選手権が開催され男子は３回戦で敗れたが女子は竹田絹代・安岡並子組が複で優勝し気を吐いた。

11月には第１回全日本学生選手権大会が横浜で開催され15大学74選手が参加し、関西以西からは岡山大３名と関学大１名（大圃）の３名であったが大圃がベスト16に残り頑張ったのみで関西以西の立ち遅れを痛感した。この時全日本学生バドミントン連盟が創立され（1950年11月23日）関学の大圃が西日本代表として初代の副委員長に任命されたが、これが２年後に兵庫県協会初の全国大会を主管するきっかけとなった。

12月１日には近畿ブロック協会が設立され、第１回近畿選手権大会が神戸ＹＭＣＡで開催され、県協会設立僅か４ヶ月の兵庫県は13種目中８種目に優勝し、併せて総合優勝にも輝いた。

昭和25年から昭和26年にかけては兵庫県のみならず近畿各府県、或いは中・四国方面でも動きが活発となり昭和26年早々には第１回関西選手権大会（第２回からは西日本選手権大会と名称が変わり、第10回まで行われ発展的解消した）高松市で開催され、兵庫県からは約20名の選手が参加したが少年単に米田喜一郎、武田一徳（共に星陵高）が３位に、複に武田一徳・内田吉彦組が準優勝したにとどまった。

３月には当協会初年度総決算として第１回兵庫県選手権大会（現兵庫県総合バドミントン選手権大会）を２日間かけて開催した。

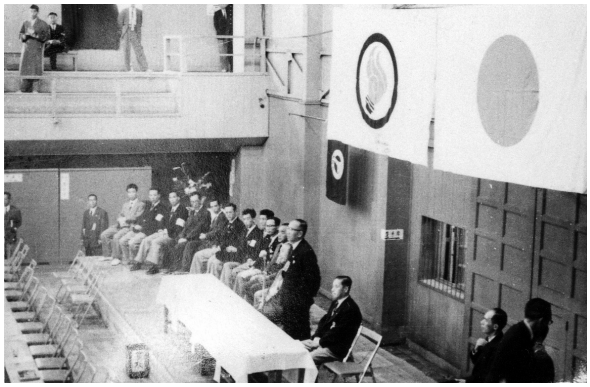
この様にして兵庫県協会は設立初年度より多彩なプログラムに参加し、大会を開催する一方中央、地方の各連盟や協会の役員として活躍するなど基盤を築き始めたのである



前列左から阿部理事、高倉理事長、河合理事、本城副会長、
後列左から西本理事、池田理事、大圃理事、伊藤理事（昭和30年）

若き日の今井会長と武田一徳
中山手にあったＹＭＣＡ玄関前で

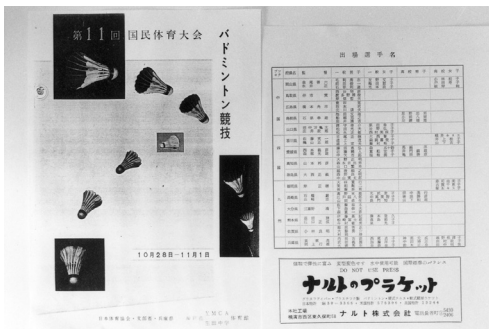




第11回兵庫国体　バドミントン競技の開会式で歓迎の挨拶を
行う本城県協会副会長



兵庫県男子選手団



第11回兵庫国体のプログラムと選手名簿



第11回国体を無事終了して

第６節　昭和26年度以降のあゆみ

※「近畿バドミントン界のあゆみ」に記載した大会成績等は省略した。

年	月	主　要　事　項
昭和26年(1951)	１月	第１回関西選手権大会(翌年西日本選手権大会に改称、第10回まで継続したが発展的解消)の開催。少年単３位　米田喜一郎、武田一徳、少年複準優勝　武田一徳・内田吉彦
	12月	第１回兵庫県実業団バドミントン選手権大会を開催。参加６チーム(２複３単)
昭和27年(1952)	１月	第２回西日本バドミントン選手権大会(松江市) 少女単　優勝　西尾貞子(親和学園高)、青年複　３位　坂崎洋太郎・大圃秀生(関学大)
		兵庫県高等学校体育連盟バドミントン部を設立。
	５月	第５回全日本バドミントン選手権大会(奈良県天理市)　少女単３位　西尾貞子(親和学園高)
	10月	第７回宮城国体(仙台市)で、県協会設立２年３ヶ月目の初優勝。 高校女子優勝　西尾貞子・関一子・小笠原美津子(以上親和学園)・廣瀬延子(湊川女子高)
	11月	11月21日～25日　初めて、県協会主管の全国大会を開催する「第３回全日本学生・第２回全日本大学バドミントン選手権大会・第２回学生東西対抗バドミントン大会」 女子単優勝　早瀬治子(神戸大学)、女子複優勝　早瀬治子・田中弘美 (神戸大学)
昭和28年(1953)	１月	第３回西日本バドミントン選手権大会(京都府)で、13種目中、５種目に優勝。
	５月	第６回全日本バドミントン選手権大会(新潟市)で、少女単　優勝　西尾貞子(親和学園高)。
昭和29年(1954)	１月	第４回 西日本バドミントン選手権大会(福山府) 少年複　優勝　佐々木忠勝・橋本、青年複　準優勝　武田一徳・内田吉彦(関学大)
	12月	**兵庫県学生バドミントン連盟を設立(12月６日)。**
昭和30年(1955)	１月	第５回 西日本バドミントン選手権大会　青年複優勝　馬塚邦彦・池田　治
	６月	第11回国体準備を兼ね、第６回全日本高校選手権大会を神戸市で開催。
昭和31年(1956)	10月	第11回兵庫国体　一般男子　念願のベスト８入りを果たす。 一般女子　惜しくも３位(西尾貞子、金森奎子、加藤洋子)。
昭和34年(1959)	４月	**第２代理事長に河合満氏(親和学園教員)が就任。**
	12月	12月４日、創立10周年記念大会を、神戸ＹＭＣＡに於いて開催。
昭和39年(1964)		兵庫県中学校体育連盟バドミントン競技部を設立。
昭和40年(1965)	４月	**４月１日、兵庫県実業団バドミントン連盟を設立。**
昭和42年(1967)	６月	**６月14日、兵庫県教職員バドミントン連盟を設立。**
昭和44年(1969)	４月	**第２代会長に今井鎮雄氏が就任。第３代会長に吉持節夫氏が就任。**
昭和46年(1971)	２月	２月22日、第２代理事長 河合　満氏　御逝去。
昭和50年(1975)	３月	３月２日、県協会創立25周年記念行事を開催 (神戸市立中央体育館にて記念式典･競技会)。
昭和51年(1976)	４月	**４月22日、兵庫県家庭婦人バドミントン連盟を設立。**
	８月	第15回全日本教職員バドミントン選手権大会で、 50歳以上男子複優勝　吉持節夫、50歳以上男子単３位　吉持節夫(52･53年も連続３位)
昭和55年(1980)	４月	４月12日、創立30周年記念行事を開催。(貿易センタービルにて記念式典・祝賀会) **創立30周年を記念して、兵庫県バドミントン協会旗を制定。**
昭和56年(1981)	７月	第３回全日本家庭婦人バドミントン大会を神戸市で開催。西宮クラブが準優勝。
昭和57年(1982)	４月	**４月１日、兵庫県社会人バドミントン連盟を設立。**
	８月	第33回全国高等学校バドミントン選手権大会で、男子団体 ３位　市立尼崎高
	12月	第１回オールジャパンジュニアバドミントン大会で、男子複３位　佐藤　浩・松本泰典、男子単３位　佐藤　浩、女子単３位　小泉陽子　以上３名は、ヨーロッパ遠征へ。
昭和58年(1983)	８月	第34回全国高等学校バドミントン選手権大会で、 男子単３位　佐藤　浩(市立尼崎高)、女子単準優勝　小泉陽子(園田学園高)
	10月	第38回国民体育大会(群馬県桐生市)で、 少年男子準優勝 佐藤　浩〈市立尼崎高校)、松元泰典〈市立尼崎高校)、村山喜洋〈三田学園高校)

年	月	主　要　事　項
昭和60年(1985)	３月	第３回兵庫県ジュニア選手海外遠征を実施(台湾)。
	８月	第34回近畿中学校総体　男子複優勝　田代浩一・三宅恒久(啓明中学校) 女子複優勝　吉田悦子・三浦亜紀子(中部中学校)
	10月	第36回全日本学生バドミントン選手権大会を、兵庫県立総合体育館(西宮市)で開催
昭和63年(1988)	３月	第16回全国高等学校選抜バドミントン選手権大会を宝塚市立総合体育館で開催。 女子複３位　吉田悦子・小泉友紀(園田学園高校)
	８月	第39回全国高等学校バドミントン選手権大会を宝塚市立総合体育館 他で開催。 女子単３位　小泉友紀(園田学園高校)、女子複３位　吉田悦子・小泉友紀(園田学園高校)
平成元年(1989)	３月	第17回全国高等学校選抜バドミントン選手権大会で、女子単３位 小泉友紀(園田学園高)
	８月	第28回全日本教職員バドミントン選手権大会で、 混合複優勝　鵜木秀夫・鵜木千加子(神戸商大教・神戸外大教)。
平成２年(1990)	６月	第40回全日本実業団バドミントン選手権記念大会を神戸市で開催。 男子132チーム(1221名)、女子77チーム(669名)、計209チーム(1890名)が参加。
	８月	第29回全日本教職員バドミントン選手権大会で、女子単３位　鵜木千加子、 混合複準優勝　鵜木秀夫・鵜木千加子(神戸商大教・神戸外大教)。
	10月	第45回福岡国体で、成年女子４位(鵜木千加子・清水浩美・荻生美奈子)。
	11月	**11月10日、創立40周年記念式典・祝賀会を神戸チサンホテルに於いて開催。** **記念誌『バドミントン40年史』を発刊。**
平成３年(1991)	７月	第26回全国私立短期大学体育大会バドミントン大会を開催(宝塚市立総合体育館)。
	８月	第15回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会を開催(神戸市立中央体育館)。
		第30回全日本教職員バドミントン選手権大会で、女子単準優勝　鵜木 千加子、 混合複準優勝　鵜木秀夫・鵜木千加子 (神戸商大教・神戸外大教)
平成４年(1992)	８月	第31回全日本教職員バドミントン選手権大会で、一般女子単優勝　鵜木千加子(神戸外大教) 一般男子複３位　佐藤　浩(親和女子高教員)・鵜木秀生(神戸商大教)
平成６年(1994)	８月	第33回全日本教職員バドミントン選手権大会で、一般女子単優勝　鵜木千加子(神戸外大教)。
平成７年(1995)	１月	**１月17日、阪神・淡路大地震発生。** ・県内各市町協会、団体の支援を頂き、チャリティ講習会・バドミントン大会を開催し、 その収益金と見舞金を合わせ、会員被災者に対し救済事業を実施。
平成９年(1997)	２月	２月６日、北義一氏が 財団法人兵庫県体育協会より 平成８年度体育功労賞を授与される。
	７月	**７月20日、兵庫県小学生バドミントン連盟を設立。**
平成11年(1999)	４月	今井鎮雄会長 会長在職30周年記念祝賀会を開催 (チサンホテル)。 兵庫県バドミントン協会新体制発表　今井会長退任、名誉会長へ **第３代会長　北　義一氏、第５代理事長　瀬川欽也氏　が就任。**
	７月	第26回近畿ろうあ者体育大会バドミントン競技開催(尼崎市立総合体育館)。
	８月	８月10日、初代理事長　高倉正冶氏ご逝去　76歳。
		第29回全日本中学生バドミントン選手権大会で、女子単３位　廣瀬栄理子(中谷中学校)。
平成12年(2000)	４月	**兵庫県家庭婦人バドミントン連盟が「兵庫県レディースバドミントン連盟」と名称変更。**
	５月	兵庫県総合バドミントン選手権大会　創設50周年記念祝賀会 を開催(神戸ルミナスホテル)。 本大会の優秀選手を表彰した・特別功労賞　塩飽　　初 功労賞　鵜木千加子、佐藤　浩、　松本泰浩、平松重吉、　友金利一、　田中　至
平成14年(2002)	１月	第10回全国小学生バドミントン選手権大会で、女子５年生単３位　柚木杏奈(ひよどり)。
	12月	第19回全日本シニアバドミントン選手権大会を、神戸市(グリーンアリーナ神戸他)で開催 ミュージックグルメ船「コンチェルト」船上で開会式を挙行、好評を博する、参加1376人 30歳男子複優勝　　鈴木草麻生(県協会)・藤原瑛佳(大阪) 65歳男子複優勝　　佐々木繁夫(垂水クラブ)・高山道喜(垂水クラブ) 50歳女子単準優勝　神谷晴美(北神クラブ)、　45歳女子単３位　地神京子(アドバンズ) 55歳男子単３位　　山路栄三郎(ボラーノ)

年	月	主　要　事　項
平成15年(2003)	8月	第４回全国ＡＢＣバドミントン大会　女子Ｂ(３・４年生)クラスで、 優勝　遠藤麻奈美(ひよどり)。
	9月	ＪＯＣジュニアオリンピックカップ第22回全日本ジュニアバドミントン選手権大会を、 神戸市で開催。
平成16年(2004)	8月	第28回全日本高等専門バドミントン選手権大会で、 団体３位　明石高専、男子単準優勝　長嶋隆一
	12月	**12月４日設立の「全日本社会人クラブバドミントン連盟」に合わせ、 「兵庫県社会人クラブバドミントン連盟」と改名する。**
平成17年(2005)	8月	第60回国民体育大会 近畿ブロック大会バドミントン競技会を開催。
	10月	(財)日本体育協会公認スポーツ指導者資格制度が改訂され、新しい公認スポーツ指導者 資格制度に移行された。４年間に１度以上の研修受講の義務づけ、登録料の改訂。
	11月	内閣総理大臣杯・文部科学大臣杯争奪平成17年度 全日本総合バドミントン選手権大会を 宝塚市で開催。大会運営役員・審判員とも、レフェリーから満点の評価を頂き、 バドミントン界最高峰に相応しい格付けのある大会ができたことを誇りとしたい。
	12月	**兵庫県バドミントン協会『創立55周年記念式典・祝賀会』を、12月18日ポートピアホテル に於て、盛大に開催。**
平成18年(2006)	10月	10月１日付で、競技規則・公認審判員規程が改正、新スコアリングシステム (21ポイント×３ゲームのラリーポイント制)が導入された。
	10月	第61回国民体育大会「のじぎく兵庫国体」バドミントン競技会を10月１日～４日の間、 宝塚市で開催。初日には、常陸宮殿下のお成りがあり大いなる名誉を得た。 成績は、少年女子史上54年ぶりとなるベスト４進出の４位、成年女子５位の大活躍で 32.5点の得点を上げることが出来、バドミントン競技「天皇杯」８位、「皇后杯」３位を獲得。
		10月１日、宝塚国体開会式に於いて、財団法人日本バドミントン協会より、 北義一会長、瀬川欽也理事長に「功労賞」が綿貫民輔会長より授与された。
	12月	第１回兵庫レディースすみれオープン大会を創設（宝塚）
平成19年(2007)	3月	３月12日開催された「 役員選考委員会 」に於いて、北　義一会長が退任。
	4月	４月８日開催の、平成19年度兵庫県バドミントン協会「総会」に於いて、第４代会長に 平林弘嗣氏が就任。北　義一前会長は名誉顧問に就任、今井鎮雄名誉会長は留任。 兵庫県学生バドミントン連盟会長に、鵜木千加子氏が就任、総会に於て県協会副会長に就任。
		４月８日総会後に開催の、第１回理事会に於いて、瀬川欽也理事長の再任と境　良冶・神 谷晴美・宿里和江・矢田部浩一・上野　誠の５副理事長を選出、国体後の新体制を発足。
平成19年(2007)	8月	第46回全日本教職員バドミントン選手権大会一般男子単で、細川泰大(神戸村野工業高教)４位。
	10月	第62回国民体育大会「秋田わかすぎ国体」バドミントン競技が、10月５日～８日の間、開催。 兵庫県からは、近畿ブロック大会を突破した少年女子・少年男子に加え、成年女子の３種 目が出場。少年女子が昨年大会で得たシード権を生かし、地元秋田県を破り見事、昨年に 続き４位を獲得。
	12月	12月17日、第４代会長　平林弘嗣氏ご逝去69歳。瀬川欽也理事長が暫定、会長代行に就任。
平成20年(2008)	2月	**県協会創立55周年記念誌を発刊。**
	3月	３月22日～25日、大分県日田市で開催された第36回全国高等学校選抜バドミントン大会 で、山本しずか(県立加古川東高等学校)が３位。
	4月	４月13日開催の総会に於いて、瀬川欽也理事長が正式に会長代行に就任(前任者の残任期間)。
	8月	８月４日～８日茨城県で開催された第47回全日本教職員バドミントン選手権大会で、 一般男子単で細川泰大(神戸村野工業高教)が３位。
	9月	９月27日～10月１日、大分県日田市で開催された第63回国民体育大会で成年女子が５位。 少年女子も３年連続４位の偉業を達成。この結果、皇后杯３位、天皇杯９位を獲得。
	12月	12月5日～7日、京都府で開催された第３回全日本レディースバドミントン競技会・個人 戦に於いて、畑末絵理香・真栄田直子(川西)組が優勝、河田友美・橋本早苗(緑ヶ丘)組が 準優勝の快挙。

年	月	主　要　事　項
平成21年(2009)	1月	1月10日・11日の両日、滋賀県で開催された第1回全国バドミントントリプリス選手権大会150歳女子の部で、宿里和江・中嶋京子・末次美苗(西宮)組が初優勝。
	4月	**4月12日開催の総会に於いて、瀬川欽也氏が理事長を退任し、第5代会長に就任。第6代理事長に境　良治氏が就任。北中英武氏(県教職連会長)が副会長に就任。**
	5月	5月30日、第3代会長　北　義一氏ご逝去　73歳。
	6月	6月20日・21日の両日、神戸市に於いて 第2回全国社会人クラブバドミントン大会を開催。
	7月	7月23日～26日、岡山県で開催された第27回全日本レディースバドミントン選手権大会(都道府県対抗)で、兵庫県チームが3位。(クラブ対抗)に於いて、宝塚チームが見事、優勝の栄冠を得た。
	8月	8月10日～14日、神戸市に於いて、第48回全日本教職員バドミントン選手権大会を開催。一般女子団体と成壮年男子団体で3位入賞、個人戦でも一般男子単で細川泰大(神戸村野高教)が念願の優勝、50歳女子単で澄川稔子(社中教)が優勝するなど 上位入賞が相次ぎ、開催県で初の総合優勝に輝いた。
	10月	10月2日～5日、新潟県五泉市で開催された第64回国民体育大会で、成年女子が昨年に引き続いての5位。
	12月	12月24日～28日、千葉県で開催の第18回全国小学生バドミントン選手権大会に於いて、4年生女子複で古川恵・高橋彩貴(西神ジュニア)組が優勝、4年生男子複で家壽多慶太・露原哲平(ぐるぐるパンチジュニア)組が準優勝。
平成22年(2010)	2月	2月26日～28日、茨城県で開催された第4回全日本レディースバドミントン競技会・個人戦に於いて畑末絵理香(川西)・河田友美(緑ヶ丘)組が3位。
	6月	6月9日～13日、神戸市に於いて 第60回全日本実業団バドミントン選手権大会を開催。男子167チーム、女子40チームの207チーム、総勢2,216名の選手団を迎えて、3会場を使って、連日に亘って国内のトップチームが日本一の座を目指して熱戦を展開。延べ、627名の役員の精力的な活動によって、20年ぶりとなるビッグ大会が無事・成功裡に終えることが出来た。
	8月	8月4日～8日、鹿児島県薩摩川内市に於いて開催された、第49回全日本教職員バドミントン選手権大会に於いて、一般男子単で、細川泰大(神戸村野工業高校教)が準優勝。
		第34回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会が8月21日～22日、三重県鈴鹿市に於いて開催され、男子団体戦に出場の明石高専が見事、準優勝の栄冠に輝いた。
	10月	第65回国民体育大会「ゆめ半島千葉国体」バドミントン競技会が、9月30日～10月4日の間、千葉県野田市関宿総合公園体育館および野田市総合公園体育館の2会場で開催された。兵庫県からは、近畿ブロック大会を突破した少年女子・成年女子に加え、成年男子の3種目が出場。成年女子が1回戦で富山県を破り、準々決勝で、第4シードの東京都に勝った島根県と対戦し、見事これを退けベスト4進出。準決勝で岐阜県に敗れたものの、3位決定戦で鳥取県を破り3位入賞。併せて、皇后杯5位の栄誉に授かった。成年女子史上、昭和31年の第11回神戸国体以来の名誉ある快挙となった。 成年男子は、1回戦で山梨県、2回戦で大分県を破り3回戦に進出したものの京都府に破れ第11回国体以来の、ベスト8進出を逃した。

平成22年度 兵庫県バドミントン協会役員

役　職	連盟役員・専門部役職	氏　名	役　職	連盟役員・専門部役職	氏　名
名誉会長		今井　鎮雄			
会　長	県実業団連盟会長	瀬川　欽也	常務理事	競技本部長	森重　輝美
副会長	県レディース連盟会長	平方　昌子	副理事長	競技副本部長(県社ク連理事長)	神谷　晴美
副会長	県学生連盟会長	鵜木千加子	常務理事	競技本部・競技会部長	吉岡　亨二
副会長	県教職員連盟会長	北中　英武	常務理事	競技本部(県教職連理事長)	殿内　境
副会長	県社会人クラブ連盟会長	神谷　衛	常務理事	〃	江口　武志
副会長	県小学生連盟会長	大前 はるよ	常務理事	〃	杵島　明美
			常務理事	〃　(県小学連理事長)	田中　寛子
顧　問		大圃　秀生	常務理事	〃	中尾　圭吾
参　与		吉持　節夫	理　事	〃	宮本　行庸
参　与		水垣　清之	理　事	〃	久保　悦子
参　与		鍋田　賢一	理　事	〃	西村　哲
監　事		戸井　孝	理　事	〃	森脇　正弘
監　事		藤本　和幸	理　事	〃	高井　雅也
			理　事	〃	中野　幸夫
理事長	(県実業団連盟理事長)	境　良治	理　事	〃	有井　宏幸
			理　事	〃　(県学生連盟委員長)	平山　陽介
副理事長	運営本部長・財務部長(県レディ連理事長)	宿里　和江	理事扱	〃	野口　大樹
常務理事	運営副本部長・財務管理副部長	四ツ谷　誠			
常務理事	運営本部・総務部長	西川　公子			
常務理事	運営本部	入口　秀子	副理事長	強化本部長・指導本部長	矢田部浩一
理　事	〃	地神　京子	常務理事	強化副本部長・コーチ	荒井　秀樹
理　事	〃	杉本　強	常務理事	指導副本部長(県高体連専門部長)	佐藤　浩
理　事	〃	笹部　祥子	常務理事	指導本部・指導部長(県中体連部長)	中原　幸人
理　事	〃	大前　俊一	理　事	強化本部・成年男子監督	横田　英士
理事扱	〃	久保　陽未	理　事	〃　・コーチ	松本　泰典
			部　員	〃　・成年女子監督	酒井　将之
副理事長	審判本部長	上野　誠	部　員	〃　・少年男子監督	友金　幸雄
常務理事	審判副本部長	小林　幹男	部　員	〃　・少年女子監督	寺町　彰浩
常務理事	審判本部長	吉田　肇	部　員	〃　・成年男子監督	細川　泰大
常務理事	〃	的場　幸枝	部　員	〃　・コーチ	高橋　幸治
理　事	〃	廣岡　輝男	部　員	〃　・コーチ	北村　祐介
理　事	〃	福武　里美	部　員	〃　・中学男子コーチ	玉田　浩章
理　事	〃	市岡真知子	部　員	〃　・中学男子コーチ	角　珠代



第63回大分国体
成年女子５位入賞、皇后杯３位を獲得



第27回全日本レディース選手権大会都道府県対抗戦３位



第63回大分国体　少年女子チーム３年連続の４位



第27回全日本レディース選手権大会クラブ対抗戦優勝
宝塚チーム選手



第65回千葉国体　成年女子３位　皇后杯５位獲得
酒井監督・小椋・大迫・木村各選手



第48回全日本教職員選手権大会　総合優勝

第６節　奈良県バドミントン協会の生い立ちとあゆみ

昭和24年、奈良県教育委員会、保健体育課主事、木村一雄氏が、バドミントン競技についての講習を文部省より受けられ、その年の11月に県内の高等学校、中学校の指導者を当麻寺に招集し、県内初のバドミントン講習会がもたれた。それがきっかけとなって、上山当雄氏(奈良女子大附属高)と岩井由治氏(奈良高)が、主となりバドミントン競技の普及を始める。

奈良国体に天皇陛下をお迎えして



黄金の稲穂がたなびき囲む田原本町中央体育館にご到着になった天皇陛下を藤田庸右・奈良県バドミントン協会会長がお迎えした。

藤田会長のご先導で中央体育館へ向われる途中、田原本町民の「バンザイ」の声を右手に上げてお応えになる天皇さま。

花いっぱいの会場前で琴の音でご送迎した。

陛下をご先導した藤田庸右・奈良県バドミントン協会会長は「陛下をロイヤルボックスにご先導した途端、体育館内は大きな拍手、大きな歓声であった。のちに関係者から聞いて見ると、陛下をお迎えする歓声と奈良県チームが鹿児島県チームを、２－０で下した結果がアナウンスされ大きな拍手が響いたのであった。陛下は、体育館内でお迎えする町民に向って必ずお応えになっていたのが印象的でした。お待ちしている数分間、興奮のあまり自分が何を考え、どう案内したらよいのか、ただ、そそうがあってはならないということだけ意識にありました。約40分間、バドミントンを陛下の隣で観戦したがどう試合が運んでいるのか判らなかった。陛下のご乗車になった御料車をお見送りしてはじめて自分に戻り終生忘れ得ぬ感銘をうけ、光栄で胸がいっぱいになりました。天皇陛下を目前にした感動は、体験した者にしか得られない。理屈ではわからない。日本人に生まれてよかった。」

会社経営し、大きなイベントにも動じないが今回は貴重な経験をしましたと語りつづけた。

奈良県バドミントン協会　沿革

年	月	主　要　事　項
昭和21年(1946)		日本バドミントン協会創立
昭和24年(1949)	10月	第４回国民体育大会(東京)にて、バドミントンがオープン競技として開催
昭和25年(1950)	10月	奈良県バドミントン協会設立 会　長　岡田清作(大阪線銅K.K社長) 副会長　近池義隆(女子大附属高校長) 理事長　上山当雄(女子大附属高) 理　事　岩井由治(奈良高)　川本　糾(郡山高)　森　留男(県社会教育課) 吉岡　哲(郡山中)　疋田秀吉(文化財保護課)　三浦康平(春日中)
		第５回国民体育大会(愛知)に初参加(この国体でバドミントン競技が正式種目となり、一般男子、一般女子、高校男子の３種目で行われる。また試合形式は現在と同じ１複２単)
昭和26年(1951)	２月	第１回奈良県バドミントン選手権大会を開催
	４月	第２代理事長に、岩井由治氏が就任
昭和27年(1952)	４月	第２代会長に、近池義隆氏が就任
	５月	第５回全日本バドミントン選手権大会を開催(天理)
	９月	近畿高等学枚総合体育大会(大阪)にて、育英高校の女子が団体初優勝
昭和28年(1953)		第４回インターハイ(山形市)において、奈良商工男子が、初のベスト８入賞を果たす。
昭和29年(1954)	９月	第１回近畿高等学校バドミントン選手権大会を開催(奈良) 芝田和夫(奈商工)男子シングルス優勝
昭和30年(1955)		第10回国民体育大会(神奈川)において、高校男子ベスト８入賞 近畿高等学校総合体育大会において、奈良商工男子団体優勝
昭和31年(1956)		第11回国民体育大会(兵庫)において、高校女子ベスト８
昭和32年(1957)		近畿高等学校バドミントン選手権大会において、男子ダブルス(森・榎木、奈商工)優勝
昭和33年(1958)		第13回国民体育大会において、高校男子(森・榎木・中川)３位入賞 第９回インターハイ(新潟市)森晃一シングルス３位入賞 近畿高等学校総合体育大会において、奈良商工男子団体優勝
昭和34年(1959)		近畿高等学校バドミントン選手権大会において、男子ダブルス(中川・西尾、奈商工)優勝
昭和35年(1960)		第15回国民体育大会(熊本)において、高校男子ベスト８入賞 全日本総合選手権大会において、森晃一ダブルスで優勝 近畿高等学校総合体育大会において、奈良商工男子団体優勝
昭和36年(1961)		全日本総合選手権大会において、森晃一ダブルスで優勝 近畿高等学校バドミントン選手権大会において、男子ダブルス(三木・鎌田、奈商工)優勝
昭和37年(1962)		第17回国民体育大会(岡山)において、高校男子ベスト８入賞 全日本総合選手権大会において、森晃一ダブルスで優勝 近畿高等学校総合体育大会において、奈良商工男子団体優勝 近畿高等学校バドミントン選手権大会において、男子ダブルス(大西・森、奈商工)　優勝
	５月	県協会内に一般の部設立
昭和38年(1963)	４月	第３代会長に、木下義忠氏が就任
		近畿高等学校バドミントン選手権大会において男子ダブルス(森・吉村、奈商工)優勝
昭和39年(1964)		第19回国民体育大会(新潟)において、高校男子(森・橋本・真壁)準優勝 第15回インターハイ(京都市)において、奈良商工男子団体３位、 男子シングルス(森芳夫、奈商工)優勝 近畿高等学校総合体育大会において、正強高校男子団体優勝 近畿高等学校バドミントン選手権大会において、男子ダブルス(真壁・寺井、正強高)優勝

年	月	主　要　事　項
昭和40年(1965)	5月	第４代会長に、川端与兵衛氏が就任
		第20回国民体育大会(岐阜)において、高校男子(真壁・河村・滝野)３位入賞 近畿高等学校総合体育大会において、正強高校男子団体優勝 近畿高等学校バドミントン選手権大会において、男子ダブルス(小野・岡田、天理高)優勝
昭和41年(1966)		近畿高等学校総合体育大会において、奈良商工男子団体優勝 近畿高等学校バドミントン選手権大会において、男子ダブルス(滝野・植田、正強高)優勝
昭和42年(1967)	3月	奈良県実業団連盟が発足
	5月	第５代会長に、藤田庸右氏が就任
		第22回国民体育大会(埼玉)において、高校男子(滝野・小林・葛輪)準優勝 第18回インターハイ(金沢市)において、奈良市立一条高校男子団体準優勝 近畿高等学校総合体育大会において、一条高校男子団体優勝 近畿高等学校バドミントン選手権大会において、男子ダブルス(上野・岡田、天理高)優勝
昭和43年(1968)		第23回国民体育大会(福井)において、高校男子(上野・水川・中島)４位入賞 近畿高等学校総合体育大会が台風のため中止
昭和44年(1969)	5月	一般の部より奈良県社会人連盟と名称を変更
		第24回国民体育大会(長崎)において、高校男子(菅原・岡田・山本)３位入賞
昭和45年(1970)	4月	第３代理事長に、松尾良行氏が就任
		第25回国民体育大会(岩手)において、高校男子(竹内・巽・西川)初優勝 第21回インターハイ(名古屋市)において、正強高校男子団体３位入賞
昭和46年(1971)		第26回国民体育大会(和歌山)において、高校男子(西川・佐野・中井)３位入賞 第22回インターハイ(善通寺市)において、正強高校男子団体初優勝、 奈良市立一条高校女子団体３位入賞 第１回全国中学校大会(東京)において、男子団体３位入賞
昭和47年(1972)		第27回国民体育大会(鹿児島)において、高校男子(中井・南田・辻)優勝 第23回インターハイ(新庄市)において、 正強高校男子　団体連続優勝、中井基夫(正強高)三冠を達成 第２回全国中学校大会(名古屋)男子団体優勝、女子団体準優勝
昭和48年(1973)	3月	奈良県家庭婦人連盟が発足
		第28回国民体育大会(千葉)において、高校男子(池田・松重・坪内)３位入賞 第24回インターハイ(四日市市)において、正強高校男子団体３位入賞 第１回全国高等学校選抜大会において、男子ダブルス(辰巳・杉本、一条高)優勝 第３回全国中学校大会(栃木)において、男子団体３位入賞
昭和49年(1974)		第29回国民体育大会(茨城)において、高校男子(塚本・小倉・村田)準優勝 第25回インターハイ(嬉野町)において、正強高校男子団体優勝 第２回全国高校選抜大会において、男子ダブルス(塚本・竹中、一条高)優勝
昭和50年(1975)		全日本学生バドミントン選手権大会を開催 第30回国民体育大会(三重)において、少年(吉岡・富田・田島)男子優勝 第26回インターハイ(水戸市)において、正強高校男子団体準優勝、 男子ダブルス(富田・吉岡、正強高)優勝 第３回全国高校選抜大会において、正強高校男子団体優勝 男子シングルス(富田、正強高)優勝 第５回全国中学校大会(東京)において、男子団体３位入賞
昭和51年(1976)		第４代理事長に木村寛氏が就任
		第６回全国中学校大会において、男子団体３位入賞 第27回インターハイ(中野市)において、一条高校男子団体３位入賞

年	月	主　要　事　項
昭和52年(1977)		第28回インターハイ(倉敷市)において、一条高校女子団体３位入賞
昭和53年(1978)		第６回全国高校選抜大会を開催、男子団体準優勝 全日本総合選手権大会において、中井基夫混合復複勝
昭和54年(1979)		奈良県小学生連盟が発足
昭和55年(1980)		第35回国民体育大会(栃木)において、少年男子４位入賞(古賀・貴田・中村) 第31回インターハイ(善通寺市)において、正強高校男子団体３位入賞
	10月	創立30周年記念式典(奈良ホテル)を行う
昭和56年(1981)		第11回全国中学校選手権大会を開催 第32回インターハイ(平塚市)において、一条高校男子団体３位入賞
昭和57年(1982)		第33回インターハイ(枕崎市)において、男子ダブルス(中谷・見市、一条高)優勝、 一条高校男子団体準優勝 全日本総合選手権大会において、辻敏弘、混合複優勝
昭和58年(1983)		第38回国民体育大会(群馬)において、少年男子(見市・小野満・村山)３位入賞、 少年女子ベスト8 第34回インターハイにおいて、一条高校男子　団体初優勝 第11回全国高校選抜大会において、一条高校男子　団体準優勝 第26回全日本社会人大会を開催 第７回全日本高等専門学校選手権大会を開催
昭和59年(1984)		第39回国民体育大会(田原本町)を開催 成年男子(辻・中井・吉岡)３位、成年女子4位入賞 第14回全国中学校大会(愛知)男子シングルス(中橋、二名中)優勝
昭和60年(1985)		第５代理事長に、服部　明氏が就任
		全日本総合選手権大会において、富田章夫　混合複優勝
昭和61年(1986)		第25回全日本教職員バドミントン大会を開催
昭和62年(1987)		第６代理事長に、野村安忠氏が就任
		第９回日本リーグ(大和郡山市)を開催
昭和63年(1988)		第６回全日本レディース選手権大会(東京)において、団体３位入賞
平成元年(1989)		
平成２年(1990)		第12回日本リーグ(大和郡山市)を開催 全日本総合選手権大会において、水井妃佐子女子シングルス優勝
平成３年(1991)		第46回国民体育大会(石川)において、成年男子８位入賞
		第９回全日本レディース選手権大会(東京)において、団体３位入賞
平成４年(1992)		第14回日本リーグ(桜井市)を開催 全日本総合選手権大会において、古賀勝志混合複優勝 バルセロナ・オリンピック水井妃佐子出場
平成５年(1993)		第27回全国ろうあ者体育大会(大和郡山市)で、第１回バドミントン競技を開催 全日本総合選手権大会において、水井妃佐子女子シングルス優勝
平成６年(1994)		第49回国民体育大会(愛知)において、成年男子ベスト８ 第12回全国レディース選手権大会(愛知)において、団体３位入賞 全日本総合選手権大会において、水井妃佐子女子シングルス優勝
平成７年(1995)		第９回全国スポーツレクリエーション祭(大和郡山市)を開催 第50回国民体育大会(福島)において、成年男子、少年男子ベスト８ 第46回インターハイ(松江市)において、一条高校男子団体準優勝 全日本総合選手権大会において、水井妃佐子女子シングルス優勝

年	月	主　要　事　項
平成８年(1996)		アトランタ・オリンピックに水井妃佐子、泰子姉妹出場
平成９年(1997)		藤田庸右会長就任30周年記念祝賀会開催
		第52回国民体育大会(大阪)において、成年女子(水井・水井・渡辺)準優勝 第６回全国小学生大会(香川)において、 今別府香里(大和高田クラブ)５年女子シングルス優勝
平成10年(1998)		第53回国民体育大会(神奈川)において、成年女子(水井・松田・市橋)初優勝
平成11年(1999)		全日本総合選手権大会において、水井泰子女子シングルス優勝 第38回全日本教職員選手権大会30才以上複優勝(嘉生寛・疋田博之)
平成12年(2000)		第51回全日本学生選手権大会(奈良中央体育館ほか)を開催 第18回全日本レディース選手権大会(千葉)３位入賞
	９月	シドニー・オリンピックにおいて、水井泰子５位入賞
	12月	協会創立50周年記念式典(奈良ホテル)開催
		当時の県協会役員 会　　長　藤田庸右 副 会 長　松尾良行　吉岡　哲　上田耕作　橋本和信　木村　寛　服部　明 顧　　問　冷水　毅　亀甲慶二 会計監査　中嶋靖夫　松井堯一 理 事 長　野村安忠 副理事長　谷口　章 常務理事　亀甲慶二　榊　　章　井田吉昭 常任理事　山下幸二　平　敏明　滝本弘子　嘉生　寛　錦　秀知　小林久男 茶谷正美　友田　節　千田宏之 理　　事　吉川靖夫　寺地伸光　中井戸資広　宮本一宏　北尾典子　土庵清子 乾　哲司　神山年博　山田雅三　新居﨑杉彦　須藤勝見　崎山泰彦 事務局長　榊　　章 事務局次長　艸香久人 事務局員　岡田憲典　吉村禎訓　森川敏和　松本浩典　石西禎子
平成13年(2001)		バドミントン日本リーグ2001開催(奈良市中央体育館) 第17回若葉カップ　橿原ジュニア団体２位 第２回全国小学生ＡＢＣ大会Ｃグループ３位(川崎実奈子) 第40回全日本教職員選手権大会30才以上単３位(嘉生寛)
平成14年(2002)		第20回全日本レディースバドミントン選手権大会開催 (奈良市中央体育館、桜井市総合体育館) 第51回近畿中学校総合体育大会 男子単優勝(岩崎芳仁)、男子複優勝(杉本祐斗・森田正秀) 第10回全国小学生選手権大会女子団体３位、５年生女子単優勝(高橋礼華)、 ５年生女子単２位(北はるな) 第18回若葉カップ　橿原ジュニア団体優勝 第３回全国小学生ＡＢＣ大会　Ａグループ優勝(高橋礼華)、Ｂグループ３位(高橋沙也加)
平成15年(2003)		バドミントン日本リーグ2003開催(大和郡山市総合公園多目的体育館) 第19回若葉カップ　橿原ジュニア団体２位 第４回全国小学生ＡＢＣ大会Ｂグループ３位(川崎実奈子) 第11回全国小学生選手権大会(H15.1.14)　女子団体優勝 個人の部　６年生女子単優勝　(高橋礼華)、　６年生女子単２位　(北はるな)、 ４年生女子単優勝　(高橋沙也加) 第12回全国小学生選手権大会(H15･12.20)　５年生女子単３位(高橋沙也加) 全日本シニア選手権大会 40歳女子複優勝(児玉幸代・板谷悦代)、45歳女子複優勝(山本邦子)

年	月	主　要　事　項
平成16年(2004)		第20回若葉カップ　橿原ジュニア団体３位 第５回全国小学生ＡＢＣ大会　Ａグループ優勝(高橋沙也加)、Ｃグループ３位(疋田聖也) 第43回全日本教職員選手権大会 30才以上単３位(嘉生寛)、、複３位(嘉生寛・疋田博之) 全日本シニア選手権大会　45才女子複優勝、単２位(山本邦子)
平成17年(2005)		第14回全国小学生バドミントン選手権大会開催(12月) (大和郡山市総合公園多目的体育館、奈良市中央体育館) 第13回全国小学生選手権大会(１月) 　５年生男子複優勝(石黒貴司・森元大祐)、６年生女子単３位(高橋沙也加) 第６回全国小学生ＡＢＣ大会Ｃグループ３位(梅本隆誠) 第54回近畿中学校総合体育大会男子団体優勝若草中学校 第52回近畿高等学校選手権大会女子複優勝(浦窪真代・西川真奈美)
平成18年(2006)		平成18年度全国高等学校総合体育大会 高松宮記念杯第57回全国高等学校バドミントン選手権大会開催 (奈良市中央体育館、奈良大学附属高校体育館、東大寺学園体育館、 大和郡山市総合公園多目的体育館、奈良市西部生涯スポーツセンター体育館、 奈良大学体育館) 第７回全国小学生ＡＢＣ大会Ｃグループ３位(和田毬代) 第45回全日本教職員選手権大会30才以上複３位(平岡篤司・千田宏之) 全日本シニア選手権大会45才女子複優勝(山本邦子)
平成19年(2007)		藤田庸右会長就任40周年記念祝賀会開催 第46回全日本教職員選手権大会 30才以上複２位(平岡篤司・千田宏之)、40歳以上男子単３位(嘉生寛) 全日本シニア選手権大会45才混合複優勝(山本邦子)60歳複優勝(土庵清子)
平成20年(2008)		第９回全国小学生ＡＢＣ大会Ｂグループ３位(和田毬代) 第47回全日本教職員選手権大会30才以上単３位(平岡篤司) 全日本シニア選手権大会45才混合２位(山本邦子) 全日本レディース競技大会(合計年齢100歳迄)女子複優勝(山本邦子)
平成21年(2009)		Yonex杯国際親善レディース大会女子複(合計266才以上)優勝 　沙羅クラブ(合計266才以下)２位水鳥クラブ ワールドマスターズ50才複優勝・50才単２位(山本邦子) 第48回全日本教職員選手権大会 　40才以上複優勝(平岡篤司・千田宏之)、40歳以上男子単３位(平岡篤司) 第６回近畿総合選手権シニアの部 　35歳以上男子複優勝(平岡篤司・千田宏之)、50歳混合複優勝(山本邦子) 第18回全国小学生バドミントン選手権大会　５年生女子複(川上めぐ・米田愛弥)
平成22年(2010)		第49回全日本教職員選手権大会 　40才以上複優勝(平岡篤司・千田宏之)、40歳以上男子単３位(千田宏之) 第11回全国小学生ＡＢＣ大会Ｂグループ２位(水井ひらり) 第７回近畿総合選手権シニアの部40歳以上男子複優勝(平岡篤司・千田宏之) 全日本レディース競技大会　女子複(合算～100才迄)２位(山本邦子・児玉幸代)

平成22年度奈良県バドミントン協会役員

会　　長	藤田　庸右				
副 会 長	橋本　和信	谷口　　章	山下　幸二		
顧　　問	木村　　寛	服部　　明			
監　　査	滝本　弘子	久保　博道			
理 事 長	野村　安忠				
副理事長	榊　　章	滝野　公一			
常任理事	貴田　昌史	宮本　一宏	山本　邦子	山田　雅三	千田　宏之
	錦　　秀知	松村　宏則	吉村　禎訓		
理　　事	寺地　伸光	乾　　卓次	中井戸資廣	辻本　高廣	住友　順子
	児玉　幸代	松本　浩典	北野　克己	東　うみ子	嶋田　純子
	須藤　勝見	神田　直紀	辻田　泰昌	村山　友二	中谷　敏昭
	堀本　昌宏				
事務局長	榊　　章				
事務局次長	艸香　久人				
事務局員	森川　敏和	石西　禎子	貴田左恵子		

第3章

近畿各連盟の生い立ちとあゆみ



近畿バドミントン協会加盟連盟　歴代会長一覧表

年号	西暦	教職員連盟	関西学連	高体連	中体連	レディース連	実業団連	社会人ク連	小学生連
昭41	1966						横井　完治		
42	1967						横井　完治		
43	1968						横井　完治		
44	1969						横井　完治		
45	1970						清水　照彦		
46	1971	乾　英三郎	柚木　学	竹石　新			清水　照彦		
47	1972	乾　英三郎	柚木　学	鈴木　康一			清水　照彦		
48	1973	乾　英三郎	柚木　学	鈴木　康一			清水　照彦		
49	1974	乾　英三郎	柚木　学	根津　哲夫			清水　照彦		
50	1975	乾　英三郎	柚木　学	根津　哲夫			清水　照彦		
51	1976	乾　英三郎	柚木　学	根津　哲夫	岩橋　太吉		清水　照彦		
52	1977	乾　英三郎	柚木　学	根津　哲夫	坂口　稔		清水　照彦		
53	1978	乾　英三郎	柚木　学	根津　哲夫	坂口　稔		清水　照彦		
54	1979	乾　英三郎	濱崎　正規	根津　哲夫	坂口　稔		清水　照彦		
55	1980	乾　英三郎	濱崎　正規	根津　哲夫	坂口　稔		清水　照彦		
56	1981	乾　英三郎	畑　晃彰	吉田　道雄	今津　静夫	石渡　俊一	清水　照彦		
57	1982	乾　英三郎	畑　晃彰	吉田　道雄	今津　静夫	石渡　俊一	清水　照彦		
58	1983	乾　英三郎	畑　晃彰	吉田　道雄	今津　静夫	石渡　俊一	清水　照彦		
59	1984	乾　英三郎	小林　宏行	小山田成夫	山口　清	石渡　俊一	阪口　常博		
60	1985	宝来　敏夫	小林　宏行	小山田成夫	山口　清	石渡　俊一	栗本藤四郎		
61	1986	宝来　敏夫	小林　宏行	松下　邦夫	服部　昭二	石渡　俊一	松尾　良行		
62	1987	宝来　敏夫	小林　宏行	松下　邦夫	保田　喬	石渡　俊一	伊藤　利朗		
63	1988	宝来　敏夫	小林　宏行	松下　邦夫	保田　喬	石渡　俊一	植田　義明		
平成１	1989	宝来　敏夫	小林　宏行	林田　昭喜	山田　富三	石渡　俊一	西村　清次		
2	1990	宝来　敏夫	小林　宏行	林田　昭喜	山田　富三	石渡　俊一	石田　真敏		
3	1991	宝来　敏夫	小林　宏行	林田　昭喜	山田　富三	石渡　俊一	松尾　良行		
4	1992	宝来　敏夫	小林　宏行	林田　昭喜	山田　富三	石渡　俊一	栗本藤四郎		
5	1993	宝来　敏夫	小林　宏行	小久保昇治	原田　俊樹	石渡　俊一	大前　繁雄	市村　修	
6	1994	宝来　敏夫	小林　宏行	小久保昇治	原田　俊樹	石渡　俊一	尾崎　弘	市村　修	
7	1995	宝来　敏夫	小林　宏行	松島　正隆	原田　俊樹	石渡　俊一	野村　嘉明	市村　修	
8	1996	宝来　敏夫	窪田　通雄	井阪　雅宥	出口　勝彦	石渡　俊一	松尾　良行	西谷　一郎	
9	1997	宝来　敏夫	窪田　通雄	加賀谷　弘	出口　勝彦	石渡　俊一	栗本藤四郎	西谷　一郎	
10	1998	宝来　敏夫	窪田　通雄	寺田　英夫	川口　裕	石渡　俊一	大前　繁雄	西谷　一郎	
11	1999	宝来　敏夫	窪田　通雄	増谷　和人	片山　昌也	橋本　和信	品川　則之	西谷　一郎	
12	2000	宝来　敏夫	窪田　通雄	井上　清	池田　勝彦	石田　真敏	岡本　宏也	西谷　一郎	濱崎　正規
13	2001	宝来　敏夫	窪田　通雄	武村　静文	池田　勝彦	澤　長壽	松尾　良行	西谷　一郎	濱崎　正規
14	2002	宝来　敏夫	窪田　通雄	川本　康司	池田　勝彦	北　義一	佐藤　賢	西谷　一郎	濱崎　正規
15	2003	宝来　敏夫	窪田　通雄	藪添　泰弘	木村　洋二	田中田鶴子	北　義一	西谷　一郎	濱崎　正規
16	2004	宝来　敏夫	中原　住雄	野村　利夫	木村　洋二	三宅　裕司	品川　則之	西谷　一郎	上田　耕作
17	2005	宝来　敏夫	中原　住雄	増谷　和人	木村　洋二	藤田　庸右	岡本　宏也	四方　光市	上田　耕作
18	2006	宝来　敏夫	中原　住雄	橋本貴美子	木村　洋二	石田　真敏	樋木　康雄	四方　光市	大前　繁雄
19	2007	宝来　敏夫	中原　住雄	山田　義和	木村　洋二	澤　長壽	佐藤　賢	四方　光市	大前　繁雄
20	2008	宝来　敏夫	中原　住雄	酒井　重治	木村　洋二	瀬川　欽也	瀬川　欽也	四方　光市	大前　繁雄
21	2009	宝来　敏夫	中原　住雄	西　京子	虎谷　博行	田中田鶴子	品川　則之	四方　光市	大前　繁雄
22	2010	伊勢田善昭	中原　住雄	谷本　和廣	虎谷　博行	三宅　裕司	永井　博	四方　光市	谷口　章

近畿バドミントン協会加盟連盟　歴代理事長・委員長一覧表

年号	西暦	教職員連		関西学連		高体連		中体連		レディース連		実業団連		社会人ク連		小学生連	
昭41	1966	1	宝来　敏夫	15	東原　暉奏	2	山本　博					1	池田　芳麻				
42	1967		宝来　敏夫	16	富平　信行		山本　博						池田　芳麻				
43	1968		宝来　敏夫	17	八木　昌晴		山本　博						池田　芳麻				
44	1969		宝来　敏夫	18	足立　英雄		山本　博						池田　芳麻				
45	1970		宝来　敏夫	19	秋山　正文		山本　博		民谷　憲二				池田　芳麻				
46	1971		宝来　敏夫	20	山崎　修二		山本　博	1	河口　尚男				池田　芳麻				
47	1972		宝来　敏夫	21	川越雄二郎		山本　博		河口　尚男				池田　芳麻				
48	1973		宝来　敏夫	22	古武　義治		山本　博	2	出口　健次				池田　芳麻				
49	1974		宝来　敏夫	23	高橋　徳美		山本　博		出口　健次				池田　芳麻				
50	1975		宝来　敏夫	24	安田　伸一		山本　博		出口　健次				池田　芳麻				
51	1976		宝来　敏夫	25	小島　　聡		山本　博		出口　健次				池田　芳麻				
52	1977	2	大河内秀夫	26	西村　憲雄		山本　博		出口　健次				池田　芳麻				
53	1978		大河内秀夫	27	百々　　聡		山本　博		出口　健次	1	安田　綾子		池田　芳麻				
54	1979		大河内秀夫		百々　　聡		山本　博		出口　健次	2	森　　比佐		池田　芳麻				
55	1980		大河内秀夫	28	永松　宣克		山本　博		出口　健次	3	村井　広美		池田　芳麻				
56	1981		大河内秀夫	29	南　　尊文		山本　博		出口　健次	4	滝本　弘子		池田　芳麻				
57	1982		大河内秀夫	30	湯浅　庸介		山本　博		出口　健次	5	宮本勢津子		池田　芳麻				
58	1983		大河内秀夫	31	西田　祥三		山本　博		出口　健次	6	畠中芙佐枝		池田　芳麻				
59	1984		大河内秀夫	32	西田　勝彦		山本　博		出口　健次	7	安田　綾子		（吉田健次郎）				
60	1985	3	伊勢田善昭	33	村田　早苗		山本　博		出口　健次	8	森　　比佐		（佐藤　　賢）				
61	1986		伊勢田善昭	34	山本　志朗		山本　博		出口　健次	9	村井　広美		（平　　敏明）				
62	1987		伊勢田善昭	35	清水　義文	3	武田　博利		出口　健次	10	滝本　弘子		（北　　義一）				
63	1988		伊勢田善昭		清水　義文		武田　博利		出口　健次	11	宮本勢津子		（池田　芳麻）				
平成１	1989		伊勢田善昭	36	大塚　尚哉	4	成田　光生	3	柴田　俊玄	12	住井　則子		（佐藤　武人）				
2	1990	4	森　　義和	37	芝野　恒平		成田　光生		柴田　俊玄	13	安田　綾子	2	北　　義一				
3	1991		森　　義和		芝野　恒平		成田　光生	4	今荘　　茂	14	清水　泰子		北　　義一				
4	1992		森　　義和	38	平田　靖彦		成田　光生		今荘　　茂	15	村井　広美		北　　義一				
5	1993	5	藤原　憲一		平田　靖彦		成田　光生		今荘　　茂	16	滝本　弘子		北　　義一	1	河村　広次		
6	1994		藤原　憲一	39	横畑　昌彦		成田　光生		今荘　　茂	17	湊　満里子		北　　義一		河村　広次		
7	1995		藤原　憲一	40	立岩　大輔		成田　光生		今荘　　茂	18	住井　則子		北　　義一		河村　広次		
8	1996		藤原　憲一	41	平野　貴久		成田　光生		今荘　　茂	19	安田　綾子		北　　義一		河村　広次		
9	1997	6	養父　一太	42	御前　和也	5	濱　久美雄		今荘　　茂	20	清水　泰子	3	佐藤　武人		河村　広次		
10	1998		養父　一太	43	仲江太佳博		濱　久美雄		今荘　　茂	21	村井　広美		佐藤　武人		河村　広次		
11	1999		養父　一太	（近畿協会理事は以上迄）			濱　久美雄		今荘　　茂	22	滝本　弘子		佐藤　武人		河村　広次		
12	2000		養父　一太				濱　久美雄	5	仲尾　信一	23	栩原　未和		佐藤　武人		河村　広次	1	小国　俊之
13	2001		養父　一太				濱　久美雄		仲尾　信一	24	宇山　昌子		佐藤　武人		河村　広次		小国　俊之
14	2002		養父　一太				濱　久美雄		仲尾　信一		宇山　昌子		佐藤　武人		河村　広次		小国　俊之
15	2003		養父　一太				濱　久美雄		仲尾　信一	25	小国　久美	4	境　　良治		河村　広次		小国　俊之
16	2004		養父　一太				濱　久美雄	6	水野　洋一		小国　久美		境　　良治		河村　広次		小国　俊之
17	2005		養父　一太				濱　久美雄		水野　洋一		小国　久美		境　　良治	2	神谷　晴美		小国　俊之
18	2006		養父　一太				濱　久美雄		水野　洋一		小国　久美		境　　良治		神谷　晴美		小国　俊之
19	2007		養父　一太			6	錦　　秀知		水野　洋一		小国　久美		境　　良治		神谷　晴美		小国　俊之
20	2008		養父　一太				錦　　秀知		水野　洋一		小国　久美		境　　良治		神谷　晴美		小国　俊之
21	2009		養父　一太				錦　　秀知		水野　洋一		小国　久美	5	新井　貴雄		神谷　晴美		小国　俊之
22	2010		養父　一太				錦　　秀知	7	東條　安彦		小国　久美		新井　貴雄		神谷　晴美		小国　俊之

（開催県担当理事長の6年間を（ ）とした）

第１節
関西学生バドミントン連盟

関西学生バドミントン連盟のあゆみ

近畿バドミントン協会が創立60周年を迎えられるに当たり、関西学生バドミントン連盟会長として心からお祝い申し上げますとともに、本連盟の過去の戦績を調べた結果を述べさせて頂きます。

さて、このような周年事業がありますと、過去の戦歴が調べたくなります。関西学生バドミントン連盟は、バドミントンが新しいスポーツとしていち早く導入した先輩方によって創設されました。聞くところによりますと、当時は練習する場所など大学内には無いので、大阪や神戸のＹＭＣＡの体育館を借りて、色んな大学の学生たちと練習を行ったということです。この時期には全国的にバドミントン競技が立ち上がったようで、関西学院大学の大圃秀生氏の記録を基にして歴史を振り返れば、本関西学生バドミントン連盟もほぼ60年前の昭和25年７月６日に創立されたとのことです。初代会長に石渡俊一先生（当時、関西大学員外教授、朝日新聞社運動部勤務）、委員長に関西大学の仙波　漸氏、副委員長に大谷大学の藤裔常正氏と関西学院大学の大圃秀生氏でありました。なお､2010年までの学連委員長等の資料については、表１の「歴代委員長」をご参照下さい。この昭和25年の11月12日には京都市内の洛南中学校の体育館において「関西学生連盟設立記念バドミントン競技大会」と銘打って「第１回関西学生バドミントン選手権大会」が開催されました。参加大学は、関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学、大谷大学、などの５校から30余名が参加したとのことであります。なお､2010年現在の学連登録大学の資料については、表２の「関西学生バドミントン連盟登録大学とリーグ戦順位」を参照して下さい。第１回の関西学生選手権の結果はシングルス優勝 坂崎洋太郎氏（関学）、準優勝 藤井孝彦氏（関大）、ダブルス優勝 坂崎洋太郎・大圃秀生両氏（関学）、準優勝 藤井孝彦・蔦田博一両氏（関大）でありました。その後の関西学生選手権の結果は、表３の「栄光の関西チャンピオン」などをご覧下さい。

全国レベルで見れば、当初は競技力において関東地区の大学に後れを取っていたのですが、クラブを立ち上げた先輩人の努力により、有能な新人を獲得され、その選手等が東西対抗戦・インカレなどで大活躍し、関西地区の大学の名を全国的に広く知らしめるに至りました。昭和29年には、日本が初エントリーしたトーマス杯に日本代表チームの一員として、武田一徳氏（関学）、上田益弘氏（同志社）が名を連ねました。また､上田氏は後に日本選手権で優勝されました。加えて、昭和33年に第３回アジア競技大会が東京で開催された際には、オープン競技ではあったものの、日本代表のメンバーの一員として、関西地区から松王清志（関大）、小松康博（関大）、の両氏が選出され、皇太子殿下が観戦された中、日本に見事優勝を導き、金メダルを獲得されました。

ただ､インカレにおいては､大学対抗の男子の団体戦においては､60年経った今も､昭和62年（38回）、昭和63年（39回）、平成13年（52回）、平成14年（53回）の近畿大学の準優勝が最高位で、未だ関東の牙城を打ち崩せておりません｡しかし個人戦においては､最初の13年で､小松康弘氏（関大）、河内利雄（同大）、国信祝二（関大）の３氏の３位が最高位でありましたが、ようやく昭和63年の39回大会において、シングルスで江藤裕樹氏（近大）が関西に優勝をもたらしました。その後、平成

５年(44回)と平成６年(45回)大会において大山宏史・岸田明宏氏(近大)のダブルスが連続優勝を成し遂げました。また、平成14年エストニアで開催された国際学生大会において、中村寿史氏(近大)がシングルスで優勝を成し遂げています。その他、国際学生・世界学生大会には、昭和50年東京、山口　勇氏(近大)、平成18年中国武漢に山口公洋氏(近大)、平成20年ポルトガル・ブラガ市に浦窪文也氏(近大)などが選抜されており、近畿大学の学生達の検討が目立っております。

一方、昭和28年の第４回インカレから組み込まれた女子の部においては、京都女子大学が初栄冠を射止めました。その後、７、８、12回の大会も全国制覇されました。さらに、昭和45年(21回)、昭和46年(22回)には東大阪短期大学、昭和55年(31回)、昭和60年(36回)、37回、38回、40回と四条畷学園短期大学が全国制覇致しました。個人戦においては優勝者についても枚挙に遑がないほどであります。女子として初年度の昭和27年の3回大会(個人戦のみ)において、早瀬治子氏(神戸大)がシングルスを制覇、加えて田中弘美氏(神戸大)と組んでダブルスをも制覇されました。その後の優勝された方については、表５にまとめてみましたのでそれを参照して下さい。

女子について特筆すべきは、学生時代に全日本総合を制覇し、世界制覇をも成し遂げた関西の学生選手がおられたことです。それは植野恵美子氏、北田スミ子氏(いずれも四条畷学園短期大学)です。植野恵美子氏は大学生時代に昭和51年、竹中悦子氏と組みダブルス全国制覇を成し遂げられました。また、昭和52年にはロンドンのウェンブレーにて全英オープン選手権ダブルス優勝、またスウェーデンのマルメにて第１回世界選手権ダブルス優勝を勝ち取られました。昭和53年東京にて国際バドミントン競技大会ダブルス優勝という、関西の大学の現役学生としては前代未聞の活躍でした。次に現役学生として全日本制覇、世界制覇を成し遂げられたのは北田スミ子氏であります。彼女は学生時代に昭和60年、61年と全日本総合でシングルスを連覇、加えて昭和61年の第９回ユーバー杯(世界国別女子団体戦)で優勝されました。このように女子の活躍が顕著でありましたが、当時四条畷学園短大の監督として彼女等を指導されていた片岡輝明氏の御苦労は計り知れないものがあったかと想像いたします。指導者・学生の「打倒関東」・「日本制覇・世界制覇」というベクトルが、短期間で揃うのはなかなか難しいとはいえ、「よくぞここまで鍛え上げられたか」というのが実感です。

ただインカレなどにおいては、今までは、「男子がダメでも女子が西に賜杯を持ってくるだろう」という淡い期待を抱いて大会を見続けておりました。関西学連が60周年目を迎えようとしている昨今、男女とも東高西低で、大会に役員として参加していても虚しい限りであります。関西の学生大会の開会式・閉会式の挨拶などで、折を見ては「打倒関東」を訴えておりまして学生に檄を飛ばしております。現在の大学生活は、学年歴を通年から半期セメスター制へと移行し、東西問わず、正課の授業が中心で、課外のクラブ活動が中心とは成りづらくなっております。学生大会の試合の日程・会場の確保などなど、関西学生連盟としても多くの課題を抱えております。このことより近畿協会の皆様の御協力・御指導・ご鞭撻のほどを偏にお願い申し上げる次第であります。いつの日か、現在の学生アメリカンフットボールのように西高東低といわれる時代が来ることを願い、ここで締めくくらせてい頂きたいと思います。

(会長　中原　住雄)

第１節　関西学生バドミントン連盟の創設

関西学生バドミントン連盟の創設の話しは京都南禅寺の１室で始まった。

1950(昭和25)年７月１日(木)から１泊２日のＹＭＣＡレイリーダー(指導者)講習会がＹＭＣＡ総同盟のフィッシャー博士を招いて京都南禅寺で開催されたのである。この会に大阪ＹＭＣＡから仙波漸(関西大学)、神戸ＹＭＣＡから大圃秀生(関西学院大学)が参加していた。昼間の諸講義が終了し夕食も済み皆それぞれ歓談に入っていた。偶然仙波と大圃は夕食の席が隣り合わせであったこともあってお互いにＹＭＣＡでの活動を話している中に二人ともバドミントンクラブに所属していることや大学でも同好会活動をしていることが判り、意気投合の上関西学生連盟を立ち上げようではないかという事になってその夜は遅くまで二人で何処の大学で誰がやっているとか、第１回目の会合をいつ何処で開くかなど話し合った。その結果二人の知っていること総合すると　1.大学は関大、関学、同志社大、立命大、大谷大に連絡の付けられる事　2.第１回目の会合は夏休みに入るので来週７月６日(火)午後１時から土佐堀の大阪ＹＭＣＡで開催すること。を決めて就寝した。余談になるが、翌朝和尚の大きな声で起こされ、驚くようなニュースを寝ぼけた頭に聞かされた。『今暁、金閣寺が焼けましてな』という事であった。有志で早速『焼けない中に銀閣寺を帰りがけに見に行こう』という事になり何人かで行った。

さて本題の関西学連であるが、帰宅後分担した大学の代表者と思える人物にそれぞれ電話連絡し、７月６日は必ず参加されるよう依頼したがこれが大変だった。特に大圃の家は電話が市外で局外は総て手回し式で局を呼び出し、相手局番を告げて接続して貰う方式なので時間のかかること夥しかった。仙波は連絡と議題作成と説明準備で３日をフルに潰したと言っていた。

それでも当日集まったのは

関西大：仙波　漸、蔦田博一、藤井孝彦　　関学大：大圃秀生、坂崎洋太郎

同志社大：北川浩一　　立命舘大：坂田善也　　大谷大：藤裔常正、沼田恵誠

オブザーバー：川口清(同志社ＯＢ)

の10名であったと記憶する。(私のメモには８名となっているが)

仙波から縷々設立の趣旨が説明され全員賛成し早速具体的活動の内容に入ったが、既に夏期休暇に入った大学や間もなく休暇に入る大学があり、直ちに活動開始は無理であるという事から下記を決めて散会した。

１．名称　　関西学生バドミントン連盟　　２．創立日　1950(昭和25)年７月６日

３．会長　　石渡　俊一(これから折衝するが先ず確実)

４．学連役員　委員長　　仙波　　漸(関西大学)

副委員長　藤裔　常正(大谷大学)、　大圃　秀生(関西学院大学)

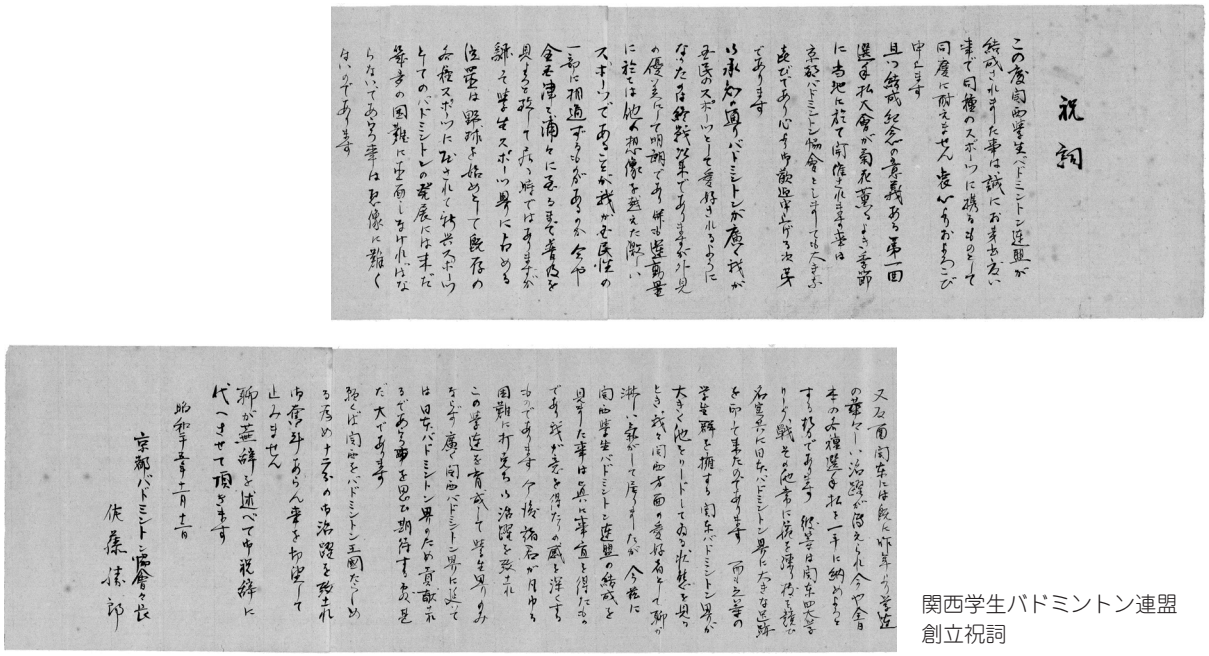
５．活動開始　　1950(昭和25)年９月１日

６．本年度の予定　Ａ．年内に第一回関西学生選手権(個人)大会を開催するが日時、場所は決定後通知する

Ｂ．リーグ戦については来年度からとし、詳細は今後の委員会で決める。

この会合の後10月に委員長、副委員長のみ集まり11月12日藤裔、北川両氏の努力により京都洛南中学で第一回関西学生バドミントン選手権(男子個人のみ)が行われ、第一回優勝はシングル坂

崎洋太郎(関学大)、ダブルス大圃・坂崎組(関学大)が獲得して無事閉幕した。この大会には京都府バドミントン協会佐藤勝郎会長より祝辞を頂きいまも大圃が大切に保管している。



祝詞

この度関西学生バドミントン連盟が結成されました事は誠にお慶び申上げます
且つ結成記念の意義ある第一回選手権大会が関西で開催されます事は京都バドミントン協会としましても亦喜びであり心より歓迎申上げる次第であります
抑々凡そバドミントンが広く我が国民のスポーツとして愛好されるようになったのは終戦以来であります事は外見の優美さに加えて明朗で而も健全性に於いては他の球技を越えた点にあるからであります
我が民族の一部に相通ずるものがあるのか今や全国を津々浦々に至る迄普及を見るに到りました事は誠に慶賀に堪えません
殊に学生スポーツ界に占める位置は非常に大きくて既存の各種スポーツにおされて新興スポーツとしてのバドミントンの発展には実に並々ならぬものがあります事は皆様に於かれましても充分御承知の事と存じます
又今回関西に於ける学生の学生競技を擁する関東バドミントン界が大きく他をリードしている状態を見るとき我々関西方面の愛好者として御の御一考が願われたのであります
今般関西学生バドミントン連盟の結成を見ました事は真に時宜を得たものであり我が意を得たりの感を深くするものであります
今後益々月ゆき日重ねて斯界の為御尽力あらん事を切望して止みません
御祝詞を述べて甲祝辞に代えさせて頂きます

昭和二十六年十月十一日

京都バドミントン協会々長
佐藤勝郎

関西学生バドミントン連盟
創立祝詞

1951(昭和26)年度は関西学連が活動を始めた事を知った関東学連がどうしても関西で第一回全日本学生東西対抗戦を開催して欲しいと申し込まれ、何も判らぬ儘、神戸ＹＭＣＡ体育館で５月26､27日２日間かけて関東学連と日本学連の言う通り､21シングルス､10ダブルスの31試合を関西学連主管で学生のみの力で開いた。試合の結果は関西学生選抜の西軍はシングルス２勝、ダブルス１勝、計28対３で大敗したが、関西学連にとっては初の東西交流戦で良い経験になった。

６月には金沢大学の強い要望で関西学生リーグ戦に参加を受け入れ、関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学、大谷大学、京都大学の７大学で初の関西学生リーグ(男子のみ)戦を行った。金沢大学は変則的に京都の１日で全試合を消化する。１大学３複６単の編成で総計154試合を神戸(２日)と京都(１日)の３日間で消化したが遠征してきた金沢大学に優勝を攫われてしまった。２位関西大学、３位大谷大学、４位同志社大学、５位京都大学、６位関西学院大学、７位立命館大学であった。収まらないのが金沢大学の参加に反対した各大学でリーグ戦終了後、関西学連委員長名で『１．金沢大学は今後早急に北陸学連を設立しそちらに加盟して欲しい。２．金沢大学は今回招待大学の優勝とし、関西学連としてはリーグ戦の初代優勝校を二位であった関西大学とし以下順次繰り上げる。３．今後関西学連は金沢大学のため変則試合スケジュールを組むことはしない旨』お詫び旁々連絡しところ、素直に受け入れられこの件は落着した。

この年はリーグ戦の選手数の不足する大学もあったため秋季リーグは開かず12月９日大阪今宮高校で第二回学生選手権を開催した。1952(昭和27)年も秋は全日本学生選手権大会を神戸で開くため秋季リーグ戦は開催しないことを決め、春季リーグ戦を開催した。記憶に因ればこの年早くも２部体制となり京都薬科大学、大阪工業大学、神戸商科大学の参加があったように思う。以降参加大学の増加と共に２部制は３部制にそして女子個人､女子大学対抗と発展して行くのである。

(初代副委員長　大圃　秀生)

関西学生連盟　歴代役員（表１）

1950年	委員長	仙波　漸	関西大
	副委員長	藤裔　常正	大谷大
	副委員長	大圃　秀生	関学大
1951年	委員長	大圃　秀生	関学大
	副委員長	沼田　恵誠	大谷大
	副委員長	藤井　孝彦	関西大
1952年	委員長	大圃　秀生	関学大
	副委員長	田中　誠人	関西大
	副委員長	横山　敏	大谷大
1953年（4月～11月）	委員長	大圃　秀生	関学大
	副委員長	横山　敏	大谷大
	副委員長		
1953年（11月～3月）	委員長	高谷　芳明	同志社
	副委員長	多田　康明	関西大
	副委員長	武田　一徳	関学大
1954年	委員長	高谷　芳明	同志社
	副委員長	多田　康明	関西大
	副委員長	武田　一徳	関学大
1955年	委員長	武田　一徳	関学大
	副委員長	植木　松雄	関西大
	副委員長	福田　正男	神商大
1956年	委員長	福田　正男	神商大
	副委員長	瀬戸　敏雄	立命館
	副委員長	西　慶修	関西大
1957年	委員長	堀本　忠勝	関西大
	副委員長	広田　修	同志社
	副委員長	酒井財一郎	関学大
1958年	委員長	清水勇一郎	同志社
	副委員長	白井　勇ニ	関西大
1959年	委員長	田中　康夫	関学大
	副委員長	西山　政弘	関西大
	副委員長	植谷　敏雄	同志社
1960年	委員長	佐野　武司	関西大
1961年	委員長	佐藤新太郎	同志社
	副委員長	寺沢　衛	関西大
	副委員長	志野伊三男	関学大
1962年	委員長	生越　票蔵	関西大
	副委員長	中川　義治	立命館
	副委員長	三井　幸信	同志社
	副委員長	森　比佐	京都女
1963年	委員長	黒田　寿一	関学大
	副委員長	高橋　克己	甲南大
1964年	委員長	破入　雅彦	関西大
	副委員長	中村　裕	関学大
1965年	委員長	湊谷　隆夫	同志社
	副委員長	目代　国広	関学大
	副委員長	天野　寛	関西大
1966年	委員長	東原　暉泰	関西大
1967年	委員長	富平　信行	関学大
	副委員長	松本　俊和	同志社
	副委員長	竹中　政行	甲南大
1968年	委員長	ハ木　昌晴	関西大
	副委員長	酒井　義男	近畿大
	副委員長	杉山興一郎	同志杜
	副委員長	石元　輝雄	立命館
1969年	委員長	足立　英雄	同志社
	副委員長		
1970年	委員長	秋山　正文	近畿大
	副委員長	宮崎　博幸	同志社
	副委員長	民谷　憲二	大市大
1971年	委員長	山崎　修二	大市大
	副委員長	竹原　伸幸	神商大
	副委員長	清水　英俊	関西大
	副委員長	溝辺　信吾	追手門
1972年	委員畏	川越雄二郎	同志社
	副委員長	大川　司	近畿大
	副委員長	西岡　茂樹	龍谷大
	副委員長	斎藤　彰秀	立命館
1973年	委員長	古武　義治	関学大
	副委員長	徳原　和泰	同志社
	副委員長	大石　悦子	樟蔭大
1974年	委員長	高橋　徳美	近畿大
	副委員長		
	副委員長		
1975年	委員長	安田　伸一	大阪大
	副委員長	青葉　伸昌	大経大
	副委員長		
1976年	委員長	小島　聡	京都大
	副委員長	住友　幸宏	同志社
	副委員長	堀部府佐子	武車川
1977年	委員長	西村　憲雄	大市大
	副委員長	榊　弘次	関西大
	副委員長		
1978年	委員長	百々　聡	大阪大
	副委員長	西浦　恵	大谷女
	副委員長	三久保裕章	同志社
	副委員長	生田　善男	甲南大
	会　計	川上　景子	樟蔭大
	会計監査	矢野　和子	佛教大
	会計監査	荒谷　真一	大経大
1979年	委員長		
	副委員長		
	副委員長		
1980年	委員長	永松　宣克	立命館
	副委員長	赤羽　友幸	京産大
	副委員長	山本　公大	神戸大
	副委員長	和佐谷きよ子	大谷女大
1981年	委員長	南　尊文	大経大
	副委員長	本山　正二	立命館
	副委員長	山崎　由裕	龍谷大
	副委員長	安田　薫	大体大
	常任委員	山本　敏江	四条畷
	会　計	太田　満	関西大
1982年	委員長	湯浅　庸介	神戸大
	副委員長	杉野　元康	龍谷大
	副委員長	野口　康裕	大市大
	会　計	川上真理子	甲南大
1983年	委員長	西田　祥三	大外大
	副委員長	大倉　明	京産大
	副委員長	杉野　元康	龍谷大
	副委員畏	野口　康裕	大市大
	会　計	下元　裕子	同女大
1984年	委員長	西田　勝彦	神戸大
	副委員長	小堀　潔	同志社
	副委員長	湯浅　啓示	甲南大
	副委員長	松本　幸盛	近畿大
	会　計	中司千恵子	武庫川
	会計監査	横山　慶子	甲南女
	会計監査	国武　浩一	京都大

1985年	委員長	村田　早苗	大外大	1990年	委員長	芝野　恒平	同志社	1996年	委員長	平野　貴久	近畿大
	副委員長	山本　志朗	大経大		副委員長	西田　　功	阪南大		副委員長	御前　和也	近畿大
	副委員長	永合　正幸	大院大		副委員長	井上　順滋	大院大		副委員長	竹井　和浩	同志社
	副委員長	松本　幸盛	近畿大		副委員長	村松　　剛	立命館		会　　計	松田　琴美	神院大
	会　　計	隅野真由美	大教大		会　　計	喜多川幸子	武車川		会計監査	木村　佳規	大経大
	会計監査	音野　　均	京教大		会計監査	湯川　　章	英知大				
	会計監査	山村　友子	神女院		書　　記	鶴田多一郎	佛教大	1997年	委員長	御前　和也	近畿大
1986年	委員長	山本　志朗	大経大						副委員長	本道　由幸	近畿大
	副委員長	田村隆太郎	同志社	1991年	委員長	芝野　恒平	同志社		副委員長	仲江太佳博	天理大
	副委員畏	井上　　章	神戸大		副委員長	熊谷　仁志	佛教大		副委員長	大藤　武史	大院大
	副委員長	三宅　　洋	京都大		副委員長	西口　基之	関西大		会　　計	松田　琴美	神院大
	会　　計	山崎　康子	神女院		会　　計	田中ちひろ	大阪大		副会計	堤　千賀子	関外大
	会計監査	黒田　勝己	大体大		会計監査	真鍋　直裕	桃山大		会計監査	末長　清水	武車川
	会計監査	森本百合子	追手門		書　　記	稲上　　裕	追手門				
1987年	委員長	清水　義文	京産大					1998年	委員長	仲江太佳博	天理大
	副委員畏	岡本　太郎	大院大	1992年	委員長	平田　靖彦	立命館		副委員長	浅田　和浩	佛教大
	副委員長	宇田　昌吾	神戸大		副委員長	西口　基之	関西大		副委員長	大藤　武史	大院大
	副委員長	三宅　　洋	京都大						副委員長	森下　誉康	龍谷大
	会　　計	瓦林　牧子	武庫川	1993年	委員長				会　　計	竹内　真紀	関西大
	会計監査	斎藤　英作	立命館		副委員長				副会計	吉田　眞子	関外大
	会計監査	大林　紀生	大外大						副会計	下川　淳子	立命館
1988年	委員長	清水　義文	京産大	1994年	委員長	横畑　昌彦	関西大		書　　記	奥村　直史	同志社
	副委員長	岡本　太郎	大院大		副委員長	立岩　大輔	立命館				
	副委員畏	宇田　昌吾	神戸大		副委員長	北村　充央	佛教大	1999年	委員長	大藤　武史	大院大
	副委員畏	大塚　尚哉	大阪大		会　　計	川合　由起	四天大		副委員長	金城　好麿	近畿大
	会　　計	北野　緋奈	関外大		会計監査	平野　貴久	近畿大		副委員畏	植田　一基	龍谷大
	会計監査	斎藤　英作	立命館		書　　記	北野　博章	関西大		会　　計	吉田　眞子	関外大
	会計監査	佐々木仁司	龍谷大						副会計	楼井　亜弓	武車川
	書　　記	村田　　健	甲南大	1995年	委員長	立岩　大輔	立命館		会計監査	荻野由里子	神院大
1989年	委員長	大塚　尚哉	大阪大		副委員長	平野　貴久	近畿大		書　　記	広内　　毅	大院大
	副委員長	村田　　健	甲南大		副委員長	竹井　和浩	同志社				
	副委員長	井上　順滋	大院大		会　　計	野渕　瑞穂	関外大				
	会　　計	山田　晃子	大外大		会計監査	御前　和也	近畿大				
	会計監査	芝野　恒平	同志社		書　　記	佐野　浩紀	大教大				
	会計監査	竹中　　豪	関西大								
	書　　記	伊高　健治	京都大								

2000年	委員長	広内　毅	大院大	3年
	副委員長	金城　好麿	近畿大	3年
	副委員長	植田　一基	龍谷大	3年
	副委員長	吉田　眞子	関外大	4年
	会計	荻野由里子	神院大	3年
	副会計	本間亜矢子	天理大学	2年
	会計監査	櫻井　亜弓	武庫川女子	2年
	常任委員	西田　鉄平	立命館大	3年
	常任委員	芳之内和彦	関西大学	3年
	常任委員	岩切　隆浩	関西学院	2年
	常任委員	柳楽　有香	同志社大	2年
	常任委員	川野　良二	関西大学	4年
	常任委員	藤原　一峰	甲南大学	3年
2001年	委員長	本間亜矢子	天理大学	3年
	副委員長	岩切　隆浩	関西学院	3年
	副委員長	岡本　一晃	龍谷大学	2年
	会計	荻野由里子	神院大	4年
	会計監査	千場　美甫	関西外国語大	2年
	常任委員	西田　鉄平	立命館大	4年
	常任委員	芳之内和彦	関西大学	4年
	常任委員	神元　隼人	京都産業大	2年
2002年	委員長	岩切　隆浩	関西学院	4年
	副委員長	岡本　一晃	龍谷大学	3年
	副委員長	蜂須賀大喬	関西大学	2年
	会計	堀　実鈴	立命館大	3年
	会計監査	高野有希子	同志社大	3年
	書記	神元　隼人	京都産業大	3年
	書記	加藤　善大	神戸大学	2年
	常任委員	中村　尚史	大阪学院	3年
	常任委員	中尾　友美	甲南大学	2年
	常任委員	中根　寧子	滋賀大経済	3年
	常任委員	西谷　暢仁	大阪経済大	3年
2003年	委員長	岡本　一晃	龍谷大学	4年
	副委員長	神元　隼人	京都産業大	4年
	副委員長	蜂須賀大喬	関西大学	3年
	副委員長	加藤　善大	神戸大学	3年
	会計	堀　実鈴	立命館大	4年
	会計監査	高野有希子	同志社大	4年
	書記	中尾　友美	甲南大学	3年
	書記	西川　弘憲	大阪学院大	2年
	常任委員	中根　寧子	滋賀大経済	4年
	常任委員	安田　勇介	大阪教育大	2年
	常任委員	浅野　恵太	近畿大学	2年
	常任委員	大路　高志	神戸学院	2年
	常任委員	吉村　明子	花園大学	2年
2004年	委員長	蜂須賀大喬	関西大学	4年
	副委員長	加藤　善大	神戸大学	4年
	副委員長	西川　弘憲	大阪学院大	3年
	副委員長	市橋　尚之	龍谷大学	2年
	会計	高津　亜希	京都産業大	3年
	会計監査	中尾　友美	甲南大学	4年
	書記	大路　高志	神戸学院大	3年
	書記	久保田悠子	同志社大	2年
	常任委員	辰巳　千佳	大阪体育大	2年
	常任委員	谷坂　優花	天理大学	1年
	常任委員	内田　知佳	関西外国語大	1年
2005年	委員長	西川　弘憲	大阪学院大	4年
	副委員長	市橋　尚之	龍谷大学	3年
	副委員長	図司　皓一	同志社大	3年
	副委員長	横野　智	関西大学	2年
	会計	高津　亜希	京都産業大	4年
	会計監査	駒川　尚美	神戸学院大	2年
	書記	衣川　清文	甲南大学	2年
	書記	辰巳　千佳	大阪体育大	3年
	常任委員	内田　知佳	関西外国語大	2年
	常任委員	谷坂　優花	天理大学	2年
2006年	委員長	市橋　尚之	龍谷大学	4年
	副委員長	横野　智	関西大学	3年
	副委員長	川上　晃弘	京都産業大	2年
	副委員長	奥田　圭介	大阪学院	2年
	会計	駒川　尚美	神戸学院大	3年
	会計監査	久保田悠子	同志社大	4年
	書記	衣川　清文	甲南大学	3年
	書記	辰巳　千佳	大阪体育大	4年
	常任委員	谷坂　優花	天理大学	3年
	常任委員	内田　知佳	関西外国語大	3年
	常任委員	池渕　卓也	仏教大学	2年
	常任委員	村本　歩	関西福祉科学大	2年
2007年	委員長	横野　智	関西大学	4年
	副委員長	川上　晃弘	京都産業大	3年
	副委員長	谷山　塁	大阪学院大	2年
	副委員長	池渕　卓也	仏教大学	3年
	会計	駒川　尚美	神戸学院大	4年
	会計監査	永井　博	立命館(学連副会長)	
	書記	衣川　清文	甲南大学	4年
	書記	大道　丈	同志社大	2年
	常任委員	宮内　太一	関西外国語大	2年
	常任委員	橋本　恭平	龍谷大学	2年
2008年	委員長	川上　晃弘	京都産業大	4年
	副委員長	谷山　塁	大阪学院大	3年
	副委員長	池渕　卓也	仏教大学	4年
	会計	高原　理沙	関西大	2年
	会計監査	永井　博	立命館(学連副会長)	
	書記	大道　丈	同志社大	3年
	常任委員	宮内　太一	関西外国語大	3年
	常任委員	橋本　恭平	龍谷大学	3年
	常任委員	江角香菜子	神戸学院大学	2年
	常任委員	手川　也実	関西学院大学	2年
	常任委員	鎌田　寛司	近畿大学	2年
	常任委員	堀澤　竜也	甲南大学	2年
	常任委員	伊藤　吉彦	京都産業大学	1年
2009年	委員長	谷山　塁	大阪学院	4年
	副委員長	橋本　恭平	龍谷大学	4年
	副委員長	伊藤　吉彦	京都産業大	2年
	会計	高原　理沙	関西大	3年
	会計監査	永井　博	立命館(学連副会長)	
	書記	大道　丈	同志社大	4年
	常任委員	江角香菜子	神戸学院	3年
	常任委員	手川　也実	関西学院	3年
	常任委員	鎌田　寛司	近畿大	3年
	常任委員	堀澤　竜也	甲南大	3年
	常任委員	澤田　悠	大阪体育大	2年
2010年	委員長	伊藤　吉彦	京都産業大	3年
	副委員長	堀澤　竜也	甲南大	4年
	副委員長	児玉　翔	龍谷大	2年
	会計	高原　理沙	関西大	4年
	副会計	俣野　絢美	同志社	2年
	会計監査	永井　博	立命館(学連副会長)	
	書記	瀬尾　和世	神戸学院	2年
	常任委員	手川　也実	関西学院	4年
	常任委員	鎌田　寛司	近畿大	4年
	常任委員	澤田　悠	大阪体育大	3年
	常任委員	大塚絵美子	仏教大	2年
	常任委員	河野　豊	関西大	1年

関西学生連盟登録大学とリーグ戦順位Ⅰ・Ⅱ部(表2)

年		部	1位	2位	3位	4位	5位	6位	備　考		部	1位	2位	3位	4位	5位	6位	備　考
1951年		Ⅰ	関大	大谷	同大	京大	関学	立命	(ゲスト優勝 金沢)									
1952年		Ⅰ	同大	関学	関大	立命	大谷	京大										
		Ⅱ	京薬	大工	大薬													
1953年		Ⅰ	同大	関学	関大	立命	京薬	大谷										
		Ⅱ	京大	神商	大工	大経	大学芸	大薬	7位甲南									
1954年	春	Ⅰ	関大	同大	立命	関学	京薬	京大		春	Ⅰ	京女	大学芸	滋学芸		秋以降不詳		
	秋	Ⅰ	同大	立命	関大	関学	神商	京薬										
1955年	春	Ⅰ	関大	同大	立命	関学	神商	大経										
	秋	Ⅰ	関大	同大	神商	立命	関学	大経										
1956年	春	Ⅰ	関大	同大	立命	神商	関学	大経										
	秋	Ⅰ	関大	同大	立命	神商	大経	関学										
1957年	春	Ⅰ	関大	同大	立命	神商	関学	大経										
	秋	Ⅰ	関大	同大	立命	神商	関学	大経										
1958年	春	Ⅰ	立命	関大	神商	神大	関学	同大		秋	Ⅰ	京女	同女	樟蔭	滋賀教	神女学	大府	
	秋	Ⅰ	立命	関大	同大	関学	神大	神商										
1959年	春	Ⅰ	同大	関大	立命	関学	神大	大経		春	Ⅰ	京女	大府	同女	神女学	滋賀教	和大	
	秋	Ⅰ	関大	立命	同大	関学	神商	神大		秋	Ⅰ	京女	同女	神女学	大府	和大	滋賀教	
1960年	春	Ⅰ	関大	同大	立命	関学	神商	神大		春	Ⅰ	樟蔭	京女	神女学	同女	和大	滋賀教	
	秋	Ⅰ	関大	関学	立命	同大	神大	神商		秋	Ⅰ	京女	樟蔭	神女学	甲南	同女	関学	
1961年	春	Ⅰ	関大	同大	関学	立命	神大	甲南		春	Ⅰ	京女	樟蔭	神女学	同女	関学	山手	
	秋	Ⅰ	関大	同大	関学	立命	甲南	神大		秋	Ⅰ	樟蔭	京女	神女学	関学	山手	神大	
1962年	春	Ⅰ	関大	関学	同大	甲南	神大	立命		春	Ⅰ	樟蔭	京女	山手	神女学	関学	神大	
	秋	Ⅰ	関大	関学	同大	神大	甲南	立命		秋	Ⅰ	樟蔭	京女	関学	山手	神女学	松蔭	
1963年	春	Ⅰ	関学	同大	甲南	関大	神大	神商		春	Ⅰ	樟蔭	京女	関学	山手	神女学	武庫川	
	秋	Ⅰ	同大	関学	甲南	関大	神商	神大		秋	Ⅰ	樟蔭	京女	関学	武庫川	神女学	大院	
1964年	春	Ⅰ	同大	関学	関大	神大	甲南	神商		春	Ⅰ	京女	樟蔭	大院	神女学	関学	武庫川	
	秋	Ⅰ	同大	関学	関大	甲南	神大	立命		秋	Ⅰ	京女	樟蔭	武庫川	大院	関学	神女学	
1965年	春	Ⅰ	関大	関学	同大	甲南	大経	神大		春	Ⅰ	京女	樟蔭	関学	武庫川	大院	神女学	
	秋	Ⅰ	同大	関大	関学	甲南	大経	大市大		秋	Ⅰ	京女	樟蔭	武庫川	関学	大院	松蔭	
1966年	春	Ⅰ	関大	関学	立命	甲南	同大	大経		春	Ⅰ	京女	樟蔭	武庫川	関学	大院	松蔭	
	秋	Ⅰ	関大	同大	関学	近大	甲南	立命		秋	Ⅰ	京女	樟蔭	関学	武庫川	松蔭	大院	
1967年	春	Ⅰ	関大	同大	近大	関学	立命	甲南		春	Ⅰ	武庫川	樟蔭	関学	京女	大教	松蔭	
	秋	Ⅰ	関大	近大	同大	関学	立命	神大		秋	Ⅰ	樟蔭	武庫川	関学	大教	京女	京教	
1968年	春	Ⅰ	関大	近大	同大	関学	立命	甲南		春	Ⅰ	大教	樟蔭	武庫川	京教	京女	関学	
	秋	Ⅰ	関大	近大	同大	神大	関学	立命		秋	Ⅰ	樟蔭	大教	武庫川	関学	京教	京女	
1969年	春	Ⅰ	近大	関大	同大	神大	関学	立命		春	Ⅰ	武庫川	樟蔭	大市	大教	関学	京教	
		Ⅱ									Ⅱ	東大阪	同女	京女	阪大	神大	京府	
	秋	Ⅰ	近大	関大	同大	神大	関学	甲南		秋	Ⅰ	東大阪	武庫川	樟蔭	大市	大教	関学	
		Ⅱ	阪大	龍大	立命	滋賀教	京大	大経			Ⅱ	松蔭	京女	神大	京教	同女	阪大	
1970年	春	Ⅰ	近大	関学	関大	同大	阪大	神大		春	Ⅰ	東大阪	武庫川	大教	樟蔭	松蔭	大市	
		Ⅱ	龍大	大経	甲南	京大	立命	滋賀教			Ⅱ	奈良教	神大	京女	京教	同女	関学	
	秋	Ⅰ	近大	関学	関大	同大	阪大	龍大		秋	Ⅰ	東大阪	武庫川	樟蔭	大教	奈良教	松蔭	
		Ⅱ	立命	甲南	神大	大経	京大	京工			Ⅱ	神大	京女	親和	大市	同女	京教	
1971年	春	Ⅰ	近大	関大	関学	阪大	立命	同大		春	Ⅰ	東大阪	大教	樟蔭	神大	武庫川	奈良教	
		Ⅱ	甲南	京大	大経	神商	龍大	神大			Ⅱ	親和	京女	大市	京教	松蔭	同女	
	秋	Ⅰ	近大	関大	関学	同大	立命	阪大		秋	Ⅰ	東大阪	樟蔭	親和	大教	武庫川	神大	
		Ⅱ	甲南	大経	神商	神大	龍大	京大			Ⅱ	松蔭	京教	京女	関学	奈良教	大市	
1972年		Ⅰ	近大	同大	阪大	関学	立命	関大		春	Ⅰ	樟蔭	親和	武庫川	大教	松蔭	東大阪	
		Ⅱ	京工	大経	神大	甲南	神商				Ⅱ	京女	京教	神大	奈良教	関学	阪大	
	秋	Ⅰ	近大	立命	阪大	京工	同大	関学		秋	Ⅰ	樟蔭	親和	大教	武庫川	京女	京教	
		Ⅱ	大経	龍大	関大	京大	京産	神大			Ⅱ	大体	神大	奈良教	松蔭	関学	東大阪	
1973年	春	Ⅰ	近大	立命	大経	同大	阪大	京工		春	Ⅰ	樟蔭	武庫川	大体	京女	親和	大教	
		Ⅱ	関学	神大	京産	関大	龍大	京大			Ⅱ	甲南	滋賀教	神大	松蔭	京教	奈良教	
	秋	Ⅰ	近大	関学	立命	大経	同大	阪大		秋	Ⅰ	樟蔭	武庫川	大体	京女	滋賀教	甲南	
		Ⅱ	京産	龍大	関大	神大	京工	京大			Ⅱ	山手	神大	神女学	大教	松蔭	親和	
1974年	春	Ⅰ	近大	大経	京産	立命	同大	関学		春	Ⅰ	武庫川	樟蔭	大体	神大	京女	山手	
		Ⅱ	関大	龍大	阪大	神大	京工	甲南			Ⅱ	大教	滋賀教	同女	和大	甲南	神女学	
	秋	Ⅰ	近大	大経	関大	京産	立命	同大		秋	Ⅰ	武庫川	樟蔭	京女	大体	神大	大教	

年		部	1位	2位	3位	4位	5位	6位	備　考
1975年	春	Ⅰ	近大	大経	立命	関大	同大	京産	
		Ⅱ	京大	神大	龍大	阪大	関学	京工	
	秋	Ⅰ	近大	大経	京大	関大	立命	同大	
		Ⅱ	京産	甲南	龍大	関学	阪大	神大	
1976年	春	Ⅰ	近大	大経	立命	関大	同大	京大	
		Ⅱ	関学	京産	甲南	阪大	龍大	神大	
	秋	Ⅰ	近大	大経	立命	京大	同大	関大	
		Ⅱ	京産	関学	甲南	龍大	阪大	桃山	
1977年	春	Ⅰ	近大	立命	京大	大経	同大	京産	
		Ⅱ	関学	関大	挑山	甲南	阪大	龍大	
	秋	Ⅰ	近大	大経	立命	京大	同大	関学	
		Ⅱ							
1978年	春	Ⅰ	近大	大経	同大	立命	京大	関学	
		Ⅱ	京産	神大	関大	龍大	桃山	甲南	
	秋	Ⅰ	近大	大経	関大	京産	立命	京大	
		Ⅱ	神大	関大	龍大	桃山	阪大	関学	
1979年	春	Ⅰ	近大	大経	同大	京産	立命	神大	
		Ⅱ	龍大	関大	京大	挑山	阪大	大市大	
	秋	Ⅰ	近大	大経	京産	龍大	関大	同大	
		Ⅱ	神大	甲南	桃山	大体	立命	京大	
1980年	春	Ⅰ	近大	京産	大経	同大	龍大	関大	
		Ⅱ	甲南	神大	大体	立命	阪大	挑山	
	秋	Ⅰ	近大	京産	大経	同大	龍大	甲南	
		Ⅱ	関大	天理	滋賀教	神大	立命	大体	
1981年	春	Ⅰ	近大	同大	大経	京産	関大	龍大	
		Ⅱ	天理	甲南	神大	立命	大体	滋賀教	
	秋	Ⅰ	近大	同大	京産	大経	関大	天理	
		Ⅱ	阪大	龍大	甲南	京大	神大	立命	
1982年	春	Ⅰ	近大	京産	天理	大経	同大	関大	
		Ⅱ	甲南	龍大	阪大	大体	京大	神大	
	秋	Ⅰ	近大	京産	同大	大経	天理	甲南	
		Ⅱ	龍大	関大	大体	阪大	京大	大産	
1983年	春	Ⅰ	近大	京産	同大	天理	大経	甲南	
		Ⅱ	関大	大体	龍大	阪大	神大	大産	
	秋	Ⅰ	近大	京産	同大	大体	天理	関大	
		Ⅱ	大経	龍大	阪大	甲南	京大	関学	
1984年	春	Ⅰ	近大	京産	大体	天理	大経	同大	
		Ⅱ	甲南	阪大	龍大	立命	大教	関大	
	秋	Ⅰ	近大	京産	天理	大体	甲南	大経	
		Ⅱ	同大	龍大	神大	立命	阪大	関学	
1985年	春	Ⅰ	近大	大体	京産	龍大	大経	天理	
		Ⅱ	同大	甲南	神大	立命	京教	阪大	
	秋	Ⅰ	近大	京産	大体	同大	龍大	甲南	
		Ⅱ	立命	大教	大経	関大	天理	神大	
1986年	春	Ⅰ	近大	同大	京産	大体	立命	大教	
		Ⅱ	龍大	甲南	関大	大経	神大	京教	
	秋	Ⅰ	近大	同大	京産	龍大	大体	甲南	
		Ⅱ	関大	大経	天理	神大	立命	大教	
1987年	春	Ⅰ	近大	同大	京産	龍大	大体	関大	
		Ⅱ	天理	大経	大教	甲南	京教	神大	
	秋	Ⅰ	同大	京産	近大	龍大	天理	大経	
		Ⅱ	大体	関大	阪大	京大	大教	甲南	
1988年	春	Ⅰ	近大	同大	龍大	京産	大体	天理	
		Ⅱ	大経	関大	立命	京大	阪大	挑山	
	秋	Ⅰ	近大	同大	京産	大経	龍大	関学	（以下 バドマガ賞）
		Ⅱ	天理	立命	大体	京大	甲南	阪大	
1989年	春	Ⅰ	同大	近大	大経	京産	天理	龍大	三角（同大）
		Ⅱ	京大	立命	大体	関大	挑山	甲南	
	秋	Ⅰ	同大	近大	大経	京産	天理	龍大	鈴木（同大）
		Ⅱ	大体	立命	京大	阪南	関大	甲南	

年		部	1位	2位	3位	4位	5位	6位	備　考
1975年	春	Ⅰ	武庫川	樟蔭	大体	京女	京教	神大	
		Ⅱ	大教	和大	山手	大谷女短	同女	甲南	
	秋	Ⅰ	武庫川	樟蔭	大体	神大	京教	京女	
		Ⅱ	大教	和大	大谷女短	京大	山手	同女	
1976年	春	Ⅰ	武庫川	樟蔭	神大	大体	大教	京教	
		Ⅱ	松蔭	京大	和大	大谷女	京女	山手	
	秋	Ⅰ	樟蔭	武庫川	大体	大教	神大	松蔭	
		Ⅱ	京大	京教	同女	大谷女	京女	和大	
1977年	春	Ⅰ	武庫川	樟蔭	大体	神大	大教	京女	
		Ⅱ	四条畷	京教	同女	松蔭	京女	大谷女	
	秋	Ⅰ	四条畷	武庫川	樟蔭	大体	神大	大教	
		Ⅱ							
1978年	春	Ⅰ	四条畷	武庫川	大教	樟蔭	大体	神大	
		Ⅱ	佛大	京教	京大	立命	同女	京女	
	秋	Ⅰ	四条畷	武庫川	大教	大体	樟蔭	神大	
		Ⅱ	同大	京教	佛大	立命	京大	同女	
1979年	春	Ⅰ	四条畷	武庫川	大体	大教	樟蔭	神大	
		Ⅱ	天理	佛大	京教	京大	同大	立命	
	秋	Ⅰ	四条畷	天理	武庫川	大体	大教	佛大	
		Ⅱ	甲南	大市	樟蔭	京教	神大	京大	
1980年	春	Ⅰ	四条畷	武庫川	天理	大体	大教	甲南	
		Ⅱ	龍大	同大	佛大	京教	樟蔭	大市	
	秋	Ⅰ	四条畷	武庫川	大体	天理	大教	龍大	
		Ⅱ	佛大	甲女	神大	京教	同大	甲南	
1981年	春	Ⅰ	四条畷	天理	龍大	武庫川	大体	大教	
		Ⅱ	甲女	同大	神大	京教	佛大	甲南	
	秋	Ⅰ	四条畷	天理	龍大	武庫川	大体	大教	
		Ⅱ	甲女	滋賀教	同大	神大	京大		
1982年	春	Ⅰ	四条畷	武庫川	大体	龍大	天理	甲女	
		Ⅱ	大教	佛大	京教	神商	滋賀教	同大	
	秋	Ⅰ	四条畷	武庫川	龍大	大体	甲女	佛大	
		Ⅱ	天理	京教	奈良教	神大	大教	神商	
1983年	春	Ⅰ	四条畷	龍大	武庫川	大体	天理	京教	
		Ⅱ	奈良教	佛大	神大	大教	甲女	園田	
	秋	Ⅰ	四条畷	龍大	武庫川	大体	天理	京教	
		Ⅱ	佛大	神商	大教	神大	奈良教	甲南	
1984年	春	Ⅰ	四条畷	天理	龍大	武庫川	大体	京教	
		Ⅱ	奈良教	神商	大谷	佛大	神大	大教	
	秋	Ⅰ	四条畷	天理	大体	龍大	武庫川	京教	
		Ⅱ	甲南	奈良教	大谷	佛大	神商	神大	
1985年	春	Ⅰ	四条畷	天理	大体	龍大	武庫川	京教	
		Ⅱ	甲南	佛大	奈良教	大谷	神大	神商	
	秋	Ⅰ	四条畷	龍大	天理	大体	武庫川	甲南	
		Ⅱ	京教	立命	大教	佛大	奈良教	大谷	
1986年	春	Ⅰ	四条畷	龍大	武庫川	天理	大体	京教	
		Ⅱ	立命	大教	甲南	大外	佛大	神大	
	秋	Ⅰ	四条畷	龍大	天理	大体	武庫川	立命	
		Ⅱ	大教	京教	関外	甲南	大谷女	大外	
1987年	春	Ⅰ	四条畷	龍大	天理	武庫川	大体	大教	
		Ⅱ	関外	京教	甲南	立命	甲女	関学	
	秋	Ⅰ	四条畷	龍大	天理	武庫川	大体	関外	
		Ⅱ	大教	甲女	甲南	立命	京教	同大	
1988年	春	Ⅰ	四条畷	龍大	武庫川	天理	大体	関外	
		Ⅱ	甲女	立命	大教	甲南	関学	京教	
	秋	Ⅰ	四条畷	龍大	大体	武庫川	天理	関外	（以下 バドマガ賞）
		Ⅱ	大教	甲南	立命	関学	滋賀教	甲女	
1989年	春	Ⅰ	四条畷	武庫川	大体	龍大	天理	大教	南里（四條畷）
		Ⅱ	立命	関外	甲南	同女	同大	滋賀教	
	秋	Ⅰ	四條畷	武庫川	天理	大体	立命	龍大	三ツ川（四條畷）
		Ⅱ	関外	甲南	同大	同女	神学短	大教	

年		部	1位	2位	3位	4位	5位	6位	備　考		部	1位	2位	3位	4位	5位	6位	備　考
1990年	春	Ⅰ	同大	近大	大経	龍大	京産	天理	植村(同大)	春	Ⅰ	四條畷	武庫川	龍大	天理	立命	大体	岩田(四條畷)
		Ⅱ	立命	大体	関学	阪南	関大	京大	伊藤(立命)		Ⅱ	神学短	関外	同大	甲南	関学	同女	道先(神学短)
	秋	Ⅰ	近大	同大	大経	龍大	京産	天理	稲村(近大)	秋	Ⅰ	四條畷	武庫川	龍大	天理	立命	神学短	新木(四條畷)
		Ⅱ									Ⅱ							
1991年	春	Ⅰ	近大	同大	龍大	大経	天理	京産	岸田(近大)	春	Ⅰ	四條畷	武庫川	龍大	立命	天理	関外	坂田(四條畷)
		Ⅱ									Ⅱ							
	秋	Ⅰ	同大	近大	龍大	大経	立命	天理	平野(同大)	秋	Ⅰ	四條畷	武庫川	龍大	立命	天理	関外	畑山(四條畷)
		Ⅱ									Ⅱ							
1992年	春	Ⅰ	同大	近大	立命	龍大	大経	天理	秋草(同大)	春	Ⅰ	武庫川	四條畷	天理	龍大	立命	関外	安原(武庫川)
		Ⅱ	京産	佛大	大教	神学	関大	関学	平井(京産)		Ⅱ	大体	神学短	同大	佛大	阪大	甲南	岩永(大体)
	秋	Ⅰ	近大	同大	立命	京産	龍大	大経	本田(近大)	秋	Ⅰ	四條畷	武庫川	立命	天理	龍大	大体	西田(四條畷)
		Ⅱ	天理	大体	佛大	大教	甲南	神学	竹之内(天理)		Ⅱ	神学	神学短	開外	佛大	滋賀女	同大	鈴木(神学)
1993年	春	Ⅰ	同大	近大	立命	大経	龍大	京産	平井(京産)	春	Ⅰ	武庫川	四條畷	天理	龍大	立命	大体	下村(武庫川)
		Ⅱ	大教	大体	天理	佛大	関大	甲南	有田(圭)大教		Ⅱ	神学	佛大	神学短	関外	関大	滋賀女	野津山(神学)
	秋	Ⅰ	立命	同大	近大	京産	大経	龍大	杉田(立命)	秋	Ⅰ	四條畷	武庫川	天理	龍大	立命	大体	杉田(四條畷)
		Ⅱ	天理	大教	佛大	大体	甲南	関学	平　(天理)		Ⅱ	神学	関外	滋賀女	神学短	京産	関学	藤原(神学)
1994年	春	Ⅰ	近大	同大	立命	京産	龍大	大経	斉藤(同大)	春	Ⅰ	四條畷	武庫川	龍大	立命	天理	大体	川口(四條畷)
		Ⅱ	天理	大体	大教	佛大	関学	神学	北辻(天理)		Ⅱ	神学	滋賀女	神学短	京産	関外	関大	岡崎(神学)
	秋	Ⅰ	近大	京産	龍大	同大	大経	立命	野田(近大)	秋	Ⅰ	四條畷	武庫川	天理	龍大	神学	立命	内田(四條畷)
		Ⅱ									Ⅱ							
1995年	春	Ⅰ	近大	京産	関大	龍大	大経	天理	円木(同大)	春	Ⅰ	四條畷	武庫川	天理	龍大	関外	大体	吉冨(四條畷)
		Ⅱ									Ⅱ							
	秋	Ⅰ	京産	近大	立命	龍大	同大	大経	副島(京産)	秋	Ⅰ	四條畷	武庫川	天理	龍大	神学	立命	鬼頭(四條畷)
		Ⅱ	天理	関大	佛大	関学	大院	神大	長井(佛大)		Ⅱ	関外	関大	滋賀女	京産	大体	関学	吉村(関大)
1996年	春	Ⅰ	近大	京産	立命	龍大	大経	同大	薄　(近大)	春	Ⅰ	武庫川	四條畷	天理	龍大	立命	神院	的場(武庫川)
		Ⅱ	天理	佛大	関大	大院	関学	神大	富山(天理)		Ⅱ	関外	京産	滋賀女	関大	大体	同大	数野(京産)
	秋	Ⅰ	近大	立命	龍大	京産	天理	大経	福井(近大)	秋	Ⅰ	天理	四條畷	武庫川	立命	龍大	神院	渡辺(天理)
		Ⅱ	大院	同大	関大	佛大	関学	大産	吉森(大院)		Ⅱ	滋賀女	関外	京産	関大	大体	同大	森(滋賀女)
1997年	春	Ⅰ	近大	立命	京産	天理	龍大	大経	佐野(大経)	春	Ⅰ	天理	四条畷	立命	龍大	神院	武庫川	壇原(天理)
		Ⅱ	大院	佛大	同大	関学	阪大	神院	奥村(大院)		Ⅱ	関外	京産	滋賀女	大体	関大	同大	岡田(関外)
	秋	Ⅰ	近大	立命	天理	龍大	京産	大経	宇治(立命)	秋	Ⅰ	四條畷	龍大	天理	立命	神院	武庫川	将野(龍大)
		Ⅱ	大院	神院	佛大	同大	阪大	摂南	横田(神院)		Ⅱ	関外	京産	大体	滋賀女	関大	関学	奥村(関外)
1998年	春	Ⅰ	近大	立命	龍大	京産	天理	大経	宗野(立命)	春	Ⅰ	立命	天理	龍大	武庫川	四條畷	神院	亀井(立命)
		Ⅱ	大院	摂南	佛大	阪大	同大	京大	武井(大院)		Ⅱ	京産	関外	滋賀女	大体	関大	阪大	福永(京産)
	秋	Ⅰ	近大	立命	龍大	京産	天理	大経	石川(近大)	秋	Ⅰ	立命	天理	龍大	関外	武庫川	京産	貴田(立命)
		Ⅱ	大院	京大	同大	佛大	摂南	神院	木村(同大)		Ⅱ	滋賀女	神院	関大	大体	大産	甲南	石森(滋賀女)
1999年	春	Ⅰ	近大	立命	京産	龍大	大経	天理	杉島(立命)	春	Ⅰ	龍大	立命	京産	神院	天理	関外	古谷(龍大)
		Ⅱ	大院	神院	同大	摂南	佛大	京大	石野(大院)		Ⅱ	武庫川	滋賀女	関大	甲南	大市	京教	飯田(武庫川)
	秋	Ⅰ	近大	立命	龍大	天理	大経	京産	松下(近大)	秋	Ⅰ	立命	龍大	天理	武庫川	神院	京産	上田(立命)
		Ⅱ	大院	神院	同大	摂南	佛大	京大	野口(大院)		Ⅱ	関外	関大	滋賀女	京教	大市	甲南	吉田(関外)
2000年	春	Ⅰ	近大	立命	龍大	大経	天理	大院	中村(近大)	春	Ⅰ	立命	龍大	天理	神院	京産	武庫川	亀井(天理)
		Ⅱ									Ⅱ							
	秋	Ⅰ	近大	立命	天理	大経	龍大	大院	源河(大経)	秋	Ⅰ	龍大	天理	立命	神院	武庫川	京産	田島(天理)
		Ⅱ									Ⅱ							
2001年	春	Ⅰ	近大	立命	天理	龍大	京産	大経	永谷(近大)	春	Ⅰ	立命	龍大	京産	天理	武庫川	神院	井山(立命)
		Ⅱ									Ⅱ							
	秋	Ⅰ	近大	立命	龍大	天理	京産	大経	久保(近大)	秋	Ⅰ	立命	龍大	滋賀女短	天理	京産	武庫川	本田(龍大)
		Ⅱ									Ⅱ							
2002年	春	Ⅰ	近大	立命	天理	龍大	同大	京産	高木(龍大)	春	Ⅰ	滋賀女短	立命	龍大	天理	京産	神院	矢野(滋賀女短)
		Ⅱ									Ⅱ							
	秋	Ⅰ	近大	立命	龍大	天理	同大	大院	車　(立命)	秋	Ⅰ	滋賀女短	立命	京産	龍大	天理	神院	丸岡(滋賀女短)
		Ⅱ									Ⅱ							
2003年	春	Ⅰ	近大	立命	天理	龍大	同大	大院	大賀(天理)	春	Ⅰ	立命	龍大	滋賀女短	大院	京産	天理	多谷(滋賀女短)
		Ⅱ									Ⅱ							
	秋	Ⅰ	近大	立命	天理	同大	京産	龍大	伊藤(近大)	秋	Ⅰ	滋賀女短	立命	龍大	京産	大院	天理	早川(立命)
		Ⅱ									Ⅱ							
2004年	春	Ⅰ	近大	立命	天理	同大	龍大	大経	竹川(立命)	春	Ⅰ	龍大	立命	滋賀女短	京産	神院	大院	古川(京産)
		Ⅱ									Ⅱ							
	秋	Ⅰ	近大	立命	京産	龍大	天理	同大	大滝(近大)	秋	Ⅰ	立命	龍大	京産	滋賀女短	天理	神院	藤田(立命)
		Ⅱ									Ⅱ							

年		部	1位	2位	3位	4位	5位	6位	備　考		部	1位	2位	3位	4位	5位	6位	備　考
2005年	春	Ⅰ	近大	京産	立命	天理	龍大	大院	辻本(京産)	春	Ⅰ	立命	龍大	天理	京産	大院	滋賀女短	岩元(龍大)
		Ⅱ									Ⅱ							
	秋	Ⅰ	近大	立命	天理	龍大	京産	同大	浦窪(近大)	秋	Ⅰ	龍大	立命	天理	京産	神院	関大	三条麻(龍大)
		Ⅱ									Ⅱ							
2006年	春	Ⅰ	近大	立命	龍大	天理	京産	関大	末吉(龍大)	春	Ⅰ	立命	関大	龍大	京産	天理	神院	坂下(関大)
		Ⅱ									Ⅱ							
	秋	Ⅰ	近大	立命	天理	京産	龍大	関大	中野(立命)	秋	Ⅰ	立命	龍大	関大	関外	京産	天理	後藤(立命)
		Ⅱ									Ⅱ							
2007年	春	Ⅰ	近大	近大	天理	龍大	大経	京産	岡野(天理)	春	Ⅰ	立命	関大	龍大	関外	京産	大院	福森(関大)
		Ⅱ									Ⅱ							
	秋	Ⅰ	近大	立命	天理	大経	龍大	京産	伊藤(天理)	秋	Ⅰ	立命	龍大	天理	関大	神院	関外	川下(龍大)
		Ⅱ									Ⅱ							
2008年	春	Ⅰ	近大	龍大	立命	関学	天理	大経	川下(立命)	春	Ⅰ	立命	龍大	関学	関大	天理	京産	安念(龍大)
		Ⅱ									Ⅱ							
	秋	Ⅰ	近大	立命	龍大	関学	京産	大経	山下(関学)	秋	Ⅰ	立命	関大	関学	龍大	天理	関外	北吉(立命)
		Ⅱ									Ⅱ	京産	武庫川	神学院	仏教大	大体大	滋女短	
2009年	春	Ⅰ	近大	龍大	立命	同大	関大	関学	柳川(龍大)	春	Ⅰ	立命	龍大	関大	関学	天理	京産	土井(立命)
		Ⅱ									Ⅱ							
	秋	Ⅰ	立命	京産	近大	同大	龍大	関大	辻　(近大)	秋	Ⅰ	立命	関学	龍大	関大	天理	京産	大阪(関学)
		Ⅱ									Ⅱ							
2010年	春	Ⅰ	近大	立命	龍大	同大	関大	京産	松原(龍大)	春	Ⅰ	関学	立命	龍大	関大	京産	天理	野田(関学)
		Ⅱ									Ⅱ							

2010年	部	1	2	3	4	5	6	7
秋男子	Ⅰ	立命館大学	近畿大学	関西学院大	関西大学	龍谷大学	同志社大	
	Ⅱ	京都産業大	天理大学	大阪経済大	甲南大学	京都大学	大阪大学	
	Ⅲ	大阪産業大	神戸学院大	関西外国語大	神戸大学	仏教大学	大阪体育大	
	Ⅳ	大阪教育大	京都府立大	大阪府立大	摂南大学	京都工繊大	びわこ成蹊スポーツ大	
	Ⅴ	京都学園大	大阪市立大	大阪学院大	兵庫県立姫路	流通科学大	和歌山大	
	ⅥA	滋賀大経済	桃山学院大	兵庫教育大	滋賀大教育	大阪電通大	大阪国際大	花園大
	ⅥB	大手前大学	滋賀短期大	京都教育大	四天王寺大	兵庫県立神戸	関西外大国際言語	
	ⅥC	追手門大学	京都外国語大	大阪芸術大	帝塚山大	阪南大学	大谷大学	
	ⅥD	神戸市外大	大阪工業大	帝塚山学院	関西福祉科学大	大阪経済法科	奈良教育大	
秋女子	Ⅰ	立命館大学	関西学院大	龍谷大学	関西大学	京都産業大	同志社大	
	Ⅱ	天理大学	武庫川女子	神戸学院大	仏教大学	甲南大学	神戸大学	
	Ⅲ	大阪体育大	関西外国語大	大阪教育大	びわこ成蹊スポーツ大	滋賀大経済	関西福祉科学	
	ⅣA	滋賀短大	四天王寺大	京都教育大	京都府立大	桃山学院大	和歌山大学	
	ⅣB	京都外国語大	大阪大学	兵庫県立(神戸)	大阪市立大	大阪国際大	大阪産業大	
	ⅤA	大阪芸術大	奈良女子大	京都工繊大	摂南大学	大阪府立大		
	ⅤB	京都大学	流通科学大	兵庫教育大	滋賀大教育	奈良教育大	関西外大国際	
	ⅥA	帝塚山大	大阪工大	追手門学院大	神戸市外国語大	花園大学	京都学園大	
	ⅥB	大阪大谷大	大谷大学	神戸親和女子	大阪樟蔭女子	同志社女子		

注意：Ⅰ部のみ秋の大会結果、Ⅱ部以下は秋の大会スタート時点での順位

インカレ(女子)の関西の大学の栄光のチャンピオン

		WS		WD					WS		WD		
S27	第3回	早瀬治子	(神戸大)	早瀬治子	田中弘美	(神戸大)	S55	第31回	北田スミ子	(四条畷)	北田スミ子	富田美千代	(四条畷)
S28	第4回			松山昌子	北村明子	(京女)	S56	第32回	北田スミ子	(四条畷)	北田スミ子	富田美千代	(四条畷)
S31	第7回	松本充子	(京女)	岩井育子	松本充子	(京女)	S59	第35回	鴻原晴美	(四条畷)	鴻原晴美	松田太子	(四条畷)
S45	第21回			柴山きよ子	石崎茂子	(東大阪)	S60	第36回	鴻原晴美	(四条畷)			
S46	第22回	柴山きよ子	(東大阪)	柴山きよ子	高橋弘子	(東大阪)	S61	第37回			新木貴子	今村　薫	(四条畷)
S49	第25回			徳田敦子	秋本幸子	(四条畷)	S62	第38回			北浦道代	池田芳恵	(四条畷)
S50	第26回	徳田敦子	(四条畷)	徳田敦子	高田幹子	(四条畷)	H2	第41回	水井妃佐子	(四条畷)	岩田良子	水井妃佐子	(四条畷)
S51	第27回	高田幹子	(四条畷)	落合光子	佐藤真弓	(四条畷)	H6	第45回			川口桐香	吉冨桂子	(四条畷)
S54	第30回			河村茂美	平久美子	(四条畷)	H7	第46回			川口桐香	吉冨桂子	(四条畷)
							H13	第52回	上田絵美	(立命)			

関西学生選手権　栄光のチャンピオン（表3）

年・回		MS		MD			WS		WD		
S25	第1回	坂崎洋太郎	（関学）	坂崎洋太郎	大圃秀生	（関学）					
S26	第2回	渋谷良決	（京大）	渋谷良決	渋谷弘利	（京大）					
S27	中止	インカレと重なったため									
S28	第3回	上田益弘	（同大）	上田益弘	高谷芳明	（同大）	松山昌子	（京女）	松山昌子	松山明子	（京女）
S29	第4回	武田一徳	（関学）	武田一徳	三毛淳裕	（関学）	岩井育子	（京女）	岩井育子	西川　治	（京女）
S30	第5回	上田益弘	（同大）	上田益弘	高谷芳明	（同大）	松本充子	（京女）	岩井育子	西川　治	（京女）
S31	第6回	渡辺　孝	（関大）	河内利雄	村野伸吾	（同大）	松本充子	（京女）	岩井育子	松本充子	（京女）
S32	第7回	佐々木忠勝	（関大）	河内利雄	村野伸吾	（同大）	塚村恭子	（京女）	塚村恭子	良倉邦子	（京女）
S33	第8回	小松康弘	（関大）	小松康弘	赤星竜二	（関大）	良倉邦子	（京女）	二塚和子	浅野光世	（京女）
S34	第9回	山方　匡	（大谷）	柴田和夫	堀口元生	（同大）	二塚和子	（京女）	二塚和子	浅野光世	（京女）
S35	第10回	国信祝二	（関大）	酒井明夫	村田和男	（関大）	二塚和子	（京女）	二塚和子	浅野光世	（京女）
S36	第11回	国信祝二	（関大）	酒井明夫	村田和男	（関大）	二塚和子	（京女）	二塚和子	浅野光世	（京女）
S37	第12回	村田和男	（関大）	坪本雅淑	豊原洋治	（同大）	北尾典子	（京女）	北尾典子	米山栄美	（京女）
S38	第13回	久保川正啓	（関学）	豊原洋治	粥川雅雄	（同大）	小合佳子	（樟蔭）	中屋悦子	米山栄美	（京女）
S39	第14回	橋本元二	（関学）	橋本元二	加藤　彰	（関学）	米山栄美	（京女）	米山栄美	竹内光子	（京女）
S40	第15回	加藤　彰	（関学）	小草興司	山本甲兵	（同大）	米山栄美	（京女）	米山栄美	竹内光子	（京女）
S41	第16回	塩見　博	（関大）	塩見　博	生水　昇	（関大）	米山栄美	（京女）	米山栄美	若林吉末	（京女）
S42	第17回	真壁俊一	（近大）	塩見　博	生水　昇	（関大）	山田伸子	（関学）	竹内俊子	西村栄子	（武庫川）
S43	第18回	竹山重夫	（関大）	萩原孝章	関　久幸	（同大）	池田栄子	（東大阪）	池田栄子	篠山和江	（東大阪）
S44	第19回	山口　勇	（近大）	関　久幸	米納隆雄	（同大）	池田栄子	（東大阪）	池田栄子	篠山和江	（東大阪）
S45	第20回	山口　勇	（近大）	植田　寛	岩田　昇	（近大）	柴山きよ子	（東大阪）	柴山きよ子	石崎茂子	（東大阪）
S46	第21回	植田　寛	（近大）	植田　寛	岩田　昇	（近大）	大場照美	（東大阪）	大場照美	石崎茂子	（東大阪）
S47	第22回	中島真一	（関大）	岩田　昇	菅原弘貴	（近大）	飯田るみ子	（親和）	飯田るみ子	門田佳子	（親和）
S48	第23回	山下順次郎	（関大）	菅原弘貴	佐野　弘	（近大）	原田敬子	（武庫川）	井出靖子	宇佐美洋子	（京女）
S49	第24回	八木清仁	（阪大）	古西　悟	谷島助男	（近大）	徳田敦子	（四条畷）	徳田敦子	秋本幸子	（四条畷）
S50	第25回	西村竜夫	（京工）	古西　悟	谷島助男	（近大）	徳田敦子	（四条畷）	徳田敦子	高田幹子	（四条畷）
S51	第26回	増田知郎	（近大）	古西　悟	谷島助男	（近大）	植野恵美子	（四条畷）	高田幹子	植野恵美子	（四条畷）
S52	第27回	梅田勝彦	（近大）	上田雅美	西川慎一	（近大）	植野恵美子	（四条畷）	植野恵美子	佐藤真弓	（四条畷）
S53	第28回	西川慎一	（近大）	増田伊知郎	西堀　武	（近大）	河村茂美	（四条畷）	河村茂美	平久美子	（四条畷）
S54	第29回	中村　亨	（京産）	西堀　武	古兼　保	（近大）	河村茂美	（四条畷）	河村茂美	平久美子	（四条畷）
S55	第30回	西堀　武	（近大）	西堀　武	古兼　保	（近大）	北田スミ子	（四条畷）	北田スミ子	青山寿美	（四条畷）
S56	第31回	嘉生　寛	（奈教）	近藤雅明	竹端英夫	（近大）	北田スミ子	（四条畷）	北田スミ子	富田美千代	（四条畷）
S57	第32回	谷田尚嗣	（近大）	近藤雅明	竹端英夫	（近大）	新木千織	（四条畷）	松田全代	新木千織	（四条畷）
S58	第33回	谷田尚嗣	（近大）	近藤雅明	竹端英夫	（近大）	松田太喜子	（四条畷）	松田太喜子	押切美喜	（四条畷）
S59	第34回	杉本吉男	（近大）	谷田尚嗣	竹端英夫	（近大）	鴻原晴美	（四条畷）	押切美喜	石井香澄	（四条畷）
S60	第35回	江藤裕樹	（近大）	奥野　勉	菊池雄二	（近大）	鴻原晴美	（四条畷）	鴻原晴美	新木貴子	（四条畷）
S61	第36回	杉本吉男	（近大）	西川　勉	海道佳伸	（京産）	新木貴子	（四条畷）	新木貴子	今村　薫	（四条畷）
S62	第37回	村山友二	（近大）	村山友二	早戸敬雄	（近大）	北浦道代	（四条畷）	北浦道代	池田芳恵	（四条畷）
S63	第38回	江藤裕樹	（近大）	江藤裕樹	早戸敬雄	（近大）	利川貴子	（四条畷）	利川貴子	三ツ川貴子	（四条畷）
H1	第39回	早戸敬雄	（近大）	早戸敬雄	稲村高志	（近大）	岩田良子	（四条畷）	利川貴子	三ツ川貴子	（四条畷）
H2	第40回	鈴木草麻生	（同大）	三角典生	平井大三	（同大）	水井妃佐子	（四条畷）	岩田良子	水井妃佐子	（四条畷）
H3	第41回	鈴木草麻生	（同大）	今井彰宏	伊藤茂夫	（大経大）	坂田美佐	（四条畷）	西田美由紀	下川英理	（四条畷）
H4	第42回	岸田明宏	（近大）	大山　司	岸田明宏	（近大）	西田美由紀	（四条畷）	西田美由紀	下川英理	（四条畷）
H5	第43回	岸田明宏	（近大）	大山　司	岸田明宏	（近大）	高塚恵美	（四条畷）	野中亮子	杉田暢子	（四条畷）
H6	第44回	野田亮介	（近大）	平野耕司	河村一年	（同大）	川口桐香	（四条畷）	川口桐香	吉冨桂子	（四条畷）
H7	第45回	橋本敏信	（立命）	久保敬文	横井弘招	（龍大）	川口桐香	（四条畷）	川口桐香	吉冨桂子	（四条畷）
H8	第46回	福井剛士	（近大）	薄　智彦	長谷川佳明	（近大）	鬼頭加代	（四条畷）	檀原有理	渡辺未奈子	（天理）
H9	第47回	石川　澄	（近大）	薄　智彦	長谷川佳明	（近大）	渡辺未奈子	（天理）	中村このみ	古谷充峰	（龍大）
H10	第48回	福井剛士	（近大）	草ノ瀬公一郎	平野耕作	（近大）	古谷充峰	（龍大）	下川淳子	亀井千秋	（立命）
H11	第49回	松下文雄	（近大）	福井剛士	木谷　修	（近大）	上田絵美	（立命）	石井愛子	大山育美	（神院）
H12	第50回	松下文雄	（近大）	永谷和也	稲垣寿一	（近大）	速水永子	（龍大）	石井愛子	大山育美	（神院）
H13	第51回	松下文雄	（近大）	永谷和也	久保直輝	（近大）	上田絵美	（立命）	吉岡久美子	下野鈴佳	（大信女）
H14	第52回	紐　佳平	（近大）	中村寿史	下前陽平	（近大）	上田絵美	（立命）	多谷郁恵	丸岡智子	（滋女短）
H15	第53回	銭谷公浩	（近大）	紐　佳平	麻生将豊	（近大）	安城美華	（大信女）	高木さやか	早川由希子	（立命）
H16	第54回	山口公洋	（近大）	紐　佳平	山口公洋	（近大）	後藤　舞	（立命）	笹島美樹	目秦香菜	（龍大）
H17	第55回	庄　旭明	（近大）	大滝祐紀	山口公洋	（近大）	周　艶	（関学）	通次尚美	今井杏莉	（立命）
H18	第56回	山口公洋	（近大）	山口公洋	喜多勝人	（近大）	周　艶	（関学）	通次尚美	今井杏莉	（立命）
H19	第57回	松浦晋太郎	（近大）	梅林慎太郎	浦窪文也	（近大）	若杉文音	（立命）	黒田香織	今井杏莉	（立命）
H20	第58回	浦窪文也	（近大）	喜多勝人	浦窪文也	（近大）	土井杏奈	（立命）	若杉文音	新藤　綾	（立命）
H21	第59回	川下剛士	（立命）	井谷和也	巽　太志	（近大）	北吉穂香	（立命）	土井杏奈	小口晃佳	（立命）
H22	第60回	井谷和也	（近大）	井谷和也	巽　太志	（近大）	久枝ゆい	（関学）	大谷　瞳	北吉穂香	（立命）

第２節
近畿中学校体育連盟バドミントン競技部

近畿60周年を迎えて

この度は、近畿バドミントン協会60周年、誠におめでとうございます。

現在、近畿中体連バドミントン部ブロック長を仰せつかっております。大阪中体連バドミントン部専門委員長の東條安彦と申します。私がこの任に就きまして、最初の年になりますが、この年が近畿バドミントン協会が60周年を迎えられたことを大変光栄に存じます。さて、近畿中体連バドミントン部の歩みとしましては、創立当初のことと全国大会の歩みと共に発展してきたこと、現在の近畿中体連バドミントン部の現状などを柱に述べてまいりたいと存じます。

近畿中体連バドミントン部は、近畿中学校総合体育大会バドミントン競技大会（以下近畿大会）の開催とほぼ同じ時に発足しました。近畿中体連バドミントン部は、1957年（昭和32年）に、近畿、各府県の部長、専門委員長が中心となり連絡をよく取り合いながら、また、近畿中学校体育連盟の指示、アドバイスを受けながら発足しました。第１回近畿大会は、京都府で開かれました。残念ながら、その時の結果がありませんので、結果を掲載できないのが残念ですが、1980年（昭和55年）までは、各府県の団体戦の対抗戦で行われました。結果をみると、大阪勢の活躍が目立った時代でした。特に、四條畷学園中学校がその中心的な存在でした。1980年に全国中学校体育大会バドミントン競技大会が開催されたことを機に、近畿大会でも、団体戦と個人戦（最初の２年間がシングルスだけの開催で、その後、現在と同じようにシングルス、ダブルスが行われた。）が行われるようになりました。その後、1990年代半ばまでは、結果を見ると、いろいろな府県の中学校が優勝するようになりましたが、大阪府の中学校がその中心的な存在であり、それを牽引してきたのは、四條畷学園中学校でありました。その時代に活躍したのが、北田選手、松田選手、鴻原選手、新木３姉妹、今村選手、北川選手、三ツ川選手、利川選手、南里姉妹、岩田選手、玉村選手、水井姉妹、信田選手、河口姉弟、市橋姉妹、速水選手、小河原選手、江藤選手、有田選手、斉藤選手、仲尾選手（以上、大阪府、四條畷学園中）、金井選手（大阪府、鶴橋中）、永谷選手、福川選手、太田選手、安城選手（大阪府、瓜破西中）、松浦選手（滋賀県、南郷）、向選手（滋賀県、田上中）、勝嶋選手（滋賀県、日吉中）、上田選手（滋賀県、彦根西中）、木ノ山（京都府、長岡三中）、小泉選手、王選手、尾亀選手（以上、兵庫県、園田学園中）、伊藤選手、吉田選手、三浦選手（以上、兵庫県、啓明中）、丸山選手、大西選手、田代選手、三宅選手（以上、兵庫県、中部中）などの選手でした。

1990年代後半～2000年代前半になると、滋賀勢の活躍が目立つようになりました。中学校で、その中心的な存在となったのが日吉中でした。この時代に活躍した選手では、澤選手、早川選手（姉弟）、多谷選手（姉弟）、山口選手、辻田選手、吉田選手、数野兄弟、垣岩姉妹、村上選手、杉本選手（以上、滋賀県、日吉中）、矢部選手（滋賀県、田上中）などの選手でした。もちろん、他府県でも有力な選手が輩出しました。今別府姉妹（奈良県、片塩中）、目秦姉妹選手、古田選手、伊藤選手（以上、奈良県、榛原中）、諸多選手（奈良県、若草中）、渡辺選手、足高選手（以上、奈良県、

高田西中)、廣瀬選手(兵庫県、中谷中)、榎本選手(和歌山県、緑丘中)、小口選手(和歌山県、紀見中)、吉岡選手、喜多選手、犬山選手、安田選手、銭谷選手、巽選手(以上、大阪府、四條畷学園中)、松尾兄妹、新開選手、恵良選手、東野選手(大阪府、瓜破西中)、津村選手(大阪府、三稜中)、土井選手(大阪府、西陵中)、竹内選手、深尾選手、佐々木選手、福万選手、吉村選手(以上、大阪府、樟蔭東中)などの選手が出ました。

現在では(2000年代後半)、近畿中体連バドミントン部も、充実期に入りました。中学校の部活だけでなく、社会体育のジュニアのチームの方々のご努力の結果、いろいろな地域でのバドミントン活動が活発化され、近畿大会でも、日吉中(滋賀県)、園田学園(兵庫県)、瓜破西中(大阪府)、若草中(奈良県)などの伝統チームだけでなく、各府県のいろいろ中学校の選手の活躍が大変目立つようになってきました。中学校でいえば、樟蔭東中(大阪府)、宝殿中(兵庫県)、長岡京市(京都府、二中・三中)や宇治市(京都府、木幡中)の中学校などです。個人戦を入れれば、本当に数多くのチームになります。但し、全国的みれば、今年度の全国大会では、女子ダブルスの第３位になった柏原・宇都宮組(兵庫県、園田学園中)だけが賞状を獲得しただけで、東北ブロック、関東ブロック、北信越ブロック、中国ブロック、九州ブロックの活躍、とりわけ東北ブロック・関東ブロックの活躍は、目ざましいものがありました。来年度は、全国中学生バドミントン大会が滋賀県大津市で開催されますので、近畿勢の活躍を心より願っております。**「頑張れ、近畿！」**

ここで、近畿大会を経験し、オリンピックに出場された方をご紹介したいと思います。北田選手、鴻原選手、岩田選手、水井妃選手、水井泰選手(以上、大阪府、四條畷学園中)、松浦選手(滋賀県、南郷中)、廣瀬選手(兵庫県、中谷中)の方々がおられます。心よりオリンピック出場、おめでとうございました。

最後になりましたが、この近畿中体連バドミントン部の基礎を作られ、発展にご尽力いただいた近畿中体連バドミントン部ブロック長の方々をご紹介させていただきます。河口尚男先生(初代)、出口健次先生(２代目)、今庄茂先生(３代目)、仲尾信一先生(４代目)、水野洋一先生(５代目)の方々です。大変、ありがとうございました。

(近畿中体連バドミントン部ブロック長　東條　安彦)

現在の各府県の部長・専門委員長

	大阪府	滋賀県	兵庫県	奈良県	和歌山県	京都府
部　長	宮林幸三	岩見　弘	金田好史	喜多祥智	川口伸二	山添　泰
専門委員長	東條安彦	高田克彦	中原幸人	山田雅三	小口　正	安田睦美

近畿中体連バドミントン部の歩み（近畿大会の記録）

年度		開催地	優勝チーム					
			男子			女子		
			団体	単	複	団体	単	複
1957	昭和32年	京都府		※	※		※	※
1958	昭和33年	大阪府		※	※		※	※
1959	昭和34年	滋賀県		※	※		※	※
1960	昭和35年	兵庫県		※	※		※	※
1961	昭和36年	奈良県		※	※		※	※
1962	昭和37年	和歌山県		※	※		※	※
1963	昭和38年	京都府		※	※		※	※
1964	昭和39年	大阪府		※	※		※	※
1965	昭和40年	滋賀県		※	※		※	※
1966	昭和41年	兵庫県		※	※		※	※
1967	昭和42年	奈良県		※	※		※	※
1968	昭和43年	和歌山県	東住吉(大)	※	※	花乃井(大)	※	※
1969	昭和44年	京都府		※	※		※	※
1970	昭和45年	大阪府	四條畷学園(大)	※	※	四條畷学園(大)	※	※
1971	昭和46年	滋賀県		※	※		※	※
1972	昭和47年	兵庫県	交野一(大)	※	※	四條畷学園(大)	※	※
1973	昭和48年	奈良県		※	※	立花(兵)	※	※
1974	昭和49年	和歌山県		※	※		※	※
1975	昭和50年	京都府		※	※		※	※
1976	昭和51年	大阪府		※	※		※	※
1977	昭和52年	滋賀県	四條畷学園(大)	※	※	四條畷学園(大)	※	※
1978	昭和53年	兵庫県	南部(滋)	※	※	四條畷学園(大)	※	※
1979	昭和54年	奈良県	三笠(奈)	※	※	四條畷学園(大)	※	※
1980	昭和55年	和歌山県	春日(奈)	見市(大)		四條畷学園(大)	原田(大)	荒井・末房(大)
1981	昭和56年	京都府	住吉(兵)	江藤(大)		四條畷学園(大)	新木(大)	和泉・今村(大)
1982	昭和57年	大阪府	皇子山(滋)	早戸(大)	森山・白浜(大)	四條畷学園(大)	伊藤(兵)	王　・尾亀(兵)
1983	昭和58年	滋賀県	洛星(京)	三角(京)	丸山・大西(兵)	中部(兵)	金井(大)	福林・松田(大)
1984	昭和59年	兵庫県	皇子山(滋)	鈴木(滋)	俣野・川村(滋)	四條畷学園(大)	利川(大)	北川・三ツ川(大)
1985	昭和60年	奈良県	堅下北(大)	中橋(奈)	田代・三宅(兵)	四條畷学園(大)	岩田(大)	吉田・三浦(兵)
1986	昭和61年	和歌山県	四條畷学園(大)	小河原(大)	安藤・行松(滋)	四條畷学園(大)	水井(大)	西田・国分(滋)
1987	昭和62年	京都府	堅下北(大)	河村(奈)	堀江・平野(滋)	草津(滋)	玉村(大)	東田・中俣(滋)
1988	昭和63年	大阪府	西陵(京)	河村(奈)	林田・小谷(奈)	四條畷学園(大)	松田(大)	杉田・渡　(大)
1989	平成元年	滋賀県	四條畷学園(大)	岸田(大)	有田・斉藤(大)	四條畷学園(大)	水井(大)	信田・川口(大)
1990	平成２年	兵庫県	四條畷学園(大)	北川(大)	上野・外山(兵)	四條畷学園(大)	水井(大)	川口・市橋(大)
1991	平成３年	奈良県	四條畷学園(大)	奥井(大)	百田・尾山(滋)	四條畷学園(大)	市橋(大)	渡辺・足高(奈)
1992	平成４年	和歌山県	四條畷学園(大)	古賀(奈)	島影・川口(大)	四條畷学園(大)	市橋(大)	水上・吉岡(大)
1993	平成５年	京都府	四條畷学園(大)	向　(滋)	宇治・森本(大)	日吉(滋)	吉岡(大)	木下・中　(奈)
1994	平成６年	大阪府	瓜破西(大)	仲尾(大)	福川・永谷(大)	四條畷学園(大)	安城(大)	谷嶋・小畑(大)
1995	平成７年	滋賀県	瓜破西(大)	橋本(大)	瀧上・永谷(大)	四條畷学園(大)	安城(大)	中江・三原(滋)
1996	平成８年	兵庫県	平岡(兵)	橋本(大)	東村・清水(兵)	日吉(滋)	吉岡(大)	澤　・川島(滋)
1997	平成９年	和歌山県	日吉(滋)	諸多(奈)	小西・西浦(奈)	日吉(滋)	澤(滋)	早川・川島(滋)
1998	平成10年	奈良県	大三輪(奈)	森澤(滋)	松尾・新開(大)	日吉(滋)	今別府(奈)	早川・多谷(滋)
1999	平成11年	京都府	日吉(滋)	山口(滋)	吉田・多谷(滋)	日吉(滋)	今別府(奈)	三条・裏川(滋)
2000	平成12年	大阪府	日吉(滋)	数野(滋)	早川・多谷(滋)	日吉(滋)	松尾(大)	橋本・佐谷(大)
2001	平成13年	滋賀県	四條畷学園(大)	早川(滋)	森本・阪本(滋)	日吉(滋)	松尾(大)	杉本・村上(滋)
2002	平成14年	兵庫県	守山北(滋)	岩崎(奈)	杉本・森田(奈)	日吉(滋)	恵良(大)	前田・前田(滋)
2003	平成15年	奈良県	四條畷学園(大)	樋口(大)	森澤・三崎(滋)	瀬田北(滋)	土井(大)	竹内・深尾(大)
2004	平成16年	和歌山県	宝殿(兵)	村上(滋)	宇野・矢部(滋)	日吉(滋)	垣岩(滋)	村上・阪本(滋)
2005	平成17年	京都府	若草(奈)	矢部(滋)	豊　・門元(兵)	樟蔭東(大)	佐々木(大)	吉村・福万(大)
2006	平成18年	滋賀県	瓜破西(大)	大滝(大)	中辻・村岸(滋)	日吉(滋)	浦谷(滋)	生駒・真鍋(大)
2007	平成19年	大阪府	瓜破西(大)	竹内(大)	河合・佐々木(大)	樟蔭東(大)	阪口(大)	木村・木村(滋)
2008	平成20年	奈良県	瓜破西(大)	佐々木(大)	河合・佐々木(大)	樟蔭東(大)	窓場(京)	樋口・宮原(大)
2009	平成21年	兵庫県	日吉(滋)	常山(滋)	三津川・河崎(滋)	園田学園(兵)	杉野(兵)	柏原・宇都宮(兵)
2010	平成22年	和歌山県	日吉(滋)	松本(大)	松井・上原(滋)	園田学園(兵)	阪口(大)	柏原・宇都宮(兵)

第３節
近畿実業団バドミントン連盟

近畿実業団バドミントン連盟のあゆみ

近畿実業団バドミントン選手権大会（以下「近実大会」という）は昭和27年より近畿バドミントン協会の主催で始まりました。第１回、第２回大会の記録は不明で、参加チームも優勝チームも分かりませんが本年51回の大会を迎える事になりました。現在手元にある限られた資料から連盟のあゆみを辿ってみることにします。

【連盟設立前の近実大会】

第５回大会のプログラムから推測するに当時は企業の事業所チームのみでなく、大阪、兵庫、京都、滋賀、和歌山の事業所（奈良不参加奈良の出場は14回大会より）に加え、学校教員チーム、青年団、社会人クラブが参加して開催されていました。因みに第５回大会の男子の参加チームは、古河電工、台糖ＫＫ（以上兵庫）、藤沢薬品、大阪YMCA（以上大阪）、島津製作所、川島織物、京都地方貯金局、西京高校（教員）（以上京都）、近江絹糸、彦根青年学級、滋賀大学（職員）、（以上滋賀）、大日本電線ＫＫ（和歌山）。女子は島津製作所、京都貯金局（以上京都）、皇子山中学（教員）（滋賀）でした。このようなチームの参加で、男子13チーム、女子４チーム計17チーム（島津は男女２チームの参加で実質15）と小規模の大会でした。

当初の３回大会から７回大会までは、古河電工（兵庫）が５連勝しているが、記録不明の１、２回大会も多分古河電工の優勝であったのではないかと推測されます。

【連盟の設立】

回を重ね近畿実業団大会の参加チーム数も増え、昭和36年日本実業団バドミントン連盟（以下「日本実連」という）が創設されたのを契機に、近畿実業団バドミントン連盟（「近実連」という）結成の機運が高まり、当時の日本実連理事の池田芳麻（大阪・電電近畿）、溝渕宏二（大阪・国際電電）、矢田直宏（京都・松下電子）が発起人となり近実連の結成を呼びかけ昭和38年11月３日開催の近畿実業団バドミントン選手権大会（京都府開催）より近畿バドミントン協会と近実連の共催として開催される事になりました。従ってこの日が近実連の設立日である。

<補足>筆者は５回大会より近実大会に参加していますが、当時設立の記念する会があったどうか記憶もないし、当時の役員に尋ねてもそのような会があったことを記憶していない。又12回大会のプログラムにも「近実連結成記念」の表示もない、プログラムにあいさつ文もなく、当時の近実連理事会議事録もない、プロには近畿協会・近実連主催とある。これらの事から、12回大会の開催期日を近実連の創設日とするのが妥当であると、当時の役員各位の了解もとりました。従って近実連の創設日は昭和38年11月３日と致しました。

【近実連の運営】

12回大会の男子参加チームは兵庫６、大阪５、京都４、和歌山３（奈良なし）計18。女子は兵庫１、大阪２、京都３、和歌山１（奈良なし）計７で計25チームの参加となっていた。

参加資格にも「団体登録を終えた各事業所の所属チームに限る」とあり、社会人クラブ、教員ク

ラブとは一線を引いた実業団チームの参加となっている。当時の参加資格は近実連加盟チームで各府県の参加数には制限がなかったが、各府県の実業団連盟は自主的に上位チームをこの大会に送り込んでいたようである。昭和50年代以降は近実大会は、参加数も増え登録団体数比例で出場数を割り当て制をしく事になった。近実大会は当初から近畿各府県輪番制で主管開催され、奈良県は地元に実業団チームの持てる企業がなく実業団連盟の設立が遅れたが、昭和42年から加わり、現在もこの方式で行われています。

【和歌山実連の活動休止】

平成に入ってから経済不況の影響をうけ国内の企業もスポーツクラブの活動停止が目立ち、近実連も一時登録が減少した。和歌山は主力の住友金属・和歌山が野球部をはじめ全ての競技種目の活動を停止し、その影響を受け和歌山実連の活動停止までに発展した。平成７年から和歌山実連は活動を停止している。これは現在も続いており寂しい限りです。近実連は他の５府県の実連で運営・活動している。

【近実連の会長・理事長】

当初は近実大会開催主管県の実連会長が近実連会長を担当していたが、この形態も思わしくない所から昭和41年大阪実連の会長横井元治氏（日本電信電話公社）に初代近実連会長に就任して頂きました。近実連の理事長は昭和38、39年は不在であったが昭和40年大阪理事長の池田芳麻氏（電電大阪）が推挙され就任した。池田氏は以後昭和58年まで19年間務められました。

近実連会長は池田氏の知人清水照彦氏（病院々長）が昭和45年二代目会長として就任され、昭和58年までの14年間務められました。以後会長・理事長は近実大会主管県の会長・理事長に担当していただく事で平成元年まで６年間続いたが、近実連理事長は２代目として北義一（兵庫実連理事長）が就任し復活した。会長は適任者なく、そのまま近実大会主管県会長が担当する事で現在も続いている。平成９年３代目理事長佐藤武人（京都府実連理事長）、平成15年４代目理事長境良治（兵庫県実連理事長）、平成21年５代目理事長新井貴雄（京都府実連理事長）が就任し夫々近実連のまとめ役として現在に至っている。

【近実大会の競技方法】

近実大会は団体戦のみで、試合形式は男子は２複３単、女子は当初から32回大会まで１複２単で競われたが、33回大会から男女共２複３単の試合形式となった。

一時国際試合で日本は複は対等に戦えるが、単は実力差があり過ぎ単強化が提唱され、実連では、これまでの、Ｄ１，Ｄ２，Ｓ１，Ｓ２，Ｓ３のオーダーをＳ１，Ｓ２，Ｄ１，Ｓ３、Ｄ２の単優先のオーダーにして行う指導があり、近実大会も33回大会から36回大会まで単優先の試合形式が取られた。37回大会からは元へもどり行われています。

【過去の栄冠から】

これまで56回の大会中、男子では最も優勝回数の多いのは電電近畿（電電大阪・ＮＴＴ関西を含み）の25回と圧倒的に多い。続いて松下電器の６回、古河電工の５回である。準優勝では松下電器10回、住友金属・和歌山８回、国際電電４回である。23回大会で和歌山のスワロー化研が電

電近畿の10連勝を阻んだのは殊勲で印象的であった。一方女子は７回から12回まで５連勝の松下電子、14回から18回まで５連勝の三菱自工京都、通算14回優勝の三菱電機伊丹の活躍が目立つ。

日本リーグ出場のサントリー、三洋電機はお義理的な出場で優勝回数はサントリーの５回、三洋電機の６回に留まっている。日本リーグ出場チームからは国際大会の出場、ナショナル選手の強化練習などもあり、選手の健康管理の面からも、地元のマイナー大会まで出場するのは勘弁して欲しいという要望が強く、登録連盟と近実大会及び府県連盟内大会の出場問題で揉め事もあり、このような出場状態となっている。

全日本実業団大会も出場辞退させて欲しい、国内大会は日本リーグと日本総合選手権大会にして欲しいという要望も一時あった。現実ナショナル選手を多く抱えるチームに近実大会の出場を望むことは無理なことである。

【規定の制定】

近実連の規約は昭和40年４月１日に制定されました。以後規定に基ずき近実連の運営は各府県実連の理事長にて構成する理事会（通常常務理事会と言っていた。）で企画立案、運営されています。各加盟団体の代表者は理事として、連盟の事業（主に競技大会）の運営に協力しています。近実連は昭和49年４月１日に連盟表彰規定を制定し、功労賞、技能賞の授与基準を制定し、本連盟の功労者、近実連主催大会において５年連続優勝した団体及び近実大会10回以上出場チーム等を表彰する事となりました。

【活躍した役員・選手】

表彰記録は残っていないが、技能賞では連続優勝チーム、10回連続出場チーム等の表彰があり連続優勝記録を持つ男子の電電近畿（10回、９回）、女子の松下電子（５回）、三菱自工（５回）三菱電機（通算12回）、等は当然受賞している。10回以上出場チームはかなりのチームがその都度表彰を受けている。功労賞では永年会長職を務められた清水照彦氏（14年）、理事長職の北義一（29年）等は受賞されていると思います。記録のあるものは次の通りです。

30回記念大会の記録によると次の方が表彰されています。

団体の部　大津市役所

個人の部　吉田健次郎（和）、林　保雄（和）、久保　宏（滋）、藤田庸右（奈）、田中孝雄（奈）、尾崎　　弘（大）、池田芳麻（大）

40回記念大会（Ｈ４.２.22奈良大会）の折には、次の方々が特別功労賞を受賞されています。

滋賀：久保　宏、富田健一、田中利治　　兵庫：瀬川欽也、神谷　衛、境良治

大阪：植田義明、清水義雄、御前龍雄　　京都：野村嘉明、川本末夫、戸沢正雄

和歌山：戸松泰男、土田行夫、平松茂人　　奈良：田中孝雄、井田吉昭、榧木八洲夫

過去これらの方々が近実連を支えてこられたということです。

【リーグ戦大会始まる】

平成３年には近実連内にてより一層競い合い選手強化を図るべく近畿各府県実連のトップによるリーグ戦大会が、株式会社ゴーセンから優勝杯の寄贈をうけ、ゴーセン杯争奪の形で開幕しま

した。第１回は京都府が主管した。以後この大会は継続し各府県輪番制の主管で実施されている。
　このリーグの発展が日本リーグ出場へ発展することを期待します。

【今後の課題】

　近実連は全国の中でもよくまとまった地区連盟であり、全国の地区連盟のリーダーとして今後も活発な活動を展開して頂きたい。
　次の事項は昭和50年代から日本実連で検討されていた事項であり、今も懸案事項となっている問題であり課題である。早期に解決策を見出し近実連がリードして全国に呼びかけて欲しい。
　この機会に筆者の要望としてお願いし終わりとします。

（１）全日本実業団大会を地区連盟大会の代表チームにより競うピラミッド形の大会とし、現在のマンモス大会を解消にして頂きたい。
　（主管県の経費・運営負担の解消ともなる。今の大会の状況は他の種目にもない）

（２）（１）の実現にはまだ地区連盟が確立した活動をしていない地区があるので、この地区連盟の充実の推進が必要である。

（３）今回記念誌の原稿をまとめるに当たり各年度の大会も競技記録は残してあるが、感想文、後日のために残すべき記事がなく困りました。近実連担当役員はこれを弁え年度毎に記事を残すようにして頂きたい。
　（今回は近畿各府県の記念誌及び筆者の記録記事・残していたプログラムを基に投稿さして頂きました。）

野村　嘉明（京実連ＯＢ）記



第50回近畿実業団バドミントン選手権大会　祝賀会　（平成14年2月23日奈良）

近畿実業団バドミントン連盟年表(主な出来事のみ)

年　度	近実連関係 出来事・歴代会長	大阪府	兵庫県	京都府	和歌山県	滋賀県	奈良県
昭和 27(1952)	第１回全日本実業団大会 始まる						
29(1954)						・３回近実大会主管	
30(1955)		・４回近実大会主管		・京都府実業団連盟設立 ・(代)会長佐藤勝郎 ・初代理事長上田平雄			
31(1956)				・第5回全日実大会初参加 ・第5回近畿実大会初参加 ・５回近実大会主管			
32(1957)			・６回近実大会主管				
33(1958)		・大阪府実業団連盟設立 ・初代会長春日弘就任 ・初代理事長尾上忠文就任 ・二代目理事長 池田芳麻就任 ・７回近実大会主管		・初代会長山川常七就任 ・二代目理事長 増尾忠雄就任			
34(1959)				・(代)会長佐藤勝郎就任 ・三代目理事長 中沢誠次就任 ・８回近実大会主管			
35(1960)					・９回近実大会主管		
36(1961)	・日本実業団連盟設立		・10回近実大会主管	・二代目会長佐藤勝郎就任 ・四代目理事長北中勇就任	・日本実連に加盟		
37(1962)		・日本実連に加盟 ・二代目会長 高井大次郎就任 ・11回近実大会主管		・日本実連に加盟			
38(1963)	・近畿実業団連盟設立 会長は近実大会開催県 会長が担当(S38～S40)			・五代目理事長 矢田直宏就任 ・近実連に加盟 ・12回近実連大会主管	・和歌山県実業団連盟設立 ・初代会長岡本善右衛門就任 ・初代理事長永広利之就任	・滋賀県実業団連盟設立 ・初代会長榎本彦次就任 ・初代理事長安澤良夫就任	
39(1964)		・近実連に加盟	・13回近実大会主管	・六代目理事長北中勇再任			
40(1965)	・初代理事長池田芳麻就任 ・近実連規約制定	・三代目会長沖田幸治就任 ・14回近実大会主管	・兵庫県実業団連盟設立 ・初代会長国富佳寿郎就任 ・初代理事長 木下登喜彦就任 ・日本実連に加盟		・二代目理事長秦敬就任		
41(1966)	・初代会長横井元治就任	・四代目会長横井元治就任 ・16回全日実大会主管			・三代目理事長宮崎熊就任 ・15回近実大会主管		・日本実連に加盟

年　度	近実連関係 出来事・歴代会長	大阪府	兵庫県	京都府	和歌山県	滋賀県	奈良県
42(1967)			・二代目理事長 小川雄三就任	・七代目理事長 野村嘉明就任		・二代目会長 正岡吉三郎就任 ・二代目理事長久保宏就任 ・日本実連に加盟	・奈良県実業団連盟設立 ・初代会長藤田庸右就任 ・初代理事長田中孝雄就任 ・16回近実大会主管
43(1968)			・二代目会長加藤徳元就任		・三代目会長野島一翁就任 ・四代目理事長 吉田健次郎就任	・17回近実大会主管	
44(1969)				・三代目会長 榊田喜四夫就任 ・18回近実大会主管			
45(1970)	・二代目会長清水照彦就任	・五代目会長清水照彦就任	・三代目理事長北義一就任 ・19回近実大会主管				
46(1971)		・20回近実大会主管			・四代目会長寺西清就任		
47(1972)							・21回近実大会主管
48(1973)			・三代目会長永井卓也就任		・22回近実大会主管		
49(1974)	・近実連表彰規定制定					・23回近実大会主管	・二代目理事長 井田吉昭就任
50(1975)			・四代目会長武田光雄就任 ・24回近実大会主管			・三代目会長 栗本藤四郎就任 ・三代目理事長佐藤賢就任	
51(1976)		・25回近実大会主管		・四代目会長永末英一就任			
52(1977)		・27回全日実大会主管(団体)		・27回全日実大会主管(個人) ・26回近実大会主管			
53(1978)			・五代目会長伊藤利朗就任	・五代目会長西村清次就任	・27回近実大会主管		
54(1979)			・六代目会長岡久雄就任		・五代目会長坂口常博就任		・三代目理事長 榧木八洲就任 ・28回近実大会主管
55(1980)		・六代目会長植田義明就任				・29回近実大会主管	
56(1981)		・30回近実大会主管					
57(1982)			・31回近実大会主管				
58(1983)				・32回近実大会主管			
59(1984)	会長・理事長は近実大会 開催県会長・理事長が 担当(S59～平成元年)	・34回全日実大会主管			・二代目会長松尾良行就任 ・四代目理事長平敏明就任 ・33回近実大会主管		
60(1985)						・34回近実大会主管	
61(1986)			・七代目会長伊藤利朗再任	・36回全日本実業団大会 主管			・35回近実大会主管
62(1987)			・36回近実大会主管	・八代目理事長 佐藤武人就任	・五代目理事長 友松泰男就任		

年　度	近実連関係 出来事・歴代会長	大阪府	兵庫県	京都府	和歌山県	滋賀県	奈良県
63(1988)		・37回近実大会主管					
平成 1(1989)			・八代目会長谷口一郎就任	・38回近実大会主管	・六代目会長平松茂人就任		
2(1990)	会長は近実大会開催県 会長が担当(H2～現在) 理事長北義一(兵庫)就任		・40回全日本実業団大会 主管		・六代目理事長 土田行夫就任 ・39回近実大会主管		
3(1991)	・近実リーグ戦大会開始						・40回近実大会主管
4(1992)						・41回近実大会主管	
5(1993)		・七代目会長尾崎弘就任 ・三代目理事長 清水義雄就任	・九代目会長 大前繁雄就任 ・42回近実大会主管		・七代目会長山下良一就任		
6(1994)	・阪神淡路大震災のため 近実大会中止				・八代目会長岡沢亨就任 ・八代目理事長 北山洋二就任		
7(1995)				・(代)会長野村嘉明就任 ・44回近実大会主管	・実業団連盟活動 当分休止		
8(1996)							・45回近実大会主管
9(1997)	理事長佐藤武人(京都) 就任			・七代目会長野村嘉明就任		・四代目理事長 西原四郎就任 ・46回近実大会主管	
10(1998)			・47回近実大会主管				
11(1999)		・八代目会長品川則之就任 ・四代目理事長河合茂就任 ・48回近実大会主管		・八代目会長岡本宏也就任 ・49回全日本実業団大会 主管			
12(2000)			・十代目会長北義一就任 ・四代目理事長 瀬川欽也就任	・49回近実大会主管		・(代)会長佐藤賢就任	
13(2001)						・50回近実大会主管	
14(2002)					・51回近実大会主管		
15(2003)	理事長境良治(兵庫)就任		・五代目理事長境良治就任 ・52回近実大会主管	・九代目理事長 新井貴雄就任			
16(2004)		・53回近実大会主管					
17(2005)				・九代目会長永井博就任 ・54回近実大会主管			
18(2006)							55回近実大会主管
19(2007)			・11代目会長瀬川欽也就任			・56回近実大会主管	
20(2008)			・60回近実大会主管				
21(2009)	理事長新井貴雄(京都)就任	・61回近実大会主管					
22(2010)			・60回全日実業団大会主管	・62回近実大会主管			

近畿実業団選手権大会　過去の成績

回	年度	開催地	男子の部		女子の部	
			優勝	準優勝	優勝	準優勝
1						
2						
3	昭和29年	滋賀	古河電工			
4	昭和30年	大阪	古河電工			
5	昭和31年	京都	古河電工	神戸YMCA	皇子山中学校職員	島津製作所
6	昭和32年	兵庫	古河電工	島津製作所	皇子山中学校職員	京都大丸
7	昭和33年	大阪	古河電工	東亜燃料・和歌山	大阪スポーツ工業	松下電子工業
8	昭和34年	京都	大阪合繊	東亜燃料・和歌山	松下電子工業	大阪合繊
9	昭和35年	和歌山	丸善石油・下津	神戸地方裁判所	松下電子工業	丸善石油・下津
10	昭和36年	兵庫	国際電電	住友金属・尼崎	松下電子工業	嶋路商店
11	昭和37年	大阪	大日日本電線工業	三菱自工・京都	松下電子工業	大阪市外電話局
12	昭和38年	京都	松下電子工業	新宮市役所	松下電子工業	電電大阪
13	昭和39年	兵庫	電電大阪	松下電子工業	三菱電機・伊丹	川崎製鉄所
14	昭和40年	大阪	電電大阪	国際電電	三菱自工・京都	電電大阪
15	昭和41年	和歌山	電電近畿	国際電電	三菱自工・京都	三菱電機・伊丹
16	昭和42年	奈良	電電近畿	国際電電	三菱自工・京都	三菱電機・伊丹
17	昭和43年	滋賀	電電近畿	国際電電	三菱自工・京都	松下電子工業
18	昭和44年	京都	電電近畿	住友金属・和歌山	三菱自工・京都	電電近畿
19	昭和45年	兵庫	電電近畿	松下電器	三菱電機・伊丹	電電近畿
20	昭和46年	大阪	電電近畿	住友金属・和歌山	三菱電機・伊丹	電電近畿
21	昭和47年	奈良	電電近畿	住友金属・和歌山	電電近畿	住友金属・和歌山
22	昭和48年	和歌山	電電近畿	スワロー化研	三菱電機・伊丹	スワロー化研
23	昭和49年	滋賀	スワロー化研	電電近畿	三菱電機・伊丹	スワロー化研
24	昭和50年	兵庫	電電近畿	住友金属・和歌山	三菱電機・伊丹	スワロー化研
25	昭和51年	大阪	電電近畿	住友金属・和歌山	スワロー化研	住友金属・和歌山
26	昭和52年	京都	電電近畿	スワロー化研	スワロー化研	住友金属・尼崎
27	昭和53年	和歌山	電電近畿	スワロー化研	住友金属・和歌山	住友金属・尼崎
28	昭和54年	奈良	電電近畿	松下電器	サントリー	住友金属・尼崎
29	昭和55年	滋賀	電電近畿	大津市役所	三洋電機・大阪	サントリー
30	昭和56年	大阪	電電近畿	住友金属・和歌山	サントリー	三洋電機
31	昭和57年	兵庫	電電近畿	松下電器	サントリー	三洋電機
32	昭和58年	京都	電電近畿	大津市役所	三洋電機	滋賀銀行
33	昭和59年	和歌山	ヨネックス	住友化工	住友金属・和歌山	住友金属・尼崎
34	昭和60年	滋賀	大津市役所	ヨネックス	東レ滋賀	住友金属・和歌山
35	昭和61年	奈良	大津市役所	住友金属・和歌山	東レ滋賀	住友金属・大阪
36	昭和62年	兵庫	松下電器・大阪	新日鐵・広畑	三菱電機・伊丹	東レ滋賀
37	昭和63年	大阪	NTT関西	住友金属・和歌山	三菱電機・伊丹	東レ滋賀
38	平成1年	京都	NTT関西	松下電器・大阪	三菱電機・伊丹	東レ滋賀
39	平成2年	和歌山	大和製衡	住友金属・和歌山	三菱電機・伊丹	住友金属・和歌山
40	平成3年	奈良	NTT関西	大和製衡	サントリー	三洋電機
41	平成4年	滋賀	松下電器・大阪	大和製衡	サントリー	三洋電機
42	平成5年	兵庫	NTT関西	松下電器・大阪	三洋電機	松下電器・大阪
43	平成6年	大阪	阪神大震災のため中止			
44	平成7年	京都	松下電器・大阪	大阪ガス	コスモ石油	松下電器・大阪
45	平成8年	奈良	NTT関西	松下電器・大阪	松下電器・大阪	三菱自工
46	平成9年	滋賀	松下電器・大阪	東レ滋賀	三洋電機	三菱自工・京都
47	平成10年	兵庫	松下電器・大阪	大阪ガス	三菱電機	三菱自動車京都
48	平成11年	大阪	NTT西日本・大阪	松下電器・大阪	三菱電機	三菱自動車京都
49	平成12年	京都	松下電器・大阪	松下電器部品	三洋電機	三菱電機
50	平成13年	奈良	三菱自動車京都	松下電器・大阪	三洋電機	大阪市役所
51	平成14年	滋賀	B－WAY	三菱自動車京都	三菱電機	大阪府選抜
52	平成15年	兵庫	大和製衡	松下電器・大阪	三菱電機	大阪府選抜
53	平成16年	大阪	三菱自動車京都	B－WAY	三洋電機	三菱電機
54	平成17年	京都	B－WAY	三菱自動車京都	大阪府選抜	島津製作所
55	平成18年	奈良	ピスコム	ミズノ	京都府選抜	京都府庁
56	平成19年	滋賀	ミズノ	ピスコム	堀場製作所	島津製作所
57	平成20年	兵庫	大和製衡	三菱自動車京都	三菱電機	京都市役所
58	平成21年	大阪	三菱自動車京都	大和製衡	三菱電機	京都市役所

GOSEN CUP　過去の成績

回／開催地 年　度		優　勝		第２位		第３位	
第１回 京都府 平成３年度	男 女	大和製衡 三菱電機	(兵)	三菱自工 東レ滋賀	(京) (滋)	東レ滋賀 住友金属	(滋) (和)
第２回 兵庫県 平成４年度	男 女	大和製衡 三菱電機	(兵)	三菱自工 住友金属	(京) (和)	東レ滋賀 コスモ石油	(滋) (大)
第３回 大阪府 平成５年度	男 女	大阪府選抜	(大)	大和製衡 京都府選抜	(兵) (京)	三菱自工 関西セキスイ	(京) (奈)
第４回 和歌山県 平成６年度	男 女	大阪府選抜	(大)	兵庫県選抜 関西セキスイ	(兵) (奈)	三菱自工 兵庫県選抜	(京) (兵)
第５回 奈良県 平成７年度	男 女	大阪府選抜	(大)	兵庫県選抜 三菱電機	(兵)	三菱自工	(京)
第６回 滋賀県 平成８年度	男 女	大阪府選抜 三菱電機	(大) (兵)	三菱自工 関西セキスイ	(京) (奈)	三菱電機 三菱自工	(兵) (京)
第７回 京都府 平成９年度	男 女	三菱自工 三菱電機	(京) (兵)	兵庫県選抜 三菱自工	(兵) (京)	大阪府選抜	(大)
第８回 兵庫県 平成10年度		三菱自工	(京)	三菱電機	(兵)	東レ滋賀	(滋)
第９回 大阪府 平成11年度		大阪府選抜Ａ	(大)	大阪府選抜Ｂ	(大)	三菱重工神戸	(兵)
第10回 奈良県 平成12年度		大阪府選抜	(大)	三菱自動車	(京)	兵庫県選抜	(兵)
第11回 滋賀県 平成13年度		京都府選抜	(京)	兵庫県選抜	(兵)	大阪府選抜	(大)
第12回 京都府 平成14年度		兵庫県選抜	(兵)	三菱自動車	(京)	滋賀県選抜	(滋)
第13回 兵庫県 平成15年度		兵庫県選抜Ａ	(兵)	兵庫県選抜Ｂ	(兵)	大阪府選抜	(大)
第14回 大阪府 平成16年度	一　般 シニア	大阪府選抜Ａ	(大)	兵庫県選抜 京都府選抜	(兵) (京)	京都府選抜 関西セキスイ	(京) (奈)
第15回 京都府 平成17年度	一　般 シニア	兵庫県選抜 大阪府選抜	(兵) (大)	大阪府選抜 兵庫県選抜	(大) (兵)	京都府選抜Ａ	(京)
第16回 奈良県 平成18年度	一　般 シニア	大阪府選抜	(大)	奈良県選抜 滋賀県選抜	(奈) (滋)	京都府選抜 兵庫県選抜	(京) (兵)
第17回 滋賀県 平成19年度	一　般 シニア	兵庫県選抜 大阪府選抜	(兵) (大)	大阪府選抜 京都府選抜Ａ	(大) (京)	京都府選抜 兵庫県選抜	(京) (兵)
第18回 兵庫県 平成20年度	一　般 シニア	兵庫県選抜Ａ 大阪府選抜	(兵) (大)	兵庫県選抜Ｂ 京都府選抜Ａ	(兵) (京)	大阪府選抜 兵庫県選抜Ａ	(大) (兵)
第19回 大阪府 平成21年度	一　般 シニア	大阪府選抜Ａ 京都府選抜	(大) (京)	兵庫県選抜 大阪府選抜Ａ	(兵) (大)	京都府選抜 大阪府選抜Ｂ	(京) (大)

第４節
近畿高等学校体育連盟バドミントン専門部



㈶全国高等学校体育連盟バドミントン専門部常任委員
近畿高等学校体育連盟バドミントン専門部委員長
奈良県高等学校体育連盟バドミントン専門部委員長
錦　　秀知（奈良市立一条高等学校）

近畿バドミントン協会が創立60周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。近畿高等学校体育連盟バドミントン専門部は､「近畿はひとつ」を合言葉に、府県間の移動が容易という地理的な条件も相俟って、お互いに切磋琢磨するという素地が以前からあり、近畿専門部の中に強化スタッフを置き、近畿選抜合宿をはじめ全国高校総体直前練習会等連携した事業に取り組んでいます。

歴代委員長は、昭和26(1951)年度から昭和40(1965)年度まで河合満先生(兵庫県)、そして昭和41(1966)年度から昭和61(1986)年度まで山本博先生(京都府)が、それぞれ創設当初から長期にわたりお務めいただき、近畿合宿をはじめ近畿の基盤を整備していただきました。また、山本博先生は全国専門部の副部長も兼務いただきました。後任として、武田博利先生(奈良県)に引き継がれ、成田光生先生(京都府)へとその精神が受け継がれてまいりました。成田光生先生も全国専門部副部長に着任いただきました。その後､平成９(1997)年度に就任された濱久美雄先生(滋賀)が、平成18(2006)年度までの10年間にわたりご尽力をいただき、近畿合宿の再出発や競技規則の改正に伴う諸業務を迅速に遂行されました。その後は、㈶全国高体連バドミントン専門部副部長に着任いただいております。

平成10(1998)年度から再出発した近畿合宿は、藤上良信先生(比叡山)をアドバイザーに、山本裕幸先生(西乙訓・現在は乙訓高校に勤務)を強化スタッフ長として、滋賀県を開催地として実施されました。平成20(2008)年度からは、スタッフ長に友金幸雄先生(神戸村野工業)を迎え、大阪府に開催地を移しリニューアルが図られ現在に至っています。

近畿高体連専門部が主管して開催しています近畿高等学校バドミントン選手権大会の上位結果を掲載し、近畿高等学校体育連盟バドミントン専門部60年間の足跡とさせていただきます。

各府県協会がブロック各連盟代表とともに関係を構築し、ブロック協会として長年にわたり運営に携わっておられる例は、全国的に希有であると伺います。近畿バドミントン協会の設立から現在までの間、ご尽力賜りました先輩諸氏に深甚なる謝意を申し上げるとともに、今後のますますのご発展を祈念申し上げます。

資料１は、創設当初からの、全国専門部副部長、近畿ブロック委員長、各府県委員長の一覧、資料２は、近畿高等学校バドミントン選手権大会の上位結果です。全国大会等での活躍は紙面の都合により㈶全国高体連専門部創立60周年記念誌等掲載資料に委ねさせていただきます。

全国専門部副部長(近畿ブロックのみ)
近畿ブロック委員長・各府県委員長一覧表

	全国専門部副部長	近畿ブロック委員長	大阪府	兵庫県	京都府	滋賀県	奈良県	和歌山県
昭和23年度			井上　得三					
昭和24年度								
昭和25年度							上山　当雄	
昭和26年度		河合　　満	青木　昭二		久野　龍英		岩井　由治	島田　　実
昭和27年度				河合　　満				水崎　　広
昭和28年度					山本　　博	伊藤　章一		吉田　正雄
昭和29年度								
昭和30年度								
昭和31年度								上田　忠男
昭和32年度						中山　　実		
昭和33年度								
昭和34年度						堤　　庄一		
昭和35年度								魚谷　量雄
昭和36年度								木阪　　登
昭和37年度						金田　赳夫		
昭和38年度			岸　　研一				松尾　良行	
昭和39年度								
昭和40年度						寺田　　寿		
昭和41年度		山本　　博						
昭和42年度								佐藤　　博
昭和43年度						辻　　広之		
昭和44年度				手島　　司				
昭和45年度	山本　　博					国領　迪則		
昭和46年度				平林　弘嗣				
昭和47年度				川崎　紘平		沢　　長寿	武田　博利	
昭和48年度				仲山　　巖				
昭和49年度			藤浪　輝吉					
昭和50年度								
昭和51年度								
昭和52年度			石橋　三彦					宮本　　稔
昭和53年度								
昭和54年度								
昭和55年度								
昭和56年度						川戸　健一		
昭和57年度								
昭和58年度								山西　節子
昭和59年度								
昭和60年度								
昭和61年度			山崎　満彦		成田　光生			
昭和62年度		武田　博利				谷　　英明		森　　隆
昭和63年度								
平成元年度		成田　光生					吉村　禎訓	
平成２年度								
平成３年度								武藤　隆志
平成４年度								
平成５年度			藤本信之					井角　忠彦
平成６年度								
平成７年度							乾　　哲司	
平成８年度						濱　久美雄		
平成９年度	成田　光生	濱　久美雄			高橋　清治			
平成10年度								
平成11年度			大住　陽一					
平成12年度				藤本　和幸			錦　　秀知	
平成13年度								
平成14年度								
平成15年度								
平成16年度					寺田　裕昭			
平成17年度								
平成18年度								
平成19年度	濱　久美雄	錦　　秀知				清水　十郎		武藤　隆志
平成20年度								
平成21年度								
平成22年度				佐藤　　浩				

※近畿ブロック委員長は、㈶全国高体連専門部常任委員を兼務します。

近畿高等学校バドミントン選手権大会　栄光のあと

回数	年度	開催地	種別	1　位	2　位
第1回	1954	奈　良	男単	米倉　彦次（大・三島野）	武市　京三（大・三島野）
			女単	渡辺多津代（大・三島野）	上続久美子（和・星　林）
			男複	武市　京三・水野　義治（大・三島野）	小川　　修・上林　　繁（滋・長浜商）
			女複	上続久美子・稲垣　暢子（和・星　林）	渡辺多津代・大川　正子（大・三島野）
第2回	1955	京　都	男単	竹村　幸雄（京・平　安）	秋山　眞一（滋・短大附工）
			女単	金木　美子（京・同志女子）	加藤　洋子（兵・親和女子）
			男複	秋山　眞一・小野寺正敏（滋・短大附工）	金谷　順二・新井　　悟（京・平　安）
			女複	磯野佳津子・田村　政子（兵・親和女子）	加藤　洋子・田名網　　（兵・親和女子）
第3回	1956	滋　賀	男単	森　　晃一（奈・奈商工）	小坂　好洋（和・新　宮）
			女単	井田　依子（大・梅　花）	
			男複	森　　晃一・小野　善生（奈・奈商工）	田中　信行・大西　　宏（京・紫　野）
			女複	井田　依子・松本　恭子（大・梅　花）	森住　倭子・田中　明美（兵・親和女子）
第4回	1957	和歌山	男単	森　　晃一（奈・奈商工）	松岡　達朗（兵・神戸商）
			女単	久保千恵子（京・平安女学院）	油谷美津子（和・耐　久）
			男複	森　　晃一・榎　　高嗣（奈・奈商工）	根本　佳昭・新谷　　武（和・新　宮）
			女複	岸　　良子・北出弥寿子（兵・親和女子）	油谷美津子・井内　和子（和・耐　久）
第5回	1958	兵　庫	男単	玉井　治之（大・茨　木）	川村　義夫（滋・長浜西）
			女単	平野　泰子（兵・親和女子）	中村　和子（京・平安女学院）
			男複	久保川正啓・吉村　　進（大・茨　木）	玉井　治之・福村　慶市（大・茨　木）
			女複	平野　泰子・久保田皖子（兵・親和女子）	山口　昭子・大倉　協子（大・樟蔭東）
第6回	1959	奈　良	男単	中川　安正（奈・奈商工）	近藤　利一（兵・神戸商）
			女単	辻　　節子（滋・彦根西）	
			男複	中川　安正・西尾　禎一（奈・奈商工）	
			女複		
第7回	1960	和歌山	男単	中川　武彦（滋・長浜北）	
			女単	中西百合子（奈・奈商工）	
			男複	中川　武彦・北川　敏男（滋・長浜北）	三木　　喬・鎌田耕太郎（奈・奈商工）
			女複	辻　　節子・大辻　知子（滋・彦根西）	
第8回	1961	滋　賀	男単	鎌田耕太郎（奈・奈商工）	野村　安忠（奈・奈商工）
			女単	陰山　洋美（兵・親和女子）	松木美代子（大・東大阪）
			男複	三木　　喬・鎌田耕太郎（奈・奈商工）	高木　捨雄・杉政　和男（滋・長浜商工）
			女複	森村　延子・鳥取　弘子（奈・天　理）	若林喜久子・福永　洋子（滋・彦根西）
第9回	1962	京　都	男単	杉政　和男（滋・長浜商工）	森　　芳夫（奈・奈商工）
			女単	若林喜久子（滋・彦根西）	浜田　晴美（兵・親和女子）
			男複	杉政　和男・高木　捨雄（滋・長浜商工）	大西　秀信・森　　芳夫（奈・奈商工）
			女複	明田　民江・山本　敏子（大・四條畷学園）	陰山　洋美・田中　豊子（兵・親和女子）
第10回	1963	兵　庫	男単	高木　金次（京・伏見工）	竹山　重夫（京・朱　雀）
			女単	近藤　光枝（大・布施女子）	才脇　妙子（大・布施女子）
			男複	森　　芳夫・吉村　昭治（奈・奈商工）	山中　良次・真壁　年一（奈・正　強）
			女複	近藤　光枝・才脇　妙子（大・布施女子）	永井かおり・高木　和子（京・成安女子）
第11回	1964	奈　良	男単	真壁　年一（奈・正　強）	福山　寿夫（奈・添　上）
			女単	近藤　光枝（大・布施女子）	才脇　妙子（大・布施女子）
			男複	真壁　年一・寺井　康雄（奈・正　強）	江崎　孝一・沢村　雅央（大・近大附属）
			女複	近藤　光枝・才脇　妙子（大・布施女子）	福永みよ子・三上覚津美（滋・彦根西）

お願い　大会の初期の記録が不十分です。関係する皆さまの協力で少しずつ揃ってきましたが、資料などお持ちの場合や、空欄についてご存じな場合、または、お気づきの点などがございましたら各府県の専門部委員長へお知らせください。よろしくお願いいたします。

回数	年度	開催地	種別	1　位	2　位
第12回	1965	和歌山	男単	山口　勇（和・新　宮）	河村　憲一（奈・奈商工）
			女単	片桐　澄江（兵・野田女子）	篠山　和江（大・布施女子）
			男複	小野　健二・岡田　順一（奈・天　理）	河村　憲一・南岡　幹夫（奈・奈商工）
			女複	池田　栄子・篠山　和江（大・布施女子）	山下三枝子・相沢千津子（京・成安女子）
第13回	1966	滋　賀	男単	滝野　公一（奈・正　強）	宮崎　博（奈・一　条）
			女単	沼田真理子（兵・野田女子）	相坂千津子（京・成安女子）
			男複	植田　寛・滝野　公一（奈・正　強）	阪本　徳司・宮崎　博（奈・一　条）
			女複	池田　栄子・平山　泰子（大・布施女子）	光島登志恵・篠山　和江（大・布施女子）
第14回	1967	京　都	男単	上野　利三（奈・天　理）	中島　真一（奈・一　条）
			女単	柴山きよ子（大・東大阪）	平山　泰子（大・東大阪）
			男複	上野　利三・岡田　昇久（奈・天　理）	小倉　謙・奥田　隆男（京・紫　野）
			女複	柴山きよ子・高崎　弘子（大・東大阪）	井上　京子・河内　淑子（大・薫　英）
第15回	1968	兵　庫	男単	岡田　昇久（奈・天　理）	永沢　康弘（大・高　津）
			女単	柴山きよ子（大・東大阪）	高崎　弘子（大・東大阪）
			男複	菅原　弘貴・山本　繁幸（奈・正　強）	西山　幸雄・巽　康司（奈・正　強）
			女複	柴山きよ子・高崎　弘子（大・東大阪）	大場　照美・阪本　恵子（大・東大阪）
第16回	1969	大　阪	男単	竹内　真（奈・正　強）	永沢　康弘（大・高　津）
			女単	佐伯　智子（奈・一　条）	西尾真理子（大・四條畷学園）
			男複	巽　康司・西川　繁美（奈・正　強）	永沢　康弘・山本　龍彦（大・高　津）
			女複	陣内　裕子・岡崎　幸子（京・成安女子）	佐伯　智子・古谷　成代（奈・一　条）
第17回	1970	奈　良	男単	西川　繁美（奈・正　強）	中井　基夫（奈・正　強）
			女単	佐伯　智子（奈・一　条）	桝谷美智子（兵・尼崎西）
			男複	西川　繁美・佐野　弘（奈・正　強）	中井　基夫・南田　義正（奈・正　強）
			女複	佐伯　智子・古谷　成代（奈・一　条）	谷　美津子・尼崎　初子（京・成安女子）
第18回	1971	滋　賀	男単	中井　基夫（奈・正　強）	辻　敏弘（奈・添　上）
			女単	徳田　敦子（大・四條畷学園）	秋本　幸子（大・四條畷学園）
			男複	中井　基夫・南田　義正（奈・正　強）	茶谷　正美・棟　敏彦（奈・一　条）
			女複	秋本　幸子・徳田　敦子（大・四條畷学園）	高田　幹子・諸橋　典子（大・四條畷学園）
第19回	1972	和歌山	男単	池田　文昭（奈・正　強）	山崎　敏紀（和・新　宮）
			女単	徳田　敦子（大・四條畷学園）	高田　幹子（大・四條畷学園）
			男複	池田　文昭・村田　信博（奈・正　強）	辰己　秀雄・杉本　重幸（奈・一　条）
			女複	高田　幹子・諸橋　典子（大・四條畷学園）	駒村佐千子・富田まゆみ（滋・大　津）
第20回	1973	京　都	男単	塚本　良一（奈・一　条）	加治　澄弘（兵・三田学園）
			女単	植野恵美子（大・四條畷学園）	山本　邦子（奈・一　条）
			男複	村田　信博・中岡　裕彦（奈・正　強）	塚本　良一・竹中　伸行（奈・一　条）
			女複	秋本美津子・植野恵美子（大・四條畷学園）	中津　和美・川中麻理子（奈・一　条）
第21回	1974	兵　庫	男単	冨田　章夫（奈・正　強）	吉岡　伸浩（奈・正　強）
			女単	植野恵美子（大・四條畷学園）	山本　邦子（奈・一　条）
			男複	春井　善雄・吉岡　伸浩（奈・正　強）	小倉　久和・小浜　充弘（奈・一　条）
			女複	植野恵美子・石川　好子（大・四條畷学園）	佐藤　真弓・雑賀富士子（兵・園田学園）
第22回	1975	大　阪	男単	諸多　博之（奈・一　条）	小浜　充弘（奈・一　条）
			女単	石川　好子（大・四條畷学園）	柴田　真弓（滋・滋賀女子）
			男複	北橋　進・山本　昇（滋・比叡山）	諸多　博之・西川　喜裕（奈・一　条）
			女複	平　久美子・河村　茂美（大・四條畷学園）	石川　好子・金沢　順子（大・四條畷学園）

回数	年度	開催地	種別	1　位	2　位
第23回	1976	奈　良	男単	嘉生　寛（奈・奈　良）	西山　博司（滋・比叡山）
			女単	河村　茂美（大・四條畷学園）	平　久美子（大・四條畷学園）
			男複	西山　博司・矢部　忠司（滋・比叡山）	嘉生　寛・浜石　公明（奈・奈　良）
			女複	河村　茂美・平　久美子（大・四條畷学園）	川島　直子・中沢　博美（滋・大　津）
第24回	1977	和歌山	男単	吉村　輝高（奈・一　条）	滝川　正（滋・石　山）
			女単	原口　恵子（大・四條畷学園）	横田　悦代（奈・一　条）
			男複	吉村　輝高・虎枝　寛哲（奈・一　条）	藤本　英樹・貴田　昌史（奈・正　強）
			女複	合川　裕子・植田日出子（大・四條畷学園）	石田　周子・平井　貴子（兵・園田学園）
第25回	1978	滋　賀	男単	貴田　昌史（奈・正　強）	古賀　勝志（奈・正　強）
			女単	北田スミ子（大・四條畷学園）	原田　純子（兵・園田学園）
			男複	貴田　昌史・古賀　勝志（奈・正　強）	馬杉　武司・近藤　雅明（滋・比叡山）
			女複	北田スミ子・冨田美千代（大・四條畷学園）	原田　純子・河原奈緒美（兵・園田学園）
第26回	1979	京　都	男単	山本　裕幸（滋・比叡山）	古賀　勝志（奈・正　強）
			女単	尾崎　升美（大・四條畷学園）	松田　全代（大・四條畷学園）
			男複	山本　裕幸・馬杉　武司（滋・比叡山）	竹端　英夫・西山　祥一（滋・比叡山）
			女複	松田　全代・新木　千織（大・四條畷学園）	石橋伊都子・尾崎　之子（奈・帝塚山）
第27回	1980	兵　庫	男単	松浦　進二（滋・草　津）	片岡　泰（滋・比叡山）
			女単	松田太嘉子（大・四條畷学園）	新木　千織（大・四條畷学園）
			男複	児嶋　智・児嶋　浩（和・新　宮）	菊地　雄二・中谷　俊昭（奈・一　条）
			女複	新木　千織・松田太嘉子（大・四條畷学園）	久世　有美・押切　美喜（大・四條畷学園）
第28回	1981	大　阪	男単	西川　勉（滋・比叡山）	辻田　泰昌（滋・比叡山）
			女単	松田太嘉子（大・四條畷学園）	鴻原　春美（大・四條畷学園）
			男複	杉本　吉男・辻田　泰昌（滋・比叡山）	前川　正則・西川　勉（滋・比叡山）
			女複	松田太嘉子・押切　美喜（大・四條畷学園）	鴻原　春美・荒井　桂子（大・四條畷学園）
第29回	1982	奈　良	男単	見市　昌弘（奈・一　条）	佐藤　浩（兵・市立尼崎）
			女単	鴻原　春美（大・四條畷学園）	小泉　陽子（兵・園田学園）
			男複	小田　知則・江藤　裕樹（滋・比叡山）	三宅　雅夫・上原　聖司（滋・比叡山）
			女複	鴻原　春美・新木　貴子（大・四條畷学園）	小泉　陽子・川端　充子（兵・園田学園）
第30回	1983	和歌山	男単	江藤　裕樹（滋・比叡山）	中川　康（滋・比叡山）
			女単	新木　貴子（大・四條畷学園）	今村　薫（大・四條畷学園）
			男複	江藤　裕樹・松本　仁志（滋・比叡山）	中川　健・中川　康（滋・比叡山）
			女複	新木　貴子・今村　薫（大・四條畷学園）	山田　陽子・市川　綾（大・四條畷学園）
第31回	1984	滋　賀	男単	広瀬　純吾（滋・比叡山）	早戸　敬雄（滋・比叡山）
			女単	今村　薫（大・四條畷学園）	尾亀　留実（兵・園田学園）
			男複	広瀬　純吾・早戸　敬雄（滋・比叡山）	片岡　憲二・礒田　茂和（滋・比叡山）
			女複	今村　薫・片岡　明子（大・四條畷学園）	王　文麗・尾亀　留実（兵・園田学園）
第32回	1985	京　都	男単	山口　哲浩（滋・比叡山）	中川　智史（滋・比叡山）
			女単	利川　貴子（大・四條畷学園）	福林美和子（兵・園田学園）
			男複	大谷　誠二・岸尾　浩行（奈・一　条）	北原　斎・平井　大三（兵・加古川西）
			女複	大村　和代・長井　麻紀（兵・夙川学院）	松長　美和・堀尾　真理（奈・一　条）
第33回	1986	兵　庫	男単	鈴木草麻生（滋・比叡山）	中橋　一晃（滋・比叡山）
			女単	利川　貴子（大・四條畷学園）	南里　高子（大・四條畷学園）
			男複	鈴木草麻生・中橋　一晃（滋・比叡山）	大岡　俊博・久下　弘二（滋・比叡山）
			女複	利川　貴子・岩田　良子（大・四條畷学園）	南里　高子・南里　泰子（大・四條畷学園）

回数	年度	開催地	種別	1　位	2　位
第34回	1987	大　阪	男単	小河原　崇（滋・比叡山）	白浜　智海（大・此花学院）
			女単	水井妃佐子（大・四條畷学園）	岩田　良子（大・四條畷学園）
			男複	福知　俊治・平井　肇（滋・比叡山）	荒木　徹・陣内　正樹（大・柏　原）
			女複	岩田　良子・新木美志子（大・四條畷学園）	水井妃佐子・坂田　美佐（大・四條畷学園）
第35回	1988	奈　良	男単	小河原　崇（滋・比叡山）	藤原　忠雄（奈・正　強）
			女単	水井妃佐子（大・四條畷学園）	坂田　美佐（大・四條畷学園）
			男複	小河原　崇・武田　康宏（滋・比叡山）	見市　武史・仲田　浩司（大・柏　原）
			女複	水井妃佐子・坂田　美佐（大・四條畷学園）	小泉　友紀・安原貴美子（兵・園田学園）
第36回	1989	和歌山	男単	岸田　明宏（大・此花学院）	杉田　満広（滋・比叡山）
			女単	松田　洋子（大・四條畷学園）	西田実友貴（滋・比叡山）
			男複	平野　耕司・桑野　晃一（滋・比叡山）	河村　一年・小谷　範利（奈・一　条）
			女複	西田実友貴・下川　英里（滋・比叡山）	礒山　享子・橋本　香（大・四條畷学園）
第37回	1990	奈　良	男単	河村　一年（奈・一　条）	片岡詔市郎（大・此花学院）
			女単	松田　洋子（大・四條畷学園）	岩永　英子（京・成安女子）
			男複	有田　浩史・斉藤　俊（大・大阪桐蔭）	河村　一年・小谷　範利（奈・一　条）
			女複	田中佐妃子・田中のり子（滋・滋賀女子）	松田　洋子・杉田　暢子（大・四條畷学園）
第38回	1991	和歌山	男単	岸田　健作（大・大阪桐蔭）	柳　承寛（大・此花学院）
			女単	信田　富貴（大・四條畷学園）	川口　桐香（大・四條畷学園）
			男複	岸田　健作・田中　宏和（大・大阪桐蔭）	馬場　勝治・多久島　誠（滋・比叡山）
			女複	信田　富貴・川口　桐香（大・四條畷学園）	藤原　麻紀・中村　恭子（兵・夙川学院）
第39回	1992	大　阪	男単	酒井　将之（滋・近江兄弟社）	杉岡　拓弥（滋・比叡山）
			女単	水井　泰子（大・四條畷学園）	川口　桐香（大・四條畷学園）
			男複	杉岡　拓弥・多久島　誠（滋・比叡山）	山名　義則・中居　清行（滋・北大津）
			女複	水井　泰子・川口　桐香（大・四條畷学園）	市橋　美紀・鬼頭　加代（大・四條畷学園）
第40回	1993	兵　庫	男単	酒井　将之（滋・近江兄弟社）	奥井　則昭（大・大阪桐蔭）
			女単	葛野　智子（大・四天王寺）	鬼池めぐみ（大・四天王寺）
			男複	酒井　将之・木村　貴幸（滋・近江兄弟社）	中島　篤・吉森　博規（滋・比叡山）
			女複	市橋　美紀・鬼頭　加代（大・四條畷学園）	鬼池めぐみ・高尾　昌代（大・四天王寺）
第41回	1994	京　都	男単	松本　徹（滋・比叡山）	向　裕樹（滋・比叡山）
			女単	市橋　理恵（大・四條畷学園）	薦田　朋美（大・四天王寺）
			男複	松本　徹・西村　祐喜（滋・比叡山）	森本　敬太・高田幸次郎（兵・東播磨）
			女複	中村このみ・亀井　千秋（奈・一　条）	薦田　朋美・芳村真梨子（大・四天王寺）
第42回	1995	滋　賀	男単	仲尾　修一（大・此花学院）	川口　馨士（滋・比叡山）
			女単	吉岡　知香（大・四條畷学園）	勝嶋　梨絵（滋・比叡山）
			男複	川口　馨士・杉島　学（滋・比叡山）	宇治　克樹・甲林　成紀（大・大阪桐蔭）
			女複	岩部　直子・大山　育美（兵・園田学園）	吉岡　知香・尾後　静香（大・四條畷学園）
第43回	1996	奈　良	男単	松下　文雅（大・大阪学芸）	古川　裕輔（京・洛　水）
			女単	勝嶋　梨絵（滋・比叡山）	上田　絵美（滋・滋賀女子）
			男複	三嶋　康郎・寄川　太助（奈・添　上）	永谷　和也・福川　和也（大・大阪学芸）
			女複	山田さやか・安城　美華（大・四天王寺）	上田多希子・坂口　実郁（大・四條畷学園）
第44回	1997	和歌山	男単	稲垣　翔悟（滋・比叡山）	数野　祐介（滋・比叡山）
			女単	安城　美華（大・四天王寺）	上田　絵美（滋・滋賀女子）
			男複	梅本　修平・松本　紘二（滋・比叡山）	尾崎　勝久・稲垣　翔悟（滋・比叡山）
			女複	安城　美華・恵良　恵（大・四天王寺）	上田多希子・坂口　実郁（大・四條畷学園）

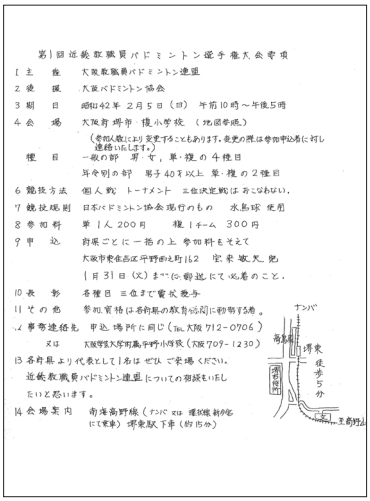
回数	年度	開催地	種別	1　位	2　位
第45回	1998	大　阪	男単	稲垣　翔悟（滋・比叡山）	川前　直樹（大・柏　原）
			女単	吉岡久美子（大・四條畷学園）	澤　憂妃（滋・滋賀女子）
			男複	稲垣　翔悟・谷口　斉（滋・比叡山）	川前　直樹・阪下　翔一（大・柏　原）
			女複	高木さやか・川島　彩（滋・滋賀女子）	児玉　明子・恵　あすか（兵・夙川学院）
第46回	1999	兵　庫	男単	榎本　良永（滋・比叡山）	新開　裕介（大・此花学院）
			女単	小椋久美子（大・四天王寺）	下野　鈴佳（大・四天王寺）
			男複	川前　直樹・諸多　大輔（大・柏　原）	伊藤　博哲・大滝　祐紀（大・此花学院）
			女複	下野　鈴佳・小椋久美子（大・四天王寺）	多谷　郁恵・早川由希子（滋・滋賀女子）
第47回	2000	京　都	男単	銭谷　公浩（滋・比叡山）	小瀬　広晃（大・柏　原）
			女単	小椋久美子（大・四天王寺）	丸岡　智子（大・四条畷学園）
			男複	銭谷　公浩・森澤　駿（滋・比叡山）	山口　公洋・辻田　嘉章（滋・比叡山）
			女複	多谷　郁恵・早川由希子（滋・滋賀女子）	亀谷　望・丸岡　智子（大・四条畷学園）
第48回	2001	滋　賀	男単	山口　公洋（滋・比叡山）	数野　健太（滋・比叡山）
			女単	目秦　香菜（奈・添上）	北村　梢（滋・滋賀女子）
			男複	橋本　典晃・庄　旭明（大・柏原）	一ノ瀬昇太・多谷　公志（滋・比叡山）
			女複	三条　幸菜・大北　朱美（滋・滋賀女子）	中川　彩・銭谷まゆ子（大・四條畷学園）
第49回	2002	奈　良	男単	数野　健太（滋・比叡山）	庄　旭明（大・柏原）
			女単	松尾　静香（大・此花学院）	垣岩　真未（滋・滋賀女子）
			男複	多谷　公志・早川　賢一（滋・比叡山）	数野　健太・吉田　浩司（滋・比叡山）
			女複	三条　麻菜・中村　百合（滋・滋賀女子）	松尾　静香・加隈さつき（大・此花学院）
第50回	2003	和歌山	男単	早川　賢一（滋・比叡山）	喜多　勝人（大・柏原）
			女単	松尾　静香（大・此花学院）	垣岩　真未（滋・滋賀女子）
			男複	喜多　勝人・浦窪　文也（大・柏原）	早川　賢一・早崎　修平（滋・比叡山）
			女複	松尾　静香・恵良友里亜（大・此花学院）	垣岩　真未・岡野由有佳（滋・滋賀女子）
第51回	2004	大　阪	男単	早崎　修平（滋・比叡山）	銭谷　翔（大・柏原）
			女単	北吉　穂香（京・西乙訓）	横関　彩（兵・園田学園）
			男複	早崎　修平・川下　剛士（滋・比叡山）	大滝　涼太・安田　敬之（大・柏原）
			女複	大條小真姫・福森絵里菜（滋・滋賀女子）	前田　志奈・前田　芳奈（滋・大津商業）
第52回	2005	兵　庫	男単	井谷　和弥（大・柏原）	川下　剛士（滋・比叡山）
			女単	池原　朋恵（大・樟蔭東）	土井　杏奈（滋・滋賀女子）
			男複	西澤　潤・川下　剛士（滋・比叡山）	銭谷　翔・巽　太志（大・柏原）
			女複	浦窪　真代・西川真奈美（奈・添上）	竹内由佳利・深尾　友里（大・樟蔭東）
第53回	2006	京　都	男単	土居　寛人（滋・比叡山）	和田　力也（大・東大阪大学柏原）
			女単	土井　杏奈（滋・滋賀女子）	小口　晃佳（大・四天王寺）
			男複	土居　寛人・定清　大祐（滋・比叡山）	矢部　拓也・村上　俊（滋・比叡山）
			女複	小口　晃佳・津村　優衣（大・四天王寺）	土井　杏奈・仲川志都香（滋・滋賀女子）
第54回	2007	滋　賀	男単	村上　俊（滋・比叡山）	宇野　賢人（滋・比叡山）
			女単	山本しずか（兵・加古川東）	福万　尚子（大・樟蔭東）
			男複	村上　俊・矢部　拓也（滋・比叡山）	東野　圭悟・大滝　直人（大・東大阪大学柏原）
			女複	久後あすみ・西　友理（大・四天王寺）	小路　沙織・福万　尚子（大・樟蔭東）
第55回	2008	奈　良	男単	東野　圭悟（大・東大阪大学柏原）	大滝　直人（大・東大阪大学柏原）
			女単	福万　尚子（大・樟蔭東）	阪口　智郁（大・樟蔭東）
			男複	東野　圭悟・大滝　直人（大・東大阪大学柏原）	平井　優也・三浦　昴（滋・比叡山）
			女複	牧野　美咲・山本　紗椰（大・四天王寺）	村上　高子・河崎　綾佳（滋・大津商業）
第56回	2009	和歌山	男単	三浦　昴（滋・比叡山）	小高　拓也（大・東大阪大学柏原）
			女単	下田菜都美（大・樟蔭東）	樫山　朋美（京・桂）
			男複	小高　拓也・相和　勇輝（大・東大阪大学柏原）	佐々木健斗・佐野　拓磨（大・東大阪大学柏原）
			女複	樋口帆渚実・宮原　唯（大・樟蔭東）	漆﨑　真子・秋田　楓（兵・伊丹北）

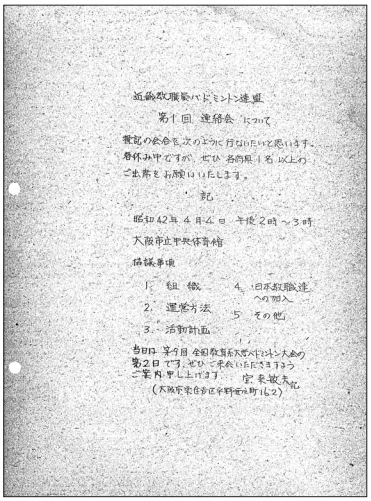
第５節
近畿教職員バドミントン連盟

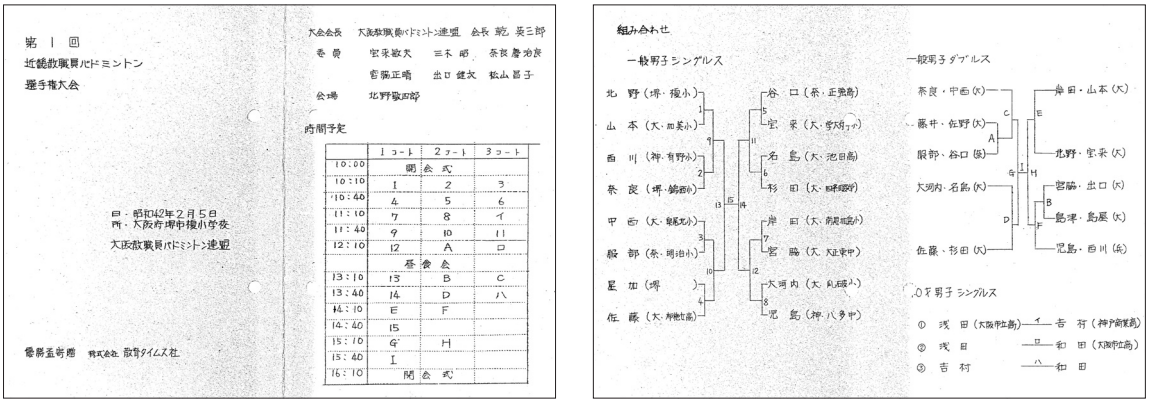
沿革

昭和36年６月30日　日本教職員バドミントン連盟の発足とともに、昭和37年８月５日、第１回全日本教職員バドミントン選手権大会が東京都文京二中体育館で、13都道府県から58名の参加者があり開催された。近畿でも全日本教職員バドミントン選手権大会へ参加する府県の数が多くなってきたので、近畿地方での横のつながりを深めなければならないという気運が高まっていた。そこで、大阪学芸大学(現大阪教育大学)バドミントン部ＯＢが中心となり、近畿地方に呼びかけ、昭和42年２月５日堺市　榎小学校で第１回近畿教職員大会(個人戦の部)が開催された。

その当日、近畿教職員バドミントン連盟結成についての話し合いも行われ、結成にむけて昭和42年４月４日、大阪の中央体育館で第１回近畿教職員バドミントン連盟連絡会が開催され、近畿教職員バドミントン連盟の誕生となった。創立当初は、春は新入会員の顔見世として、団体の親善大会(現在は毎年６月末に団体戦の部として開催)を大阪以外の府県で、冬は毎年、大阪で個人戦を行っていた。


第1回近畿教職員バドミントン選手権大会要項


近畿教職員バドミントン連盟第1回連絡会案内・報告

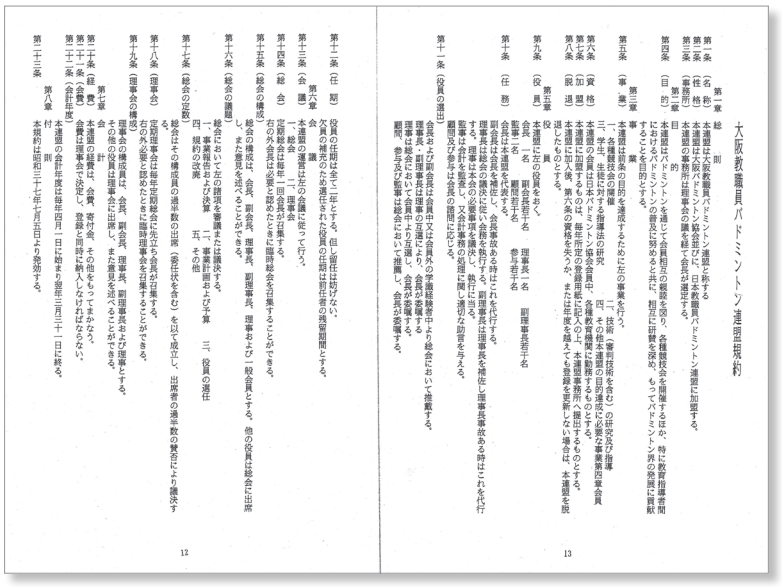

第１回近畿教職員バドミントン選手権大会パンフ

大阪府教職員バドミントン連盟のあゆみ

昭和34年に国体に教員男子の部が新設されたのを契機に、参加チームの間で、全日本の教員を組織した団体(日本教職員バドミントン連盟)を作ろうという声があがった。呼びかけに応じて、大阪でも昭和36年から宝来敏夫氏を中心に大阪学芸大学ＯＢ会が中心となり大阪府教職員バドミントン連盟の組織作りが具体化されてきた。翌年、昭和37年４月に開かれた大阪協会の総会において承認され、正式の活動が始められた。

創立当時は会員30余名、会費500円、年間予算１万５千円でスタートした。しばらくして、会長に乾英三郎先生を迎え、理事長に宝来敏夫氏があたり連盟の形も徐々に整ってきた。その後、昭和43年に大阪府教職員バドミントン連盟が主管となり第７回全国教職員バドミントン選手権大会を大阪の地で開催するにいたった。

～追記～


大阪教職員バドミントン連盟規約

第一章　総則
第一条（名称）本連盟は大阪教職員バドミントン連盟と称する。
第二条（性格）本連盟は大阪バドミントン協会並びに、日本教職員バドミントン連盟に加盟する。
第三条（事務所）本連盟の事務所は理事会の議を経て会長が選定する。
第四条（目的）本連盟はバドミントンを通じて会員相互の親睦を図り、各種競技会を開催するほか、特に教育指導者間におけるバドミントンの普及に努めると共に、相互に研鑽を深め、もってバドミントン界の発展に貢献することを目的とする。
第二章　事業
第五条（事業）本連盟は前条の目的を達成するために左の事業を行う。
一、各種競技会の開催　二、技術（審判技術を含む）の研究及び指導　三、その他本連盟の目的達成に必要な事業第四条会員
第六条（資格）本連盟の会員は次の各号の一に該当するものとする。
第七条（加盟）本連盟に加盟するものは、所定の登録用紙に記入の上、本連盟事務所へ提出するものとする。
第八条（脱退）本連盟に加入後、第六条の資格を失うか、または年度を越えても登録を更新しない場合は、本連盟を脱退したものとする。
第三章　役員
第九条（役員）本連盟に左の役員をおく。
会長　一名　副会長若干名　理事長　一名　副理事長若干名
監事二名　顧問若干名　参与若干名
第十条（任務）会長は会議を統轄し、会長事故ある時はこれを代行する。
副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。
理事長は総会の議決に従い会務を執行する。副理事長は理事長を補佐し理事長事故ある時はこれを代行する。理事は本会の必要事項を議決し、執行に当る。
顧問及び参与は会長の諮問に応じ、重要な助言を与える。
第十一条（役員の選出）会長および副会長は会員中又は会員外の学識経験者中より総会において推戴する。
理事は総会において会員中より互選し、会長が委嘱する。
顧問、参与及び監事は総会において推薦し、会長が委嘱する。
第十二条（任期）役員の任期は全て二年とする。但し留任は妨げない。
欠員の補充のため選ばれた役員の任期は前任者の残任期間とする。
第十三条（会議）第八章　会議
本連盟の運営は左の会議に従って行う。
第十四条（総会）定期総会は毎年一回理事会が召集する。
第十五条（総会の構成）右の外会長は必要と認めたとき臨時総会を召集することができる。
総会の構成は、会長、副会長、理事長、副理事長、理事および一般会員とする。他の役員は総会に出席また意見を述べることができる。
第十六条（総会の議題）総会において左の議項を審議または議決する。
一、事業報告および決算　二、事業計画および予算　三、役員の選任
四、規約の改廃　五、その他
第十七条（総会の定数）総会はその構成員の過半数の出席（委任状を含む）を以て成立し、出席者の過半数の賛否により議決する。
第十八条（理事会）理事会は毎年定期総会に先立ち会長が召集する。
右の外必要と認めたとき臨時理事会を召集することができる。
第十九条（理事会の構成）理事会の構成員は、会長、副会長、理事長、副理事長および理事とする。
理事会の他の役員は理事会に出席し、また意見を述べることができる。
第二十条（経費）第七章　会計
本連盟の経費は、会費、寄付金、その他をもってまかなう。
第二十一条（会費）会費は理事会で決定し、登録と同時に納入しなければならない。
第二十二条（会計年度）本連盟の会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る。
第二十三条　第八章　付則
本規約は昭和三十七年三月五日より発効する。

大阪府教職員バドミントン連盟の会員であった大阪教育大学バドミントン部ＯＢ会　羽斗会(うとうかい)が中心となり結成されたといっても過言でない。大阪バドミントン協会とも強い結びつきがあり、昭和33年より第３代　宮脇正晴氏が、また昭和52年より第５代　宝来敏夫氏が大阪協会理事長として任にあたられてきた。

その中心として大黒柱として、活躍されてきた宝来敏夫先生…。　残念なことであるが、平成21年８月薬石の甲斐も無く、お亡くなりになられた。大阪府教職員連盟のまさしく顔であった。当連盟にとってはこれまで経験したことのない悲しみであり試練である。

バドミントンをこよなく愛し、選手としても輝かしい戦績を残し、バドミントンの発展のためご尽力いただき、その偉大さははかりしえないものある。

残された我々は先生の意志を継ぎ、今後もその活動を継承していく所存である。

奈良県教職員バドミントン連盟のあゆみ

奈良県教職員バドミントン連盟は、昭和40年に服部明氏を理事長として設立されました。近畿、全国の教職員との交流が主な目的で、昭和44年の近畿教職員バドミントン大会では、女子の部で奈良県チームが、男子シングルスＢ級では服部明氏それぞれ優勝しています。

当初は松井堯一氏、谷口章氏、吉村輝彦氏などの先生方の尽力により運営されていました。

その後協会組織が確立され、会長は平成21年までの長きにわたり服部明氏が務められ、平成22年からは榊章氏に引き継がれました。理事長は久保博道氏が着任、以後吉村禎訓氏、嘉生寛氏、千田宏之氏と引き継がれ、現在に至っています。会員はほとんどが中学校、高校の教員であるため、中体連、高体連の活動に参加しており、教職員連盟としては、近畿、全国の教職員大会への参加が主な活動になっているのが現状です。

これまでの全日本教職員バドミントン選手権大会では、昭和59年、第23回大会において、男子団体で３位入賞、一般男子シングルスで辻敏弘氏が２位入賞、中井・辻組が３位入賞、近年では35回大会から30代シングルスで嘉生寛氏が、また30代ダブルスで嘉生･疋田組が常に入賞し、38回大会では30代ダブルスで、嘉生･疋田組が優勝しています。また、47回大会では40代ダブルスで平岡･千田組が優勝、40代シングルスで平岡篤司氏が３位入賞しています。

昭和63年には第27回全日本教職員バドミントン選手権大会を本県で開催し、当時の吉村禎訓理事長を中心に、中体連、高体連の先生方で運営しました。

教員の採用が少なく、教職員連盟も平均年齢が高くなる一方でしたが、最近になり大会に参加する若手教員が増えつつあります。今後も、近畿教職員バドミントン選手権大会(団体戦は毎年６月、個人戦は１月)、全日本教職員バドミントン選手権大会(毎年８月)へ参加し、近畿、全国の教職員との交流を深め、中高生の指導に活かしていきたいです。また、教職員連盟の活動として、バドミントン部顧問の先生方の交流と、バドミントン初心者の先生方の参考になればと指導者講習会を開催しています。

滋賀県教職員バドミントン連盟のあゆみ

【 萌芽期 】

滋賀県のバドミントンにおける教職員大会への参加は、第３回(39年)伊勢大会より始まったと聞く。これには、寺田　寿、澤　長寿の二氏が参加している。翌、40年から寺田寿氏が責任者となり滋賀県教職員バドミントン連盟を発足させた。しかし、会長等については正確に伝わっていない。その後、44年頃から理事長に北村浤一氏を、奥さんの父親であった県会議員の東信一氏を会長に組織の体裁を整えられた。52年、東会長が死去され、会長に、時の県教育長小梶幸三郎氏をお願いし、澤長壽氏が続いて、自分達が連絡を付け合い全国大会や近畿の大会に参加できるよう藤上良英が理事長となって本格的に事務的な手続きをするようになった。

小・中学校に赴任された先輩諸氏には、毎日の児童・生徒への指導に邁進された。中・高現場では、辻広之、奥村治八郎、寺田寿、岡林恒夫、北村浤一、花房房子、長尾寿、故中川朋子、根来旭、三宅明、木村孝英、澤長壽等々の諸氏である。しかし、近畿や全国大会での活躍の記録は残っていない。僅かに国民体育大会への参加について、故井上弘暢氏が活躍されたと聞いている。

【 発展充実期（全日本教職員大会等での活躍）】

昭和42年度横田正俊氏と藤上良英が教員となり、第８回（44年）上尾大会に参加し、一般複３位の結果を得た。また、岩手国体へも参加したが、結果は得られなかったが、全国でも何とかいけそうだと言う手応えをつかんだ。その後、田部（旧姓　横田）正俊は結婚し教職を退いた。このころから、全国大会や近畿の大会に盛んに出場し始めた。

48年には、滋賀県で第12回全日本教職員大会を開催し、56年滋賀国体に向けて運営組織の充実、選手強化を図ていった。国民体育大会では、和歌山、千葉で教員男子藤上良英、藤原健二、久保田良昌（旧姓藤上）藤上良信で優勝し、沖縄では準優勝、宮崎では新メンバーとして脇坂重之を入れて、３位の成績を残している。また、教員の部がなくなっても、56滋賀国体等で西村金治、西村龍夫、北橋進等が一般男子の部でも活躍している。平成17年、会長を藤上良英、理事長を北橋進として今日に至っている。最近の個人情報守秘のため人材発掘や連絡が取れなくなってきており今後の課題となっているのが現状である。昭和46年第10回（46年）岡山大会には一般団体で初の優勝を果たした。寺田・北村組は30歳男子複で３位に入賞し、藤原健二・藤上良信・久保田良昌（旧姓藤上）・藤上良英田中英明（現　谷）・國門学等力量も揃い団体戦では、誰がどこにあたってもそこそ対戦できるようになった。 11回（47年）秋田大会において団体２位、混合複で藤上良英・原田朝子組が３位に入賞している。また、その余勢をかって全日本総合に出場したのもこの頃である。 12回（48年）滋賀大会では団体２位、藤原・藤上良信組が優勝、50歳男子複は榎本彦次・田中多喜造組が優勝・50歳男子単で田中多喜造が２位となっている。 13回（49年）熊本大会では団体と藤原・藤上良信組が優勝。14回（50年）栃木の小山大会では団体３位、一般男子複では藤原・藤上信組が３位、30歳単で藤上英が２位に入賞している。15回（51年）東京、世田谷大会では男子団体が優勝、女子が３位入賞している。16回（52年）下関大会では男子団体３位、30歳男子単で田中英明が２位、混合複で服部直子・藤上良英組が３位に入賞している。 17回（53年）宮城大会では、一般女子団体で３位、一般女子で服部・滝洋子組が３位に入賞している。 18回（54年）北九州大会では男子団体が３位一般女子で服部が３位、30歳男子複で藤上良英・藤原健二組が優勝、単で藤原健二が２位に入賞した。 19回（55年）金沢大会では一般男子複で藤上良信・西村金治組が２位、30歳男子複で藤上良英・田中英明組が２位、30歳女子単で國門登美恵が優勝している。20回（56年）福島の郡山大会では一般男・女・成壮年団体ともに３位、一般男子単で北橋進が、複で西村金治・北橋　進組が単複の優勝、西村龍夫が２位、30歳男子単で藤上良英、複で藤上良英・田中英明組が３位、30歳女子で國門登美恵が２年連続の優勝を果たしている。 21回（57年）嬉野大会では、一般男子団体３位、一般男子複で西村金治・北橋進組が２位、単で西村龍夫が３位に入賞している。

22回(58年)沼津大会では、一般男子団体２位、一般男子複で西村金治・北橋進組が２位、単で西村龍夫が３位に入賞している。23回(59年)弘前大会では一般男子団体で、久しぶりの優勝を、一般男子複で西村金治・北橋組が２位に入賞している。 25回(61年)広島大会では一般男子団体が３位に入賞している。 26回(62年)苫小牧大会でも一般男子団体は３位に入賞し、団体の滋賀の伝統を受け継いできている。 27回(63年)奈良大会では、40歳男子複で藤原・國門　学組が２位に入賞し、比叡山高校出身の山本裕幸が村尾　勉と組んで京都から出場し一般男子複で優勝している。 28回(平成元年)坂出大会では、比叡山高校出身の杉本吉男が大阪から出場し一般男子単で優勝、同じく山本裕幸が村尾　勉と組んで京都から出場し一般男子複で優勝している。 29回(２年)盛岡大会では30歳男子単で西村龍男が優勝している。 30回(３年)豊橋大会では、一般男子複で山本裕幸組が優勝、北橋進・小田知則組が３位、30歳男子単で西村龍が２年連続の優勝を果たしている。 32回(５年)神奈川の平塚大会では、一般男子団体で３位に入賞している。 38回(11年)青森大会では40歳男子福で北橋・高嶋敬治組が優勝し、久しぶりに気を吐いた。 39回(12年・2000年)伊勢大会では、成壮年団体で３位に入賞した。40歳男子単で高嶋敬治が３位に入賞している。 40回(13年)北九州大会では、男子団体が準優勝を、40歳複では北橋進・高嶋敬治が３位に入賞している。 41回(14年)甲府大会では、男子単で酒井良之が３位に入賞している。 45回(18年長岡京大会)では、男子団体が、３位に入賞している。その後選手の参加は、個人単位であり、メンバーもそろいにくい状態になっているのが現状である。

【 近畿教職員大会での活躍 】

近畿教職員大会の記録としては、あまり整理されていず、養父一太先生に贈っていただいた記録を元に挙げてみたい。

男子団体戦においては、昭和42年第１回大会が奈良で行なわれており、男子が初優勝を遂げている。丁度、横田正俊・藤上良英が教職に就いたときであり、寺田寿、北村浤一、澤長壽等がメンバーであったのではと推察される。２回、３回、４回と団体優勝の記録がある。昭和46年、藤原健二、久保田良昌(旧姓藤上)、國門学、谷英明(旧姓田中)が教職に就き近畿教職員の大会に出場するようになったが、５回、６回とは和歌山に敗れ、準優勝となった。７回、９回とは優勝、その後しばらくは、和歌山と決勝戦で戦い準優勝になっている。13回以降、14回、15回、16回、17回と優勝し、18回奈良に敗れ準優勝、その後メンバーとして、西村金治、北橋進、西村龍夫、高嶋敬治、小田隆司、小田知則等が入り男子団体の優勝は、19回(昭和60年)、20回、22回、24回、飛んで、30回、35回準優勝は、21回、25回、32回である。

女子団体では、優勝が、13回(昭和54年)、14回、15回、20回、準優勝は、６回(昭和46年)、７回、10回、15回(滋賀大会)である。選手としては、原田朝子、國門登美恵、服部直子、滝洋子、神崎洋子、松浦薫等が出場し結果を残している。毎年の開催される近畿教職員の個人戦では、優勝の記録のみであり、当時ベスト４入りを狙って頑張っていた者の記録がないのが惜しまれるが、拾い上げてみると、一般男子単では５回、９回に藤原健二、13回、14回に藤上良信、15回～18回、28回

に西村龍夫、19回、25回に西村金治、32回に酒井良之、36回に中塚正俊、38回に田中聡哉が、男子複では、８回～11回に藤原健二・藤上良信組、14回では藤上良信・西村金治の子弟コンビ、16回、17回に西村金治・北橋進組、25回に西村金治・西村龍夫組、27回に小田知則・高嶋敬治組、32回に酒井良之・福田寛組、38回に田中聡哉・青木組、40回に吉森・山隈組がそれぞれ優勝している。また、一般女子単では、11回・12回・14回に服部直子、13回・15回に滝洋子、16回に谷美津代、18回に青木恵子、30回に松浦薫が、女子複では、７回・８回に禿登美恵（現國門）・原田朝子組、11回に服部直子・田中澄子組、13回・15回に滝洋子・神前洋子組、14回に服部直子・神前洋子組、16回に谷美津代・青木恵子組、18回に青木恵子・桂田依子組が優勝を飾っている。

その他年齢別では、30代で、５回に寺田寿、14回・17回・18回に藤上良英（兄）、16回・19回に藤原健二、43回に松本一徳、複では、14回に藤上良英・久保田良昌（旧姓藤上）組、15回・16回に藤上良英・國門学組、19回に藤原健二・國門学組が、40代では、15回・16回・17回に寺田寿、20回・21回に藤上良英、22回・24回・25回・27回・28回に藤原健二が、複では、22回・24回・27回・28回に藤原健二・國門学組25回に藤上良英・藤原健二組が優勝している。

このように、１月大阪の東淀川体育館で開催される畿教職員大会の個人戦への参加と活躍の状況、６月や７月に開催される団体戦、近畿総合選手権や全日本総合選手権での活躍には枚挙にいとまがない。黄金期と言われ一時代を築いたとの思いは各人の胸の内に有ろう。しかし、それだけに課題として、それぞれが学校で重要なポストに就き、選手として動きにくくなったことや中・高での部活動の顧問として動きづらくなったこと、大学の卒業生との連絡が取り辛くなり、小・中・高等学校等へ赴任した教職員を団体や個人として集約できなくなっていることである。

最近は、全日本教職員大会や近畿教職員大会への参加も、花澤誠・松本一徳の参加のみで、全県下に散らばる同行の志にきちんと連絡が付けられず、事務局としての働きが弱くなっており、再度連絡網の整備と大学生の県内大会への参加要請等働きかける必要を感じている。

京都府教職員バドミントン連盟のあゆみ

【会長】　初代　山本　　博（昭和60年４月～現　在）

【理事長】　初代　山本　　博（昭和49年７月～昭和60年３月）

二代　上野　孝雄（昭和60年４月～平成９年３月）

三代　松原　孝範（昭和９年４月～現　在）

【設立の経緯】

昭和46年頃から京都教育大学ＯＢが集まり、試合に参加する程度の教職員連盟（同好会的クラブ）が存在していたが、昭和49年５月の京都府バドミントン協会の総会において、教職員連盟として充実した組織を作る必要性が確認された。それを受けて、同年７月に新しい教職員連盟についての京都府高体連バドミントン部役員会が京都府立朱雀高等学校で開催され、京都教職員バドミントン連盟設立準備委員会（高体連・中体連合同役員会）を発足する事を確認し、京都教職員バ

ドミントン連盟設立趣意書を作成し、府下小・中・高等学校に配布する事を決定した。

同年７月21日（日）洛星高等学校体育館において設立総会が開催され、正式に京都教職員バドミントン連盟が発足する運びとなった。

【連盟の組織・機構の変遷と発展】

設立当初は、実効的な組織にするために、会長・副理事長は当面空席にし、理事長体制を維持していくこととなった。昭和60年山本会長が理事長を退任したことを受けて、会長に就任していただくことを総会で確認・承認され、やっと組織として確立した。その後、教職員バドミントン連盟の発展に寄与された方々を顧問・参与に就任していただくようになり現在に至る。

【主な出来事（主な戦績）】

昭和63年京都国体に向けての強化の一環の中から、選手のレベルが向上し、全日本教職員バドミントン選手権大会において、一般男子・一般女子団体・単・複において初優勝を達成し、特に平成元年には男子の部において団体・単・複の３冠を達成した。また、村尾勉・山本裕幸組が全日本総合バドミントン選手権大会において第３位となり、京都のバドミントンのレベルアップに貢献した。

【現在の動き】

会員の高齢化、新規採用減に伴う新入会員の減少、指導者への専念等により、公式戦参加者が減少しており、会員数も減少しつつあるが、全国的には日本教職員バドミントン連盟登録としては、多人数登録を維持している。現在の登録数　54名、全日本教職員バドミントン選手権大会・近畿教職員バドミントン選手権大会・全日本シニアバドミントン選手権大会等に出場。

【今後の課題】

指導者の組織として、選手として好成績を収めるのみでなく、実際に指導している先生方・教職就任後にラケットを握った初心者の発掘につとめ、会員数を増やし、クラス別の大会・指導者講習会・研修会等の開催を積極的に行い、教職員連盟本来の目的を遂行することが大きな課題である。

兵庫県教職員バドミントン連盟のあゆみ

【 黎明期 】

兵庫県教職員バドミントン連盟（以下本連盟）は、昭和42年に兵庫県バドミントン協会傘下の４番目の連盟として設立された。

昭和40年頃、新進気鋭の故児島晋氏（神戸大ＯＢ）が中心となり、同好の志に呼びかけに端を発し、それまで個々に行われていた活動が、教職員チーム（集団）として県内各種のバドミントン大会に参加を始めたことが、本連盟設立のきっかけとみられる。当時、近畿地区においては大阪学芸大学（現大阪教育大学）ＯＢ諸氏が大阪での活動を中心に、近畿各府県に呼びかけバドミントンの普及に努められていた。昭和42年２月４日に堺市で行われた第1回近畿教職員親善大会に児島

晋・西川健（神戸大ＯＢ）両氏が参加した。同年４月４日の第１回近畿教職員連絡会開催とともに、近畿教職員連盟の組織固めが進み、本連盟発足への気運も高まっていった。

本県では昭和42年５月14日に本連盟結成に向けての第１回連絡会が開催されたのを機に、同年６月14日、恩賀一男氏を初代会長に仰ぎ、河合満理事長の下、会員34名（男28名・女６名）の加入をもって、本連盟が発足した。40数年の歴史を経て今日に至るが、今あらためて本連盟設立の中心となられた児島晋・西川健氏はもとより、手島司・吉持節夫・長谷川嘉三郎・胡中利雄・上月純一郎・高山道喜・加藤紘一の各氏をはじめ、先輩諸氏に衷心より敬意を表す次第である。各氏は学校においてバドミントン指導に携わり、バドミントンの普及と発展のために本連盟設立後の活動に情熱を傾けられ、今日の基礎を築き上げた。当初の活動は、高校あるいは大学を通じてプレーヤーとして活動した児島・西川・加藤各氏の経験を生かし、機会あるごとに行われた練習会であった。それは、日頃高校・中学の現場で顧問として指導にあたる諸氏の練習指導法における交流の場でもあった。指導者層の底辺拡大に重要な意義を持つものであるとともに、個々のプレーヤーとしての技術向上に励む試練の場としての狙いもあった。

当時、すでに親和女子高校・市神戸商業高校・星陵高校などは、全国あるいは近畿レベルで目覚しい活躍がみられたが、バドミントン経験のある教職員はごく小数で、バドミントン自体がマイナー種目の域を出なかった。部活動としてバドミントンを取り入れた学校は中・高あわせて40校にも満たない状況であったなど、本県全体として低調な現状を否定できない状況であった。

【 発展期 】

1960年代半ばに始まった学校増設期や地域の体育活動の増進に呼応し、県下の中学・高校にバドミントン部活動やサークル活動が拡大していくことに伴い、新しくバドミントンに関心を示す現場の指導者が、熱心な指導を始めた。1970年代後半に入り、県協会は「ジュニア養成」と「地元選手育成」のスローガンを基軸に長期にわたる指導者普及活動を展開する一方で、対ヨーロッパ選抜試合をはじめ、日中大会、ヨネックスオープン大会などの国際大会開催の招致を積極的に行った結果、バドミントンへの関心がより一層高まった。このことが愛好者の底辺拡大につながり、選手層の厚み、ひいては競技力向上にも顕著に表れ、数多くの競技種目の中でバドミントンの存在感に確かな手応えが感じられるようになった。また、地元で育ち、或いは他府県の大学でさらに磨きをかけて兵庫県に戻って来る人材も見られるようになった。中でも高田美智子（旧姓桝谷、日女体大ＯＧ）・藤本和幸・仲日出男（ともに早稲田大ＯＢ）・佐藤浩（日体大ＯＢ）の各氏はプレーヤーとしての実績もさることながら県協会・高体連役員としても、本県のバドミントン発展に寄与するところが大きい。

平成元年より本県に赴任された鵜木秀夫・鵜木千加子（旧姓白松、ともに筑波大ＯＢ・ＯＧ）夫妻、1990年代の澄川稔子（旧姓北島、日体大ＯＧ）氏などの貢献により、本県の選手層と指導者は質的に大きく向上した。こうした人材に恵まれた1970年代後半から1990年代はまさに教職員連盟の発展期であった。その中で特筆できるのは、全日本教職員大会における戦績である。主なものを以

下にあげる。第９回（昭和44年）大会では、大坪弘子氏が30歳女子単で優勝、第９・10回（昭和45・46年）大会では、鳥井治子（旧姓早瀬）氏が30歳女子単で優勝している。第28回（平成元年）鵜木秀夫・千加子夫妻が混合複で優勝、第29・30回（平成２・３年）大会では準優勝。第31・33回（平成４・６年）大会では、一般女子単で鵜木千加子氏が優勝、第31回（平成４年）大会では、一般男子複で鵜木秀夫・佐藤浩組が第３位の成績を残している。また、第34回（平成７年）大会では、50歳男子複で西村勝・加藤紘一組が準優勝。第35・36回（平成８・９年）大会では、30歳女子単で澄川稔子氏が準優勝の成績を残すなど全国大会で上位入賞者が続いた時期であった。

そして平成21年、第48回目にして、ついに本県で全日本教職員大会が開催される運びとなった。平成18年度の国民体育大会を初め、数々の全国大会を開催してきた本県ではあるが、意外にも全日本教職員大会を開催したのは初めてのことである。神戸市立中央体育館をメイン会場に、グリーンアリーナ神戸をサブ会場にした５日間に亘る大会を成功させるため、準備に約２年間を費やした。大会は選手が総勢約600名の大盛況となり、２会場に分けても連日夜まで熱戦が繰り広げられる展開となった。本県からは選手60名を送り込み、最大人数のチームとなった。競技結果はめざましいものがあり、まず団体戦においては一般女子団体が第３位、成壮年男子団体でも第３位に入賞した。個人戦では、一般男子単で細川泰大氏が悲願の初優勝を果たし、大会最終日の地元を大いに沸かせた。続いて、30歳男子単で友金幸雄氏が第３位、30歳男子複で友金幸雄・高橋幸治組が第３位、30歳女子複で友金美佐・高橋美佳組が第３位に食い込んだ。また、エキシビションの50歳女子単でも澄川稔子氏が優勝、50歳女子複では澄川稔子・永田悦子組が準優勝するなど、本県選手の各種目での活躍が目立った。結果、総合得点で全国第１位となり、総合優勝制度が始まって以来の開催県優勝で幕を閉じた。

【 現状 】

登録会員の年齢構成も少子化による新規採用が激減した影響で、20歳代の教職員が少なく、30歳以上の会員が８割以上であるのが現状である。年間の事業としては、教育現場の実情から、年１回の地区対抗団体戦と個人戦（12月）を開催するのが精一杯の状況である。近畿地区大会にも団体戦（６月か７月）と個人戦（１月）に何とか参加させていただいているが、個人戦も参加者が激減しており、成立できない種目もある。このように大会自体の存続を検討しなければならない状況にきている中、何とか大会を継続しようと各府県努力している状況である。

昨今の連盟登録者数は、高体連から各校顧問に連盟への登録を呼びかけいただいていることもあり、数年前までは毎年80名から90名程度であった。本県での全日本教職員大会をきっかけに会員数はやや上昇し、現在は約110名となっている。ただ、教職員の中には、大会開催数も多く、活動基盤が整っているクラブチーム構成の社会人クラブ連盟に所属する者もあり、教職員連盟としては統括しにくい一面もある。今後、学校体育の顧問には積極的に教職員連盟への登録を促していきたいと考えている。ただ、少子化の現状から考えると、教職員の新規採用数が増加しないことで、活性化が損なわれている状況である。

本連盟としては、設立された諸先輩方の思いを絶やすことなく、平成21年度の全日本教職員大会を成功させることができたことで、まずは一区切りと考えている。次の来たる50年間のため、近畿協会・県協会の協力も得ながら発展させていきたい。

（兵庫県教職員バドミントン連盟　理事長　殿内　　境、事務局長　宮本　行庸）

和歌山県教職員バドミントン連盟のあゆみ

私が和歌山県に着任した当時､1971年（昭和46年）に黒潮国体を終え、まさに和歌山教員の全盛期でした。

1970年、和歌山県バドミントン協会に教員クラブが誕生し、その年岐阜県で開催された全日本教職員大会では森隆が３位入賞。翌1971年、黒潮国体本番の年には、日本体育大学より佐藤光伸、近畿大学より中西詳味が教員チームに加え、戦力を整え本番をむかえたが、決勝戦では同じ近畿勢の滋賀県に敗れ準優勝。 1972年、日本体育大学から門間先輩が加わり、さらなる戦力アップを図り、昨年決勝で涙をのんだ滋賀県を近畿ブロック予選で破り、鹿児島県で開催された国体では栃木県との決勝戦を２対０で破り、和歌山教員初の全国制覇を鹿児島の地で成し遂げました。

そして､1974年、私は、大学の先輩でもある門間先輩からの誘いもあり、郷里秋田から遠く離れた和歌山県に着任することになりました。その年の茨城国体では門間先輩とのダブルスで石川県との決勝戦まで全勝することができ、シングルスで森隆先生が調子よく、決勝戦も２対０で快勝し、２年ぶり２度目の全国制覇を成し遂げました。

その後、国民体育大会から教員の部が一般の部と統合され、国民体育大会での成績が振るわなくなりましたが、その後も、夏に開催されていた全日本教職員大会では、門間先輩が熊本、栃木で２度の優勝を果たすなど和歌山教員の全盛期は続きました。それ以後、山本茂樹（中央大）、米山正和（法政大）、平瀬博俊（近畿大）、児島智、佐々木朝幸（日体大）を加え、山口、宮城で２年連続団体優勝するなど1970年～80年代が和歌山教員、和歌山県バドミントン協会が最も輝いていた時期でした。その後､1997年度、和歌山県新宮市において全日本教職員大会をすることが決定し、大会の開催準備のために、森隆先生が中心となり、和歌山県教職員バドミントン連盟が産声を上げました。 1997年８月、全国各地から多くの先生方の参加を頂き、県バドミントン協会、県高体連バドミントン専門部の地元新宮市、東牟婁郡のバドミントン関係者の協力を得て、新宮市内の４会場（新宮市総合体育館他）で第36回全日本教職員大会を開催し、無事終えることが出来たことは、記憶に新しいところです。

21世紀に入り、県教職員バドミントン連盟も高体連バドミントン専門部の先生方を中心に若手の登録者数も増えて参りました。また、私の教え子をはじめとして、県内高校を卒業し大学でバドミントンを続け、教職員として地元に戻り、バドミントンの普及、指導者の資質向上、小中高合同強化練習会などの活動を積極的におこないはじめ、古豪復活の狼煙があがりました。私の教職員生活も、今年を含め２年を残すのみとなりましたが、和歌山県のバドミントンが再び近畿、全国で活躍できるよう、微力ながらお役に立ちたいと思っています。

（会長　武藤　隆志）

第６節
近畿社会人クラブバドミントン連盟

平成３年より京都・大阪・兵庫の役員により、近畿社会人バドミントン連盟を結成しようとの話が進み、設立準備委員会を発足させて、近畿各府県に設立を呼びかけました。

平成５年になり、近畿各府県の社会人連盟が近畿連盟を設立することで結束し、近畿協会の申請・承認を受け、此処に正式に発足することとなった。

平成５年７月24日､京都市(新阪急ホテル)に於いて設立記念祝賀会を開催した。初代会長には、市村　修氏(京都府)、理事長に河村広次氏(京都府)が就任し、近畿社会人バドミントン連盟として活動を開始した。平成６年には、第１回近畿社会人選手権大会団体戦が、奈良県桜井市に於いて開催され、以後 各府県の持ち回りで開催することとなった。

一般男・女の他、男・女年代別、また社会人独自の種目としての合算年齢混合複等を組み込む等、回を重ねるごとに工夫を凝らし、選手の好評を得ながら発展をしてきております。個人戦については、昭和53年に始まった｢京阪兵個人戦大会」を引き継ぎ、今年度で第33回目を迎えます。

平成16年12月４日、設立された『全日本社会人クラブバドミントン連盟』に合わせ近畿も､『近畿社会人クラブバドミントン連盟』と改名。これに伴い近畿各府県も順次改名していった。

平成20年11月16日、団体戦第15回大会を、設立15周年記念大会として、大阪府池田市に於いて盛大に開催した。

生涯スポーツとして、各地でバドミントン人口が増え続けている昨今、社会人クラブ連盟への登録会員数も増え続け、今後は設立10周年を迎えた全日本社会人クラブ連盟が、財団法人日本バドミントン協会に加盟の認可が下りれば、ますます発展していくこととなろうと思います。

末筆ですが、全日本社会人クラブ連盟の設立式典に於いて述べられた西谷　一郎会長のご挨拶文をご紹介しておきます。

「何よりもバドミントンを愛する多くの同志のご理解と情熱が実を結び､2004年12月の今日、新しい慶びを見るに至り誠に感無量、この喜びを本日ご列席の皆様方とご一緒に分かち合いたいと思います｡2001年活動の第一歩は、名古屋市に於いて13府県のご賛同と動議を経て、準備委員会として発足いたし､2004年を以って第４回の大会を実行してまいりました。その間、参加府県は、20府県を超え参加選手数は、優に1,200名を超す規模となり、正に社会人クラブの存在を世に問う機が熟したものと判断いたし、皆様方にご披露申し上げる次第にございます。

蓋し、社会人スポーツとしてその前途には幾多の試練、苦渋の選択もありましょうが、選手・役員はもとより関係団体、諸先輩皆様方のご理解とご指導を仰ぎ、名実ともにバドミントン界の新しい星座を目指し、力を合わせ邁進してまいりましょう。同時に今一度、社会人クラブの意義と指針を再認識し、この素晴しいバドミントンの生成発展のために全力投球を惜しむものではありません。終わりにあたり、多くのファンの方々のご声援に感謝いたし、力一杯の努力を誓い結成の挨拶といたします。」

近畿社会人クラブ連盟の歴史は浅く、これからの連盟ではありますが、役員・選手が一致団結して他連盟にはない魅力あふれる連盟となるよう頑張っていきたいと思います。

（記：理事長　神谷　晴美）

近畿社会人クラブバドミントン連盟の登録会員数(平成21年度)

大阪府社会人クラブバドミントン連盟	昭和47年３月(1972年)設立	2,182
兵庫県社会人クラブバドミントン連盟	昭和57年４月(1982年)設立	1,734
京都府社会人クラブバドミントン連盟	昭和46年４月(1971年)設立	544
奈良県社会人クラブバドミントン連盟	昭和55年11月(1980年)設立	402
和歌山県社会人クラブバドミントン連盟	平成５年７月(1993年)設立	200
滋賀県社会人クラブバドミントン連盟	平成５年７月(1993年)設立	69
	合　計	5,131人

近畿社会人クラブバドミントン連盟　役員（平成22年度）

役　職	氏　名	所　属
会　長	四方　光市	(大阪府)
副会長	市村　修	(京都府)
副会長	神谷　衛	(兵庫県)
副会長	川戸　健一	(滋賀県)
副会長	山下　幸二	(奈良県)
副会長	西谷　一郎	(大阪府)
副会長	宇治田文彦	(和歌山県)
名誉顧問	岸本　孝雄	(兵庫県)
顧　問	野村　安忠	(奈良県)
顧　問	河村　広次	(京都府)
監　事	岡上　充仁	(大阪府)
監　事	藪内　嘉夫	(兵庫県)

役　職	氏　名	所　属
理事長	神谷　晴美	(兵庫県)
副理事長	福森　勝治	(大阪府)
副理事長	貴田　昌史	(奈良県)
副理事長	村井　健郎	(滋賀県)
副理事長	徳岡　昭次	(和歌山県)
副理事長	高木　謙一	(京都府)
総務委員長	村井　健郎	(滋賀県)
総務副委員長	吉田　肇	(兵庫県)
総務副委員長	徳岡　昭次	(和歌山県)
審判委員長	高木　謙一	(京都府)
審判副委員長	上野　誠	(兵庫県)
競技委員長	福森　勝治	(大阪府)
競技副委員長	貴田　昌史	(奈良県)
競技副委員長	吉岡　亨二	(兵庫県)

全国社会人クラブ対抗バドミントン団体戦大会の開催地

回	年度	開催地
第１回	平成12年度	大阪府
第２回	平成13年度	愛知県
第３回	平成14年度	神奈川県
第４回	平成15年度	大阪府
第５回	平成16年度	石川県
第６回	平成17年度	愛知県

回	年度	開催地
第７回	平成18年度	埼玉県
第８回	平成19年度	京都府
第９回	平成20年度	三重県
第10回	平成21年度	栃木県
第11回	平成22年度	大阪府

全国社会人クラブバドミントン大会(個人戦)の開催地

回	年度	開催地
第１回	平成20年度	愛知県
第２回	平成21年度	兵庫県

回	年度	開催地
第３回	平成22年度	石川県

近畿社会人クラブバドミントン連盟団体戦大会　栄光の記録

開催年度 回数	開催地	順位	一般男子	一般女子	男子 年代別	成年男子 年代別	成年女子 年代別	壮年男子 年代別	一般混合	70歳以上 混合
平成６年度 第１回	奈良	優　勝	奈良	奈良	大阪				大阪	
		準優勝	大阪	京都	兵庫				奈良	
平成７年度 第２回	京都	優　勝	京都	京都	大阪				大阪	
		準優勝	兵庫	京都	兵庫				奈良	
平成８年度 第３回	大阪	優　勝	大阪	奈良	奈良				大阪	
		準優勝	京都	大阪	和歌山				大阪	
平成９年度 第４回	和歌山	優　勝	兵庫	京都	和歌山				和歌山	大阪
		準優勝	大阪	兵庫	兵庫				兵庫	和歌山
平成10年度 第５回	兵庫	優　勝	兵庫	兵庫	和歌山				京都	兵庫
		準優勝	大阪	奈良	兵庫				兵庫	京都
平成11年度 第６回	滋賀	優　勝	京都	兵庫	大阪				滋賀	兵庫
		準優勝	兵庫	京都	和歌山				兵庫	滋賀
平成12年度 第７回	奈良	優　勝	京都Ａ	京都	京都Ａ				奈良	滋賀
		準優勝	三重	奈良	兵庫				滋賀	京都
平成13年度 第８回	京都	優　勝	京都	滋賀	奈良				大阪	滋賀
		準優勝	大阪	京都	兵庫				奈良	大阪
平成14年度 第９回	大阪	優　勝	大阪Ｂ	大阪Ｂ	兵庫				大阪	大阪
		準優勝	兵庫Ｂ	京都	大阪				滋賀	兵庫
平成15年度 第10回	京都	優　勝	京都Ａ	大阪Ａ	兵庫				大阪	和歌山
		準優勝	大阪Ａ	京都Ａ	大阪				奈良 （水鳥）	和歌山
平成16年度 第11回	兵庫	優　勝	大阪Ａ	兵庫Ｂ		兵庫		大阪	京都	和歌山
		準優勝	兵庫Ａ	奈良		京都		兵庫	滋賀	兵庫
平成17年度 第12回	滋賀	優　勝	大阪Ａ （大阪フェニックス）	大阪Ａ （箕面クラブ）		兵庫		大阪	滋賀	大阪
		準優勝	滋賀Ａ	大阪Ｂ （枚方殿ークラブ）		兵庫		大阪	兵庫	兵庫
平成18年度 第13回	奈良	優　勝	大阪Ｂ （泉北バード）	奈良 （ＭＡＣ ｃ）		兵庫		大阪	大阪	大阪
		準優勝	奈良 （ＷＩＮ）	兵庫Ｂ		大阪		兵庫	奈良 （水鳥クラブ）	奈良 （王子クラブ）
平成19年度 第14回	和歌山	優　勝	大阪 （大阪フェニックス）	大阪 （枚方殿ークラブ）		和歌山 （和歌山クラブ）		京都 （京都選抜）	兵庫	大阪 （大阪選抜）
		準優勝	京都 （ＡＪＣ Ｗｉｚａｒｄｓ）	大阪 （大阪フェニックス）		兵庫		兵庫	滋賀	京都 （平安クラブ）
平成20年度 第15回	大阪	優　勝	優勝は 各リーグ1位 大阪フェニックス 京都・ファロス 兵庫選抜 決勝Ｔ（不成立）	奈良 （ＭＡＣ ｃ）		兵庫 （兵庫選抜）	兵庫 （兵庫選抜）	大阪 （大阪選抜）	兵庫 （兵庫選抜）	大阪 （大阪選抜）
		準優勝		京都 （京都選抜）		大阪 （大阪選抜）	大阪 （大阪選抜）	京都 （京都選抜）	大阪 （大阪選抜）	兵庫 （兵庫選抜）
平成21年度 第16回	京都	優　勝	京都 （原谷バドミントン村）	兵庫 （バドラー）		滋賀 （滋賀選抜）	大阪 （大阪選抜）	京都 （京都選抜Ａ）	大阪 （大阪選抜）	兵庫 （兵庫選抜）
		準優勝	大阪 （大阪フェニックス）	奈良 （奈良選抜）		兵庫 （兵庫選抜）	兵庫 （兵庫選抜）	和歌山 （和歌山選抜）	京都 （京都選抜）	大阪 （大阪選抜）

第７節
近畿レディースバドミントン連盟

年度	主　要　事　項
昭和53年度	兵庫県バドミントン協会　北義一氏、安田綾子氏のご尽力の基、デイリースポーツ杯争奪 第１回近畿家庭婦人バドミントン大会　兵庫県家庭婦人バドミントン連盟主管で開催
昭和56年度	12月　発起人による最初の会議を持つ　近畿家庭婦人バドミントン連盟発足 会長に石渡俊一氏就任
昭和57年度	４月21日　なにわ会館にて各府県代表による理事会で連盟規約について審議 ３月１日を以って近畿家庭婦人バドミントン連盟規約施行
昭和58年度	近畿家庭婦人バドミントン大会開催順を 兵庫県→京都府→大阪府→奈良県→和歌山県→滋賀県と決定する
昭和59年度	近畿家庭婦人バドミントン連盟副会長に上原正士氏就任
昭和60年度	近畿家庭婦人バドミントン(クラブ対抗)競技大会兼全日本家庭婦人競技大会(クラブ対抗) 第１回近畿予選会開催
昭和61年度	近畿家庭婦人バドミントンクラブ対抗競技大会開催地は、大阪に決定 但し、主催・近畿家庭婦人バドミントン連盟、主管・当番府県
昭和63年度	近畿家庭婦人バドミントン大会優勝杯購入(石渡会長　上原副会長より御援助を戴く)
平成２年度	上原正士氏　近畿家庭婦人バドミントン連盟副会長を辞任し顧問に就任 後任副会長に当番府県家庭婦人バドミントン連盟会長が務める 近畿家庭婦人バドミントン大会通算５回優勝記念表彰　桜ヶ丘クラブ(大阪府)
平成３年度	森比佐氏(京都府)　畠中芙佐枝氏(滋賀県)　参与に就任
平成４年度	クラブ対抗競技大会開催地は主管地にて開催する
平成５年度	宮本勢津子氏(和歌山県)　参与に就任 日本家庭婦人バドミントン連盟近畿ブロック常任理事に滝本弘子氏(奈良県)就任 近畿家庭婦人バドミントンクラブ対抗(近畿予選)この年度より優勝杯を授与する
平成６年度	上原正士氏　顧問辞任 阪神淡路大震災の為、第17回近畿家庭婦人バドミントン大会を中止(和歌山県)
平成９年度	安田綾子氏(兵庫県)　参与に就任 京都府家庭婦人バドミントン連盟会長　田中田鶴子氏から近畿家庭婦人 バドミントン連盟旗の寄贈(大阪府しらさぎ倶楽部　芦川峰子デザインによる)
平成11年度	石渡俊一氏　名誉会長に就任(会長は主管府県の会長が務める)
平成12年度	日本、西日本、家庭婦人バドミントン連盟の名称をレディース連盟と改称 日本レディースバドミントン連盟理事長に村井宏美氏(大阪府)就任 全日本レディースバドミントン競技大会(クラブ対抗)近畿予選会を 全日本レディースバドミントン選手権大会(クラブ対抗)近畿予選会と改称 近畿レディースバドミントン連盟創立20周年記念誌を編纂 近畿レディースバドミントン連盟創立20周年記念式典を開催(和歌山ビッグホエール) 村井宏美氏(大阪府)滝本弘子氏(奈良県)功労賞を贈呈
平成13年度	日本レディースバドミントン連盟近畿ブロック理事に宇山昌子氏(滋賀県)就任 石渡俊一氏　ご逝去　享年100歳
平成15年度	日本レディースバドミントン連盟近畿ブロック常任理事に宇山昌子氏(滋賀県) 近畿ブロック理事に小国久美氏(京都府)就任
平成17年度	滝本弘子氏(奈良県)　参与に就任
平成19年度	近畿レディースバドミントンクラブ対抗競技大会兼全日本レディースバドミントン選手権大会 (クラブ対抗)近畿予選会を全日本レディースバドミントン選手権大会(クラブ対抗)近畿予選会とする
平成22年度	近畿レディースバドミントン連盟創立30周年記念式典・祝賀会を開催(スイスホテル南海大阪) 株式会社ゴーセン、ヒロウン株式会社、ミズノ株式会社、ヨネックス株式会社に感謝状を贈呈 木下由子氏(和歌山県)、宇山昌子氏(滋賀県)、宿里和江氏(兵庫県)、小国久美氏(京都府) 功労賞を贈呈 近畿レディースバドミントン大会優勝記念表彰(通算８回)東大阪M.B.C(大阪府)

第８節
近畿小学生バドミントン連盟

生い立ち

昭和63年から近畿バドミントン協会指導委員会の育成事業として、近畿小学生バドミントン大会(団体戦)が開催されてきました。第１回大会当時は、若葉カップ全国小学生バドミントン大会が京都府長岡京市西山公園体育館で開催され第４回目を迎えた年であり、小学生への普及が飛躍的に進みだした頃でもあります。当時地区ブロックでの小学生の大会は全国でも先駆けての大会であったと思います。

その後、大会も充実発展する中、当時の近畿バドミントン協会指導委員長瀬川欽也氏の強い働きかけで、独立した連盟として近畿では最も若い８番目の当近畿小学生バドミントン連盟が産声をあげたのが平成12年であります。

当初の役員として、若葉カップ大会の主催地である京都府小学生バドミントン連盟の当時の会長濱﨑正規氏に会長をお願いし、また、若葉カップ大会に直接関わり、近畿協会においても指導委員会の委員として小学生大会に大きく関与してきた、これも京都府の小国俊之が理事長を拝命しました。

近畿協会やメーカー各社を始め、各府県小学生連盟の会長や理事長等多くの関係者の参加のもと、平成12年６月３日に大阪弥生会館で設立総会を開催し、スタートをきりました。

(記：小国　俊之)

あゆみ

設立後は、毎年連盟の主管大会として、９月に全国小学生バドミントン選手権大会近畿ブロック予選会を､12月に近畿協会指導委員会からバトンタッチした形で近畿小学生バドミントン大会(団体戦)を開催し、また、ここ数年は、選手育成事業として11月に強化練習会(原則合宿形式)を開催しています。お陰さまで、毎年全国クラスの選手を輩出できているところであります。

役員につきましては、２年を任期とし、会長については初代(平成12～15年)を前述の濱﨑氏に、２代目(平成16･17年)を上田耕作氏(当時奈良県小学生連盟会長)に、３代目(平成18～21年)を大前繁雄氏(当時兵庫県小学生連盟会長)に、そしてこの度４代目(平成22年～)として谷口章氏(奈良県小学生連盟会長)にお願いしたところであります。なお、理事長については小国初代理事長の11年目を迎えているところであります。

今後については、節目の15周年記念事業への着手に迫られる中、さらなる小学生の普及・啓発と将来のオリンピック選手の育成に向けて役員一同努力しているところであります。

なお、平成21年度の日本バドミントン協会登録の当連盟会員数は2,165名(全国：25,198名)で、近年徐々に増加しています。

(記：小国　俊之)

各府県連盟の生い立ち・あゆみ

【 滋賀県小学生連盟 】

発端は中川文雄氏が長浜バドミントン協会の会長をされたことから、昭和57年４月に長浜少年バドミントンクラブが発足し始まりました。

この年の秋11月28日に第１回滋賀県小学生バドミントン大会を長浜市民体育館で参加７チーム79名で始まり、春季は北で秋季は南で年２回のシングル大会で始まりました。第３回大会は167名の参加、昭和59年８月５日第１回京都・滋賀小学生交流大会が滋賀で行われて、次の年の昭和60年大会が若葉カップの走りとなりました。

小学生連盟は澤長壽会長のもと、初代理事長に中川文雄氏、２代目は平成８年から北里の草薙峯夫氏、３代目は平成14年から真野の伊佐恒範理事長で現在に至っています。平成19年３月２日に滋賀県小学生連盟25周年記念事業でクラス別シングルスオープン大会（リーグ戦）を近畿のＡクラスを招いて開催、以後、底辺拡大のために、冬季クラス別シングルスオープン大会（リーグ戦）を開催、３回大会は参加者328名。

現在、平成21年度では登録クラブは16チーム、小学生登録者数300名の組織に発展。

滋賀県勢の戦績、若葉カップ：優勝４回（５回彦根）（12回坂本）（13回坂本）（21回坂本）、全国小学生男子団体：準優勝２回（11回福岡大会）（15回大分大会）３位１回（５回広島大会）、女子団体：準優勝２回（４回群馬大会）（10回広島大会）３位１回（13回愛知大会）、特筆すべきは、モスクワオリンピック候補の数野健太、早川賢一（日本ユニシス）が活躍中。

（記：伊佐　恒範）

【 京都府小学生連盟 】

「京都国体」の昭和63年の開催が決まり、その選手強化の一環としてのジュニアの育成や指導員の養成等が急務となる中、昭和56年に川本末夫氏や大前茂氏が中心となって京都市内を起点にジュニアの育成が始まった。さらに、国体開催地である長岡京市の多くの理解ある人々の尽力により拡がりをみせ、昭和60年には、後に日本バドミントン協会一種大会となる全国大会のさきがけである「若葉カップ小学生バドミントン大会」が開催されることとなった。このような経緯により、府下市町村の小学生への普及も目覚ましく、その後の普及・発展を図るために連盟の組織化が必要となり、京都府ジュニアバドミントン連盟（現在：小学生連盟）が、平成元年11月３日に設立されました。初代会長に濱﨑正規氏、初代理事長に大前茂氏が就任し、その後は、会員数も飛躍的に増加し、平成21年度では、登録クラブ数18、小学生登録者425名の組織へと発展し、現在は三代目会長の大前茂氏、二代目理事長の小国俊之等の役員のもと、毎年の若葉カップ全国小学生大会の運営に協力するとともに、府内の大会開催等に安定した連盟運営がなされています。

（記：小国　俊之）

【 兵庫県小学生連盟 】

兵庫県小学生バドミントン連盟は、平成９年７月20日県バドミントン協会傘下８番目の連盟として設立されました。

それ以前は県協会の主催で、兵庫県小学生バドミントン大会として、年一回開催しておりました。昭和63年に近畿バドミントン協会指導委員会が主催する、近畿小学生バドミントン大会(団体戦)が始まり、その選手選考の予選会も兼ねて開催され、年毎に充実した大会として発展してきました。その後、平成４年より全国小学生バドミントン大会が始まり、その選手選考も兼ねることになりました。

平成９年度に入り、県協会が平成18年に開催される兵庫国体に向け、ジュニアの普及、選手強化を始める時期に、日本小学生バドミントン連盟の発足もあって、兵庫県での小学生連盟の設立気運が盛り上がりました。

平成９年７月20日、初代会長に大前繁雄氏、初代理事長に横関　勇氏の両氏が就任され連盟が誕生し、横関理事長を中心に、それまで各地区でジュニアの育成をしてこられた指導者を理事として連盟の活動が始まりました。

現在では、春季・秋季大会に加え、わかばカップ全国大会の県予選会、全国小学生大会の県予選会、クラブ対抗大会と大会数も大きく飛躍・発展をしてまいりました。

理事の皆様のご尽力により組織としての活動基盤が確立され、平成21年度クラブ登録数28、小学生登録者数も455名と大きく発展してまいりました。平成22年度からは、大前繁雄会長の退任を受け、大前はるよ氏が第２代会長に就任され、第３代理事長 田中寛子氏のもと、10名の理事により大会運営が行われております。

（記：田中　寛子）

【 大阪府小学生連盟 】

昭和52年12月４日、「大阪バドミントン協会30周年記念・小学生バドミントン教室」が、大阪協会主催・教職員連盟主管で開催された。

第４回からは、名称を「小学生バドミントン大会」とし、この運営に携わっていた教職員盟を中心に準備が進められ、平成元年度第２回近畿小学生競技会大阪府開催をきっかけに、平成２年３月８日、初代会長島津八郎氏、初代理事長伊勢田善昭氏の就任のもと、大阪府小学生バドミントン連盟が設立された。

記憶に新しいところでは、平成19年12月に多くのご協力を仰ぎ、「第16回全国小学生大会」を、舞洲アリーナで開催した。

平成21年度の登録数は、32クラブ、小学生446名。

ＨＰアドレスは、http://osakafushobad. web. fc２. com/

（記：武田　文則）

【 奈良県小学生連盟 】

昭和54年４月28日、連盟設立の趣旨賛同者により奈良県少年少女バドミントン連盟が誕生し、初代会長上田耕作氏、初代理事長嶌田新吾氏により普及・発展され、平成元年７月７日奈良県小学生バドミントン連盟に改称し、２代目理事長友田節氏に受けつがれました。

平成18年より２代目会長谷口章氏のもと３代目理事長須藤勝見氏、翌年には４代目理事長松村宏則にひきつがれ、会員数も増加し平成21年度では400名近くの小学生登録者になり、役員ともども県内の大会開催等に安定した連盟運営がなされています。

（記：松村 宏則）

【 和歌山県小学生連盟 】

60年と言えば半世紀以上、その長い歴史と伝統の中で、本県はジュニア連盟の胎動は昭和56年頃から始まりました。

当時、小学生を対象としたバドミントンクラブは非常に少なく、もちろん県下統一の大会もありませんでした。

そう言った状況の中、海南市においては、昭和50年にスポーツ少年団が結成されておりました。

練習を重ねるうちに、また実力をつけてくるとともに、子供達からは対外試合をしたいという希望が多くなりました。周辺に練習相手もないところから、県協会主催大会の一般の部に小学生が参加しました。

その後、昭和58年から県協会主催大会に小中学生の部を創設し、競技人口も飛躍的に増えました。そうして昭和62年４月の県協会理事会において、ジュニアの部を独立した機関として運営することを承認、石田真敏現県協会長を連盟会長として、同年５月にジュニア連盟を発足しました。

以来今日に至るまで、県協会関係者、また各団体の指導者の皆様方にはジュニア育成に多大なるご協力をいただきました。

（記：鳥羽　孝幸）

昭和47年の国体近畿予選会が和歌山住友体育館で開催され、高校生の試合を目の前で見た時であります。同じ高校生でありながら格差の大きさに驚きと、怒りを込み上げる中、これでいいのかと自問したのであります。

それは、全国の精鋭の生徒を小中学生から育成強化した、Ｓ学園と本県某高校の女子の部の対戦でありました。予選は複・単・単の３試合ですが、複・単の２試合ともラブゲームで数分もかからないうちにＳ学園が圧勝し、次の単はＳ学園から棄権の申し出があり結果は本県の１勝２敗でした。相手の棄権と、本県の高校生の無気力さにア然として言葉もでない無念な結果です。高校で初めてラケットを握る状況では致し方なく、何とかしなければと、熱いものが湧いたものであります。

当時の坂口県協会長は『“種まき”から始めよう・・・』の言葉から、自分も岩出で近所の小学４年生の女の子を集め、ラケットを握ったのが昭和57年の秋であり、また九度山でも賛同いただき始まりました。当時海南・新宮のスポーツ少年団の２チームが既に活躍されており、とにかく撒いた種が芽を出してくれと、祈るばかりでありました。

翌年４チームで県大会を開催したのが初めてであります。小学で育てた芽が中学に成っても順調に育ちますようにと、いろんな方々のご指導とご協力を頂き、点と点の繋がりで高校への一本の線ができ、少しは明るい展望と期待が持てるように成長してきたように思えます。

今日も各地の献身的な指導者のもとで、またジュニアで育った人々が新しい種まきに加わり、近畿の厚い壁に挑戦しようと精励頂いています。

後継指導者の育成等の重要な課題もございますが、今後も小中学生の競技人口の拡大や競技力の向上を目指し、バドミントン競技の普及・発展に努めて参りたいと考えておりますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

むすびに、近畿バドミントン協会の今後更なる躍進を祈念致しまして､60周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

（記：津田　充啓）

近畿小学生バドミントン大会(団体戦)　栄光の記録

回　数	男子の部	女子の部
第１回大会 昭和63年12月４日 奈良県大和高田市	優勝：滋賀A ２位：瓜破西SSC(大阪) ３位：豊中シャトラーズ(大阪)・鴻ノ池中央スポ少(奈良)	優勝：高田倶楽部A(奈良) ２位：鴻ノ池中央スポ少(奈良) ３位：瓜破西SSC(大阪)・大和高田スポ少A(奈良)
第２回大会 平成元年12月３日 大阪府箕面市	優勝：鴻ノ池中央スポ少(奈良) ２位： ３位：なにわクラブ(大阪)・瓜破西SSC(大阪)	優勝：瓜破西SSC(大阪) ２位：高田倶楽部(奈良) ３位：京都選抜A・鴻ノ池中央スポ少(奈良)
第３回大会 平成２年12月２日 京都府長岡京市	優勝：滋賀 ２位：京都選抜A ３位：奈良・なにわクラブ(大阪)	優勝：鴻ノ池中央スポ少(奈良) ２位：高田倶楽部(奈良) ３位：瓜破西SSC(大阪)・京都選抜A
第４回大会 平成３年12月１日 兵庫県宝塚市	優勝：瓜破西SSC(大阪) ２位：滋賀 ３位：大安寺スポ少(奈良)・兵庫選抜	優勝：高田倶楽部A(奈良) ２位：滋賀A ３位：長岡京ジュニア(京都)・高田倶楽部B(奈良)
第５回大会 平成４年12月6日 滋賀県近江八幡市	優勝：瓜破西SSC(大阪) ２位：滋賀A ３位：鴻ノ池中央スポ少(奈良)・	優勝：高田倶楽部A(奈良) ２位：滋賀A ３位：京都選抜A・瓜破西SSC(大阪)
第６回大会 平成５年12月　日 和歌山県和歌山市	優勝： ２位： ３位：	優勝： ２位： ３位：
第７回大会 平成６年12月４日 奈良県大和高田市	優勝：奈良選抜A ２位：瓜破西SSC(大阪) ３位：兵庫選抜・滋賀	優勝：滋賀A ２位：京都選抜 ３位：高田倶楽部(奈良)・瓜破西SSC(大阪)
第８回大会 平成７年12月17日 大阪市東淀川区	優勝： ２位： ３位：	優勝：滋賀A ２位：京都選抜A ３位：瓜破西SSC(大阪)・榛原ジュニア(奈良)
第９回大会 平成８年12月８日 京都府長岡京市	優勝：滋賀 ２位：奈良選抜A ３位：瓜破西SSC(大阪)・京都選抜	優勝：奈良選抜A ２位：滋賀B ３位：滋賀A・京都選抜A
第10回大会 平成９年12月７日 兵庫県神戸市	優勝：滋賀A ２位：滋賀B ３位：瓜破西SSC(大阪)・京都選抜	優勝：滋賀A ２位：奈良選抜A ３位：瓜破西SSC(大阪)・吹田ジュニア(大阪)
第11回大会 平成10年12月6日 滋賀県彦根市	優勝：大阪ジュニア(大阪) ２位：滋賀A ３位：滋賀B・長岡京ジュニア(京都)	優勝：奈良選抜A ２位：滋賀A ３位：瓜破西SSC(大阪)・奈良選抜B
第12回大会 平成11年12月　日 和歌山県和歌山市	優勝：奈良選抜A ２位：大阪ジュニア(大阪) ３位：京都選抜・兵庫	優勝：滋賀A ２位：京都選抜 ３位：瓜破西SSC(大阪)・奈良選抜A
第13回大会 平成12年12月　日 奈良県大和高田市	優勝：滋賀 ２位：大阪ジュニアA(大阪) ３位：奈良選抜A・京都選抜	優勝：奈良選抜A ２位：瓜破西SSC(大阪) ３位：滋賀A・滋賀B
第14回大会 平成13年12月２日 大阪市東淀川区	優勝：滋賀 ２位：奈良選抜A ３位：奈良選抜B・瓜破西SSC(大阪)	優勝：奈良選抜A ２位：瓜破西SSC(大阪) ３位：大東ジュニア(大阪)・兵庫A
第15回大会 平成14年12月８日 京都府長岡京市	優勝：滋賀A ２位：瓜破西SSC(大阪) ３位：奈良選抜B・奈良選抜A	優勝：奈良選抜A ２位：瓜破西SSC(大阪) ３位：滋賀A・兵庫A
第16回大会 平成15年12月6日 兵庫県神戸市	優勝：瓜破西SSC(大阪) ２位：滋賀A ３位：兵庫・奈良選抜A	優勝：京都選抜A ２位：滋賀A ３位：奈良選抜A・吹田ジュニアコンドル(大阪)
第17回大会 平成16年12月４日 滋賀県大津市	優勝：奈良選抜A ２位：大阪A ３位：滋賀A・兵庫	優勝：大阪A ２位：奈良選抜A ３位：奈良選抜B・滋賀A
第18回大会 平成17年12月11日 和歌山県橋本市	優勝：滋賀A ２位：奈良選抜A ３位：大阪A・兵庫	優勝：大阪A ２位：奈良選抜A ３位：京都選抜A・滋賀A
第19回大会 平成18年12月３日 奈良県宇陀市	優勝：滋賀A ２位：大阪A ３位：京都府選抜・滋賀B	優勝：大阪A ２位：京都府選抜A ３位：滋賀A・兵庫B
第20回大会 平成19年12月２日 京都府長岡京市	優勝：大阪A ２位：滋賀県 ３位：京都府選抜Ａ・兵庫Ａ	優勝：滋賀県 ２位：京都府選抜A ３位：大阪A・兵庫Ａ
第21回大会 平成20年11月29日 大阪府大阪市	優勝：奈良A ２位：兵庫Ａ ３位：滋賀Ａ・大阪Ａ	優勝：大阪Ａ ２位：兵庫Ａ ３位：滋賀Ａ・京都Ａ
第22回大会 平成21年12月６日 兵庫県神戸市	優勝：大阪A ２位：兵庫Ａ ３位：奈良Ａ・滋賀Ａ	優勝：大阪Ａ ２位：兵庫Ａ ３位：奈良Ａ・京都Ａ

第4章

現在の近畿バドミントン協会



第１節　近畿バドミントン協会　歴代役員

年度	近畿からの日バ協会役員				会長	副会長		顧問			参与				監事		事務局	事務局	委員会委員長		
	理事			監事													代表理事	補佐	競技	審判	指導
昭和25(1950)					石渡俊一																
昭和26(1951)					同上																
昭和27(1952)					同上																
昭和28(1953)					同上																
昭和29(1954)					同上																
昭和30(1955)					同上																
昭和31(1956)					同上																
昭和32(1957)	上原正士				同上																
昭和33(1958)	同上				同上																
昭和34(1959)	同上				同上																
昭和35(1960)	同上				同上																
昭和36(1961)	同上				同上																
昭和37(1962)	同上				同上																
昭和38(1963)	同上				同上																
昭和39(1964)	同上				同上																
昭和40(1965)					同上																
昭和41(1966)					同上																
昭和42(1967)					同上																
昭和43(1968)					同上												青木昭二				
昭和44(1969)					同上												同上				
昭和45(1970)					同上	上原正士	榎本彦次										同上				
昭和46(1971)					同上	同上	同上										同上				
昭和47(1972)					同上	同上	同上										同上				
昭和48(1973)					同上	同上	同上										同上				
昭和49(1974)					同上	同上	同上										松尾良行				
昭和50(1975)					同上	同上											同上				
昭和51(1976)					同上	同上											野村嘉明				
昭和52(1977)	青木昭二			上原正士	同上	同上					青木昭二						同上				
昭和53(1978)	同上	野村嘉明		同上	同上	同上					同上						同上				
昭和54(1979)	同上	同上	北　義一	同上	同上	同上					同上						同上				
昭和55(1980)	同上	同上	同上	同上	同上	同上					同上						同上				
昭和56(1981)	同上	同上	同上	同上	同上	同上					同上	松尾良行					同上				
昭和57(1982)		同上		同上	同上	同上					同上	同上					同上				
昭和58(1983)		同上		同上	同上	同上					同上	同上	榎本彦次				同上		澤　長壽	山本　博	
昭和59(1984)		同上		同上	同上	同上					同上	同上	同上				同上		同上	同上	
昭和60(1985)		同上		同上	同上	同上					同上	同上	同上				同上		同上	同上	
昭和61(1986)		同上	地区代表	同上	同上	同上					同上	同上	同上				北　義一		同上	同上	
昭和62(1987)		同上	石橋三彦	同上	同上	同上					同上	同上	同上				同上		同上	同上	
昭和63(1988)		同上	同上	同上	同上	同上					同上	同上	同上				同上		同上	佐藤武人	
平成１(1989)			北　義一	同上	同上	同上					同上	同上	同上	野村嘉明	服部　明		同上		同上	同上	四方光市
平成２(1990)			同上	同上	同上	同上					同上	同上	同上	同上	同上		同上		同上	同上	同上
平成３(1991)			同上	同上	同上	同上					同上	同上	同上	同上	同上		同上		同上	同上	同上
平成４(1992)			同上		同上	同上					同上	同上	同上	同上	同上		同上		同上	同上	同上
平成５(1993)			同上		藤田庸右		府県会長	上原正士			同上	同上	同上	同上	木津　乾		同上		同上	同上	同上
平成６(1994)			同上		同上		同上	同上			同上	同上	同上	同上	同上		同上		同上	同上	同上
平成７(1995)			同上		同上		同上	同上			同上	同上		同上	同上		同上		同上	同上	同上
平成８(1996)			同上		同上		同上				同上	同上		同上	同上		同上		同上	同上	同上
平成９(1997)			四方光市		同上		同上	青木昭二				同上		同上	同上		四方光市		同上	同上	北　義一
平成10(1998)			同上		同上		同上	同上				同上		同上	同上		同上		同上	同上	同上
平成11(1999)			佐藤武人		同上		同上	同上	野村嘉明	松尾良行	四方光市						佐藤武人		同上	小島博幸	瀬川欽也
平成12(2000)			同上		同上		同上	同上	同上	同上	同上						同上		同上	同上	同上
平成13(2001)			野村安忠	藤田庸右	同上		同上	同上	同上	同上	同上				浜久美雄	岩西壯行	野村安忠	谷口　章	谷　英明	同上	同上
平成14(2002)			同上	同上	同上		同上	同上	同上	同上	同上				同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
平成15(2003)			同上	同上	同上		同上	同上	同上		同上				同上	河村広次	同上	同上	同上	同上	同上
平成16(2004)			同上	同上	同上		同上	同上	同上		同上				同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
平成17(2005)			同上		同上		同上	同上	同上		同上				同上	神谷晴美	同上	同上	同上	同上	同上
平成18(2006)			同上		同上		同上	同上	同上		同上				同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
平成19(2007)	銭谷欽治		同上		同上		同上	同上	同上		同上				小国久美	同上	同上	同上	同上	同上	同上
平成20(2008)	同上		同上		同上		同上	同上	同上		同上				同上	同上	同上	同上	同上	岩西壯行	同上
平成21(2009)	同上		同上		同上		同上	同上	同上		同上				同上	同上	同上	同上	同上	同上	境　良治
平成22(2010)	同上		同上		同上		同上	同上	同上		同上				同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

第２節　現在の近畿バドミントン協会の役員

【事務局】　〒639－1161 大和郡山市西観音寺町38　野村安忠 気付

役　職	氏　名	
会　長（奈　良）	藤田　庸右	（奈良県協会 会長）
副会長（滋　賀）	澤　　長壽	（滋賀県協会会長）
副会長（京　都）	田中田鶴子	（京都府協会会長）
副会長（大　阪）	三宅　祐司	（大阪府協会会長）
副会長（兵　庫）	瀬川　欽也	（兵庫県協会会長）
副会長（和歌山）	石田　真敏	（和歌山県協会会長）
顧　問（大　阪）	青木　昭二	（元、近畿代表理事）
顧　問（京　都）	野村　嘉明	（元、近畿代表理事）
参　与（大　阪）	四方　光市	（元、近畿代表理事）
監　事（京　都）	小国　久美	（近畿レディース連盟理事長）
監　事（兵　庫）	神谷　晴美	（近畿社会人クラブ連盟理事長）
常任理事（滋　賀）	谷　　英明（競技委員長）	（滋賀県協会理事長）
常任理事（京　都）	高木　謙一（審判副委員長）	（京都府協会理事長）
常任理事（大　阪）	銭谷　欽治	（大阪府協会理事長）
常任理事（兵　庫）	境　　良治（指導委員長）	（兵庫県協会理事長）
常任理事（奈　良）	野村　安忠	（奈良県協会理事長）
常任理事（和歌山）	岩西　壯行（審判委員長）	（和歌山県協会理事長）
理　事（実業団）	新井　貴雄	（近畿実業団連盟理事長）
理　事（教職員）	養父　一太	（近畿教職員連盟理事長）
常任理事（レディース）	小国　久美	（近畿レディース連盟理事長）
理　事（社会人）	神谷　晴美	（近畿社会人クラブ連盟理事長）
理　事（大　学）	中原　住雄	（関西学生連盟理事長）
理　事（高体連）	錦　　秀知	（近畿高体連専門委員長）
理　事（中体連）	東條　安彦	（近畿中体連専門委員長）
理　事（小学生）	小国　俊之	（近畿小学生連盟理事長）
事務局次長（奈　良）	谷口　　章	（奈良県協会副会長）

◎競技委員会

役　職	氏　名
滋　賀（委員長）	谷　英明
滋　賀	村井　健郎
	奥村　真
京　都	宮崎　清光
	寺田　裕昭
大　阪	立花　良明
	森元　惠子
兵　庫	神谷　晴美
	森重　輝美
奈　良	貴田　昌史
	艸香　久人
和歌山	徳岡　昭次
	大谷　哲司

◎指導委員会

役　職	氏　名
兵　庫（委員長）	境　良治
滋　賀	伊佐　恒範
	前田　憲宏
京　都	山本　秀樹
	湊　健三
大　阪	武田　文則
	喜多　努
	土居　毅
兵　庫	矢部田浩一
	中原　幸人
奈　良	宮本　一宏
	山本　邦子
	寺地　伸光
和歌山	武野　宗睦
	佐々木朝幸
	坂田　智也

◎審判委員会

役　職	氏　名
和歌山（委員長）	岩西　壯行
京　都（副委員長）	高木　謙一
滋　賀	河嶋　四郎
	森　豊幸
京　都	齋藤　篤司
	西川　浩
大　阪	金山　在勇
	百野　郁子
兵　庫	上野　誠
	小林　幹男
奈　良	吉村　禎訓
	錦　秀知
和歌山	山田　和将
	木村　恵里

第３節　近畿バドミントン　規約

第１章　　名　称

第１条　本会は、近畿バドミントン協会と称する。

第２章　　目的及び事業

第２条　本会は、近畿地区バドミントン競技団体の統括機関としてバドミントンの普及振興を図り、併せて近畿地区府県民の心身の健全な発達を図ると共に相互の親睦に寄与することを目的とする。

第３条　本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

(１)バドミントンの普及及び振興。
(２)バドミントンに関する審判員及び指導者の養成。
(３)バドミントンの技術向上のために研究会及び講習会の実施。
(４)近畿地区における協議会の開催及び後援。
(５)財団法人日本バドミントン協会への役員の派遣。
(６)本会加盟団体の共通事項及び関連事項の協議と調整。
(７)その他本会の目的達成に必要な事業。

第３章　　組　織

第４条　本会は､本会の趣旨に賛同する次のアマチュアバドミントン競技団体をもって組織する。

(１)滋賀県バドミントン協会
(２)京都府バドミントン協会
(３)大阪府バドミントン協会
(４)兵庫県バドミントン協会
(５)奈良県バドミントン協会
(６)和歌山県バドミントン協会
(７)近畿実業団バドミントン連盟
(８)関西学生バドミントン連盟
(９)近畿教職員バドミントン連盟
(10)近畿レディースバドミントン連盟
(11)近畿高等学校体育連盟バドミントン部
(12)近畿中学校体育連盟バドミントン部
(13)近畿社会人クラブバドミントン連盟
(14)近畿小学生バドミントン連盟

第５条　本会の事務局は、会長選出府県の理事長のもとにおく。

第４章　　加盟及び登録

第６条　加盟団体は、分担金を納入する。分担金の額は別に定める。
加盟団体は、毎年事務局宛役員名簿及び組織表を提出し登録することとする。
役員はまた組織に変更が生じた場合は、速やかに変更届を提出することとする。

第５章　　機　関

第７条　本会の機関として、理事会及び常任理事会及び府県協会理事長会をおく。
理事会の議決は本会の最終のものとする。また、必要に応じて専門委員会を設けることができる。

第８条　理事会は、会長、副会長、常任理事、理事及び監事にて構成し、名誉会長、顧問、および参与はオブサーバーとして出席できる。

第９条　常任理事会は、会長、副会長、常任理事にて構成する。

第10条　理事会及び常任理事会は、それぞれ下記の事項を審議決定する。

（１）理事会

① 事業計画及び予算の編成。
② 事業及び収支決算の報告と承認。
③ 規約の制定及び改廃。
④ 役員の選任。
⑤ 加盟及び脱退の承認。
⑥ 加盟分担金の決定。
⑦ 理事会で審議する内容。
⑧ その他重要事項。

（２）常任理事会

① 役員の選任

（３）理事長会

①理事会への提案事項を審議する。
②その他重要事項。

第11条　理事会及び常任理事会は、必要に応じ会長これを招集し、会長が議長となり開催する。
理事長会は、必要に応じ事務局長が招集し、事務局長が議長となり開催する。

第12条　会議の成立は、構成員総数3分の2以上(委任状を含む)の出席を必要とする。

第13条 議事の決定は、その出席構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長がこれを決する。

第14条 すべての議会は、議事録を作成しこれを事務局にて保管する。

第6章　役　員

第15条　本会は、次の役員をおく。
（１）会　長　　１名
（２）副会長　　５名
（３）常任理事　　７名（事務局長を含む）
（４）理　事　　若干名
（５）監　事　　２名

第16条　本会は、前条の役員の他に理事会の審議を経て、名誉会長、顧問、参与をおくことができる。また、役員の定年を満７０歳とし、定年に達した日以降も任期がある場合は、その任期終了をもって退任するものとする。
但し、会長および副会長の定年については、特に定年を定めない。

第17条　第15条に定める役員の任期は２年とする。ただし再任は妨げない。

第18条　役員に欠員が生じその補充を必要とするときは、所定の手続きを経て補充し、会長これを委嘱する。この場合後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第19条　会長、副会長は理事会において推薦し選出する。
副会長は、会長選出外の府県会会長がこれにあたる。

第20条　会長は、本会を代表し会務を総理する。副会長は、会長を補佐し会長が支障あるときはその会務を代行する。

第21条　理事は、加盟団体を代表する理事長または委員長とし会務を執行する。

第22条　常任理事は、各府県協会理事長及び本会加盟の連盟理事長または委員長より代表１名がその任にあたり、会務を執行する。

第23条　事務局長は、事務局所在の理事長があたる。
なお、事務局次長をおくことが出来る。事務局次長は、事務局長を補佐する

第24条　監事は、常任理事会で推薦し、理事会の議を経て会長これを委嘱する。

第25条　監事は、本会の会務を監査する。

第26条　（財）日本バドミントン協会地区代表理事は別に定める規定による。

第27条　（財）日本バドミントン協会地区連盟代表協議会、地区代表者は別に定める規定による。

第28条　地区代表理事および地区・連盟代表者協議会地区代表者の任期は２年とする。
但し、再任は妨げない。

第29条　①　地区代表理事は、本会を代表して（財）日本バドミントン協会の理事を務める。
②　地区代表者は、本会を代表として（財）日本バドミントン協会地区連盟代表者協議会の委員を務める。

第30条　顧問及び参与は、財団法人日本バドミントン協会理事経験者及び会長の推薦により会長これを委嘱する。

第７章　　専門委員会

第31条　本会の事業の執行を円滑にするため次の専門委員会をおく。
（１）競技委員会
（２）審判委員会
（３）指導委員会
第32条　各専門委員会の構成員は理事会の議を経て選出し、会長これを委嘱する。
第33条　各専門委員会には、委員長、副委員長をおく。
委員長は府県協会理事長より、副委員長は委員中より互選にて選出する。
第34条　各専門委員会は、理事会の委任をうけた事項を審議し、理事会の承認を受けて執行する。

第８章　　経費及び会計

第35条　本会の経費は、加盟団体の分担金、特別会費、寄付金、補助金、委託金、その他の収入をもってこれに充てる。
第36条　本会の会計は事務局長の府県が担当する。
第37条　本会の会計年度は、毎年４月１日から翌年３月31日までとする。

第９章　　規約の改廃

第38条　本規約の運用に疑義が生じた場合の運用及び本規約の改廃に関しては、理事会の審議を経て決定する。
第39条　本規約の執行についての細則は、理事会の議決を経て別に定める。

第10条　　補　則

第40条　１．本規約は、昭和62年２月７日より実施する。
２．本規約の一部を改正し、平成５年８月28日より実施する。
３．本規約の一部を改正し、平成12年5月13日より実施する。
４．本規約の一部を改正し、平成17年４月23日より実施する。
５．本規約の一部を改正し、平成18年５月13日より実施する。

(財)日本バドミントン協会地区代表理事 および 地区連盟代表者協議会、地区代表者選出規定

第１条　地区代表理事候補　１名(以下理事)
地区連盟協議会、地区代表者委員１名を選出する。(以下委員)

第２条　理事候補、委員候補選出の順序
（１） 府県理事長会で候補者を検討する。
（２） 常任理事会で候補者を決定し、理事会に答申する。
（３） 理事会において決定する。

第３条　理事、委員の資格の順序
（１） 各府県理事長より選出する。
（２） 常任理事より選出する。
（３） 各府県協会より推薦された者の内より選出する。
（４） 該当者なしの場合は協会理事の内より選出する。

第４条　１．本規約は、平成12年５月13日より実施する。
２．本規約の一部を改正し、平成17年４月23日より実施する。
３．本規約の一部を改正し、平成18年５月13日より実施する。

近畿バドミントン協会役員の旅費細則

１．会議について

(１)理事会、常任理事会、理事長会、旅費(交通費・宿泊費・日当)を支給しない。
(２)専門委員会(競技委員会・審判委員会・指導委員会)は、交通費実費を支給する。
(宿泊費及び日当は支給しない)

２．大会(競技会)について

(１)本会は、旅費及び日当は支給しない。
(２)主管府県は、主管府県外大会役員(競技会役員)の旅費(交通費・宿泊費)及び日当は支給しない。
(３)主管府県は、主管府県外競技役員の旅費実費及び日当を支給する。
(４)近畿協会派遣の審判員の旅費実費及び日当は近畿バドミントン協会審判委員会より支給する。

付　則
１、本細則は、平成12年５月13日より施行する。
１、本細則は、平成19年４月30日より施行する。

第5章

近畿バドミントン協会主催大会



第１節　近畿総合バドミントン選手権大会（当初、近畿バドミントン選手権大会）

回・年・開催地	種　目	優　勝		準優勝		第３位	
第１回 1950年12月17日 神戸市	青年単	渋谷　弘利	京・京大	渋谷　亮次	京・京大	大圃　秀生	兵・関学大
	青年複	渋谷　亮次	京・京大	藤井　孝彦	大・関大	大圃　秀生	兵・関学大
		渋谷　弘利	京・京大	青山　正敏	大・関大	坂崎洋太郎	兵・関学大
第２回 1951年 11月23日・24日 天理市	少年単	武田　一徳	兵・星陵高	高谷　芳明	大・茨木高		
	少年複	高谷　芳明	大・茨木高	武田　一徳	兵・星陵高		
		多田　康明	大・茨木高	内田　吉彦	兵・星陵高		
	青年単	渋谷　良治	京・京大	渋谷　弘利	京・京大	大圃　秀生	兵・関学大
	青年複	渋谷　良治	京・京大	土川　昭一	京・立命大	大圃　秀生	兵・関学大
		渋谷　弘利	京・京大	和田　良策	京・立命大	米田喜一郎	兵・神戸YMCA
	成年単	川口　　清	兵・神戸YMCA	上原　正士	京・川島織物		
	成年複	降井　欽一	大・	川口　　清	大・		
		森田	大・	フィリップス	大・		
	壮年単	ソー	大・	ユー	大・		
	壮年複	嶋　　久雄	大・	泉　惣一郎	和・		
		塚本	大・	吉田	和・		
	混合複	船原　静江	大・	布留宮節子	京・	西尾　貞子	兵・親和学園高
		降井　欽一	大・	上原　正士	京・川島織物	坂崎洋太郎	兵・関学大
	少女単	西尾　貞子	兵・親和学園高	中村	大・樟蔭		
	少女複	中村	大・樟蔭	伊藤	大・		
		番浦	大・樟蔭	三牧	大・		
	婦人単	小島　　信	京・	船原　静江	大・		
	婦人複	小島　　信	京・	近藤	奈・		
		布留宮節子	京・	吉川	奈・		
第３回 1953年４月6･7日 大阪市	少年単	多田　康明	大・茨木高	藤田　良孝	兵・星陵高	佐々木忠勝	兵・星陵高
	少年複	多田　康明	大・茨木高	藤田　良孝	兵・星陵高		
		寺口　　弘		佐々木忠勝	兵・星陵高		
	青年単	上田　益弘	京・同大	武田　一徳	兵・関学大	渋谷　弘利	京・京大
	青年複	武田　一徳	兵・関学大	大圃　秀生	兵・関学大	上田　益弘	京・同大
		内田　吉彦	兵・神戸YMCA	藤井　光男	兵・神戸YMCA	高谷　芳明	京・同大
	成年単						
	成年複						
	壮年単						
	壮年複						
	少女単	西尾　貞子	兵・親和学園高	溝口　保子	兵・親和学園高		
	少女複	溝口　保子	兵・親和学園高	辻	大・樟蔭学		
		野間希和子	兵・親和学園高	松本	大・樟蔭学		
	青年女単	早瀬　治子	兵・神戸大	小島　　信	京・	浜田　寛子	兵・神戸YMCA
	青年女複	早瀬　治子	兵・神戸大	小島　　信	京・		
		西尾　貞子	兵・親和学園高	布留宮節子	京・		
	混合複						
第４回 1954年4月17･18日 神戸市	少年単	河内利雄	京・	芝田　和夫	奈・	藤井	京・
	少年複	武村	大・	芝田　和夫	奈・	福村	大・
		武市	大・	南	奈・	村野	大・
	青年単	上田　益弘	京・同大	武田　一徳	兵・関学大	松王　清志	大・
	青年複	上田　益弘	京・同大	武田　一徳	兵・関学大	寺口　　弘	大・
		高谷　芳明	京・同大	内田　吉彦	兵・神戸YMCA	多田　康明	大・
	成年単	馬塚　邦彦	兵・住金尼崎	片渕	滋・		
	成年複	馬塚　邦彦	兵・住金尼崎	片渕	滋・		
		池田　　治	兵・住金尼崎	田中	滋・		
	壮年単	降井　欽一	大・	沼田　常一	兵・神戸市役所		
	壮年複	降井　欽一	大・	沼田　常一	兵・神戸市役所		
		嶋　　久雄	大・	友田喜一郎	兵・神戸市役所		
	少女単	溝口　保子	兵・親和学園高	吉川　智子	兵・親和学園高		
	少女複	溝口　保子	兵・親和学園高	杉岡　祥代	兵・親和学園高	浜田　順子	兵・親和学園高
		野間希和子	兵・親和学園高	金森　奎子	兵・親和学園高	吉川　智子	兵・親和学園高
	青年女単	西尾　貞子	兵・神戸ＹMCA	廣瀬　延子	兵・神戸ＹMCA	香川	大・
	青年女複	小島　　信	京・	船原　静江	大・		
		吉田	京・	香川	大・		
	混合複	ナシ					

回・年・開催地	種　目	優　勝		準優勝	
第５回 1955年４月16日・17日	少年単				
	少年複				
	青年単				
	青年複				
	成年単				
	成年複				
	壮年単				
	壮年複				
	少女単				
	少女複				
	青年女単				
	混合複	辻本	大・樟蔭学		
		川口　清	大・ＹＭＣＡ		
第６回　1956年	記録ナシ				
第７回　1957年	記録ナシ				
第８回　1958年	記録ナシ				
第９回　1959年	記録ナシ				
第10回　1960年	記録ナシ				
第11回　1961年	記録ナシ				
第12回　1962年	記録ナシ				
第13回　1963年	記録ナシ				
第14回　1964年	記録ナシ				
第15回　1965年	記録ナシ				
第16回　1966年	記録ナシ				
第17回　1967年	記録ナシ				
第18回　1968年	記録ナシ				
第18回 1969年 和歌山県	一般男子単	長谷川	京・立命大	和田	大・ＦＫ
	一般男子複	遠藤　和男	大・スワロー化研	酒井	大・ＦＫ
		大塚	大・スワロー化研	吉岡	大・ＦＫ
	一般女子単	池田	大・東大阪短大	篠山	大・東大阪短大
	一般女子複	池田	大・東大阪短大	永井	京・三菱重工
		篠山	大・東大阪短大	山下	京・三菱重工
	成年男子単	北野	大・教員	粟守	兵・古河電工
	成年男子複	武村	大・国際電電	北野敬四郎	大・向丘小教
		溝渕	大・国際電電	宝来　敏夫	大・大平小教
	壮年男子単	谷口	京・舞鶴商教	作原	兵・神戸地裁
	壮年男子複	尾崎　惟信	兵・三菱電機神戸	谷口	京・舞鶴商教
		作原	兵・神戸地裁	紀田　文男	京・舞鶴クラブ
	混合複	品川　則之	大・電電近畿	笹尾	兵・神戸ＹＭＣＡ
		柿本	大・電電近畿	土井　弥一	兵・神戸ＹＭＣＡ
第19回 1971年1月10日 奈良県	一般男子単	藤原　健二	滋・教員	竹原　茂	大・電電近畿
	一般男子複	小林	大・関大	遠藤　和男	大・スワロー化研
		阪本	大・関大	和田	大・スワロー化研
	一般女子単	西尾	大・四条畷学園	秋本美津子	大・四条畷学園
	一般女子複	西尾	大・四条畷学園	池田	兵・三菱電機
		秋本	大・四条畷学園	篠山	兵・三菱電機
	成年男子単	武村	大・国際電電	溝渕	大・国際電電
	成年男子複	武村	大・国際電電	神吉　義雄	奈・鳥楓会
		溝渕	大・国際電電	服部	奈・教員
	壮年男子単	尾崎　惟信	兵・三菱電機神戸	八木　隆	兵・三菱重工神戸
	壮年男子複	尾崎　惟信	兵・三菱電機神戸	池田	大・電電近畿
		八木　隆	兵・三菱重工神	青木　昭二	大・茨木工高教
	混合複	柿本　房子	大・電電近畿	永井	京・三菱自工
		品川　則之	大・電電近畿	小島　伸治	京・ＹＭＣＡ

回・年・開催地	種　目	優　勝		準優勝	
第20回 1972年 京都府	一般男子単	山口	大・電電近畿	植田　寛	大･近大
	一般男子複	植田　寛	大・近大	山口	大・電電近畿
		阪本	大・関大	小野	大・電電近畿
	一般女子単	柴山	大・東大阪短大	高崎	大・東大阪短大
	一般女子複	柴山	大・東大阪短大	高崎	大・東大阪短大
		石崎	大・東大阪短大	大場	大・東大阪短大
	成年男子単	北野敬四郎	大・向丘小教	粟　守	兵・古河電工
	成年男子複	北野敬四郎	大・向丘小教	本山	大・塩野義製薬
		宝来　敏夫	大・大平小教	妹尾	大・塩野義製薬
	壮年男子単	尾崎　惟信	兵・三菱電機神戸	八木　隆	兵・三菱重工神戸
	壮年男子複	尾崎　惟信	兵・三菱電機神戸	新宮	京・舞鶴クラブ
		八木　隆	兵・三菱重工神戸	紀田	京・舞鶴クラブ
	混合複	木谷	大・電電近畿	杉田	大・教員クラブ
		佐古	大・電電近畿	浪江	大・教員クラブ
第21回 1973年3月25日 大阪府	一般男子単	植田　寛	奈・植田商店	佐藤	和・新宮高
	一般男子複	岩田　勇	大・電電近畿	遠藤　和男	大・スワロー化研
		滝野　公一	大・電電近畿	鷲尾　正一	大・スワロー化研
	一般女子単	徳田	大・四条畷学園	高田　幹子	大・四条畷学
	一般女子複	徳田	大・四条畷学園	柿本　房子	大・電電近畿
		高田　幹子	大・四条畷学園	佐古	大・電電近畿
	成年男子単	土井　弥一	兵・神戸ＹＭＣＡ	北野敬四郎	大・向丘小教
	成年男子複	土井　弥一	兵・神戸ＹＭＣＡ	戸沢　正雄	京・三菱自工
		廣瀬　隆一	兵・神戸ＹＭＣＡ	池部　勝美	京・舞鶴病院
	壮年男子単	小林　忠信	兵・三菱電機神戸	尾崎　惟信	兵・三菱電機神戸
	壮年男子複	吉田　昇	兵・大日電線	尾崎　惟信	兵・三菱電機神戸
		小林　忠信	兵・三菱電機神戸	大平　和三	兵・三菱電機神戸
	混合複	秋本美津子	大・四条畷学園	焼田　純子	奈・松下電産
		水川　九洋	大・スワロー化研	植田　寛	奈・植田商店
第22回 1974年3月17日 兵庫県	一般男子単	浅見　初男	大・スワロー化研	竹原　茂	大・電電近畿
	一般男子複	鷲尾　正一	大・スワロー化研	遠藤　和男	大・スワロー化研
		水川　九洋	大・スワロー化研	浅見　初男	大・スワロー化研
	一般女子単	植野恵美子	大・四条畷学園	門間千恵子	和・新宮高教
	一般女子複	高崎　弘子	兵・三菱電機伊丹	植野恵美子	大・四条畷学園
		尼崎　初子	兵・三菱電機伊丹	秋本美津子	大・四条畷学園
	成年男子単	杉田　忠邦	大・四条畷教	廣瀬　隆一	兵・神戸ＹＭＣＡ
	成年男子複	土井　弥一	兵・神戸ＹＭＣＡ	太田　照雄	兵・三菱電機伊丹
		廣瀬　隆一	兵・神戸ＹＭＣＡ	金井　秀一	兵・三菱電機伊丹
	壮年男子単	曽根　徳郎	京・舞鶴クラブ	尾崎　惟信	兵・三菱電機神戸
	壮年男子複	久代貫三郎	京・舞鶴クラブ	八木　隆	兵・三菱重工神戸
		曽根　徳郎	京・舞鶴クラブ	郷原　敏男	兵・三菱重工神戸
	混合複	目黒江里子	大・スワロー化研	飯田るみ子	大・中央ホーム
		遠藤　和男	大・スワロー化研	六津井正一	大・中央ホーム
第23回 1975年３月16日 京都府	一般男子単	丸山　法男	大・スワロー化研	植田　寛	奈・奈良クラブ
	一般男子複	岩田　昇	大・電電近畿	鷲尾　正一	大・スワロー化研
		滝野　公一	大・電電近畿	水川　九洋	大・スワロー化研
	一般女子単	高田　幹子	大・第１スポーツ	植野恵美子	大・四条畷学
	一般女子複	秋本美津子	大・四条畷学園	乾	大・ゴーセン
		徳田	大・四条畷学園	高田　幹子	大・第１スポーツ
	成年男子単	杉田　忠邦	大・四条畷学園	伊勢田	大・追手門小
	成年男子複	杉田　忠邦	大・四条畷学園	本摩　恒利	大・塩野義
		伊勢田	大・追手門小	北川　忠雄	大・塩野義
	壮年男子単	八木隆	兵・三菱重工神戸	尾崎　惟信	兵・三菱電機神戸
	壮年男子複	西谷　一郎	大・吹田クラブ	久代貫三郎	京・舞鶴クラブ
		林　辰夫	大・スワロー化研	曽根　徳郎	京・舞鶴クラブ
	混合複	小出	大・樟蔭女大	目黒江里子	大・スワロー化研
		和田　泰寛	大・近大	丸山　法男	大・スワロー化研

回・年・開催地	種　目	優　勝		準優勝	
第24回 1976年3月13日・14日 和歌山県	一般男子単	和田　泰寛	大・中央ホーム	西村	京・京工大
	一般男子複	鷲尾　正一	大・スワロー化研	藤原　健二	滋・打山中教
		池田	大・スワロー化研	藤上　良信	滋・比叡山高教
	一般女子単	植野恵美子	大・四条畷学園	高田	大・四条畷短大
	一般女子複	植野恵美子	大・四条畷学園	辻　かおる	大・四条畷学
		石川	大・四条畷学園	廣瀬	大・四条畷学
	成年男子単	杉田　忠邦	大・四条畷学園	福井　達雄	京・三菱自工
	成年男子複	杉田　忠邦	大・四条畷学園	土井　弥一	兵・神戸ＹＭＣＡ
		伊勢田英明	大・追手門小	廣瀬　隆一	兵・神戸ＹＭＣＡ
	壮年男子単	八木　　隆	兵・三菱重工神戸	小林　忠信	兵・三菱電機神戸
	壮年男子複	曽根　徳郎	京・舞鶴クラブ	紀田　文男	京・舞鶴クラブ
		永野	京・舞鶴クラブ	橋本	京・陸自関西
	混合複	山口　綾美	大・スワロー化研	小出　静加	大・樟蔭女大
		遠藤　和男	大・スワロー化研	井上　晴野	大・電電近畿
第25回 1977年3月12日・13日 滋賀県	一般男子単	山本　茂樹	和・和商高教	和田　泰寛	大・中央ホーム
	一般男子複	山下順次郎	大・電電近畿	和田　泰寛	大・中央ホーム
		宮本　宏和	大・電電近畿	菅原　弘貴	大・中央ホーム
	一般女子単	服部　直子	滋・比叡山高	柴田　真弓	滋・滋賀女高
	一般女子複	川添　雅代	兵・武庫川女大	田所　了子	大・スワロー化研
		四宮　郷子	兵・武庫川女大	山口　綾美	大・スワロー化研
	成年男子単	豚座　一利	兵・神戸ＹＭＣＡ	脇坂　　伸	京・市消防局
	成年男子複	伊勢田英明	大・追手門小	戸沢　正雄	京・三菱自工
		杉田　忠邦	大・四条畷学	福井　達雄	京・三菱自工
	壮年男子単	八木　　隆	兵・三菱重工神戸	川本　末夫	京・京大職員
	壮年男子複	梅枝　孝之	京・舞鶴学院	片山　修治	大・電電近畿
		森田　俊明	京・舞鶴学院	西村　剛光	大・電電近畿
	混合複	山口　綾美	大・スワロー化研	山脇　昌子	滋・堀内製作所
		遠藤　和男	大・スワロー化研	小鳩　清治	滋・愛知川土地
第26回 1978年3月11日・12日 奈良県	一般男子単	松口　金彦	大・中央ホーム	和田　泰寛	大・中央ホーム
	一般男子複	山本　茂樹	和・和商高教	和田　泰寛	大・中央ホーム
		米山　正和	和・向陽高教	松口　金彦	大・中央ホーム
	一般女子単	横田	奈・一条高	狭川	大・フジチュー
	一般女子複	川添　雅代	兵・武庫川女大	横田	奈・一条高
		四宮　郷子	兵・武庫川女大	佐藤	奈・一条高
	成年男子単	竹原　　茂	大・電電近畿	北村	京・市消防局
	成年男子複	土井　弥一	兵・神戸ＹＭＣＡ	入江	京・入江
		豚座　一利	兵・神戸ＹＭＣＡ	小島	京・野村染工
	壮年男子単	八木　　隆	兵・三菱重工神戸	金田	京・舞鶴クラブ
	壮年男子複	北野敬四郎	大・大仙西小教	曽根　徳郎	京・舞鶴クラブ
		宝来　敏夫	大・教大附小教	永野	京・舞鶴クラブ
	混合複	田所　了子	大・スワロー化研	餌取貴美子	大・電電近畿
		鷲尾　正一	大・スワロー化研	竹原　　茂	大・電電近畿
第27回 1979年 大阪府	一般男子単	宮崎　克己	大・サントリー	穂谷　真弘	和・丸善下津
	一般男子複	仲尾　信一	大・四条畷教	山本　茂樹	和・県教育庁
		井上　健二	大・寺内	米山　正和	和・県教育庁
	一般女子単	北田スミ子	大・四条畷学園	東海林文子	大・サントリー
	一般女子複	北田スミ子	大・四条畷学園	東海林文子	大・サントリー
		冨田三千代	大・四条畷学園	横山ナルミ	大・サントリー
	成年男子単	藤原　健二	滋・打山中教	白井規久夫	京・海自舞鶴
	成年男子複	土井　弥一	兵・神戸ＹＭCA	藤原　健二	滋・打山中教
		豚座　一利	兵・神戸ＹＭCA	久保田良昌	滋・木之本小教
	壮年男子単	粟　　守	兵・古河金属	品川　則之	大・十條製紙
	壮年男子複	北野敬四郎	大・大仙西小教	中島　仲市	大・川重
		宝来　敏夫	大・教大附小教	高谷　　明	大・川重
	混合複	服部　直子	滋・比叡山高教	永井　祥美	京・ドリブンクラブ
		藤上　良英	滋・野洲西小教	永井　　博	京・堀場製作所

回・年・開催地	種　目	優　勝		準優勝	
第28回 1980年3月8日・9日 京都府	一般男子単	仲尾　信一	大・四条畷教	松口　金彦	大・中央ホーム
	一般男子複	藤上　良信	滋・比叡山高教	西堀　　武	大・近畿大
		西村　龍夫	滋・県教委	吉兼　　保	大・近畿大
	一般女子単	東海林文子	大・サントリー	北田スミ子	大・四条畷学園
	一般女子複	北田スミ子	大・四条畷学	平久　美子	大・四条畷短大
		冨田三千代	大・四条畷学	河村　茂美	大・四条畷短大
	成年男子単	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑	豚座　一利	兵・神戸ＹＭＣＡ
	成年男子複	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑	高木　金次	京・京都機械
		豚座　一利	兵・神戸ＹＭＣＡ	永井　　博	京・堀場制作
	壮年男子単	粟　　守	兵・古河金属工業	川本　末夫	京・京大職員
	壮年男子複	北野敬四郎	大・大仙西小教	佐々木繁夫	兵・三菱重工神戸
		宝来　敏夫	大・教大附小教	松本　俊夫	兵・三菱重工神戸
	混合複	浅利きみこ	奈・サンデースポーツ	永井　祥美	京・ドリブンクラブ
		浅利　久勝	奈・サンデースポーツ	永井　　博	京・堀場製作所
第29回 1981年3月14日・15日 兵庫県	一般男子単	宮崎　克己	大・サントリー	松口　金彦	大・中央ホーム
	一般男子複	藤上　良信	滋・比叡山高教	西堀　　武	大・近畿大
		西村　龍夫	滋・県教委	吉兼　　保	大・近畿大
	一般女子単	原田　恵子	大・サントリー	西村三千代	大・サントリー
	一般女子複	西村三千代	大・サントリー	葛西　明子	大・サントリー
		横山ナルミ	大・サントリー	儀野恵理子	大・サントリー
	成年男子単	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑	森田　幸男	兵・大日電線
	成年男子複	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑	森田　幸男	兵・大日電線
		豚座　一利	兵・神戸ＹＭＣＡ	今井　則明	兵・大日電線
	壮年男子単	四方　光市	大・池田クラブ	粟　　守	兵・古河金属工業
	壮年男子複	品川　則之	大・十條製紙	本摩　恒利	大・塩野義製薬
		姫野　欣也	大・松下中研	高谷　　明	大・川重
	混合複	石川　好子	大・北清水ク	北原美恵子	大・池田クラブ
		宮本　永実	大・北清水ク	北原　健二	大・池田クラブ
第30回 1982年3月13日・14日 和歌山	一般男子単	西村　龍夫	滋・唐崎小教	宮崎　克己	大・サントリー
	一般男子複	和田　泰寛	大・中央ホーム	宮崎　克己	大・サントリー
		松口　金彦	大・中央ホーム	森下　一夫	大・サントリー
	一般女子単	国奥三千代	大・サントリー	松田太嘉子	大・四条畷学園
	一般女子複	平久　美子	大・三洋電機	植田日出子	大・三洋電機
		河村　茂美	大・三洋電機	合川　裕子	大・三洋電機
	30才男子単	藤原　健二	滋・打出中教	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑
	30才男子複	藤原　健二	滋・打出中教	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑
		国門　　学	滋・彦根西中教	豚座　一利	兵・神戸ＹＭＣＡ
	40才男子単	粟　　守	兵・古河金属工業	四方　光市	大・池田クラブ
	40才男子複	廣瀬　隆一	大・北清水クラブ	堤　　博愛	大・北清水クラブ
		岡上　充仁	大・北清水クラブ	山川　弘志	大・北清水クラブ
	混合複	西村美千代	滋・滋賀銀行	石川　好子	大・弥生クラブ
		西堀　　武	滋・県体協	宮本　永実	大・弥生クラブ
第31回 1983年3月12日・13日 滋賀県	一般男子単	北橋　　進	滋・県立体	松口　金彦	大・中央ホーム
	一般男子複	和田　泰寛	大・中央ホーム	宮崎　克己	大・サントリー
		松口　金彦	大・中央ホーム	森下　一夫	大・サントリー
	一般女子単	西村美千代	大・サントリー	冨田美千代	大・三洋電機
	一般女子複	西村美千代	大・サントリー	植田日出子	大・三洋電機
		岩見　洋子	大・サントリー	合川　裕子	大・三洋電機
	30才男子単	藤上　良啓	滋・比叡山高教	豚座　一利	兵・風見鶏クラブ
	30才男子複	藤上　良英	滋・祇王小	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑
		藤上　良信	滋・比叡山高教	豚座　一利	兵・風見鶏クラブ
	40才男子単	友金　利一	兵・神鋼尼崎	粟　　守	兵・古河金属工業
	40才男子複	石原　道男	兵・姫路クラブ	友金　利一	兵・神鋼尼崎
		浜田　俊信	兵・姫路クラブ	渡辺　博氏	兵・神鋼尼崎
	混合複	巽　　園代	兵・住金尼崎	宮地　玉英	滋・自営
		平松　重吉	兵・新日鐵広畑	藤上　良英	滋・祇王小

回・年・開催地	種　目	優　勝		準優勝	
第32回 1984年 大阪府	一般男子単	森下　一夫	大・サントリー	西村　金治	滋・草津教委
	一般男子複	和田　泰寛	大・中央ホーム	北橋　　進	大・新堂中高
		松口　金彦	大・中央ホーム	西村　金治	滋・草津教委
	一般女子単	鴻原　春美	大・四条畷学園	長尾うみ子	奈・県教委
	一般女子複	高峰　和子	大・サントリー	西村美千代	大・サントリー
		星　　和枝	大・サントリー	菊地　洋子	大・サントリー
	30才男子単	川村　桂司	和・住金	宇治　　収	大・三洋電機
	30才男子複	北原　健二	大・池田クラブ	前田　憲宏	京・ＹＭＣＡ
		平松　重吉	大・池田クラブ	三矢　博司	京・桂クラブ
	40才男子単	小島　伸治	京・ＹＭＣＡ	友金　利一	兵・神鋼尼崎
	40才男子複	石原　道男	兵・姫路クラブ	友金　利一	兵・神鋼尼崎
		浜田　俊信	兵・姫路クラブ	渡辺　博氏	兵・神鋼尼崎
	30才女子複	池田沙千子	大・桜ヶ丘クラブ		
		御前美智子	大・桜ヶ丘クラブ		
	40才男子単	小島　伸治	京・ＹＭＣＡ	友金　利一	兵・神鋼尼崎
	40才男子複	石原　道男	兵・姫路クラブ	友金　利一	兵・神鋼尼崎
		浜田　俊信	兵・姫路クラブ	渡辺　博氏	兵・神鋼尼崎
	40才女子複	村井　広美	大・東大阪MBC		
		金谷　節子	大・桜ヶ丘クラブ		
	混合複	菊地　洋子	大・サントリー	永井　祥美	京・桂クラブ
		竹端　英夫	大・近畿大	高木　謙一	京・乙訓クラブ
第33回 1985年３月16日・17日 京都府	一般男子単	森下　一夫	大・サントリー	江藤　裕樹	滋・比叡山高
	一般男子複	冨田　昭夫	大・近畿電電	猪多　博之	大・ヨネックス
		近藤　雅明	大・近畿電電	村尾　　勉	大・ヨネックス
	一般女子単	鴻原　春美	大・四条畷短大	平山美恵子	大・三洋電機
	一般女子複	鴻原　春美	大・四条畷短大	北尾　典子	奈・春円クラブ
		新木　貴子	大・四条畷短大	土庵喜代子	奈・西華クラブ
	30才男子単	高藤　哲岳	京・松風	田中　博正	大・池田クラブ
	30才男子複	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑	川村　桂司	和・住金
		平松　重吉	兵・新日鐵広畑	田村　昭男	和・住金化工
	30才女子複	福本　房子	奈・春円クラブ		
		大門与史子	奈・春円クラブ		
	40才男子単	平野　一郎	兵・垂水クラブ	三坂　光弘	大・吹田クラブ
	40才男子複	中川　文雄	滋・長浜クラブ	石原　道男	兵・姫路クラブ
		藤上　良英	滋・米原小教	浜田　俊信	兵・姫路クラブ
	40才女子複	北尾　典子	奈・春円クラブ		
		土庵喜代子	奈・西華クラブ		
	混合複	頼　　真弓	兵・園田学クラブ	土庵喜代子	奈・西華クラブ
		高瀬　和弘	兵・園田学クラブ	吉岡　伸浩	京・正強高教
第34回 1986年10月４日・５日 兵庫県	一般男子単	江藤　裕樹	大・近畿大	西村　金治	滋・草津教委
	一般男子複	奥野　　勉	大・近畿大	杉本　吉男	大・近畿大
		菊地　雄二	大・近畿大	江藤　裕樹	大・近畿大
	一般女子単	鴻原　春美	大・四条畷短大	平山美恵子	大・三洋電機
	一般女子複	北田スミ子	大・三洋電機	河村　茂美	大・三洋電機
		鴻原　春美	大・四条畷短大	清水　尚美	大・三洋電機
	30才男子単	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑	田中　博正	大・池田クラブ
	30才男子複	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑	高原　信幸	兵・神戸市役所
		平松　重吉	兵・新日鐵広畑	阿房日光男	兵・神戸市役所
	30才女子複	工藤　順子	兵・西宮クラブ		
		阪口ひろ美	兵・西宮クラブ		
	40才男子単	平野　一郎	兵・垂水クラブ	三坂　光弘	大・吹田クラブ
	40才男子複	三坂　光弘	大・吹田クラブ	石原　道男	兵・姫路クラブ
		廣瀬　隆一	大・北清水クラブ	浜田　俊信	兵・姫路クラブ
	40才女子複	北尾　典子	奈・春円クラブ		
		土庵喜代子	奈・西華クラブ		
	50才男子単	片山　修治	大・近畿電電	高谷　　明	大・川崎重工
	50才男子複	高谷　　明	大・川崎重工	久保　茂美	兵・姫路クラブ
		片山　修治	大・近畿電電	田中　五夫	兵・姫路クラブ
	混合複	頼　　真弓	兵・園田学クラブ	中井　幸恵	滋・東レ滋賀
		高瀬　和弘	兵・園田学クラブ	竹端　英夫	滋・大津市役所

回・年・開催地	種　目	優　勝		準優勝	
第35回 1987年 奈良県	一般男子単	杉本　吉男	大・近畿大	貴田　昌史	大・フジチュー
	一般男子複	冨田　昭夫	大・近畿電電	児島　　智	和・県教委
		近藤　雅明	大・近畿電電	佐々木朝幸	和・県教委
	一般女子単	原田真理恵	大・サントリー	谷池　春子	大・サントリー
	一般女子複	新木　貴子	大・四条畷短大	南里　高子	大・四条畷学園
		今村　　薫	大・四条畷短大	南里　泰子	大・四条畷学園
	30才男子単	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑	田中　博正	大・池田クラブ
	30才男子複	山口　　博	大・中央ホーム	松村　博之	大・池田クラブ
		斉藤　敏行	大・北清水クラブ	田中　博正	大・池田クラブ
	30才女子複	福本　房子	奈・春円クラブ		
		大門与史子	奈・春円クラブ		
	40才男子単	藤上　良英	滋・篠原小教	友金　利一	兵・神鋼尼崎
	40才男子複	小島　伸治	京・ＹＭＣＡ	北村　　仲	京・市消防局
		福井　達雄	京・三菱自工	瀬野　俊策	京・海自
	40才女子複	北尾　典子	奈・春円クラブ		
		土庵喜代子	奈・西華クラブ		
	50才男子単	高谷　　明	大・川崎重工	安沢　良夫	滋・たちばなクラブ
	50才男子複	高谷　　明	大・川崎重工	宮脇　正晴	大・教職員
		片山　修治	大・ＮＴＴ大阪	藤本　隆寛	大・教職員
	混合複	清水　尚美	大・三洋電機	谷池　春子	大・サントリー
		武野　　忠	大・ＮＴＴ関西	和田　泰寛	大・永西
第36回 1988年 和歌山県	一般男子単	早戸　敬雄	大・近畿大	谷田　尚嗣	大・此花学高
	一般男子複	辻田　泰昌	大・ＮＴＴ関西	山本　裕幸	京・田辺高教
		谷田　尚嗣	大・此花学高	村尾　　勉	京・同女大教
	一般女子単	新木　貴子	大・三洋電機	鴻原　春美	大・三洋電機
	一般女子複	鴻原　春美	大・三洋電機	谷池　春子	大・サントリー
		新木　貴子	大・三洋電機	広田　時子	大・サントリー
	30才男子単	山口　　博	大・中央ホーム	田中　博正	大・池田クラブ
	30才男子複	山口　　博	大・中央ホーム	松重　恵三	大・ＮＴＴ大阪
		斉藤　敏行	大・北清水クラブ	宮本　宏和	大・ＮＴＴ大阪
	30才女子複	福本　房子	奈・春円クラブ		
		大門与史子	奈・春円クラブ		
	40才男子単	山路栄三郎	兵・神戸ＹＭＣＡ	中川　友三	兵・川崎重工播州
	40才男子複	冨田　健一	滋・日本IBM	小島　伸治	京・ＹＭＣＡ
		藤上　良英	大・北野小教	福井　達雄	京・三菱自工
	40才女子複	北尾　典子	奈・春円クラブ		
		土庵喜代子	奈・西華クラブ		
	50才男子単	佐々木繁夫	兵・三菱重工神戸	姫野　欣也	大・松下中研
	50才男子複	品川　則之	大・十條製紙	高谷　　明	大・川重
		姫野　欣也	大・松下中研	片山　修治	大・ＮＴＴ大阪
	混合複	谷池　春子	大・サントリー	清水　尚美	大・三洋電機
		辻田　泰昌	大・ＮＴＴ関西	武野　　忠	大・ＮＴＴ関西
第37回 1989年 滋賀県	一般男子単	辻田　泰昌	大・ＮＴＴ関西	鈴木草麻生	京・同大
	一般男子複	山本　裕幸	京・田辺高教	早戸　敬雄	大・近畿大
		村尾　　勉	京・同女大教	稲村　高志	大・近畿大
	一般女子単	岩田　良子	大・四条畷学	田代美智世	大・三洋電機
	一般女子複	南里　高子	大・四条畷学	秋元美佐緒	大・三洋電機
		南里　泰子	大・四条畷学	北浦　道代	大・三洋電機
	30才男子単	山口　　博	大・中央ホーム	藤原　章訓	兵・姫路クラブ
	30才男子複	山口　　博	大・中央ホーム	川前　明裕	大・フェニックス
		斉藤　敏行	大・北清水クラブ	三坪　吉幸	大・生野クラブ
	30才女子複	廣瀬　園子	大・清水クラブ		
		大屋　政子	大・清水クラブ		
	40才男子単	藤原　健二	滋・皇子山中教	山路栄三郎	兵・神戸ＹＭＣＡ
	40才男子複	藤原　健二	滋・皇子山中教	豚座　一利	兵・ウイングス
		国門　　学	滋・滋大教専	中村　邦宏	兵・三菱電線
	40才女子複	原田ヒロ子	大・清水クラブ		
		中井　芳子	大・清水クラブ		
	50才男子単	佐々木繁夫	兵・三菱重工神戸	姫野　欣也	大・松下中研
	50才男子複	高谷　　明	大・川崎重工	品川　則之	大・十條製紙
		片山　修治	大・ＮＴＴ大阪	姫野　欣也	大・松下中研
	混合複	今村　　薫	大・三洋電機	金井　和恵	大・サントリー
		村山　友二	大・ＮＴＴ関西	早水　栄次	大・大阪ガス

回・年・開催地	種　目	優　勝		準優勝	
第38回 1990年 大阪府	一般男子単	辻田　泰昌	大・ＮＴＴ関西	早戸　敬雄	大・近畿大
	一般男子複	山本　裕幸	京・田辺高教	早戸　敬雄	大・近畿大
		村尾　　勉	京・同女大教	稲村　高志	大・近畿大
	一般女子単	利川　貴子	大・四条畷短大	鵜木千加子	兵・神戸外大教
	一般女子複	岩田　良子	大・四条畷短大	秋元美佐緒	大・三洋電機
		永井妃佐子	大・四条畷学	北浦　道代	大・三洋電機
	30才男子単	山口　　博	大・中央ホーム	田中　博正	大・池田クラブ
	30才男子複	川前　明裕	大・フェニックス	小国　俊之	京・長岡クラブ
		三坪　吉幸	大・生野クラブ	川口　俊夫	京・乙訓クラブ
	30才女子複	飯山シヅエ	大・フレンドリークラブ		
		森元　恵子	大・東大阪クラブ		
	40才男子単	藤原　健二	滋・皇子山中教	和田　泰寛	大・ＴＢＣ
	40才男子複	小島　伸治	京・ＹＭＣＡ	藤原　健二	滋・皇子山中教
		桜井　　誠	京・ＹＭＣＡ	国門　　学	滋・彦根南中教
	40才女子複	前田　昌子	滋・湘南レディース		
		藤田　敏子	滋・湘南レディース		
	50才男子単	高谷　　明	大・川崎重工	安沢　良夫	滋・自営
	50才男子複	高谷　　明	大・川崎重工	西谷　一郎	大・豊中クラブ
		片山　修治	大・ＮＴＴ大阪	山岸　二郎	大・大浜クラブ
	混合複	西村美千代	大・サントリー	池田　芳恵	滋・東レ滋賀
		山本　裕幸	教・田辺高教	北橋　　進	滋・北大津高
第39回 1991年 京都府	一般男子単	鈴木草麻生	京・同大	植村　昭彦	京・同大
	一般男子複	山本　裕幸	京・田辺高教	佐々木朝之	和・県教委
		村尾　　勉	京・同女大教	児嶋　　智	和・県教委
	一般女子単	岩田　良子	大・四条畷学	鵜木千加子	兵・神戸外大教
	一般女子複	南里　高子	大・三洋電機	谷池　春子	大・サントリー
		南里　泰子	大・三洋電機	磯崎　照江	大・サントリー
	30才男子単	山口　　博	大・中央ホーム	高安　博正	京・乙訓クラブ
	30才男子複	山本　秀樹	京・Ｂ･Wayクラブ	小国　俊之	京・長岡クラブ
		近藤　修弘	京・Ｂ･Wayクラブ	川口　俊夫	京・乙訓クラブ
	30才女子複	小国　久美	京・長岡京クラブ		
		永井　祥美	京・桂クラブ		
	40才男子単	藤原　健二	滋・皇子山中教	平野　一郎	兵・垂水クラブ
	40才男子複	藤原　健二	滋・皇子山中教	河村　弘次	京・乙訓クラブ
		藤上　良英	滋・比叡山高教	高木　謙一	京・乙訓クラブ
	40才女子複	宿里　和江	兵・西宮クラブ		
		貴田美智子	兵・西宮クラブ		
	50才男子単	橋詰　幸雄	兵・垂水クラブ	堤　　博愛	大・喜多清水クラブ
	50才男子複	岸本　晃一	京・桂クラブ	橋詰　幸雄	兵・垂水クラブ
		楳木　順雄	京・桂クラブ	佐々木繁夫	兵・三菱重工神戸
第40回 1991年 兵庫県	一般男子単	植村　昭彦	京・同大	鈴木草麻生	京・同大
	一般男子複	辻田　泰昌	大・ＮＴＴ関西	山本　裕幸	京・田辺高教
		奥野　　勉	大・ＮＴＴ関西	村尾　　勉	京・同女大教
	一般女子単	北浦　道代	大・三洋電機	秋元美佐緒	大・三洋電機
	一般女子複	秋元美佐緒	大・三洋電機	田代美智世	大・三洋電機
		北浦　道代	大・三洋電機	三ツ川貴子	大・三洋電機
	30才男子単	嘉生　　寛	京・郡山中教	川口　俊夫	京・乙訓クラブ
	30才男子複	嘉生　　寛	奈・郡山中教	山本　秀樹	京・Ｂ･Wayクラブ
		貴田　昌史	奈・天理クラブ	近藤　修弘	京・Ｂ･Wayクラブ
	30才女子複	前田　昌子	滋・ブルーレーク		
		桑野　弥生	滋・ブルーレーク		
	40才男子単	藤原　健二	滋・皇子山中教	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑
	40才男子複	藤原　健二	滋・皇子山中教	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑
		藤上　良英	滋・野洲町教委	豚座　一利	兵・ウイングス
	40才女子複	岸　世紀子	兵・宝塚クラブ		
		山下　桂子	兵・宝塚クラブ		
	50才男子単	四方　光市	大・池田クラブ	岡上　充仁	大・北清水クラブ
	50才男子複	本摩　恒利	大・塩野義製薬	中西　久昌	兵・三木とんぼ
		姫野　欣也	大・松下中研	梅田　昌蔵	兵・垂水クラブ
	混合複	河村　茂美	大・なかよしクラブ	北川恵美子	京・安祥寺中教
		弓削　義雄	大・なかよしクラブ	村尾　　勉	京・同女大教

回・年・開催地	種　目	優　勝		準優勝	
第41回 1992年 奈良県	一般男子単	大谷　誠二	大・ＮＴＴ関西	常山　兼二	大・松下電器
	一般男子複	今東　　健	大・ＮＴＴ関西	常山　兼二	大・松下電器
		植村　昭彦	大・ＮＴＴ関西	三村　幸司	大・松下電器
	一般女子単	太田　貴子	大・四天王寺高	利川　貴子	大・三洋電機
	一般女子複	富田　美保	大・三洋電機	井上　　香	兵・三菱電機
		田中佐妃子	大・三洋電機	鬼塚　知美	兵・三菱電機
	30才男子単	中角　好男	大・松下電器	嘉生　　寛	奈・郡山中教
	30才男子複	川前　明裕	大・フェニックス	嘉生　　寛	奈・郡山中教
		井谷　隆夫	大・フェニックス	貴田　昌史	奈・天理クラブ
	30才女子複	板谷　悦代	奈・西華クラブ		
		児玉　幸代	奈・西華クラブ		
	40才男子単	高木　兼一	京・乙訓クラブ	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑
	40才男子複	藤原　健二	滋・県教委	河村　弘次	京・乙訓クラブ
		藤上　良英	滋・治田小教	高木　謙一	京・乙訓クラブ
	40才女子複	廣瀬　園子	大・清水クラブ		
		木田美智子	大・清水クラブ		
	50才男子単	中川　友三	兵・川崎重工播州	中川　文雄	滋・長浜クラブ
	50才男子複	岡上　充仁	大・北清水クラブ	本摩　恒利	大・塩野義製薬
		堤　　博愛	大・北清水クラブ	姫野　欣也	大・松下中研
	混合複	太田　貴子	大・四天王寺高	足達　和泉	大・三洋電機
		谷田　尚嗣	大・此花学教	奥野　　勉	大・ＮＴＴ関西
第42回 1993年 和歌山県	一般男子単	岸田　明宏	大・近畿大	谷内　貴昭	京・仏教大
	一般男子複	大山　宏司	大・近畿大	早水　栄治	大・大阪ガス
		岸田　明宏	大・近畿大	村松　　博	大・ゴーセン
	一般女子単	太田　貴子	大・サントリー	本田　　望	大・サントリー
	一般女子複	宮村亜貴子	大・サントリー	山田　裕美	大・三洋電機
		太田　貴子	大・サントリー	村上　直美	大・三洋電機
	30才男子単	嘉生　　寛	奈・郡山中教	片岡　正之	兵・新日鐵化学
	30才男子複	片岡　正之	兵・新日鐵化学	野生　　計	和・勝浦クラブ
		平　　昌一	兵・新明和宝塚	中前　昌幸	和・貴志川クラブ
	30才女子複	弓矢美紀子	大・泉ヶ丘クラブ		
		西林　知子	大・泉ヶ丘クラブ		
	40才男子単	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑	東　　寿一	大・みどりBC
	40才男子複	藤原　健二	滋・県教委	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑
		藤上　良英	滋・治田小教	豚座　一利	兵・ウイングス
	40才女子複	廣瀬　園子	大・清水クラブ		
		木田美智子	大・清水クラブ		
	50才男子単	友金　利一	兵・神鋼神戸	中川　友三	兵・川崎重工播州
	50才男子複	片岡　昭勝	大・池田クラブ	岡上　充仁	大・北清水クラブ
		高田　克己	大・箕面クラブ	堤　　博愛	大・北清水クラブ
	混合複	鬼池めぐみ	大・四天王寺高	出石美紀子	大・ＩＬＬＣ
		谷田　尚嗣	大・此花学教	宮本芙士夫	大・弥生クラブ
第43回 1994年 滋賀県	一般男子単	片岡詔一郎	大・近畿大	植村　昭彦	大・ＮＴＴ関西
	一般男子複	大山　宏司	大・近畿大	鈴木草麻生	大・ＮＴＴ関西
		岸田　明宏	大・近畿大	村山　友二	大・ＮＴＴ関西
	一般女子単	山田　裕美	大・三洋電機	鬼池めぐみ	大・四天王寺高
	一般女子複	田中佐妃子	大・三洋電機	鬼塚　知美	兵・三菱電機
		村上　直美	大・三洋電機	森川　和枝	兵・三菱電機
	30才男子単	小田　隆司	滋・膳所高教	三坪　吉幸	大・平野中教
	30才男子複	川口　敏夫	京・東洋電波	西　　浩司	和・教職員
		近藤　修弘	京・Ｂ･WAYクラブ	児嶋　　智	和・教職員
	30才女子複	西村美千代	滋・ブルーレイク		
		前田　昌子	滋・ブルーレイク		
	40才男子単	藤原　健二	滋・県教委	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑
	40才男子複	中村　一弘	和・東燃	藤原　健二	滋・県教委
		田村　昭男	和・ＪAPAN	藤上　良英	滋・治田小教
	40才女子複	廣瀬　園子	大・清水クラブ		
		木田美智子	大・清水クラブ		
	50才男子単	友金　利一	兵・神鋼神戸	西野　幸雄	大・北清水クラブ
	50才男子複	岡上　充仁	大・北清水クラブ	宝来　明正	兵・神鋼パンテック
		杉谷　義明	大・北清水クラブ	橋詰　幸雄	兵・垂水クラブ
	混合複	冨田　美保	大・三洋電機	小椋左恵子	奈・ゴーセン
		早戸　敬雄	大・ＮＴＴ関西	貴田　昌史	奈・天理クラブ

回・年・開催地	種　目	優　勝		準優勝	
第44回 1995年 大阪府	一般男子単	植村　昭彦	大・ＮＴＴ関西	片岡詔一郎	大・近畿大
	一般男子複	平野　耕司	京・井筒薬品	早水　栄治	大・大阪ガス
		藤川　雅章	京・井筒薬品	村松　　博	大・ゴーセン
	一般女子単	伊藤　真弓	大・コスモ石油	市橋　理恵	大・四条畷学園
	一般女子複	鬼塚　知美	兵・三菱電機	鬼束　明美	兵・三菱電機
		武富いず美	兵・三菱電機	森川　和枝	兵・三菱電機
	30才男子単	太田智一郎	京・松下電子部品	木村　　孝	京・ワンダークラブ
	30才男子複	川前　明裕	大・フェニックス	貴田　昌史	奈・天理クラブ
		田中　一寛	大・フェニックス	吉川　芳郎	奈・天理クラブ
	30才女子複	松井　明子	大・清水クラブ		
		福田　恵理	大・清水クラブ		
	40才男子単	川口　敏夫	京・東洋電波F	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑
	40才男子複	松見　恒司	京・舞鶴クラブ	中村　一弘	和・東燃
		足立　靖治	京・舞鶴クラブ	田村　昭男	和・貴志川クラブ
	40才女子複	廣瀬　園子	大・清水クラブ		
		木田美智子	大・清水クラブ		
	50才男子単	平野　一郎	兵・垂水クラブ	中川　友三	兵・川崎重工播州
	50才男子複	友金　利一	兵・神鋼神戸	岡上　充仁	大・北清水クラブ
		田中　　至	兵・神鋼神戸	杉谷　義明	大・北清水クラブ
	50才女子複	兼田　公子	大・清水クラブ	田中美千代	大・神津クラブ
		糀　　光子	大・高嶺クラブ	山本佐枝子	大・神津クラブ
	混合複	小椋左恵子	奈・ゴーセン	嶋田有希子	京・西華南中教
		貴田　昌史	奈・天理クラブ	杉本　吉男	京・Ｂ·WAYクラブ
第45回 1996年 京都府	一般男子単	渡辺　哲義	大・ＮＴＴ関西	大谷　誠二	大・ＮＴＴ関西
	一般男子複	村山　友二	大・ＮＴＴ関西	早水　栄治	大・大阪ガス
		平井　達也	大・ＮＴＴ関西	村松　　博	大・ゴーセン
	一般女子単	葛野　智子	大・サントリー	太田　久美	大・三洋電機
	一般女子複	葛野　智子	大・サントリー	森川　和枝	兵・三菱電機
		中山真理子	大・サントリー	内田　裕子	兵・三菱電機
	30才男子単	木村　　孝	京・ワンダークラブ	乳井　重雄	和・ＳＢＣ
	30才男子複	太田智一郎	京・松下電子部品	西　　浩司	和・教職員
		佐々木正司	京・三菱自工	児嶋　　智	和・教職員
	30才女子複	西村美千代	滋・ブルーレイク		
		勝山　直子	滋・ブルーレイク		
	40才男子単	川口　敏夫	京・東洋電波F	幡野　幸夫	大・飛翔会
	40才男子複	菅原　弘貴	大・中央ホーム	喜多　広幸	大・飛翔会
		松口　金彦	大・中央ホーム	幡野　幸夫	大・飛翔会
	40才女子複	廣瀬　園子	大・清水クラブ		
		木田美智子	大・清水クラブ		
	50才男子単	平野　一郎	兵・垂水クラブ	宝来　明正	兵・神鋼パンテック
	50才男子複	友金　利一	兵・神鋼神戸	岡上　充仁	大・北清水クラブ
		田中　　至	兵・神鋼神戸	杉谷　義明	大・北清水クラブ
	50才女子複	中井　芳子	大・清水クラブ	藤本　恵子	兵・クレッシェンド
		兼田　公子	大・清水クラブ	神谷　晴美	兵・北神クラブ
	混合複	貴田　　泉	大・三洋電機	川口　桐香	大・三洋電機
		平井　達也	大・ＮＴＴ関西	早戸　敬雄	大・ＮＴＴ関西
第46回 1997年 兵庫県	一般男子単	永谷　和也	大・学芸高	渡辺　哲義	大・ＮＴＴ関西
	一般男子複	渡辺　哲義	大・ＮＴＴ関西	平野　耕司	京・井筒薬品
		川口　馨士	大・ＮＴＴ関西	藤川　雅章	京・翔英高教
	一般女子単	安城　美華	大・四天王寺高	渡辺未奈子	奈・天理大
	一般女子複	壇原　有理	奈・天理大	芳村真梨子	大・コスモ石油
		渡辺未奈子	奈・天理大	辻　亜希子	大・コスモ石油
	30才男子単	谷田　尚嗣	大・此花学教	長谷　浩道	大・松下電子部品
	30才男子複	川前　明裕	大・フェニックス	佐々木正司	京・三菱自工
		田中　一寛	大・フェニックス	杉本　吉男	京・Ｂ·WAYクラブ
	30才女子複	松本　美和	大・東大阪MBC		
		武田由美子	大・東大阪MBC		
	40才男子単	川口　敏夫	京・東洋電波F	幡野　幸夫	大・飛翔会
	40才男子複	菅原　弘貴	大・中央ホーム	喜多　広幸	大・飛翔会
		松口　金彦	大・中央ホーム	幡野　幸夫	大・飛翔会
	40才女子複	廣瀬　園子	大・清水クラブ		
		木田美智子	大・清水クラブ		
	50才男子単	山路栄三郎	兵・ボラーノ	豚座　一利	兵・むささび会
	50才男子複	井田　吉昭	奈・七一会	友金　利一	兵・神鋼神戸
		東田　和弘	奈・ならクラブ	田中　　至	兵・神鋼神戸
	50才女子複	北岡　洋子	奈・西華クラブ	苫井　尚子	兵・パンピクラブ
		土庵　清子	奈・西華クラブ	神谷　晴美	兵・北神クラブ
	混合複	小椋左恵子	奈・ゴーセン	白井　洋子	兵・武庫BC
		貴田　昌史	奈・天理クラブ	矢野　辰幸	兵・新明和エンジニア

回・年・開催地	種　目	優　勝		準優勝	
第47回 1998年 奈良県	一般男子予単	橋本　俊信	大・ＮＴＴ関西	福井　剛士	大・近畿大
	一般男子予複	草ノ瀬公一郎	大・近畿大	河村　昌明	大・近畿大
		平野　耕作	大・近畿大	木谷　　修	大・近畿大
	一般女子予単	関本　祥子	大・三洋電機	市橋　美紀	奈・フジチュー
	一般女子予複	森　かおり	大・三洋電機	勝山　直子	滋・ブルーレイク
		安城　美華	大・三洋電機	西村美千代	滋・ブルーレイク
	30才男子予単	木村　　孝	京・ワンダークラブ	今東　　健	大・ＮＴＴ大阪
	30才男子予複	児嶋　　智	和・教職員	楠本　直樹	大・三国クラブ
		北川　　康	和・星林クラブ	香西　　修	大・ＳＯＢ
	30才女子予複	平井千嘉子	大・Ｙクラブ		
		山下恵美子	大・和光クラブ		
	40才男子予単	中角　好男	大・松下電器	幡野　幸夫	大・飛翔会
	40才男子予複	菅原　弘貴	大・中央ホーム	喜多　広幸	大・飛翔会
		松口　金彦	大・中央ホーム	幡野　幸夫	大・飛翔会
	40才女子予複	川前　了子	奈・西華クラブ		
		山本　邦子	奈・沙羅クラブ		
	50才男子予単	平野　一郎	兵・垂水クラブ	仲田　康英	大・松下電子
	50才男子予複	松浪　新治	大・ＳＢＣ	平井　隆夫	京・シャトルファイブ
		藤林　　正	大・ＳＢＣ	木村　健治	京・シャトルファイブ
	50才女子予複	北岡　洋子	奈・西華クラブ	苫井　尚子	兵・バンビクラブ
		土庵　清子	奈・西華クラブ	神谷　晴美	兵・北神クラブ
	混合複	鬼池めぐみ	大・三洋電機	西村美千代	滋・ブルーレイク
		植村　昭彦	大・ＮＴＴ関西	白子　　総	滋・トヨタカローラ滋賀
第48回 1999年 和歌山県	一般男子予単	石川　　登	大・近畿大	福井　剛士	大・近畿大
	一般男子予複	常山　兼二	大・松下電器	久保　直輝	大・近畿大
		藤原　瑛佳	大・中央ホーム	三好陽一郎	大・近畿大
	一般女子予単	上田　絵美	京・立命館大	関本　祥子	大・三洋電機
	一般女子予複	内田　裕子	兵・三菱電機	下野　鈴香	大・四天王寺高
		藤井二美可	兵・三菱電機	小椋久美子	大・四天王寺高
	30才男子予単	木村　　孝	京・ワンダークラブ	今東　　健	大・ＮＴＴ大阪
	30才男子予複	川前　明裕	大・フェニックス	佐々木正司	京・三菱自工
		田中　一寛	大・フェニックス	杉本　吉男	京・Ｂ・WAYクラブ
	30才女子予複	川口　紀子	奈・沙羅クラブ		
		板谷　悦子	奈・沙羅クラブ		
	40才男子予単	中角　好男	大・松下電器	幡野　幸夫	大・飛翔会
	40才男子予複	川口　敏夫	京・東洋電波F	菅原　弘貴	大・中央ホーム
		近藤　修弘	京・Ｂ･WAYクラブ	松口　金彦	大・中央ホーム
	40才女子予複	川前　了子	奈・西華クラブ		
		山本　邦子	奈・沙羅クラブ		
	50才男子予単	山路栄三郎	兵・ボラーノ	仲田　康英	大・松下電子
	50才男子予複	江崎　孝一	大・ＴＷＢ	松浪　新治	大・ＳＢＣ
		北出　　隆	大・Ｙクラブ	藤林　　正	大・ＳＢＣ
	50才女子予複	苫井　尚子	兵・バンビクラブ	木田美智子	大・清水クラブ
		神谷　晴美	兵・北神クラブ	堂尾佐千子	大・桜ヶ丘クラブ
	混合複	北浦　道代	滋・ブルーレイク	西村美千代	滋・ブルーレイク
		酒井　良之	滋・滋賀女短職	白子　　総	滋・トヨタカローラ滋賀
第49回 2000年 滋賀県	一般男子予単	橋本　敏信	大・ＮＴＴ西日本	榎本　良永	滋・比叡山高
	一般男子予複	松井　　充	大・ＮＴＴ西日本	藤原　瑛佳	大・中央ホーム
		一宮　孝一	大・ＮＴＴ西日本	薄　　智彦	大・中央ホーム
	一般女子予単	速水　永子	京・龍谷大	橋本　純子	大・三洋電機
	一般女子予複	内田　裕子	兵・三菱電機	大山　育美	兵・神戸学院大
		藤井二美可	兵・三菱電機	石井　愛子	兵・神戸学院大
	30才男子予単	長谷　浩道	大・松下電子部品	木村　　孝	京・羽根突倶楽部
	30才男子予複	早水　栄治	大・大阪ガス	川前　明裕	大・フェニックス
		松村　　博	大・ゴーセン	田中　一寛	大・フェニックス
	30才女子予複	川口　紀子	奈・沙羅クラブ		
		板谷　悦子	奈・沙羅クラブ		
	40才男子予単	川口　敏夫	京・東洋電波F	中角　好男	大・松下電器
	40才男子予複	松重　恵三	大・ＮＴＴ大阪	山川　正一	大・松下電器
		弓削　義雄	大・なかよしパワーズ	中角　好男	大・松下電器
	40才女子予複	川前　了子	奈・西華クラブ		
		山本　邦子	奈・沙羅クラブ		
	50才男子予単	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑	東　　寿一	大・ミドリBC
	50才男子予複	高木　謙一	京・西宇治BC	東田　和弘	奈・奈良クラブ
		徳田　　進	京・西宇治BC	宮崎　博	奈・奈良クラブ
	50才女子予複	木田美智子	大・清水クラブ	苫井　尚子	兵・バンビクラブ
		廣瀬　園子	大・清水クラブ	神谷　晴美	兵・北神クラブ
	混合複	藤井二美可	兵・三菱電機	北浦　道代	滋・ブルーレイク
		鈴木草麻生	兵・兵庫県協会	酒井　良之	滋・滋賀女短職

回・年・開催地	種　目	優　勝		準優勝	
第50回 2001年 大阪府	一般男子単	松下　文雄	大・近畿大	中村　寿史	大・近畿大
	一般男子複	平井　達也	大・ＮＴＴ西日本	松下　文雄	大・近畿大
		川口　馨士	大・ＮＴＴ西日本	中村　寿史	大・近畿大
	一般女子単	小椋久美子	大・四天王寺高	宮崎　優花	大・四天王寺高
	一般女子複	早川由希子	滋・滋賀女子高	田上　千晴	大・三洋電機
		多谷　郁恵	滋・滋賀女子高	西　　宏予	大・三洋電機
	30才男子単	大井　貴夫	大・大阪ガス	田中　隆行	京・ブレンティ
	30才男子複	早水　栄治	大・大阪ガス	見市　昌弘	大・飛羽会
		松村　　博	大・ゴーセン	正岡　　毅	大・飛羽会
	30才女子複	板谷　悦代	奈・沙羅クラブ		
		川口　紀子	奈・沙羅クラブ		
	40才男子単	中角　好男	大・松下電器大阪	楠本　直樹	大・三国クラブ
	40才男子複	川前　明裕	大・フェニックス	松重　恵三	大・ＮＴＴ大阪
		田中　一寛	大・フェニックス	弓削　義雄	大・なかよしパワーズ
	40才女子複	山本　邦子	奈・沙羅クラブ		
		児玉　幸代	奈・沙羅クラブ		
	50才男子単	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑	山本　清二	京・舞鶴クラブ
	50才男子複	中村　　昇	兵・むささび会	高木　謙一	京・西宇治クラブ
		山住　　栄	兵・川鉄クラブ	徳田　　進	京・西宇治クラブ
	50才女子複	福本　房子	奈・春円クラブ	木田美智子	大・清水クラブ
		南浦百合子	奈・春円クラブ	廣瀬　園子	大・清水クラブ
	60才男子複	梅田　誉男	京・舞鶴クラブ	中西　久昌	兵・三木赤とんぼ
		森本　　進	京・舞鶴クラブ	橋詰　幸雄	兵・垂水クラブ
	混合複	上地友佳子	大・スクラッチ	勝山　直子	滋・くるみクラブ
		上地　　稔	大・泉北バード	石田　佳史	滋・松下電器滋賀
第51回 2002年 京都府	一般男子単	中村　寿史	大・近畿大	鈕　　佳平	大・近畿大
	一般男子複	鈕　　佳平	大・近畿大	伊藤　博哲	大・近畿大
		麻生　將豊	大・近畿大	西峯　大輔	大・近畿大
	一般女子単	上田　絵美	京・立命館大	速水　永子	京・龍谷大
	一般女子複	三条　美華	大・三洋電機	多谷　郁恵	京・滋賀女短
		下野　鈴佳	大・信愛女短	丸岡　智子	京・滋賀女短
	30才男単	木村　　孝	京・羽根突倶楽部	太田智一郎	京・松下電子部品
	30才男複	小山　　顕	大・松下電器高槻	上地　　稔	大・泉北バード
		国信　建臣	大・松下電器高槻	保田　正人	大・泉北バード
	30才女複	保田真由美	大・大浜クラブ		
		上地友佳子	大・スクラッチ		
	40才男単	楠本　直樹	大・三国クラブ	川口　敏夫	京・東洋電波
	40才男複	川前　明裕	大・フェニックス	川口　敏夫	京・東洋電波
		田中　一寛	大・フェニックス	高安　博正	京・乙訓クラブ
	40才女複	山本　邦子	奈・沙羅クラブ		
		児玉　幸代	奈・沙羅クラブ		
	50才男単	前田　憲宏	滋・ブルーレイク	山本　清二	京・舞鶴クラブ
	50才男複	前田　憲宏	滋・ブルーレイク	森田　幸男	兵・三菱電線工業
		高橋　恒雄	滋・たちばなクラブ	今井　則明	兵・三菱電線工業
	50才女複	土庵　清子	奈・西華クラブ	廣瀬　園子	大・清水クラブ
		福本　房子	奈・春円クラブ	木田美智子	大・清水クラブ
	60才男単	中西　久昌	兵・三木赤とんぼ	久保川正啓	大・Ｙクラブ
	60才男複	久保川正啓	大・Ｙクラブ	中川　文夫	滋・中央クラブ
		廣瀬　隆一	大・北清水クラブ	安澤　良夫	滋・Ｊｏｙｆｕｌ
	混合複	松田　美穂	大・シャトルクラブ	池上　磨恵	京・羽根突倶楽部
		宮田　典明	大・シャトルクラブ	国島　文史	京・羽根突倶楽部

近畿総合バドミントン選手権大会

一般男女単

回	年度	開催地	一般男子単		一般女子単	
			優勝	準優勝	優勝	準優勝
52	2003	兵庫	数野　健太 （滋・比叡山高校）	銭谷　公浩 （大・近畿大学）	多谷　郁恵 （滋・滋賀女子短大）	陳　暁娜 （滋・滋賀女子短大）
53	2004	奈良	山口　公洋 （大・近畿大学）	橋本　敏信 （大・大阪ﾄﾘｯｷｰﾊﾟﾝﾀﾞｰｽ）	多谷　郁恵 （大・三洋電機）	松尾　静香 （大・此花学院高校）
54	2005	和歌山	銭谷　公洋 （大・近畿大学）	山口　公洋 （大・近畿大学）	高野　理沙 （兵・三菱電機）	川下　彩香 （滋・滋賀女子高）
55	2006	滋賀	古川　裕輔 （大・大阪ﾄﾘｯｷｰﾊﾟﾝﾀﾞｰｽ）	立藤　正晃 （京・立命館大学）	木村　早紀 （兵・三菱電機）	土井　杏奈 （滋・滋賀女子高）
56	2007	大阪	古川　裕輔 （大・大阪ﾄﾘｯｷｰﾊﾟﾝﾀﾞｰｽ）	浦窪　文也 （大・近畿大学）	木村　早紀 （兵・三菱電機）	藤澤　美佑紀 （兵・三菱電機）
57	2008	京都	喜多　勝人 （大・近畿大学）	高岡　聖 （京・ファロス）	若杉　文音 （京・立命館大学）	北吉　穂香 （京・立命館大学）
58	2009	兵庫	柳川　智 （京・龍谷大学）	辻　岳尋 （大・近畿大学）	木村　早紀 （兵・三菱電機）	作山　智美 （大・三洋電機）
59	2010	奈良	井谷　和弥 （大・近畿大学）	松浦　晋太郎 （兵・大和製衡）	土井　杏奈 （京・立命館大学）	北吉　穂香 （京・立命館大学）

一般男女複

回	年度	開催地	一般男子複		一般女子複	
			優勝	準優勝	優勝	準優勝
52	2003	兵庫	大滝　裕紀・山口　公洋 （大・近畿大）	数野　健太・早崎　修平 （滋・比叡山高校）	藤井二美可・高野　理沙 （兵・三菱電機）	多谷　郁恵・丸岡　智子 （京・立命館大学）
53	2004	奈良	大滝　裕紀・山口　公洋 （大・近畿大）	早川　賢一・早崎　修平 （滋・比叡山高校）	藤井二美可・橋本　純子 （兵・三菱電機）	古川亜希子・木村ゆかり （京・京都産業大学）
54	2005	和歌山	浦窪　文也・喜多　勝人 （大・近畿大）	大滝　裕紀・山口　公洋 （大・近畿大）	山田　青子・松尾　静香 （大・三洋電機）	通次　尚美・今井　杏莉 （京・立命館大学）
55	2006	滋賀	梅林慎太郎・浦窪　文也 （大・近畿大）	岡田　淳・伊藤　博哲 （兵・倶楽部チャンプ・大和製衡）	田井　紀子・高野　理沙 （兵・三菱電機）	通次　尚美・今井　杏莉 （京・立命館大学）
56	2007	大阪	梅林慎太郎・浦窪　文也 （大・近畿大）	大滝　涼太・川下　剛士 （京・立命館大学）	藤澤美佑紀・中村　紋子 （兵・三菱電機）	田井　紀子・木村　早紀 （兵・三菱電機）
57	2008	京都	喜多　勝人・浦窪　文也 （大・近畿大）	高木孝一郎・末吉　健志 （京・三菱自動車京都）	土井　杏奈・小川　静香 （京・立命館大学）	北吉　穂香・大谷　瞳 （京・立命館大学）
58	2009	兵庫	井谷　和弥・巽　太志 （大・近畿大）	安田　敬之・大滝　涼太 （京・立命館大学）	北吉　穂香・大谷　瞳 （京・立命館大学）	土井　杏奈・小口　晃佳 （京・立命館大学）
59	2010	奈良	川下　剛士・宇野　賢人 （京・立命館大学）	高木孝一郎・喜多　勝人 （京・三菱自動車京都）	土井　杏奈・小口　晃佳 （京・立命館大学）	多谷　郁恵・福万　尚子 （大・三洋電機）

混合

回	年度	開催地	混合	
			優勝	準優勝
52	2003	兵庫	国島　文史・池上　磨恵 （京・羽根突倶楽部）	長井純一郎・北野　晃子 （兵・シャトル・ＰＬＡＤ）
53	2004	奈良	大滝　祐紀・脇坂　郁 （大・近畿大学・三洋電機）	岡田　淳・橋本　純子 （大・兵庫県協会・三菱電機）
54	2005	和歌山	櫻井　勝仁・山田　青子 （大・大阪トリッキーパンダース・三洋電機）	岡田　淳・田井　紀子 （大・倶楽部チャンプ・三菱電機）
55	2006	滋賀	大滝　涼太・新藤　綾 （京・立命館大学）	上地　稔・上地友佳子 （大・泉北バード・スクラッチ）
56	2007	大阪	大滝　涼太・新藤　綾 （京・立命館大学）	南野　慎一・山本　直子 （京・Ｍ－ＣＨＥＭＩＣＡＬ）
57	2008	京都	岡田　淳・草薙　美幸 （大・ホワイトエンジェル）	宮田　典明・渡辺　沙織 （大・シャトルクラブ大阪・なかよしパワーズ）
58	2009	兵庫	岡田　淳・藤井　梓 （大・ホワイトエンジェル）	古川　裕輔・古川　静香 （大・Ｍ－大阪府実連）
59	2010	奈良	土井　寛人・実光　鮎佳 （京・立命館大学）	平池　淳希・内藤　遥 （京・立命館大学）

第２節　近畿総合バドミントン選手権大会（シニアの部）

	平成16年 1月24日～25日	優　勝		準優勝	
		氏名	所属	氏名	所属
第１回 滋賀県	３０才以上男子単	木村　　孝	京・羽根突倶楽部	保田　正人	大・泉北バード
	３０才以上男子複	見市　昌弘	大・飛羽会	上地　　稔	大・泉北バード
		正岡　　毅	大・飛羽会	保田　正人	大・泉北バード
	４０才以上男子単	槙納　　正	大・大阪ガス	加藤　隆弘	兵・高砂BS
	４０才以上男子複	藤原　正彦	兵・西脇クラブ	平　　昌一	兵・新明和工業
		矢田部浩一	兵・むささび会	上田　　稔	兵・ボラーノ
	４５才以上男子単	川口　敏夫	京・東洋電波	幡野　幸夫	大・飛羽会
	４５才以上男子複	中村　一弘	和・東燃ゼネラル	川口　敏夫	京・東洋電波
		田村　昭男	和・ＳＢＣ	高安　博正	京・乙訓クラブ
	５０才以上男子単	片山　修治	大・電電近畿	高谷　　明	大・川崎重工
	５０才以上男子複	北原　健二	大・池田クラブ	徳田　　進	兵・松風
		松村　禎之	大・池田クラブ	高木　謙一	兵・乙訓クラブ
	５５才以上男子単	東　　寿一	大・ミドリBC	山路栄三郎	兵・ボラーノ
	５５才以上男子複	豚座　一利	兵・むささび会	吉田　憲一	京・京都シニア
		山路栄三郎	兵・ボラーノ	河村　広次	京・向日市向陽
	６０才以上男子単	友金　利一	兵・神鋼神戸	中川　友三	兵・川重播州
	６０才以上男子複	廣瀬　隆一	大・北清水クラブ	岸本　晃一	京・ＢWAYクラブ
		久保川正啓	大・Ｙクラブ	楳木　順雄	京・ＢWAYクラブ
	６５才以上男子単	中西　久昌	兵・三木赤とんぼ	安澤　良夫	滋・ジョイフル
	３０才以上女子単	木村　和美	京・羽根突倶楽部	馬場　麻佳	京・ワンダークラブ
	３０才以上女子複	稲田　百合	兵・ｗｉｎｎｉｅ	桜木　佳美	大・スクラッチ
		石見　尚美	兵・ｗｉｎｎｉｅ	上地友佳子	大・スクラッチ
	４０才以上女子複	板谷　悦代	奈・沙羅クラブ	山本　邦子	奈・沙羅クラブ
		笹内　慶子	奈・西華クラブ	児玉　幸代	奈・沙羅クラブ
	４５才以上女子単	山本　邦子	奈・沙羅クラブ	吉平　圭子	兵・フレッシュ三田
	４５才以上女子複	宇山　昌子	滋・湖南レディース	土屋記巳子	大・清水クラブ
		藤上佐千子	滋・湖南レディース	森田須賀子	大・泉が丘クラブ
	５０才以上女子複	土庵　清子	奈・西華クラブ	松田久弐子	大・東大阪MBC
		福本　房子	奈・春円クラブ	森元　恵子	大・東大阪MBC
	５５才以上女子複	的場　幸枝	兵・川西クラブ	神谷　晴美	兵・北神クラブ
		加藤美代子	兵・川西クラブ	苫井　尚子	兵・バンビ
	６０才以上女子複	井上　利子	兵・宝塚クラブ	上田　妙子	奈・春円クラブ
		井上　三知	兵・西宮クラブ	居場　勝子	奈・西華クラブ
	４０才以上混合複	島田　耕二	大・Ｙクラブ	豊中　孝義	奈・郡山水鳥クラブ
		山下恵美子	大・和光クラブ	板谷　悦代	奈・沙羅クラブ
	４５才以上混合複	佐藤　彰彦	大・塩野義製薬	中村　忠男	滋・ＴＢＡ
		平井千嘉子	大・Ｙクラブ	藤上佐千子	滋・湖南レディース
	５０才以上混合複	植田　　寛	奈・奈良クラブ	高木　謙一	京・乙訓クラブ
		福本　房子	奈・春円クラブ	永井　祥美	京・雄飛
	５５才以上混合複	吉田　憲一	京・京都シニア	井口　信夫	兵・三菱電線工業
		藤田　二三	京・京都シニア	湯川　峰子	兵・伊丹クラブ
	６０才以上混合複	廣瀬　隆一	大・北清水クラブ	服部　清彦	兵・パンドラ
		兼田　公子	大・清水クラブ	宇野　康子	兵・西宮クラブ

	平成17年 1月29日～30日	優　勝		準優勝	
		氏名	所属	氏名	所属
第2回 大阪府	３０才以上男子単	林　　潤一	大・泉北バード	村山　弘晃	滋・四日市市役所
	３０才以上男子複	高井　雅也	兵・三木シャトル	木田　琢也	大・大阪フェニックス
		横田　雅士	兵・三木シャトル	山本　圭一	大・大阪フェニックス
	４０才以上男子単	楠本　直樹	大・三国クラブ	藤原　正彦	兵・西脇クラブ
	４０才以上男子複	川口　敏夫	京・東洋電機	川前　明裕	大・大阪フェニックス
		木村　　孝	京・乙訓クラブ	田中　一寛	大・大阪フェニックス
	４５才以上男子単	中角　好男	大・松下電器大阪	福水　一郎	兵・ｐiyopiyo
	４５才以上男子複	佐藤　彰彦	大・塩野義製薬	近藤　修弘	京・ＢWAYクラブ
		宮元芙士夫	大・ＳＯＢ	高安　博正	京・乙訓クラブ
	５０才以上男子単	松見　恒司	京・舞鶴クラブ	山本　清二	京・舞鶴クラブ
	５０才以上男子複	中村　一弘	和・東燃ゼネラル	徳田　　進	京・松風
		田村　昭男	和・wakayama colors	高木　憲一	京・乙訓クラブ
	５５才以上男子単	山路栄三郎	兵・ボラーノ	牛尾　俊秋	兵・アドバンス
	５５才以上男子複	江藤　孝一	大・ＴＷＢ	吉田　憲一	京・京都シニア
		北出　　隆	大・Ｙクラブ	河村　広次	京・向日市向陽
	６０才以上男子単	小島　信治	京・ＢWAYクラブ	岡　　国臣	大・阪南クラブ
	６０才以上男子複	友金　利一	兵・神鋼神戸	片岡　昭勝	大・池田クラブ
		宝来　昭正	兵・神鋼環境	高田　克己	大・箕面クラブ
	６５才以上男子単	中西　久昌	兵・三木赤とんぼ	佐々木繁夫	兵・垂水クラブ
	６５才以上男子複	片山　修治	大・ＮＴＴ大阪	姫野　欣也	大・松下R&B
		高谷　　明	大・大実連	畠中　芳雄	大・大実連
	７０才以上男子単	畠中　芳雄	大・大実連	藤木　隆寛	大・大阪教職員
	３０才以上女子単	谷川佐由里	兵・ボラーノ	田中　幸代	兵・ナナシーズ
	３０才以上女子複	井波　理沙	大・桜ヶ丘クラブ	保田真由美	大・大浜クラブ
		長谷　松代	大・フレンドリーク	上地友佳子	大・クラッチ
	４０才以上女子複	板谷　悦代	奈・沙羅クラブ	山本　邦子	奈・沙羅クラブ
		笹内　慶子	奈・西華クラブ	児玉　幸代	奈・沙羅クラブ
	４５才以上女子単	山本　邦子	奈・沙羅クラブ	西林　知子	大・岸和田クラブ
	４５才以上女子複	宇山　昌子	滋・湖南レディース	土屋記巳子	大・清水クラブ
		藤上佐千子	滋・湖南レディース	森田須賀子	大・泉が丘クラブ
	５０才以上女子複	森本　恵子	大・東大阪MBC	宿里　和江	兵・西宮
		松田久弐子	大・東大阪MBC	澄川　稔子	兵・明石高専教員
	５５才以上女子複	土庵　清子	奈・西華クラブ	的場　幸枝	兵・川西クラブ
		森田　洋子	奈・西華クラブ	加藤美代子	兵・川西クラブ
	６５才以上女子複	井上　利子	兵・宝塚クラブ	伊村　孝子	大・神津クラブ
		井上　三知	兵・西宮クラブ	高野久美子	大・八尾クラブ
	４０才以上混合複	島田　耕二	大・Ｙクラブ	小山　恵美	兵・ブルーシャンス
		山下恵美子	大・和光クラブ	羽鳥　正美	兵・ブルーシャンス
	４５才以上混合複	中山広一郎	京・大久保BC	掛水　孝雄	京・平安クラブ
		小原　純子	京・大久保BC	掛水　佳子	京・平安クラブ
	５０才以上混合複	松浪　信治	大・ＳＢＣ	中村　　昇	兵・むささび会
		松田久弐子	大・東大阪MBC	原岡かずえ	兵・あじさい
	５５才以上混合複	北出　　隆	大・Ｙクラブ	野田　修平	京・京大職員
		木田美智子	大・豊中シスターズ	吉田　明美	京・つくし
	６０才以上混合複	小林　勝昭	兵・神鋼神戸	服部　清彦	兵・パンドラ
		梅田ふみこ	兵・宝塚	宇野　康子	兵・西宮クラブ

	平成18年 1月28日～29日	優　勝		準優勝	
		氏名	所属	氏名	所属
第３回 京都府	３０才以上男子単	林　　潤一	大・泉北バード	村山　弘晃	滋・四日市市役所
	３０才以上男子複	小山　　顕	大・松下電器高槻	高井　雅也	兵・三木シャトル
		虻川　友光	大・三国クラブ	横田　雅士	兵・三木シャトル
	４０才以上男子単	藤原　正彦	兵・西脇クラブ	槇納　　正	大・大阪ガス平野
	４０才以上男子複	杉本　吉男	京・ＢＷＡＹクラブ	野牧　喜幸	大・ＳＯＢ
		太田智一郎	京・パナソニック京都	西垣　隆史	大・ＳＯＢ
	４５才以上男子単	福水　一郎	兵・ｐｉｙｏｐｉｙｏ	中角　好男	大・松下電器大阪
	４５才以上男子複	近藤　修弘	京・ＢＷＡＹクラブ	佐藤　彰彦	大・塩野義製薬
		高安　博正	京・乙訓クラブ	宮元芙士夫	大・ＳＯＢ
	５０才以上男子単	小梶　隆司	滋・東近江市役所	川口　敏夫	京・東洋電波
	５０才以上男子複	中村　一弘	和・東燃ゼネラル	川前　明裕	大・大阪フェニックス
		田村　昭男	和・ｗａｋａｙａｍａ ｃｏｌｏｒｓ	弓削　義雄	大・なかよしパワーズ
	５５才以上男子単	山路栄三郎	兵・ボラーノ	牛尾　俊秋	兵・アドバンス
	５５才以上男子複	松浪　新治	大・ＳＢＣ	木村　健治	京・シャトルファイブ
		島田　耕二	大・Ｙクラブ	平井　隆夫	京・シャトルファイブ
	６０才以上男子単	冨田　健一	滋・日本ＩＢＭ	杉谷　義明	大・九中クラブ
	６０才以上男子複	冨田　健一	滋・日本ＩＢＭ	片岡　昭勝	大・池田クラブ
		藤上　良英	滋・滋賀教員	高田　克己	大・箕面クラブ
	６５才以上男子単	中西　久昌	兵・三木赤とんぼ	佐々木繁夫	兵・垂水クラブ
	６５才以上男子複	中西　久昌	兵・三木赤とんぼ	岸本　晃一	京・グラッチェ
		神谷　　衛	兵・北神クラブ	楳木　順雄	京・グラッチェ
	７０才以上男子単	畠中　芳雄	大・大実連	安澤　良夫	滋・ジョイフル
	３０才以上女子単	木村　和美	京・羽根突倶楽部	上地友佳子	大・スクラッチ
	３０才以上女子複	長谷　松代	大・フレンドリーク	保田真由美	大・大浜クラブ
		常井　理佐	大・桜ヶ丘クラブ	上地友佳子	大・クラッチ
	４０才以上女子複	勝山　直子	滋・湖翔クラブ	稲田　百合	兵・ｗｉｎｎｉｅ
		松井　明子	滋・湖翔クラブ	石見　尚美	兵・ｗｉｎｎｉｅ
	４５才以上女子単	山本　邦子	奈・沙羅クラブ	西林　知子	大・岸和田クラブ
	４５才以上女子複	宇山　昌子	滋・湖南レディース	土屋記巳子	大・清水クラブ
		藤上佐千子	滋・湖南レディース	森田須賀子	大・泉が丘クラブ
	５０才以上女子複	福本　房子	奈・春円クラブ	藤井　五月	大・高嶺クラブ
		大門与吏子	奈・春円クラブ	森永　恭子	大・高嶺クラブ
	５５才以上女子複	木田美智子	大・豊中シスターズ	神谷　晴美	兵・北神クラブ
		西澤さつき	大・豊中シスターズ	苫井　尚子	兵・バンビ
	６０才以上女子複	土庵　清子	奈・西華	兼田　公子	大・清水クラブ
		森田　洋子	奈・西華	吉田　玲子	大・せっつくらぶ
	６５才以上女子複	井上　利子	兵・宝塚クラブ	伊村　孝子	大・神津クラブ
		井上　三知	兵・西宮クラブ	高野久美子	大・八尾クラブ
	４０才以上混合複	柳瀬　憲利	京・平安クラブ	百田　和正	兵・フレッシュ三田
		柳瀬　和子	京・平安クラブ	大東恵里子	兵・三田ウィングス
	４５才以上混合複	掛水　孝雄	京・平安クラブ	奥田　和彦	京・平安クラブ
		掛水　佳子	京・平安クラブ	奥田　康子	京・平安クラブ
	５０才以上混合複	中村　忠男	滋・ＴＢＡ	永井　　博	京・堀場製作所
		樋口　京子	滋・湖南レディース	永井　祥美	京・雄飛
	５５才以上混合複	北出　　隆	大・Ｙクラブ	野田　修平	京・京大職員
		木田美智子	大・豊中シスターズ	吉田　明美	京・つくし
	６０才以上混合複	廣瀬　隆一	大・北清水クラブ	久保川正啓	大・Ｙクラブ
		兼田　公子	大・清水クラブ	吉田　玲子	大・せっつくらぶ

	平成19年 1月27日～28日	優　勝		準優勝	
		氏名	所属	氏名	所属
第4回 兵庫県	３０才以上男子単	林　　潤一	大・泉北バード	北辻　和孝	大・大阪フェニックス
	３０才以上男子複	林　　潤一	大・泉北バード	長井純一郎	兵・シャトル
		虻川　友光	大・三国クラブ	中畑　裕行	兵・シャトル
	４０才以上男子単	木村　　孝	京・原谷クラブ	太田智一郎	京・パナソニック京都
	４０才以上男子複	楠本　直樹	大・三国クラブ	蔵本　英二	大・阪急電鉄
		佐野　　亨	大・ＳＢＣ	大野　孝二	大・阪急電鉄
	４５才以上男子単	野牧　喜幸	大・ＳＯＢ	藤原　正彦	兵・西脇クラブ
	４５才以上男子複	佐藤　彰彦	大・塩野義製薬	近藤　修弘	京・ＢＷＡＹクラブ
		宮元芙士夫	大・ＳＯＢ	高安　博正	京・乙訓クラブ
	５０才以上男子単	幡野　幸夫	大・飛羽会	坂本　昌信	兵・姫路ハネツキ
	５０才以上男子複	中村　一弘	和・東燃ゼネラル	川前　明裕	大・大阪フェニックス
		田村　昭男	和・wakayama colors	弓削　義雄	大・なかよしパワーズ
	５５才以上男子単	山本　清二	京・舞鶴クラブ	徳田　　進	京・松風
	５５才以上男子複	塩飽　　初	兵・新日鐵広畑	高木　謙一	京・乙訓クラブ
		牛尾　俊秋	京・松風	徳田　　進	京・松風
	６０才以上男子単	小原　　武	兵・三木赤とんぼ	山田　雅弘	京・京都シニア
	６０才以上男子複	冨田　健一	滋・日本IBM	片岡　昭勝	大・池田クラブ
		藤上　良英	滋・栗東市教育委員会	高田　克己	大・箕面クラブ
	６５才以上男子単	佐々木繁夫	兵・垂水クラブ	四方　光市	大・池田クラブ
	６５才以上男子複	梅田　誉男	京・舞鶴クラブ	岸本　晃一	京・グラッチェ
		森本　　進	京・舞鶴クラブ	楳木　順雄	京・グラッチェ
	３０才以上女子単	木村　和美	京・原谷クラブ	八島杜申子	京・プレンティ
	３０才以上女子複	保田真由美	大・大浜クラブ	畑末絵理香	兵・川西
		上地友佳子	大・クラッチ	大東恵里子	兵・三田ウィングス
	４０才以上女子単	外村　和美	兵・北神クラブ	柴田　悦子	兵・キャッツ
	４０才以上女子複	稲田　百合	兵・ｗｉｎｎｉｅ	山西　佳子	兵・宝塚
		高垣　尚美	兵・ｗｉｎｎｉｅ	佐伯　悦恵	兵・宝塚
	４５才以上女子単	西林　知子	大・岸和田クラブ	久保　悦子	兵・ボラーノ
	４５才以上女子複	山本　邦子	奈・沙羅クラブ	土屋記巳子	大・ＧＡＮＢＡＲＯ
		児玉　幸代	奈・沙羅クラブ	森田須賀子	大・ＧＡＮＢＡＲＯ
	５０才以上女子複	福本　房子	奈・春円クラブ	松田久弐子	大・東大阪MBC
		大門与吏子	奈・春円クラブ	森本　恵子	大・東大阪MBC
	５５才以上女子複	木田美智子	大・豊中シスターズ	神谷　晴美	兵・北神クラブ
		岡田　宏美	大・熊取クラブ	苫井　尚子	兵・バンビ
	６０才以上女子複	兼田　公子	大・清水クラブ	的場　幸枝	兵・川西
		吉田　玲子	大・せっつくらぶ	梅田ふみ子	兵・宝塚
	６５才以上女子複	井上　利子	兵・宝塚クラブ	伊村　孝子	大・神津クラブ
		井上　三知	兵・西宮クラブ	高野久美子	大・八尾クラブ
	４０才以上混合複	小山　恵美	兵・ブルーシャンス	高垣　尚美	兵・ｗｉｎｎｉｅ
		羽鳥　正美	兵・ブルーシャンス	高垣　達洋	兵・三木シャトル
	４５才以上混合複	奥田　和彦	京・平安クラブ	平井千嘉子	大・Ｙクラブ
		奥田　康子	京・平安クラブ	佐藤　彰彦	大・塩野義製薬
	５０才以上混合複	原岡かずえ	兵・あじさい	市川　恵子	奈・高田ライラック
		中村　　昇	兵・むささび会	梅本　　彰	奈・高田ライラック
	５５才以上混合複	北出　　隆	大・Ｙクラブ	阿閉みよ子	滋・さつきクラブ
		木田美智子	大・豊中シスターズ	吉原　和夫	滋・長浜クラブ
	６０才以上混合複	神谷　晴美	兵・北神クラブ	廣瀬　隆一	大・北清水クラブ
		服部　清彦	兵・ＰＡＮＤＯＲＡ	兼田　公子	大・清水クラブ

	平成20年 2月2日～3日	優　勝		準優勝	
		氏名	所属	氏名	所属
第5回 奈良県	３０才以上男子単	高井　雅也	兵・三木シャトル	林　　潤一	大・泉北バード
	３０才以上男子複	児玉　貴之 酒井　将之	兵・三菱電機伊丹	林　　潤一 虻川　友光	大・泉北バード 大・三国クラブ
	４０才以上男子単	山本　裕幸	京・教職員クラブ	田中　隆行	大・プレンティ
	４０才以上男子複	羽鳥　正美 川北　敏也	兵・ブルーシャンス 兵・Super Bird	太田智一郎 山岸　武泰	京・パナソニック京都
	４５才以上男子単	野牧　喜幸	大・ＳＯＢ	大野　孝二	大・阪急電鉄
	４５才以上男子複	近藤　修弘 高安　博正	京・ＢＷＡＹクラブ 京・乙訓クラブ	佐藤　彰彦 宮元芙士夫	大・塩野義製薬 大・ＳＯＢ
	５０才以上男子単	川口　敏夫	京・ＰＳＣＤＤ	小梶　隆司	滋・東近江市役所
	５０才以上男子複	川前　明裕 弓削　義雄	大・大阪フェニックス 大・なかよしパワーズ	中村　一弘 田村　昭男	和・東燃ゼネラル 和・倶楽部蝶
	５５才以上男子単	前田　憲宏	滋・ブルーレイク	松村　禎之	大・池田クラブ
	５５才以上男子複	高木　謙一 徳田　　進	京・乙訓クラブ 京・松風	前田　憲宏 高橋　恒雄	滋・ブルーレイク 滋・たちばなクラブ
	６０才以上男子単	山路栄三郎	兵・ボラーノ	冨田　健一	滋・日本IBM
	６０才以上男子複	服部　清彦 山路栄三郎	兵・ＰＡＮＤＯＲＡ 兵・ボラーノ	瀬戸　正廣 和田　　優	和・東和クラブ 和・倶楽部蝶
	６５才以上男子単	岡　　国臣	大・阪南クラブ	中西　久昌	兵・三木赤とんぼ
	６５才以上男子複	中西　久昌 神谷　　衛	兵・三木赤トンボ 兵・北神クラブ	姫野　欣也 岡　　国臣	大・松下電器R&D 大・阪南クラブ
	７０才以上男子単	佐々木繁夫	兵・垂水クラブ	高山　道喜	兵・垂水クラブ
	７０才以上男子複	片山　修治 高谷　　明	大・大阪府実連	佐々木繁夫 高山　道喜	兵・垂水クラブ
	３０才以上女子単	木村　和美	京・原谷クラブ	谷川佐由里	兵・ボラーノ
	３０才以上女子複	福島　知子 成平　　薫	大・泉ヶ丘クラブ 大・門真クラブ	保田真由美 上地友佳子	大・大浜クラブ 大・クラッチ
	４０才以上女子単	柴田　悦子	兵・キャッツ	片岡　美穂	兵・ブルーシャンス
	４０才以上女子複	稲田　百合 高垣　尚美	兵・ｗｉｎｎｉｅ	戸田　佳江 小高　由香	兵・西播クラブ 兵・西宮
	４５才以上女子単	秋月　能子	兵・ＣＬＩＭＡＸ	西林　知子	大・ふるーる
	４５才以上女子複	山西　佳子 佐伯　悦恵	兵・宝塚	辻　美香恵 洞山　和子	兵・宝塚
	５０才以上女子単	安達真由美	京・スイートガールズ	地神　京子	兵・アドバンス
	５０才以上女子複	常行　悦子 広瀬登喜子	大・豊中シスターズ	古賀千悦子 松井真理子	大・ＧＡＮＢＡＲＯ 大・中之島クラブ
	５５才以上女子複	森元　恵子 松田久弐子	大・東大阪M.B.C.	土庵　清子 福本　房子	奈・西華 奈・春円
	６０才以上女子複	的場　幸枝 加藤美代子	兵・川西	神谷　晴美 苫井　尚子	兵・北神クラブ 兵・バンビクラブ
	４０才以上混合複	戸田　佳江 永井　義人	兵・西播クラブ 兵・シャトル	高垣　尚美 高垣　達洋	兵・Winnie 兵・三木シャトル
	４５才以上混合複	石崎有紀子 石崎　一男	大・清水クラブ 大・北清水クラブ	藤井　恵子 池本　和彦	京・チームワーク
	５０才以上混合複	井上みどり 明野　　寿	大・フレンドリークラブ 大・大阪府実連	田原　貞子 中野　隆夫	大・河内長野クラブ 大・ＦＢＣ
	５５才以上混合複	松田久弐子 松波　新治	大・東大阪M.B.C. 大・ＳＢＣ	木田 美智子 北出　　隆	大・豊中シスターズ 大・Ｙクラブ
	６０才以上混合複	神谷　晴美 服部　清彦	兵・北神クラブ 兵・ＰＡＮＤＯＲＡ	西川　公子 井口　信夫	兵・伊丹 兵・三菱電線工業
	６５才以上混合複	兼田　公子 廣瀬　隆一	大・清水クラブ 大・北清水クラブ	石丸　桂子 楳木　順雄	京・ドリブン 京・グラッチェ

	平成21年	優　勝		準優勝	
	1月31日～2月1日	氏名	所属	氏名	所属
第6回 和歌山県	３０才以上男子単	赤川　誠	大・Ｙクラブ	堀田　又治	大・ミズノ
	３５才以上男子単	林　潤一	大・泉北バード	野田　雅雄	大・泉北バード
	３５才以上男子複	平岡　篤司 千田　宏之	奈・奈良県教職員	高井　雅也 横田　雅士	兵・三木シャトル
	３０才以上男子複	林　潤一 虻川　友光	大・泉北バード 大・三国クラブ	野田　雅雄 千菊　浩二	大・泉北バード
	４０才以上男子単	田中　隆行	大・プレンティ	木田　英明	兵・大和製衡
	４０才以上男子複	田中　隆行 棟居　長行	大・プレンティ	山本　裕幸 高平　秀揮	京・教職員
	４５才以上男子単	楠本　直樹	大・三国クラブ	野牧　喜幸	大・ＳＯＢ
	４５才以上男子複	佐藤　彰彦 宮本芙士夫	大・塩野義製薬 大・ＳＯＢ	田中　善治 中島　弘之	京・乙訓クラブ
	５０才以上男子単	川口　敏夫	京・ＰＳＣＤＤ	中角　好男	大・パナソニック大阪
	５０才以上男子複	中村　一弘 田村　昭男	和・東燃ゼネラル 和・wakayama colors	川前　明裕 弓削　義雄	大・大阪フェニックス 大・なかよしパワーズ
	５５才以上男子単	山本　清二	京・舞鶴クラブ	徳田　進	京・松風
	５５才以上男子複	中村　昇 山住　栄	兵・むささび会 兵・ＪＦＥＣＬＵＢ	塩飽　初 牛尾　俊秋	兵・Ｐiyopiyo 兵・アドバンス
	６０才以上男子単	東　寿一	大・ミドリＢＣ	牛尾　俊秋	兵・アドバンス
	６０才以上男子複	河村　広治 吉田　憲一	京・京都シニア	冨田　健一 藤上　良英	滋・ＪＣ野洲バド
	６５才以上男子単	岡　国臣	大・阪南クラブ	友金　利一	兵・神鋼神戸
	６５才以上男子複	片岡　昭勝 高田　克己	大・池田クラブ 大・箕面クラブ	神谷　隆三 山田　雅弘	京・向日市向陽 京・京都シニア
	７０才以上男子単	中西　久昌	兵・三木赤とんぼ	佐々木繁夫	兵・垂水クラブ
	７０才以上男子複	姫野　欣也 片山　修治	大・松下電器R&D 大・大阪実連	畠中　芳雄 高谷　明	大・大阪実連
	３０才以上女子単	南村　真紀	和・Ｊewel	秋本　友子	京・ＡJCWizards
	３０才以上女子複	常井　理佐 長谷　松代	大・桜ヶ丘クラブ 大・フレンドリークラブ	杉本由美子 坂本　えみ	奈・水鳥
	３５才以上女子複	福島　知子 成平　薫	大・泉ヶ丘クラブ 大・門真クラブ	保田真由美 上地友佳子	大・大浜クラブ 大・スクラッチ
	４０才以上女子単	谷川佐由里	兵・ボラーノ	山形　一美	京・平安クラブ
	４０才以上女子複	稲田　百合 高垣　尚美	兵・ｗｉｎｎｉｅ 兵・ｗｉｎｎｉｅ	山下　恵美 岸本　雅世	大・和光クラブ
	４５才以上女子単	外村　和美	兵・北神クラブ	弓矢美妃子	大・岸和田クラブ
	４５才以上女子複	板谷　悦代 笹内　慶子	奈・水鳥 奈・春円	山西　佳子 佐伯　悦恵	兵・宝塚
	５０才以上女子単	安達真由美	京・地位無０９	地神　京子	兵・アドバンス
	５０才以上女子複	土屋記巳子 森田須賀子	大・ＧANBARO	中村由美子 小池　清子	奈・オーク生駒 奈・ペガサス
	５５才以上女子複	森元　恵子 松田久弐子	大・東大阪M.B.C.	上田　美穂子 原岡かずえ	兵・Ｓuper bird 兵・あじさい
	６０才以上女子複	的場　幸枝 加藤美代子	兵・川西	住井　則子 出路美喜子	滋・守山MBC 滋・晴嵐
	３０才以上混合複	千菊　佳美 千菊　浩二	大・スクラッチ 大・泉北バード	高橋　泰子 村上　哲也	滋・ＳILVER SHUTTLE
	３５才以上混合複	藤本　利恵 川北　敏也	兵・川西 兵・Ｓuper Bird	宮城由美子 中村　寛	和・Ｊewel 和・那賀クラブ
	４０才以上混合複	芹野　啓子 八十　友昭	兵・西播クラブ	西田佳代子 田中　直樹	京・いちごハウス
	４５才以上混合複	板谷　悦代 本郷　毅彦	奈・水鳥 奈・田原本	石崎有紀子 石崎　一男	大・清水クラブ 大・北清水クラブ
	５０才以上混合複	北原美恵子 松村　禎之	大・松ヶ丘クラブ 大・池田クラブ	藤田　咲美 坂本　昌信	兵・姫路 兵・姫路ハネツキ
	５５才以上混合複	松田久弐子 松浪　新治	大・東大阪M.B.C. 大・ＳＢＣ	澄川　稔子 塩飽　初	兵・明石高専教員 兵・Ｐiyopiyo
	６０才以上混合複	藤田　二三 吉田　憲一	京・京都シニア	中村　悦子 吉原　和夫	滋・M.F.C.

	平成22年 1月30日～31日	優　勝		準優勝	
		氏名	所属	氏名	所属
第７回 滋賀県	３０才以上男子単	荒木　直人	大・勝山OB会	秋本　忠輝	京・舞鶴クラブ
	３０才以上男子複	林　　潤一	大・泉北バード	野田　雅雄	大・泉北バード
		虻川　友光	大・三国クラブ	千菊　浩二	
	３５才以上男子単	林　　潤一	大・泉北バード	仲田　真基	大・池田クラブ
	３５才以上男子複	高井　雅也	兵・三木シャトル	宇野　忠男	滋・東レ
		横田　雅士		宮崎　誠二	
	４０才以上男子単	佐藤　俊哉	大・阪急電鉄	廣瀬　　敬	京・三菱自動車京都
	４０才以上男子複	平岡　篤司	奈・奈良県教職員	川北　敏也	兵・Super Bird
		千田　宏之		藤原　光雄	兵・難波クラブ
	４５才以上男子単	楠本　直樹	大・豊中クラブ	大野　孝二	大・阪急電鉄
	４５才以上男子複	羽鳥　正美	兵・ブルーシャンス	岸本　俊博	大・ＳＢＣ
		江口　武志	兵・ＮANASEA'Ｚ	岡　　充洋	
	５０才以上男子単	川口　敏夫	京・ＰSCDD	福水　一郎	兵・Piyopiyo
	５０才以上男子複	近藤　修弘	京・ＢWAYクラブ	川前　明裕	大・大阪フェニックス
		高安　博正	京・乙訓クラブ	弓削　義雄	大・なかよしパワーズ
	５５才以上男子単	松見　恒司	京・舞鶴クラブ	高木　謙一	京・乙訓クラブ
	５５才以上男子複	田村　昭男	和・Ｊewel	掛水　一男	京・平安クラブ
		中村　一弘		高木　　聡	京・ＢWAYクラブ
	６０才以上男子単	牛尾　俊秋	兵・ＡDVANCE	東　　寿一	大・ミドリBC
	６０才以上男子複	河村　宏次	京・京都シニア	財前　利信	兵・零ーZERO-
		吉田　憲一		河合　信也	兵・神鋼高砂
	６５才以上男子単	岡　　国臣	大・阪南クラブ	友金　利一	兵・神鋼神戸
	６５才以上男子複	片岡　昭勝	大・池田クラブ	神谷　隆三	京・向日市向陽
		高田　克巳	大・箕面クラブ	山田　雅弘	京・京都シニア
	７００才以上男子単	中西　久昌	兵・三木赤とんぼ	佐々木繁夫	兵・垂水クラブ
	７０才以上男子複	佐々木繁夫	兵・垂水クラブ	姫野　欣也	大・ＰanasonicR&D
		滝本　嘉美	兵・ウエストシルバー	片山　修治	大・大阪府実連
	３０才以上女子単	上山あずみ	大・ＦIORE	津田　郁子	京・ＨORIBA
	３０才以上女子複	畑末絵理香	兵・川西	常井　理佐	大・桜ヶ丘クラブ
		河田　友美	兵・緑ヶ丘	長谷　松代	大・フレンドリークラブ
	３５才以上女子単	秋本　友子	京・ＡJCWizards	北川　千華	滋・虎之介
	３５才以上女子複	保田真由美	大・大浜クラブ	宮脇　美保	京・雄飛
		上地友佳子	大・クラッチ	徳本　直子	
	４０才以上女子単	外村　和美	兵・北神クラブ	柴田　悦子	兵・キャッツ
	４０才以上女子複	本郷　寿美	滋・湖南	大東恵里子	兵・三田ウイングス
		近藤　晴美		高垣　尚美	兵・あい&あい
	４５才以上女子単	弓矢美妃子	大・岸和田クラブ	外村　和美	兵・北神クラブ
	４５才以上女子複	板谷　悦代	奈・水鳥クラブ	山西　佳子	兵・宝塚
		笹内　慶子	奈・春円クラブ	佐伯　悦恵	兵・宝塚
	５０才以上女子単	西林　知子	大・ふるーる	安達真由美	京・地位無０９
	５０才以上女子複	北原美恵子	大・桜ヶ丘クラブ	辻　美香恵	兵・宝塚
		井上みどり	大・フレンドリークラブ	洞山　和子	
	５５才以上女子複	藤井　五月	大・高嶺クラブ	木田美智子	大・豊中シスターズ
		森永　恭子		和中多美子	大・スワロウ
	６０才以上女子複	高木美紀子	大・泉ヶ丘クラブ	的場　幸枝	兵・川西
		歌野　怜子	大・ＯＳＬ	加藤美代子	
	３０才以上混合複	千菊　佳美	大・スクラッチ	畑末絵里香	兵・川西
		千菊　浩二	大・泉北バード	長井純一郎	兵・シャトル
	３５才以上混合複	藤本　利恵	兵・伊丹	横田　貴子	兵・バドラー
		川北　敏也	兵・Super Bird	横田　雅士	兵・三木シャトル
	４０才以上混合複	保田真由美	大・大浜クラブ	西田佳代子	京・いちごハウス
		徳田　喜芳	大・鴨谷グース	田中　直樹	京・いちごハウス羽遊
	４５才以上混合複	吉崎美智子	滋・Ｅ.Ｏ.Ｊ.Ｐ.	小島　紀子	滋・ＴＢＡ
		保科　正浩	滋・堅田	中村　忠男	
	５０才以上混合複	宇山　昌子	滋・Ｅ.Ｏ.Ｊ.Ｐ.	青木　善美	滋・ジョイフル
		増田伊知郎	滋・大津市役所	横山　昌弘	滋・ＴＢＡ
	５５才以上混合複	乃美喜代子	兵・宝塚	出路美喜子	滋・晴嵐クラブ
		濱村　政義	兵・三菱電線工業	岡井信太郎	滋・日吉台クラブ
	６０才以上混合複	藤田　二三	京・京都シニア	神谷　晴美	兵・北神クラブ
		吉田　憲一		服部　清彦	兵・ＰANDORA
	６５才以上混合複	丸　マユミ	兵・あじさい	梅田ふみ子	兵・宝塚
		藤江　久善	兵・垂水クラブ	小林　勝昭	兵・神鋼神戸

第３節　国民体育大会
近畿ブロック大会バドミントン競技

	種　別	1　　位	2　　位
滋賀国体 大津市 昭和56年度 8月30日	成年男子	大阪府(和田泰寛) 松口　金彦・宮崎　克巳・仲尾　信一	奈良県(木村　　寛) 杉本　重幸・吉岡　伸浩・本郷　毅彦
	成年女子	大阪府(植田　勝実) 河村　茂美・平　久美子・葛西　明子	兵庫県(塩飽　　初) 頼　　真弓・植田　光子・雑貨富士子
	少年女子	大阪府(片岡　輝明) 新木　千織・押切　美喜・松田太嘉子	兵庫県(川原崎　敏) 谷沢　信子・阿部　正子・阿部　茂子
島根国体 和歌山市 昭和57年度 8月21～22日	成年男子	大阪府(和田泰寛) 松口　金彦・宮崎　克巳・冨田　章夫	滋賀県(西村　金治) 西村　龍夫・北橋　　進・増田伊知郎
	成年女子	大阪府(四方　光市) 河村　茂美・平　久美子・国奥美智子	滋賀県(西堀　　武) 青山　寿美・石見　洋子・西村美千代
	少年女子	滋賀県(藤上　良信) 西川　　勉・辻田　泰昌・杉本　吉男	奈良県(武田　博利) 中谷　敏昭・見市　昌弘・福田　　誠
群馬国体 生駒市 昭和58年度 8月20～21日	成年女子	大阪府(山本　次生) 葛西　明子・植田日出子・冨田美千代	奈良県(杉本　重幸) 松田　全代・小林　万理・横山ナルミ
	少年男子	奈良県(武田　博利) 見市　昌弘・村山　友二・小野満　哲	兵庫県(北中　英武) 佐藤　　浩・松本　泰典・村山　喜洋
	少年女子	大阪府(片岡　輝明) 鴻原　春美・宮崎　正美・新木　貴子	奈良県(茶谷　正美) 水本真理子・大石千代美・辻本亜希子
奈良国体 大津市 昭和59年度 8月25～26日	成年男子	大阪府(和田　泰寛) 銭谷　欽治・松口　金彦・森下　一夫	滋賀県(中村　　亨) 西村　龍夫・西村　金治・北橋　　進
	少年男子	滋賀県(藤上　良信) 江藤　裕樹・中川　　健・中川　　康	兵庫県(三宅　克重) 志方　　光・徳山　輝之・木村　秀人
	少年女子	大阪府(片岡　輝明) 新木　貴子・山田　陽子・今村　　薫	兵庫県(川原崎　敏) 森園　安代・白井　洋子・橋本　　薫
鳥取国体 大阪府 昭和60年度 8月17～18日	成年男子	大阪府(石橋　三彦) 森下　一夫・冨田　章夫・谷田　尚嗣	滋賀県(西村　龍夫) 西村　金治・北橋　　進・増田伊知郎
	成年女子	大阪府(月原　　朗) 高峰　和子・星　　和枝・平山美恵子	奈良県(野村　安忠) 吉川　紀子・尾崎　秀子・梅本　美粧
	少年女子	大阪府(片岡　輝明) 今村　　薫・片岡　明子・利川　貴子	滋賀県(濱　久美雄) 北浦　道代・池田　芳恵・片嶺　典子
山梨国体 長岡京市 昭和61年度 8月30～31日	成年男子	大阪府(伊勢田善昭) 森下　一夫・谷田　尚嗣・保科　正浩	京都府(斎藤　篤司) 村尾　　勉・三橋　利彦・平井　　悟
	成年女子	大阪府(宮崎　克巳) 田島　志乃・谷地　春子・小池由扶子	滋賀県(古川　正行) 川島　直子・青山　寿美・中井　幸恵
	少年男子	滋賀県(藤上　良信) 山口　哲浩・田村　昌義・鈴木草麻生	大阪府(近藤　一生) 常山　兼二・松本　　周・藤原　英佳
沖縄国体 神戸市 昭和62年度 8月29～30日	成年女子	大阪府(宇治　　収) 磯崎　照枝・星野由美子・秋元美佐緒	兵庫県(矢賀　雅人) 白井　洋子・大村　和代・萩生美奈子
	少年男子	滋賀県(藤上　良信) 平井　　肇・小河原　崇・鈴木草麻生	大阪府(近藤　一生) 藤井　真治・高橋　康司・白浜　智海
	少年女子	大阪府(片岡　輝明) 南里　高子・岩田　良子・水井妃佐子	滋賀県(服部　博司) 河村　祐子・田中　晴美・西山　幸恵

	種　別	1　　位	2　　位
京都国体 和歌山市 昭和63年度 8月27～28日	成年男子	大阪府(四方　光市) 谷田　尚嗣・奥野　　勉・早水　栄治	滋賀県(小田　隆司) 西村　龍夫・西村　金治・北橋　　進
	少年男子	滋賀県(藤上　良信) 平井　　肇・小河原　崇・三宅　恒久	大阪府(近藤　一生) 伊藤　義夫・荒木　　徹・陣内　正樹
	少年女子	大阪府(片岡　輝明) 岩田　良子・新木美志子・水井妃佐子	兵庫県(川原崎　敏) 吉田　悦子・小泉　友紀・井上ひろ子
北海道国体 田原本町 平成元年 8月19～20日	成年男子	京都府(中村　　稔) 山本　裕幸・村尾　　勉・杉本　吉男	大阪府(岡上　充仁) 谷田　尚嗣・奥野　　勉・早水　栄治
	成年女子	大阪府(宇治　　収) 今村　　薫・奥山　保子・秋元美佐緒	兵庫県(矢賀　雅人) 大村　和代・清水　浩美・鵜木千加子
	少年女子	大阪府(片岡　輝明) 坂田　美佐・利川　三貴・水井妃佐子	兵庫県(川原崎　敏) 小泉　友紀・中西　理子・安原貴美子
福岡国体 大津市 平成２年 8月25～26日	成年男子	大阪府(冨田　章夫) 辻田　泰昌・奥野　　勉・早戸　敬雄	京都府(中村　　稔) 山本　裕幸・村尾　　勉・杉本　吉男
	成年女子	大阪府(銭谷　欽治) 今村　　薫・奥山　保子・三ツ川貴子	兵庫県(矢賀　雅人) 清水　浩美・鵜木千加子　萩生美奈子
	少年男子	大阪府(和田　泰寛) 岸田　明宏・上瀧　賢二・片岡詔市郎	滋賀県(小田　知則) 平野　耕司・桑野　晃一・杉田　満広
石川国体 高槻市 平成３年 8月24～25日	成年女子	大阪府(宮崎　克巳) 今村　　薫・磯崎　京美・村田　治子	兵庫県(矢賀　雅人) 清水　浩美・鵜木千加子・久保田美可
	少年男子	大阪府(和田　泰寛) 藤井　茂雄・秋吉　広行・片岡詔市郎	奈良県(錦　　秀和) 河村　一年・小谷　範利・平　　英文
	少年女子	大阪府(片岡　輝明) 松田　洋子・大田　貴子・水井　泰子	滋賀県(濱　久美雄) 浅尾　陽子・田中佐妃子・田中のり子
山形国体 長岡京市 平成４年 8月22～23日	成年男子	大阪府(松井　峰生) 辻田　泰昌・今井　彰宏・鈴木草麻生	奈良県(平　　敏明) 疋田　勉之・村山　友二・大谷　誠二
	少年男子	滋賀県(藤上　良信) 宮原　一郎・多久島　誠・杉岡　拓弥	大阪府(青木　弘行) 斎藤　　俊・有田　浩史・中田　耕司
	少年女子	大阪府(西上　正一) 大田　貴子・水井　泰子・川口　桐香	京都府(宇山　保夫) 乗富　美穂・竹中　友美・中山左知子
香川国体 宝塚市 平成５年 8月28～29日	成年男子	大阪府(松井　峰生) 谷田　尚嗣・植村　昭彦・常山　兼二	奈良県(山下　幸二) 村松　　博・村山　友二・大谷　誠二
	成年女子	大阪府(銭谷　欽治) 村山　直美・大田　貴子・西田美由紀	兵庫県(松本　泰典) 井上　　香・鬼塚　知美・森川　和枝
	少年女子	大阪府(西上　正一) 水井　泰子・川口　桐香・鬼池めぐみ	滋賀県(濱　久美雄) 森下　雅美・内田　裕子・数野　二三
愛知国体 和歌山市 平成６年 8月27～28日	成年男子	大阪府(松井　峰生) 辻田　泰昌・今井　彰宏・植村　昭彦	奈良県(岡田　憲典) 村山　友二・大谷　誠二・鈴木草麻生
	成年女子	大阪府(宮崎　克巳) 金井　和恵・増茂　孝枝・中山智香子	兵庫県(松本　泰典) 鬼塚　知美・鬼束　明美・鵜木千加子
	少年男子	滋賀県(脇坂　重之) 酒井　将之・諏訪　良人・松本　　徹	奈良県(錦　　秀和) 荒木　直人・古賀　大輝・河村　昌明

	種　別	1　　位	2　　位
福島国体 大津市 平成7年 8月26～27日	成年女子	大阪府(松井　泰典) 鬼塚　知美・鬼束　明美・武富いず美	大阪府(宮崎　克巳) 増茂　孝枝・田中　美保・中山智香子
	少年男子	奈良県(錦　　秀和) 河村　昌明・上垣内　敦・古賀　大輝	滋賀県(藤上　良信) 松本　　徹・向　　裕樹・森本　兼行
	少年女子	大阪府(仲尾　信一) 市橋　理恵・吉岡　智香・芳村真梨子	奈良県(小椋左恵子) 亀井　千秋・仲尾　紀子・中村このみ
広島国体 高槻市 平成8年 8月24～25日	成年男子	大阪府(松井　峰生) 植村　昭彦・渡辺　哲義・岸田　明宏	滋賀県(酒井　良之) 酒井　将之・松本　　徹・藤上　良昭
	少年男子	大阪府(和田　泰寛) 宇治　克樹・永谷　和也・松下　文雄	滋賀県(藤上　良信) 杉島　　学・川口　馨士・森本　兼行
	少年女子	大阪府(西上　正一) 吉岡　知香・鄭　　有珠・安城　美華	滋賀県(濱　久美雄) 池内　多紀・勝嶋　梨絵・上田　絵美
大阪国体 田原本町 平成9年 8月23～24日	成年男子	京都府(村尾　　勉) 平野　耕司・藤川　雅章・市井　隆文	滋賀県(酒井　良之) 酒井　将之・松本　　徹・藤上　良昭
	成年女子	奈良県(谷口　　章) 水井妃佐子・水井　泰子・渡辺未奈子	兵庫県(松本　泰典) 武富いず美・鬼頭　加代・内田　裕子
	少年女子	奈良県(乾　　哲司) 亀井　春菜・内海　典子・前田　空貴	滋賀県(濱　久美雄) 勝嶋　梨絵・前川　絵里・上田　絵美
神奈川国体 長岡京市 平成10年 8月22～23日	成年男子	大阪府(松井　峰生) 岸田　明宏・松井　　充・川口　馨士	滋賀県(酒井　良之) 酒井　将之・松本　　徹・藤上　良昭
	成年女子	大阪府(宮崎　克巳) 鬼池めぐみ・太田　久美・森　かおり	奈良県(谷口　　章) 水井　泰子・松田　治子・市橋　理恵
	少年男子	滋賀県(藤上　良信) 尾崎　勝久・松本　紘二・稲垣　翔吾	大阪府(近藤　一生) 永井　　寿・諸多　大輔・川前　直樹
熊本国体 宝塚市 平成11年 8月21～22日	成年女子	大阪府(宮崎　克巳) 鬼池めぐみ・森　かおり・関本　祥子	兵庫県(松本　泰典) 橋本　純子・三原　和子・内田　裕子
	少年男子	滋賀県(藤上　良信) 稲垣　翔吾・谷口　　斉・榎本　良永	大阪府(谷田　尚嗣) 新開　裕介・川前　直樹・諸多　大輔
	少年女子	大阪府(西上　正一) 恵良　　恵・下野　鈴佳・小椋久美子	滋賀県(濱　久美雄) 高木さやか・川島　　彩・澤　　憂妃
富山国体 和歌山市 平成12年 8月19～20日	成年女子	大阪府(喜多　　努) 鬼池めぐみ・森　かおり・安城　美香	兵庫県(松本　泰典) 橋本　純子・三原　和子・藤井二美可
	少年男子	滋賀県(藤上　良信) 榎本　良永・銭谷　公浩・山口　公洋	大阪府(谷田　尚嗣) 新開　裕介・川前　直樹・諸多　大輔
宮城国体 田原本町 平成13年 8月25～26日	成年男子	大阪府(松井　峰生) 平井　達也・橋本　敏信・川口　馨士	滋賀県(吉森　貴規) 酒井　将之・尾崎　勝久・稲垣　翔吾
	少年女子	大阪府(西上　正一) 小椋久美子・亀谷　　皇・丸岡　智子	滋賀県(濱　久美雄) 早川由希子・多谷　郁恵・村松みどり
高知国体 大津市 平成14年 8月24～25日	成年女子	大阪府(喜多　　努) 田上　千晴・小椋久美子・潮田　玲子	滋賀県(西川　夏紀) 上田　絵美・多谷　郁恵・丸岡　智子
	少年男子	滋賀県(藤上　良信) 山口　公洋・数野　健太・早川　賢一	大阪府(近藤　一生) 喜多　勝人・庄　　旭明・犬山　陽介

	種　別	1　　位	2　　位
静岡国体 大東市 平成15年 8月23～24日	成年男子	大阪府(平井　達也) 松井　　充・櫻井　勝仁・銭谷　公浩	滋賀県(酒井　良之) 稲垣　翔吾・谷口　　斉・山口　公洋
	少年女子	大阪府(谷田　尚嗣) 松尾　静香・尾崎　紗衣・佐谷　麻衣	滋賀県(濱　久美雄) 三条　麻菜・中村　百合・岡野由有佳
埼玉国体 長岡京市 平成16年 8月21～22日	成年女子	大阪府(井田　貴子) 関本　祥子・脇坂　　郁・廣瀬栄理子	兵庫県(鈴木草麻生) 藤井二美可・橋本　純子・高野　理沙
	少年男子	滋賀県(藤上　良信) 早川　賢一・早崎　修平・川下　剛士	大阪府(有田　圭一) 喜多　勝人・浦窪　文也・日野　雄貴
岡山国体 宝塚市 平成17年 8月13～14日	成年男子	滋賀県(酒井　良之) 山口　公洋・数野　健太・早川　賢一	大阪府(平井　達也) 松井　　充・銭谷　公浩・櫻井　勝仁
	少年女子	大阪府(谷田　尚嗣) 恵良友里亜・小口　晃佳・津村　優衣	滋賀県(濱　久美雄) 福森絵里菜・大篠小真姫・土井　杏奈
兵庫国体 岩出市 平成18年 8月19～20日	成年女子	大阪府(谷内　貴昭) 脇坂　　郁・多谷　郁恵・今別府香里	京都府(平井　悟) 後藤　　舞・通次　尚美・今井　杏莉
	少年男子	大阪府(有田圭一) 銭谷　　翔・川上　直人・井谷　和弥	滋賀県(藤上良信) 西澤　　潤・川下　剛士・逢澤　宏亮
	少年女子	1　　位	2　　位
		京都府(山本　裕幸) 北吉　穂香・岡本　優里・井上　静華	大阪府(西上　正一) 藤村　裕理・池原　朋恵・東野　良美
		3　　位	4　　位
		滋賀県(濱　久美雄) 土井　杏奈・仲川志都香・野田　郁恵	奈良県(辻田　泰昌) 浦窪　真代・寺本夕希子・西川真奈美
秋田国体 田原本町 平成19年 8月18～19日	成年男子	奈良県(村山　友二) 伊藤　雅俊・浦窪　文也・井谷　和弥	滋賀県(酒井　良之) 数野　健太・早川　賢一・早崎　修平
	少年女子	大阪府(西上　正一) 小口　晃佳・津村　優衣・福万　尚子	兵庫県(北村　祐介) 稲葉菜保美・上所　　愛・山本しずか
	少年男子	1　　位	2　　位
		滋賀県(藤上　良信) 土居　寛人・村上　　俊・矢部　拓也	兵庫県(友金　幸雄) 植田　真伍・河田　尚也・鈴木雄一朗
		3　　位	4　　位
		奈良県(錦　　秀知) 上内　進介・辰巳　敬亮・千木良　司	大阪府(有田　圭一) 和田　力也・松田　正路・東野　圭吾
大分国体 大津市 平成20年 8月23～24日	成年男子	1　　位	2　　位
		滋賀県(酒井　良之) 山口　公洋・数野　健太・早川　賢一	奈良県(村山　友二) 川前　直樹・浦窪　文也・井谷　和弥
		3　　位	4　　位
		大阪府(平井　達也) 喜多　勝人・銭谷　　翔・巽　　太志	京都府(橋本　敏信) 安田　敬之・大滝　涼太・樋口　龍太
	成年女子	大阪府(谷内　貴昭) 脇坂　　郁・村松　瑞穂・作山　智美	兵庫県(松本　泰典) 木村　早紀・藤澤美佑紀・中村　紋子
	少年男子	滋賀県(藤上　良信) 矢部　拓也・村上　　俊・宇野　賢人	大阪府(有田　圭一) 東野　圭悟・大滝　直人・佐藤　康志

	種　別	1　　位	2　　位
新潟国体 大東市 平成21年 8月15～16日	成年男子	京都府(佐々木正司) 喜多　勝人・安田　敬之・川下　剛士	滋賀県(酒井　良之) 早崎　修平・西澤　　潤・逢澤　宏亮
	成年女子	1　　位	2　　位
		大阪府(谷内　貴昭) 森　かおり・今別府香里・関谷　真由	滋賀県(羽野　健郎) 福森絵里菜・大條小真姫・野田　郁恵
		3　　位	4　　位
		京都府(橋本　敏信) 安念　幸恵・西　　友理・北吉　穂香	兵庫県(酒井　将之) 木村　早紀・中村　紋子・藤澤美佑紀
	少年女子	大阪府(木村　　寛) 福万　尚子・阪口　智郁・下田菜都美	京都府(山本　裕幸) 高橋　真理・松本　　茜・中川　穂波
千葉国体 長岡京町 平成22年 8月21～22日	成年女子	大阪府(谷内　貴昭) 多谷　郁恵・村松　瑞穂・今別府香里	兵庫県(酒井　将之) 木村　早紀・小椋しのぶ・大迫　晴加
	少年男子	滋賀県(仲尾　修一) 大橋擁太郎・三浦　　昴・中村　亮太	大阪府(有田　圭一) 相和　勇輝・小高　拓也・佐野　拓磨
	少年女子	1　　位	2　　位
		大阪府(藤原　瑛佳) 阪口　智郁・下田菜都美・山崎　絢子	奈良県(久本　拓哉) 山本由里那・松岡　志帆・岸田　洋子
		3　　位	4　　位
		兵庫県(寺町　彰浩) 漆﨑　真子・秋田　　楓・杉野　文保	和歌山県(武野　宗睦) 伊藤　千明・山本　真佑・川口　法子

第6章

近畿各府県から出た国際選手の活躍



第１節　オリンピックでの活躍

１９８８年	・ソウルオリンピック（エキビジション） 北田スミ子　（大阪・三洋電機）　女子シングルス出場　第３位(銅メダル)
１９９２年	・バルセロナオリンピック 水井妃佐子　（大阪・四条畷女子短大職員）　女子シングルス出場
１９９６年	・アトランタオリンピック 宮村　愛子・宮村亜希子（大阪・サントリー）　女子ダブルス出場 水井妃佐子　（奈良・フジチュー）　女子シングルス出場　４回戦敗退 水井　泰子　（奈良・フジチュー）　女子シングルス出場
２０００年	・シドニーオリンピック 井田　貴子　（大阪・三洋電機）　女子シングルス出場 水井　泰子　（奈良・フジチュー）　女子シングルス出場　５位入賞
２００４年	・アテネオリンピック 森　かおり　（大阪・三洋電機）　女子シングルス出場　ベスト16 田中　美保　（大阪・三洋電機）　女子シングルス出場 中山千香子・山田　青子　（大阪・三洋電機）　女子ダブルス出場
２００８年	・北京オリンピック 廣瀬栄理子　（大阪・三洋電機）　女子シングルス出場　ベスト16 小椋久美子・潮田　玲子　（大阪・三洋電機）　女子ダブルス出場　５位入賞

第２節　国際大会での活躍

１９５８年（東京）	第３回アジア競技大会バドミントン(オープン)で優勝。 大阪より、松王清志・小松康博　出場
１９６８年（東京）	第４回国際学生選手権大会で、池田栄子(三菱電機伊丹)が３位。
１９７２年（東京）	第６回世界女子選手権(ユーバー杯)優勝。 柴山きよこ(三菱電機伊丹)が日本チームの一員として活躍。
１９７７年	第67回全英選手権大会女子複で、 植野恵美子(四条畷女子短大)・栂野尾悦子(ヨネックス)組が優勝。 第１回世界選手権大会(スエーデン)女子複で、植野恵美子・栂野尾悦子組優勝。
１９７８年	第68回全英選手権大会女子複で、徳田敦子・高田幹子(サントリー)組が優勝。 植野恵美子・米倉よし子組が準優勝。 第８回世界女子選手権大会で、ユーバー杯を奪回。 徳田敦子・高田幹子・植野恵美子(ヨネックス)が活躍。
１９７９年	第69回全英選手権大会女子複で、徳田敦子・高田幹子(サントリー)組が準優勝。 第23回カナダオープン女子単で、東海林文子(サントリー)が優勝。
１９８０年	第70回全英選手権大会女子複で、徳田敦子・米倉よし子組が準優勝。
１９８１年	第９回世界女子選手権(ユーバー杯)優勝。徳田敦子・高田幹子・東海林文子・高峰(サントリー)・北田スミ子(四条畷女子短大)の大阪勢が活躍。 ジャパンオープン'81(東京)女子単で、徳田敦子が準優勝、女子複で、米倉よし子と組んで優勝。
１９８４年	スウェーデン・オープン女子単で、東海林文子が優勝。

１９９９年	ポーランドオープン女子単で、井田貴子(三洋電機)が優勝。 フランス国際女子単で、井田貴子が優勝。キューバー国際女子単で、井田貴子が優勝。 カナダ国際女子単で、井田貴子が優勝。 スペイン国際女子単で、井田貴子が優勝。女子複で、増茂孝枝(三洋電機)が、優勝。 スコットランド国際(イギリス)女子単で、井田貴子が優勝。女子複で、増茂孝枝が優勝。
２０００年	チリ国際女子単で、井田貴子が優勝。ペルー国際女子単で、井田貴子が優勝。 オランダオープン女子複で、森かおりが3位。
２００１年	スイスオープン女子複で、森かおり が３位。 ヨネックスオープンジャパン女子単で、森かおり が３位。
２００２年	第14回国際大学選手権大会(エストニア)男子単で、中村寿史(近畿大学)が優勝。
２００３年	ワイカト国際女子単で、森　かおり(三洋電機)が準優勝。 ウエスタンオーストラリア国際女子単で、森　かおりが準優勝。廣瀬栄理子が３位。 スロバキア国際女子単で、森かおりが優勝。廣瀬栄理子が３位。
２００４年	デンマークオープン女子複で、小椋久美子・潮田玲子組(三洋電機)が優勝。 インドネシアオープン女子単で、廣瀬栄理子(三洋電機)が準優勝。 アジア選手権大会女子単で、森かおり が３位。
２００５年	台湾サテライト混合複で、多谷郁恵(三洋電機)が優勝、女子複３位。 オランダジュニア女子複で、松尾静香が優勝。 ビットバーガーオープン(ドイツ)女子複で、多谷郁恵が準優勝、単３位。 女子複で、松尾静香(三洋電機)が３位。 フランス国際女子複で、松尾静香が準優勝。ドイツオープン女子単で、廣瀬栄理子が３位。 アジア選手権女子単で、森かおりが準優勝。廣瀬栄理子が３位。 インドネシアオープン女子単で、森かおり が３位。
２００６年	ワイカト国際 女子複で、多谷郁恵が優勝。アジア選手権女子単で、森かおりが準優勝。 アジア大会女子団体で日本準優勝、森かおりが活躍。 チャイナオープン女子単で、森かおりが３位。タイオープン女子単で、廣瀬栄理子が３位。
２００７年	第１回大阪インターナショナルチャレンジ2007(守口市民体育館)女子単で廣瀬栄理子が 優勝。多谷郁恵が女子複で３位。マレーシアオープン女子単で、廣瀬栄理子が３位。 シンガポールオープン女子単で、廣瀬栄理子が３位。 スディルマンカップ グループⅡで、廣瀬栄理子が優勝。 ニュージーランドオープン女子複で、多谷郁恵が優勝。 オーストラリア国際 女子複で、多谷郁恵が優勝。スラバヤ国際女子複で、松尾静香が準優勝。 アイルランド国際女子単で、森かおりが準優勝。イタリア国際女子単で、森かおりが３位。 ロシア国際女子複で、多谷郁恵が３位。
２００８年	第２回大阪インターナショナルチャレンジ2008(守口市民体育館)女子複で 小椋久美子・潮田玲子(三洋電機)組が優勝。松尾静香が混合複で準優勝、女子複で３位。 クロアチア国際女子単で、今別府香里(三洋電機)が優勝。 ポルトガル国際女子単で、今別府香里が優勝。 オーストラリア国際女子複で、松尾静香が優勝、混合複で準優勝。 インドオープン女子単で、廣瀬栄理子が３位。
２００９年	第４回世界シニア選手権大会50歳代女子複で、土屋記巳子・森田須賀子組(大阪)が優勝。 (スペイン・プンタウンブリア市) オーストリア インターナショナルチャレンジ女子複で、内藤真実・松尾静香組(三洋電機) が優勝。女子単で、今別府香里が３位。 第３回大阪インターナショナルチャレンジ2009(守口市民体育館) 混合複で松尾静香が 準優勝。内藤真実が混合複で、３位。女子複で、森かおりが準優勝。 ニュージーランドオープン女子単で、廣瀬栄理子が３位。 ヨネックスジャパンオープン女子単で、廣瀬栄理子が３位。 デンマークオープン女子複で、松尾静香・内藤真実が３位。女子単で、廣瀬栄理子が３位。

第7章

寄稿文



創立者に感謝を込めて

元近畿バドミントン協会理事　大圃　秀生（兵庫県協会顧問）

近畿協会生みの親、亡き故川口清氏と故高倉正治氏に感謝の念を捧げお二人のご活躍の一端をご紹介しておきたいと思います。何故ならもし二人があの当時いなかったら近畿協会設立は１年以上遅れたと考えられるからです。

創設の発端は何と云っても川口氏の近畿にバドミントンを広めようという熱くそして堅い決心があったからです。しかし、当時の社会環境や情勢は知る人ぞ知るで、電話一本かけるにも市外は時間がかかり、近隣といえども郵便は丸２日以上かかるという状態で、集まって会議を開くにも交通事情は悪く、昼時などは食事に困るという状態でした。したがって大阪府協会の近畿協会設立を望む方々もどうすれば近畿の人達が集まれるか中々纏まらなかったと思います。そこへ偶々昭和25年１月14日に第１回東西対抗の西軍選抜戦が大阪YMCAで行われ、その直後これを機会に神戸と大阪の対抗戦を隔月で始めようと川口氏から私にお誘いの話しがあり私は一も二もなく賛成したのがことの始まりです。

それまでは近畿と雖も何県の何処で誰がプレーしているか、呼びかけるには誰に相談するのが最善かなど誰も知りませんでした。しかし一旦窓口が見つかった後の川口氏の行動の素早さと企画を推し進める力は想像以上のものでした。今でも大阪･神戸対抗戦の話しが終わった直後、川口氏の『ほんならええな、３月29日やで。神戸Ｙの体育館やで。』という独特のあの懐かしい関西弁のなまりで強く念を押されたのがそのまま私の耳に残っています。一方、高倉氏はこの時点では未着任でありましたが４月１日から神戸ＹＭＣＡ体育主事着任の為すでに神戸に在住していて翌日帰神した神戸ＹＭＣＡバドミントン部員の私からこの話を聞くや直ぐ体育館の使用予定表に書き込み最初の質問は『大圃君、メンバーはどうやって選ぶんだ。』でした。

何はともあれ、この二人の決断力の早さと行動力が総ての基本でありました。そして２，３回対抗戦をやっております中に、他府県からも対抗戦参加の希望のあることを知った川口氏は直ぐ各府県の知人へ連絡し近畿協会設立へ向けて走り始めました。

しかし当時は未だ戦後５年目、何をするにも不便でした。先程も申し上げましたが、電車の間隔は長いし、米は持参しなければ宿泊することもできず、長距離電話は申し込んでおいても直ぐ繋がるとは限らない。今では想像も付かぬ状態の中で、二人の先輩は頑張っていました。二人ともＹＭＣＡ体育主事という同職務関係からも緊密度は深く何かにつけ相談しておられました。そして両氏は兵庫県協会の設立を含め何事も初めてという悪条件を、持ち前の決断力の良さと行動の早さで補い、多忙のスケジュールをぬって西は姫路、東は京都までも普及講習の足を伸ばされていました。

そして昭和25年の晩秋のある日大阪ＹＭＣＡの会議室に記念誌にも書いた方々が近畿各府県から交通費、食費全て自弁で集まりました。川口氏がこの日のために費やされた労力は大変なもので私は高倉氏のお供でしばしば二人で大阪ＹＭＣＡに川口氏を訪ねましたが、石渡氏と川崎氏はいつもおられて助言されていたように記憶しています。さらに川口氏は事前に三重県にも連絡されましたが三重県は東海地区に参加する旨の返答も受理していました。当時は今の地区区分より

は学校で習う地方区分の見方が強く近畿地方には三重県が含まれていたからです。

したがって当日の会議は至ってスムーズに進み『近畿ブロックバドミントン協会』(後年、『近畿バドミントン協会』と名称変更された)は設立されたのです。一番大きな特徴は理事長を置かず議事は各理事の合議制の決議としたことでした。これも川口氏の考えで協会の運営方法など誰も熟知した人は居ないのだからみんなで知恵を出し合い勉強しながら協会を育てて行こうという考えからでした。ただ事務のまとめ役、連絡の拠点として川口氏が事務局となることには誰の反対もありませんでした。近畿協会ができて第１回の大会が終わって暫くしたとき川口氏が高倉氏と私に『こんなんどやろ。みんなにバドミントンを楽しんで貰おう思たら誰でも出られる大会がええのんちゃうか？』そして暫くして『そやオープン大会や！』といったのです。これが最初で最後になってしまったのは大変残念ですが、近畿オープン大会開催のきっかけでした。二人に共通して言えることは、『如何にして近畿地区のバドミントン人口を増やし、技術(競技)レベルを早く上げるか』ということであったと思います。当時大会に参加するには府県協会に加盟登録しなければならないというのが頭の根底にあった時代に早くも選手と一般参加者とを結びつけ底辺拡大の為誰でも参加できる大会を企画した川口氏の思い切った提案でした。言い出したら直ぐ実行、これが信条の川口氏は、神戸ＹＭＣＡ体育館がスケジュール上使用できないと判ると直ぐ阪急西宮にあった阪急体育館を予約し、近畿選手権が終わって間もない２月初めに次の企画を決め実行にうつしていました。高倉氏は戦時中陸軍中尉でフィリッピン戦線において連隊旗手として活躍されたそうですが、戦闘中に連隊旗を持つ右肘付近に貫通銃創を受け思うように肘が十分に曲がらず、また腕を高く上げるのも大変でしたが素晴らしい気力で一生懸命バドミントンを練習され、10歳近く若いわれわれの技術を修得しようと懸命に努力された姿を忘れることはできません。そして得た知識と技術は直ぐに普及会などで自分の腕の上がらないのを臆することなく参加者に披露され指導される姿に感動しました。

勿論近畿協会の発展がこの二人のみでなく、京都の上原正士氏は戦時中南方で修得されたという技術を活かされ、滋賀の榎本彦次氏は大学教授の傍ら熱心に体育事業に精を出され、和歌山の泉惣一郎氏は一番年配であられたようですが常に遠いところから足を運ばれ、奈良の岩井由治氏は一徹の意志の強さでものを申されるなどそれぞれ個性のある方々がバドミントンに対する熱い思いと堅い決心での協力があったればこそ今日の協会があることに言を俟ちませんが、物事を初めて行うことの困難さは当時の理事諸氏が等しく経験され、またそれ故に太い絆も醸成されたことと思います。

その後川口氏は日本が初めて参加した昭和31(1956)年トマス杯の監督を務められ香港と戦いましたが惜しくも敗れ、今度は近畿ばかりか日本の技術レベルを高めようと色々活躍されましたが、ある年大阪ＹＭＣＡを離れ大阪府教育委員会の職務に就かれ、それから昭和62年永眠眠されました。高倉氏は昭和33年ＹＭＣＡ日本総同盟に転出され東京で日本バドミントン協会理事となり一時渉外業務を担当されていましたが、その後武道大学の教授をされ、退職後は静岡御殿場に住まわれ、平成11年永眠されました。

60周年に際し偉大な先輩川口、高倉両氏がおられぬ事を何より惜しむのはひとり私ばかりではないと思います。石渡俊一初代会長を含め設立当初の初代理事は一人私を除き全員が鬼籍に入られ、ともに60周年を祝えないのは誠に残念に思い、当時を偲び拙文ではありますが寄稿させて頂きました。

協会史発刊に寄せて

元近畿バドミントン協会理事　**野　村　嘉　明**(京都)

近畿バドミントン協会創設60周年を記念して、その「協会史」が 発刊されましたことを衷心よりお喜び申し上げます。

歴史の記述は、縦糸と横糸の綾をなす織物に譬えられます。時間的な流れを区分して縦糸に擬えて記述することは資料さえあれば比較的容易ですが、横糸に相当する事業内容・活動内容そして当時の思い等を記述することは、日頃からそれなりの記述を残しておかないと詳述出来ない。

今回私も長年理事をつとめた事から協会史の投稿を依頼され微力ながら協力させて頂きました。残念な事に数年前まで保管していた理事会の議事録、役員名簿、大会の企画書、協会運営上の資料等廃却してしまい、十分なことを書くことは出来ませんでした。辛うじて近畿総合選手権大会及び近畿実業団大会のプログラムの一部と理事時代に年度毎に記述していた年表が手元に残っており、これを頼りに記憶と併せて何とかご協力が出来ました。長年このような機会が無く、今回の協会史にご協力出来たことは、長年背負っていた荷物を下ろした感じが致します。

会社務めだと管理機構が社史を作るための努力を日頃から行っていますが、我々の競技団体においてはどうしてもやりっぱなしで、将来を見据えて几帳面に資料を残す方がいない限り、組織として残して行く事は中々難しい事であります。 広報誌を発行しておられる協会もありますが、何年か経過してから読んでも判る記事、歴史的事項があった時それを後の世代を意識して記述を残すことが出来ているかとなると疑問です。我々の競技団体では、会社のようにチック機能をもつリーダーが乏しいので記述も個人的なものになりがちで、今回のように記念誌として協会史を編纂するとなると大変なことになる。今回投稿を依頼されてこのような事を感じました。協会のリーダーの立場にある方は、この実情を理解し今後の協会運営の取り組みに生かして頂ければ有難いです。

一昔前は「バドミントンは羽根突きやないか」と軽視されていた競技であったが、この60年の間に超飛躍的発展をとげ、日本協会の登録会員は60年前の20倍の22万人となり、今や長寿社会を迎え、バドミントンはこれまでの競技力向上に加えて、最近は人生においていかに長期間スポーツを楽しめるかという、生涯スポーツの振興が大きな命題となっており、バドミントンは最適なスポーツとして認められるようになり、バドミントン人口は益々増え、バドミントン愛好者は100万人ともそれ以上ともいわれるようになりました。これからは幅広い指導、更なる啓発活動で忙しくなります。そして競技力を主体に取り組む わが協会は世界に通じる選手の育成が急務であり、協会の活動の幅は益々広がりその責務も大変なものがあります。

近畿協会は「近畿は一つ」を合言葉に、これからも益々前進努力されん事を期待致します。

「温故知新」という言葉がありますが、本協会史が広くバドミントンを愛する皆様の今後の研鑽の糧となることを期待致しまして、発刊に寄せることばとします。

第8章

近畿バドミントン協会
創立60周年記念事業



近畿バドミントン協会創立60周年記念事業

平成22年11月20日（土）奈良ホテル「大和の間」に於いて、創立60周年を祝って記念式典・並びに祝賀会を開催した。

1．記念式典

（1）功労者の表彰　（受賞者一覧　順不同、敬称略）

① 感謝状
- 朝日新聞社
- ヨネックス　株式会社
- 株式会社　ゴーセン
- ミズノ　株式会社

② 功労賞
- 大圃　秀生
- 青木　昭二
- 野村　嘉明
- 花房　房子
- 佐藤　茂雄
- 木村　　寛
- 片岡　輝明
- 藤上　良信
- 山本　　博
- 四方　光市

（2）近畿協会旗　制定・披露

（3）記念誌『きんきはひとつ・近畿60年史』の発刊

2．記念祝賀会

藤田庸右会長よりご挨拶のあと、ご来賓を代表して奈良県知事 荒井正吾様、財団法人日本バドミントン協会会長 綿貫民輔様より御祝辞を頂いた。

創立60周年記念事業実行委員長 瀬川欽也より、近畿バドミントン協会が創設された昭和25年12月から今日に至るまでの“60年のあゆみ”を御紹介（記念誌を発刊）し、関東バドミントン連盟会長 浅岡 武様の乾杯の音頭で開宴。

アトラクションは、京都・宮川町の駒屋さんの舞妓・芸妓さんによる艶やかな舞踊で楽しんで頂いたあと、生バンドや演歌歌手 川井聖子さんの歌で堪能して頂いた。

会場の奈良ホテル「大和の間」に、近畿をはじめ全国各地から110名を越す御来賓・御出席者を頂き、近畿バドミントン協会創立60周年を盛大にお祝いすることが出来た。

編集後記

平成20年４月の総会で、２年後に近畿協会創立60周年を迎えることになるとの話が出て、具体的にどうするかの検討をすることとなった。

理事長会で１年間の検討の結果を踏まえ、翌21年の総会で審議事項として提議され、近畿協会創立60周年記念事業実行委員会を立ち上げ、要請を受け実行委員長をお引き受けした訳であるが、具体的に内容の検討をはじめて見て、内心これは大変な作業になると後悔の念がよぎった。兵庫県の40年史、そして55年史を自身で手がけた経験から何とかなるとの甘い判断が吹っ飛んでしまった。

県と異なり、ブロックには何もない処からのスタートであった。先ずは、近畿協会のシンボルとしての「近畿協会旗」を作り制定を図ることからの始まりで、デザイン案を提示し承認を得て、具体化していった。野村安忠代表理事に資金面の確保をして頂いたお陰で記念事業の具体策を立案・提示することが出来た。記念誌の発刊も承認され、具体的な作業を始めたが、ここでも何にもないづくしからのスタートとなった。

資金面からの制約で、総ページを160頁とせざるを得ない為、中身については欲張らずにとにかく、近畿協会、各府県協会、近畿各連盟、各府県連盟の生い立ちを明らかにすること、あゆみを簡潔に入れることを主眼として進めた。資料については、各府県協会理事長・事務局、各近畿連盟代表には大変なご尽力を頂いた。又、協会創設当時の資料については大圃秀生さんに全面的なご支援を頂き、以後の資料や役員の変遷等については野村嘉明さんに大変なご尽力・ご支援を頂きました。お二方のお陰で何とか後世に伝え、残せる物が出来たといっても過言ではありません。改めて深甚より御礼を申し上げます。青木昭二さんには写真のご支援を頂きました。ご支援・ご尽力頂きました皆様に心からの御礼を申し上げます。

藤田庸右会長には、最初から事ある毎に相談にのって頂きました。記念誌の題字についても色々注文を申し上げたにも拘わらず、直筆で何回も、何回も、挑戦して下さいました。試行錯誤の結果、やはりと言うか「きんきはひとつ」になりました。

功労者の選定については、本音としてはいの一番に藤田会長に贈呈したいことは実行委員全員の気持ちであったが、現役会長であり主催者であるからとのご判断もあり府県会長・理事長は対象外とさせて頂いた。又、今回は近畿或いは近畿協会への貢献に絞って選考することとし、優秀選手を含めなかったこと、何よりも資金面の制約から10人に絞らざるを得なかったことは、誠に申し訳ないことであったとお詫びを申し上げます。

願わくばこの60周年を機会に、近畿協会の表彰規定を制定して今回選に漏れた方々への対応をしていただけるよう敢えてお願いをしておきます。記念誌が発刊されご覧になられたら、ご不満・ご指摘もあろうかと思いますが、まずは最初に作ることの難しさをご拝察いただきご容赦下さることをお願い致します。

最後に、記録の保存と整備、節目の写真記録等今後とも継続してなされるよう、組織として確立しておかれるよう具申し、編集後記とします。

実行委員長　瀬川　欽也

近畿バドミントン協会
創立60周年記念事業実行委員会

会　　長	藤田　庸右						
副 会 長	田中田鶴子	三宅　祐司	澤　　長壽	石田　真敏
委 員 長	瀬川　欽也						
委　　員	野村　安忠	谷　　英明	銭谷　欽治	岩西　壯行
	高木　謙一	境　　良治		

創立60周年記念誌編集委員会

委 員 長	瀬川　欽也						
編集委員	野村　安忠	榊　　章	銭谷　欽治	月原　　朗
	谷　　英明	藤上　良信	岩西　壯行	高木　謙一
	中原　住雄	錦　　秀知	養父　一太	新井　貴雄
	神谷　晴美	小国　久美	小国　俊之	東條　安彦
特別顧問(資料提供・資料作成)							
	大圃　秀生	野村　嘉明		
顧　　問(写真提供)		青木　昭二					

きんきはひとつ　近畿60年史

発　　刊　平成22年(2010年)11月20日
編　　集　近畿バドミントン協会
　　創立60周年記念誌編集委員会
発 行 者　近畿バドミントン協会
　　兵庫県加古川市平岡町二俣441－7
　　ＴＥＬ　079(437)2066
印　　刷　株式会社　望月印刷
　　兵庫県神戸市兵庫区西出町2丁目3番7号